新しい国語表記ハンドブック

2色刷

【第四版】

現代語の書き表し方のすべてが分かる

外来語の表記

常用漢字表
現代仮名遣い
新人名用漢字
収録！

- ◉常用漢字表（総画索引・字訓索引付き）
- ◉常用漢字の筆順
- ◉現代仮名遣い
- ◉送り仮名の付け方
- ◉人名用漢字別表
- ◉学年別漢字配当表
- ◉「異字同訓」の漢字の用法
- ◉同音異義語の使い分け
- ◉書き間違いやすい漢字
- ◉同音の漢字による書きかえ
- ◉外来語の表記
- ◉公用文作成の要領
- ◉これからの敬語

ほか

三省堂

●カバー写真＝鍋島絵椿文皿
（サントリー美術館蔵）

新しい国語表記ハンドブック

【第四版】

三省堂編修所 編

三省堂

当用漢字表　昭和二一年一一月一六日内閣告示第三二号。「日常使用する漢字の範囲」を一八五〇字に制限した。

当用漢字音訓表　①昭和二三年二月一六日内閣告示第二号。「当用漢字表の各字について、字音と字訓の整理を行い、今後使用する音訓を示したものである。」

②昭和四八年六月一八日内閣告示第一号。①の「表示した音訓以外は使用しない」という制限的な考え方を改め、「一般の社会生活において、『当用漢字表』に掲げる漢字によって現代の国語を書き表す場合の音訓使用の目安を示すものである。」

当用漢字字体表　昭和二四年四月二八日内閣告示第一号。「漢字を使用する上の複雑さは、その数の多いことや、その読みかたの多様であることによるばかりでなく、字体の不統一や字画の複雑さにもとづくところが少くないから、当用漢字表制定の趣旨を徹底させるためには、さらに漢字の字体を整理して、その標準を定めることが必要である。（同日付内閣訓令第一号）」

常用漢字表　昭和五六年一〇月一日内閣告示第一号。「法令・公用文書・新聞・雑誌・放送など、一般の社会生活において、現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安を示すもの」で、字種（一九四五字）・字体・音訓・語例等を総合的に示した表である。（この告示により、「当用漢字表」「当用漢字音訓表」「当用漢字字体表」は廃止された。なお、一〇〇ページ参照。）

教育漢字　「当用漢字別表」（昭和二三年二月一六日内閣告示第一号）の漢字で、「義務教育の期間に、読み書きともにできるように指導すべき」もの。計八八一字。（今は、次項の漢字配当表に吸収されている。）

学年別漢字配当表　平成元年三月一五日文部省告示「小学校学習指導要領」（平成四年四月施行）に掲げられている表。一〇〇六字の漢字を小学校各学年に配当して学習させようとするもの。（この表の漢字を学習漢字・教育用漢字・教育漢字などと呼ぶ。名称は統一されていない。）

標準字体　右の表に示されている字体。「漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す字体を標準とすること」とされている。

現代仮名遣い　昭和六一年七月一日内閣告示第一号。「現代かなづかい」（昭和二一年内閣告示）を改定したもので、「一般の社会生活において、現代の国語を書き表すための仮名遣いのよりどころを示すものである。」

送り仮名の付け方　昭和四八年六月一八日内閣告示第二号（「常用漢字表」の告示に伴い、一部改正）。「送りがなのつけ方」（昭和三四年七月一一日内閣告示第一号）を改定したもので、「一般の社会生活において、『常用漢字表』の音訓によって現代の国語を書き表す場合の送り仮名の付け方のよりどころを示すものである。」

外来語の表記　平成三年六月二八日内閣告示第二号。「一般の社会生活において、現代の国語を書き表すための『外来語の表記』のよりどころを示すものである。」

前書き

日本語の表記を、読みやすく、分かりやすくするために、「常用漢字表」「送り仮名の付け方」「現代仮名遣い」の制定を初め、多くの国語施策が行われていますが、この本は、それらが総合的につかめるように編集したものです。内閣告示・文部省告示・国語審議会報告、その他、現代日本語表記の基となる資料を原文のまま収録し、それが、いつ、どんな目的で出されたのかを明らかにしました。

ほかに、「常用漢字の筆順」「くぎり符号の使い方」や、三省堂編修所で作成した「書き間違いやすい漢字」「同音異義語の使い分け」なども収めてあります。巻末には、「常用漢字表」の字訓索引・総画索引をつけました。

この本は、国語施策が改定されるたびに改訂を重ねてきましたが、このたび、「外来語の表記」が告示され、「人名用漢字別表」「学年別漢字配当表」が改定されましたので、その部分を差し替え、第四版として刊行します。日本語の書き表し方の手引きとして、学習に、実務に、実生活に、常に役立てていただきたいと思います。

平成三年十一月　　三省堂編修所

目次

常用漢字表

・昭和五六年一〇月一日内閣告示第一号。
・内容は、「新漢字表試案」(昭和五二年一月二一日国語審議会報告)及び「常用漢字表案」(昭和五四年三月三〇日中間答申)に対する各方面からの意見を含めて国語審議会で検討し、昭和五六年三月二三日に文部大臣に答申したものによっている。
・原文は横書き。
・この告示により、内閣告示「当用漢字表」(昭和二一年一一月一六日付)「当用漢字音訓表」(昭和四八年六月一八日付)「当用漢字字体表」(昭和二四年四月二八日付)は廃止された。これらとの相違点については一〇〇ページを参照されたい。

(三省堂編修所注)

前書き

1　この表は、法令、公用文書、新聞、雑誌、放送など、一般の社会生活において、現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安を示すものである。
2　この表は、科学、技術、芸術その他の各種専門分野や個々人の表記にまで及ぼそうとするものではない。
3　この表は、固有名詞を対象とするものではない。
4　この表は、過去の著作や文書における漢字使用を否定するものではない。
5　この表の運用に当たっては、個々の事情に応じて適切な考慮を加える余地のあるものである。

表の見方及び使い方

1　この表は、「本表」及び「付表」から成る。
2　「本表」には、字種一九四五字を掲げ、字体、音訓、語例等を併せ示した。
3　漢字欄には、字種と字体を示した。字種は字音によって五十音順に並べた。同音の場合はおおむね字画の少ないものを先にした。字音を取り上げていないものは字訓によった。
4　字体は文字の骨組みであるが、便宜上、明朝体活字のうちの一種を例に用いて現代の通用字体を示した(「(付)字体についての解説」参照)。
5　括弧に入れて添えたものは、いわゆる康熙字典体の活字である。これは明治以来行われてきた活字の字体とのつながりを示すために添えたものであるが、著しい差異のないものは省いた。
6　音訓欄には、音訓を示した。字音は片仮名で、字訓は平仮名で示した。一字下げで示した音訓は、特別なもの又は用法のごく狭いものである。
7　派生の関係にあって同じ漢字を使用する習慣のある次のような類は、適宜、音訓欄又は例欄に主なものを示した。

けむる	煙る	わける	分ける
けむり	煙	わかれる	分かれる
けむい	煙い、煙たい、煙たがる	わかる	分かる
		わかつ	分かつ

なお、次のような類は、名詞としてだけ用いるものである。

しるし　―印　　こおり　―氷

8　例欄には、語例を示した。これは、音訓使用の目安としてその使用例の一部を示したものである。

9　例欄の語のうち、副詞的用法又は接続詞的用法として使うものであって紛らわしいものには、特に〔副〕又は〔接〕という記号を付けた。

10　他の字又は語と結び付く場合に音韻上の変化を起こす次のような類は、音訓欄又は備考欄に示しておいたが、すべての例を尽くしているわけではない。

納得（ナットク）　　格子（コウシ）
手綱（タヅナ）　　金物（カナモノ）
音頭（オンド）　　夫婦（フウフ）
順応（ジュンノウ）　　因縁（インネン）
春雨（ハルサメ）

11　備考欄には、個々の音訓の使用に当たって留意すべき事項を記したほか、異字同訓のあるものを適宜↔で示し、また、付表にある語でその漢字を含んでいるものを注記した。

12　「付表」には、いわゆる当て字や熟字訓など、主として一字一字の音訓として挙げにくいものを語の形で掲げ、便宜上、その読み方を平仮名で示し、五十音順に並べた。

（付）　字体についての解説

第1　明朝体活字のデザインについて

常用漢字表では、個々の漢字の字体（文字の骨組み）を、明朝体活字のうちの一種を例に用いて示した。現在、一般に使用されている各種の明朝体活字（写真植字を含む。）には、同じ字でありながら、微細なところで形の相違の見られるものがある。しかし、それらの相違は、いずれも活字設計上の表現の差、すなわち、デザインの違いに属する事柄であって、字体の違いではないと考えられるものである。つまり、それらの相違は、字体の上からは全く問題にする必要のないものである。以下、分類して例を示す。

1　へんとつくり等の組合せ方について

(1)　大小、高低などに関する例

硬　硬　　吸　吸

(2)　はなれているか、接触しているかに関する例

睡　睡　　異　異

2　点画の組合せ方について

(1)　長短に関する例

雪雪雪満満　無無斎斎

(2) つけるか、はなすかに関する例

発発備備奔奔　空空湿湿吹吹

(3) 接触の位置に関する例

岸岸家家脈脈脈　蚕蚕印印

(4) 交わるか、交わらないかに関する例

聴聴非非祭祭　存存孝孝射射

(5) その他

芽芽芽夢夢夢

---

3 点画の性質について

(1) 点か、棒（画）かに関する例

帰帰班班均均麗麗

(2) 傾斜、方向に関する例

考考値値望望

(3) 曲げ方、折り方に関する例

勢勢競競　頑頑頑災災

(4) 「筆押さえ」等の有無に関する例

芝芝更更　八八八公公公雲雲

(5) とめるか、はらうかに関する例

環環泰泰談談　医医継継園園

(6) とめるか、ぬくかに関する例

耳耳邦邦街街

(7)　はねるか、とめるかに関する例

四←四←　配配　換←換←　湾湾

第2　明朝体活字と筆写の楷書との関係について

常用漢字表では、個々の漢字の字体（文字の骨組み）を、明朝体活字のうちの一種を例に用いて示した。このことは、これによって筆写の楷書における書き方の習慣を改めようとするものではない。字体としては同じであっても、明朝体活字（写真植字を含む。）の形と筆写の楷書の形との間には、いろいろな点で違いがある。それらは、印刷上と手書き上のそれぞれの習慣の相違に基づく表現の差と見るべきものである。以下、分類して例を示す。

1　明朝体活字に特徴的な表現の仕方があるもの

(1)　折り方に関する例

衣－衣　去－去　玄－玄

(2)　点画の組合せ方に関する例

人－人　家－家　北－北

(3)　「筆押さえ」等に関する例

芝－芝　史－史

入－入　八－八

(4)　曲直に関する例

子－子　手－手　了－了

(5)　その他

辶－辶　𥫗－⺮　心－心

2　筆写の楷書では、いろいろな書き方があるもの

(1)　長短に関する例

雨－雨雨　戸－戸戸戸

無－無無

(2)　方向に関する例

風－風風　比－比比

仰－仰仰　糸－糸糸

ネ－ネネ　衤－衤衤

主－主主　言－言言言

年－年年年

(3)　つけるか、はなすかに関する例

又－又又　文－文文

月－月月

条－条条　保－保保

(4) はらうか、とめるかに関する例

奥－奥奥　公－公公

角－角角　骨－骨骨

(5) はねるか、とめるかに関する例

切－切切切　改－改改改

酒－酒酒　陸－陸陸陸

穴－穴穴穴

木－木木　来－来来

糸－糸糸　牛－牛牛

環－環環

(6) その他

令－令令　外－外外外外

女－女女

本表

・「本表」には、三省堂編修所で次のように手を加えた。

1 漢字の字種の上に、見やすいように見出し仮名をつけた。

2 「当用漢字(音訓)表」より増えた漢字や音訓には⊕印をつけた。

3 「学年別漢字配当表」の漢字は赤色にし、1～6の数字で配当学年を示した。

4 赤色の音訓は、「特別なもの又は用法のごく狭いもの」(五ページ「6」参照)である。

5 「備考」欄の、熟字訓の読み仮名と「」のいくつかを省略した。

・「例」欄の送り仮名は、「送り仮名の付け方」の「本則」「例外」及び「通則7」に準じている。

(三省堂編修所注)

漢字	音訓	例	備考
ア 亜(亞)	ア	亜流　亜麻　亜熱帯	
アイ 哀	アイ	哀愁　哀願　悲哀	
	あわれ	哀れ　哀れな話　哀れがる	
	あわれむ	哀れむ　哀れみ	
愛 4	アイ	愛情　愛読　恋愛	
アク 悪(惡) 3	アク	悪事　悪意　醜悪	
	オ	悪寒　好悪　憎悪	
	わるい	悪い　悪さ　悪者	
握	アク	握手　握力　掌握	

見出し	漢字	学年	音訓	例	備考
			にぎる	握る　握り　一握り	
アツ	圧（壓）	5	アツ	圧力　圧迫　気圧	
あつかう	扱		あつかう	扱う　扱い　客扱い	
アン	安	3	アン	安全　安価　不安	
			やすい	安い　安らかだ	
	案	4	アン	案文　案内　新案	
	暗	3	アン	暗示　暗愚　明暗	
			くらい	暗い　暗がり	
イ	以	4	イ	以上　以内　以後	
	衣	4	イ	衣服　衣食住　作業衣	浴衣
			ころも	衣　羽衣	
	位	4	イ	位置　第一位　各位	「三位一体」、「従三位」は「サンミイッタイ」、「ジュサンミ」
			くらい	位　位取り　位する	
	囲（圍）	4	イ	囲碁　包囲　範囲	
			かこむ	囲む　囲み	
			かこう	囲う　囲い	
	医（醫）	3	イ	医学　医療　名医	
	依		イ	依頼　依拠　依然	
			エ	帰依	
	委	3	イ	委任　委員　委細	
	威		イ	威力　威圧　示威	
	胃	4	イ	胃腸　胃酸　胃弱	
	為（爲）		イ	為政者　行為　作為	為替
	尉		イ	尉官　一尉　大尉	
	異	6	イ	異論　異同　奇異	
			こと	異にする　異なる	
	移	5	イ	移転　移民　推移	
			うつる	移る　移り変わり	
			うつす	移す	
	偉		イ	偉大　偉人　偉観	
			えらい	偉い　偉ぶる	
	意	3	イ	意見　意味　決意	意気地
	違		イ	違反　違法　相違	
			ちがう	違う　違い　間違う	
			ちがえる	違える　見違える　間違える	
	維		イ	維持　維新　繊維	
	慰		イ	慰安　慰問　慰労	
			なぐさめる	慰める　慰め	
			なぐさむ	慰む　慰み	
	遺	6	イ	遺棄　遺産　遺失	「遺言」は「イゴン」とも
			ユイ	遺言	
	緯		イ	緯度　北緯　経緯	
イキ	域	6	イキ	域内　地域　区域	
イク	育	3	イク	育児　教育　発育	
			そだつ	育つ　育ち	
			そだてる	育てる　育て親	

漢字	学年	音訓	例	備考
一	1	イチ	一度　一座　第一	一日
		イツ	一般　同一　統一	一人
		ひと	一息　一筋　一月目	
		ひとつ	一つ	
壱（壹）		イチ	壱万円	
逸（逸）		イツ	逸話　逸品　逸する	
芋		いも	芋　里芋　焼き芋	
引	2	イン	引力　引退　索引	
		ひく	引く　字引	↕弾く
		ひける	引ける	
印	4	イン	印刷　印象　調印	
		しるし	印　目印　矢印	
因	5	イン	因果　原因　要因	
		よる	因る　……に因る	
姻		イン	姻族　婚姻	
員	3	イン	満員　定員　社員	
院	3	イン	院内　議院　病院	
陰		イン	陰気　陰性　光陰	
		かげ	陰　日陰	↕影
		かげる	陰る　陰り	
飲	3	イン	飲料　飲食　痛飲	
		のむ	飲む　飲み水	
隠（隱）		イン	隠居　隠忍　隠語	
		かくす	隠す	
		かくれる	隠れる　雲隠れ	
韻		イン	韻律　韻文　音韻	
右	1	ウ	右岸　右折　右派	
		ユウ	左右　座右	
		みぎ	右　右手	
宇	6	ウ	宇宙　気宇　堂宇	
羽	2	ウ	羽毛　羽化　羽翼	「羽（は）」は前に来る音によって「わ、ば、ぱ」になる
		は	白羽の矢　一羽（わ）　三羽（ば）　六羽（ぱ）	
		はね	羽　羽飾り	
雨	1	ウ	雨量　降雨　梅雨	五月雨　時雨　梅雨
		あめ	雨　大雨	
		あま	雨雲　雨戸　雨具	「春雨、小雨、霧雨」などは「はるさめ、こさめ、きりさめ」
運	3	ウン	運動　運命　海運	
		はこぶ	運ぶ	
雲	2	ウン	雲海　風雲　積乱雲	
		くも	雲　雲隠れ	
永	5	エイ	永続　永久　永遠	
		ながい	永い　日永	↕長い
泳	3	エイ	泳法　水泳　背泳	
		およぐ	泳ぐ　泳ぎ	
英	4	エイ	英雄　英断　俊英	
映	6	エイ	映画　上映　反映	

漢字	学年	音訓	例	備考
		うつる	映る　映り	↔写る
		うつす	映す	↔写す
		はえる	映える　夕映え	↔栄える
栄（榮）	4	エイ	栄枯　栄養　繁栄	
		さかえる	栄える　栄え	
		はえ	栄えある　見栄え　出来栄え	↔映え
		はえる㊥	栄える	↔映える
営（營）	5	エイ	営業　経営　陣営	
		いとなむ	営む　営み	
詠		エイ	詠嘆　詠草　朗詠	
		よむ	詠む	↔読む
影		エイ	影響　陰影　撮影	
		かげ	影　影絵　人影	↔陰
鋭		エイ	鋭利　鋭敏　精鋭	
		するどい	鋭い　鋭さ	
衛（衞）	5	エイ	衛生　護衛　守衛	
易	5	エキ	易者　貿易　不易	
		イ	容易　安易　難易	
		やさしい	易しい　易しさ	
疫		エキ	疫病　悪疫　防疫	
		ヤク	疫病神	
益	5	エキ	有益　利益　益する	
		ヤク	御利益	

漢字	学年	音訓	例	備考
液	5	エキ	液体　液状　血液	
駅（驛）	3	エキ	駅長　駅伝　貨物駅	
悦		エツ	悦楽　喜悦	
越		エツ	越境　超越　優越	
		こす	越す　年越し	↔超す
		こえる	越える　山越え	↔超える
謁（謁）		エツ	謁見　拝謁　謁する	
閲		エツ	閲覧　閲歴　校閲	
円（圓）	1	エン	円卓　円熟　一円	
		まるい	円い　円さ　円み	↔丸い
延	6	エン	延長　延期　遅延	
		のびる	延びる	↔伸びる
		のべる	延べる　延べ	
		のばす	延ばす	↔伸ばす
沿	6	エン	沿海　沿線　沿革	
		そう	沿う　川沿い	↔添う
炎		エン	炎上　炎天　火炎	
		ほのお	炎	
宴		エン	宴会　宴席　酒宴	
援		エン	援助　応援　声援	
園	2	エン	園芸　公園　楽園	
		その	学びの園　花園	
煙		エン	煙突　煙霧　喫煙	

漢字	学年	音訓	例	備考
（煙）		けむる	煙る	
		けむり	煙	
		けむい	煙い　煙たい　煙たがる	
エン				
猿		エン	野猿　類人猿　犬猿の仲	
		さる	猿	
遠	2	エン	遠近　永遠　敬遠	
		オン	久遠	
		とおい	遠い　遠出　遠ざかる	
鉛		エン	鉛筆　亜鉛　黒鉛	
		なまり	鉛　鉛色	
塩（鹽）	4	エン	塩分　塩酸　食塩	
		しお	塩　塩辛い	
演	5	エン	演技　演奏　講演	
縁（緣）		エン	縁故　縁日　血縁	「因縁」は、「インネン」
		ふち	縁　縁取り　額縁	
オ				
汚		オ	汚点　汚物　汚名	
		けがす	汚す	
		けがれる	汚れる　汚れ	
		けがらわしい	汚らわしい	
		よごす	汚す　口汚し	
		よごれる	汚れる　汚れ　汚れ物	
		きたない	汚い　汚らしい	
オウ				
王	1	オウ	王子　帝王	「親王、勤王」などは、「シンノウ、キンノウ」
凹		オウ	凹凸　凹面鏡　凹レンズ	凸凹
央	3	オウ	中央	
応（應）	5	オウ	応答　応用　呼応	「反応、順応」などは、「ハンノウ、ジュンノウ」
往	5	オウ	往復　往来　既往症	
押		オウ	押収　押印　押韻	
		おす	押す　押し	↔推す
		おさえる	押さえる　押さえ	↔抑える
欧（歐）		オウ	欧文　西欧　渡欧	
殴（毆）		オウ	殴打	
		なぐる	殴る	
桜（櫻）	5	オウ	桜花　観桜	
		さくら	桜　桜色　葉桜	
翁		オウ	老翁	
奥（奧）		オウ	奥義　深奥	「奥義」は「おくギ」とも
		おく	奥　奥底　奥さん	
横（橫）	3	オウ	横断　横領　専横	
		よこ	横　横顔　横たわる	
オク				
屋	3	オク	屋上　屋外　家屋	
		や	屋根　花屋　楽屋	母屋　部屋　↔家
億	4	オク	億万　一億	
憶		オク	記憶　追憶	
おそれ				
虞		おそれ	虞	
オツ				
乙		オツ	乙種　甲乙	乙女

漢字	学年	音訓	例	備考
卸		おろす	卸す	↕下ろす 降ろす
		おろし	卸 卸商	
音	1	オン	音楽 発音 騒音	「観音」は「カンノン」
		イン	音信不通 福音	「音信不通」は、「オンシンフツウ」とも
		おと	音 物音	
		ね	音 音色	
恩	5	オン	恩情 恩人 謝恩	
温（溫）	3	オン	温暖 温厚 気温	
		あたたか	温かだ	↕暖か
		あたたかい	温かい	↕暖かい
		あたたまる	温まる	↕暖まる
		あたためる	温める	↕暖める
穏（穩）		オン	穏和 穏当 平穏	「安穏」は「アンノン」
		おだやか	穏やかだ	
下	1	カ	下流 下降 落下	下手
		ゲ	下水 下車 上下	
		した	下 下見	
		しも	下 川下	
		もと	下 足下	↕元 本 基
		さげる	下げる	↕提げる
		さがる	下がる	
		くだる	下る 下り	
		くだす	下す	
		くださる	下さる	
		おろす	下ろす 書き下ろし	↕卸す 降ろす
		おりる	下りる	↕降りる
化	3	カ	化石 化学 文化	
		ケ	化粧 化身 権化	
		ばける	化ける お化け	
		ばかす	化かす	
火	1	カ	火災 灯火 発火	
		ひ	火 火花 炭火	↕灯
		ほ	火影	
加	4	カ	加入 加減 追加	
		くわえる	加える	
		くわわる	加わる	
可	5	カ	可否 可能 許可	
仮（假）	5	カ	仮面 仮定 仮装	仮名
		ケ	仮病	
		かり	仮の住まい 仮に 仮処分	
何	2	カ	幾何学	
		なに	何 何者 何事	
		なん	何本 何十 何点	
花	1	カ	花弁 花壇 落花	
		はな	花 花火 草花	↕華
佳		カ	佳作 佳人 絶佳	

カ

漢字	学年	音訓	例	備考
価(價)	5	カ	価値　価格　評価	
		あたい	価	↕値
果	4	カ	果実　果断　結果	果物
		はたす	果たす　果たして(副)	
		はてる	果てる	
		はて	果て	
河	5	カ	河川　河口　運河	河岸　河原
		かわ	河	↕川原
科	2	カ	科学　教科　罪科	
架		カ	架橋　架空　書架	
		かける	架ける	↕掛ける　懸ける
		かかる	架かる	↕掛かる　懸かる
夏	2	カ	夏季　初夏　盛夏	
		ゲ	夏至	
		なつ	夏　夏服　真夏	
家	2	カ	家屋　家庭　作家	
		ケ	家来　本家　分家	
		いえ	家　家柄　家元	
		や	家主　借家	母家　↕母屋
荷	3	カ	出荷　入荷	
		に	荷　荷物　初荷	
華		カ	華美　繁華　栄華	
		ケ	香華　散華	
		はな	華やかだ　華やぐ　華々しい	↕花
菓		カ	菓子　製菓　茶菓	
貨	4	カ	貨物　貨幣　通貨	
渦 ⊕		カ	渦中	
		うず	渦　渦潮　渦巻く	
過	5	カ	過度　過失　通過	
		すぎる	過ぎる　昼過ぎ	
		すごす	過ごす	
		あやまつ	過つ	
		あやまち	過ち	
嫁		カ	再嫁　転嫁　嫁する	
		よめ	嫁　花嫁	
		とつぐ	嫁ぐ　嫁ぎ先	
暇		カ	余暇　休暇　寸暇	
		ひま	暇　暇な時	
禍(禍)		カ	禍福　禍根　災禍	
靴 ⊕		カ	製靴	
		くつ	靴　靴下　革靴	
寡		カ	寡黙　寡婦　多寡	
歌	2	カ	歌曲　唱歌　短歌	
		うた	歌	
		うたう	歌う	↕謡う
箇		カ	箇条　箇所	

漢字	音訓	例	備考
稼 ⊕	カ	稼業　稼働	
	かせぐ	稼ぐ　稼ぎ	
課 4	カ	課　日課　課する	
蚊	か	蚊　蚊柱　やぶ蚊	蚊帳
我 6	ガ	我流　彼我　自我	
	われ	我　我々　我ら	
	わ	我が国	
画（畫） 2	ガ	画家　図画　映画	
	カク	画期的　計画　区画	
芽 4	ガ	発芽　麦芽　肉芽	
	め	芽　芽生える　新芽	
賀 5	ガ	賀状　祝賀　賀する	
雅	ガ	雅趣　優雅　風雅	
餓	ガ	餓死　餓鬼　飢餓	
介（カイ）	カイ	介入　紹介　介する	
回 2	カイ	回答　転回　次回	
	エ	回向	
	まわる	回る　回り　回り道	↕周り
	まわす	回す　手回し	
灰 6	カイ	灰白色　石灰	
	はい	灰　灰色　火山灰	
会（會） 2	カイ	会話　会計　社会	
	エ	会釈　会得　法会	
	あう	会う	↕合う　遭う
快 5	カイ	快活　快晴　明快	
	こころよい	快い	
戒	カイ	戒心　戒律　警戒	
	いましめる	戒める　戒め	
改 4	カイ	改造　改革　更改	
	あらためる	改める　改めて〔副〕	
	あらたまる	改まる	
怪	カイ	怪談　怪物　奇怪	
	あやしい	怪しい　怪しげだ	
	あやしむ	怪しむ	
拐 ⊕	カイ	拐帯　誘拐	
悔（悔）	カイ	悔恨　後悔	
	くいる	悔いる　悔い	
	くやむ	悔やむ　お悔やみ	
	くやしい	悔しい　悔しがる	
海（海） 2	カイ	海岸　海水浴　航海	海女
	うみ	海　海鳴り	海原
界 3	カイ	境界　限界　世界	
皆	カイ	皆無　皆勤　皆出席	
	みな	皆　皆さん	
械 4	カイ	機械	
絵（繪） 2	カイ	絵画	
	エ	絵本　絵図　口絵	

漢字	学年	音訓	例	備考
開	3	カイ	開始 開拓 展開	
		ひらく	開く 川開き	
		ひらける	開ける	
		あく	開く	↕空く 明く
		あける	開ける 開けたて	↕空ける 明ける
階	3	カイ	階段 階級 地階	
解	5	カイ	解決 解禁 理解	
		ゲ	解脱 解熱剤 解毒剤	
		とく	解く	↕溶く
		とかす	解かす	↕溶かす
		とける	解ける	↕溶ける
塊		カイ	塊状 山塊	
		かたまり	塊	
壊（壞）		カイ	壊滅 破壊 決壊	
		こわす	壊す	
		こわれる	壊れる	
懐（懷）		カイ	懐中 懐古 述懐	
		ふところ	懐 懐手 内懐	
		なつかしい	懐かしい	
		なつかしむ	懐かしむ	
		なつく	懐く	
		なつける	懐ける	
貝	1	かい	貝 貝細工 ほら貝	

漢字	学年	音訓	例	備考
外	2	ガイ	外出 海外 除外	
		ゲ	外科 外題 外道	
		そと	外 外囲い	
		ほか	外 その外	
		はずす	外す 踏み外す	
		はずれる	外れる 町外れ	
劾		ガイ	弾劾	
害	4	ガイ	害悪 被害 損害	
涯 ⊕		ガイ	生涯	
街	4	ガイ	街頭 市街 商店街	
		カイ	街道	
		まち	街 街角	↕町
慨（慨）		ガイ	慨嘆 憤慨 感慨	
該		ガイ	該当 該博 当該	
概（槪）		ガイ	概念 大概 概して	
垣 ⊕		かき	垣 垣根	
各	4	カク	各自 各種 各位	
		おのおの	各	「各々」とも書く
角	2	カク	角度 三角 頭角	
		かど	角 街角 四つ角	
		つの	角 角笛	
拡（擴）	6	カク	拡大 拡張 拡声器	
革	6	カク	革新 改革 皮革	

漢字		音訓	例	備考
		かわ	革　革靴	↕皮
格	5	カク	格式　規格　性格	
		コウ	格子	
核		カク	核心　核反応　結核	
殻（殼）	⊕	カク	甲殻　地殻	
		から	殻　貝殻	
郭		カク	城郭　外郭　輪郭	
覚（覺）	4	カク	覚悟　知覚　発覚	
		おぼえる	覚える　覚え	
		さます	覚ます　目覚まし	
		さめる	覚める　目覚め	
較		カク	比較	
隔		カク	隔離　隔月　間隔	
		へだてる	隔てる　隔て	
		へだたる	隔たる　隔たり	
閣	6	カク	閣議　閣僚　内閣	
確	5	カク	確定　確認　正確	
		たしか	確かだ　確かさ	
		たしかめる	確かめる	
獲		カク	獲得　捕獲　漁獲高	
		える	獲る　獲物	↕得る
嚇		カク	威嚇	
穫		カク	収穫	
学（學）	1	ガク	学習　科学　大学	
		まなぶ	学ぶ	
岳（嶽）		ガク	岳父　山岳	
		たけ	○○岳	
楽（樂）	2	ガク	楽隊　楽器　音楽	神楽
		ラク	楽園　快楽　娯楽	
		たのしい	楽しい　楽しさ　楽しげだ	
		たのしむ	楽しむ	
額	5	ガク	額縁　金額　前額部	
		ひたい	額	
掛		かける	掛ける	↕懸ける　架ける
		かかる	掛かる	↕係る　懸かる　架かる
		かかり	掛	↕係
潟	⊕	かた	干潟　○○潟	
括		カツ	括弧　一括　包括	
活	2	カツ	活動　活力　生活	
喝（喝）	⊕	カツ	喝破　一喝　恐喝	
渇（渴）		カツ	渇望　渇水	
		かわく	渇く　渇き	↕乾く
割	6	カツ	割愛　割拠　分割	
		わる	割る	
		わり	割がいい　割合　割に　五割	
		われる	割れる　ひび割れ	
		さく	割く	↕裂く

漢字	学年	音訓	例
滑（カツ）		カツ	滑走　滑降　円滑
		すべる	滑る　滑り
		なめらか	滑らかだ
褐（褐）⊕		カツ	褐色　茶褐色
轄		カツ	管轄　所轄　直轄
且（かつ）		かつ	且つ
株（かぶ）	6	かぶ	株　株式
刈（かる）		かる	刈る　刈り入れ
干（カン）	6	カン	干渉　干潮　若干
		ほす	干す　干し物
		ひる	干上がる　干物　潮干狩り
刊	5	カン	刊行　発刊　週刊
甘		カン	甘言　甘受　甘味料
		あまい	甘い　甘み
		あまえる	甘える
		あまやかす	甘やかす
汗		カン	汗顔　発汗
		あせ	汗　汗ばむ
缶（罐）⊕		カン	缶　缶詰　製缶
完	4	カン	完全　完成　未完
肝		カン	肝臓　肝胆　肝要
		きも	肝　肝っ玉
官	4	カン	官庁　官能　教官

漢字	学年	音訓	例	備考
冠		カン	冠詞　王冠　栄冠	
		かんむり	冠	
巻（卷）	6	カン	巻頭　圧巻　一巻	
		まく	巻く　巻き貝	
		まき	巻の一	
看	6	カン	看護　看破　看板	
陥（陷）		カン	陥落　陥没　欠陥	
		おちいる	陥る	
		おとしいれる	陥れる	
乾		カン	乾燥　乾杯　乾電池	
		かわく	乾く	↕渇く
		かわかす	乾かす	
勘		カン	勘弁　勘当	
患		カン	患者　疾患	
		わずらう	患う　長患い	↕煩う
貫		カン	貫通　縦貫　尺貫法	
		つらぬく	貫く	
寒	3	カン	寒暑　寒村　厳寒	
		さむい	寒い　寒がる　寒空	
喚		カン	喚問　召喚　叫喚	
堪		カン	堪忍	
		たえる	堪える	↕耐える
換		カン	換気　換算　交換	

漢字	学年	音訓	例	備考
換		かえる	換える	↕代える 替える 変える
		かわる	換わる	↕代わる 替わる 変わる
敢		カン	敢然 果敢 勇敢	
棺		カン	棺おけ 石棺 出棺	
款		カン	定款 借款 落款	
間	2	カン	間隔 中間 時間	
		ケン	世間 人間	
		あいだ	間 間柄	
		ま	間 間違う 客間	
閑		カン	閑静 閑却 繁閑	
勧（勸）		カン	勧誘 勧奨 勧告	
		すすめる	勧める 勧め	↕進める 薦める
寛（寬）		カン	寛大 寛容 寛厳	
幹	5	カン	幹線 幹事 根幹	
		みき	幹	
感	3	カン	感心 感覚 直感	
漢（漢）	3	カン	漢字 漢語 門外漢	
慣	5	カン	慣例 慣性 習慣	
		なれる	慣れる 慣れ	
		ならす	慣らす	
管	4	カン	管理 管制 鉄管	
		くだ	管	
関（關）	4	カン	関節 関係 関する	
		せき	関 関取 関の山	
歓（歡）		カン	歓迎 歓声 交歓	
監		カン	監視 監督 総監	
緩		カン	緩和 緩慢 緩急	
		ゆるい	緩い	
		ゆるやか	緩やかだ	
		ゆるむ	緩む 緩み	
		ゆるめる	緩める	
憾		カン	遺憾	
還		カン	還元 生還 返還	
館	3	カン	館内 旅館 図書館	
環		カン	環状 環境 循環	
簡	6	カン	簡単 簡易 書簡	
観（觀）	4	カン	観察 客観 壮観	
艦		カン	艦船 艦隊 軍艦	
鑑		カン	鑑賞 鑑定 年鑑	
丸	2	ガン	丸薬 弾丸 砲丸	
		まる	丸 丸太 丸洗い	
		まるい	丸い 丸み 丸さ	↕円い
		まるめる	丸める	
含		ガン	含有 含蓄 包含	
		ふくむ	含む 含み	
		ふくめる	含める	

漢字	学年	音訓	例	備考
岸	3	ガン	岸壁　対岸　彼岸	河岸
		きし	岸　向こう岸	
岩	2	ガン	岩石　岩塩　火成岩	
		いわ	岩　岩場	
眼	5	ガン	眼球　眼力　主眼	眼鏡
		ゲン	開眼	
		まなこ	眼　どんぐり眼　血眼	
頑 ⊕		ガン	頑強　頑健　頑固	
顔	2	ガン	顔面　童顔　厚顔	笑顔
		かお	顔　横顔　したり顔	
願	4	ガン	願望　祈願　志願	
		ねがう	願う　願い　願わしい	
キ				
企		キ	企画　企図　企業	
		くわだてる	企てる　企て	
危	6	キ	危険　危害　安危	
		あぶない	危ない　危ながる	
		あやうい	危うい　危うく	
		あやぶむ ⊕	危ぶむ	
机	6	キ	机上　机辺	
		つくえ	机	
気（氣）	1	キ	気体　気候　元気	意気地　浮気
		ケ	気配　気色ばむ　火の気	
岐		キ	岐路　分岐　多岐	
希	4	キ	希望　希少　希薄	
忌		キ	忌避　忌中　禁忌	
		いむ	忌む	
		いまわしい	忌まわしい	
汽	2	キ	汽車　汽船　汽笛	
奇		キ	奇襲　奇数　珍奇	数奇屋
祈（祈）		キ	祈願　祈念	
		いのる	祈る　祈り	
季	4	キ	季節　四季　雨季	
紀	4	キ	紀行　紀元　風紀	
軌		キ	軌道　広軌　常軌	
既（既）		キ	既成　既婚　既往症	
		すでに	既に	
記	2	キ	記入　記号　伝記	
		しるす	記す	
起	3	キ	起立　起源　奮起	
		おきる	起きる　早起き	
		おこる	起こる	↕興る
		おこす	起こす	↕興す
飢		キ	飢餓	
		うえる	飢える　飢え	
鬼		キ	鬼神　鬼才　餓鬼	
		おに	鬼　鬼ごっこ　赤鬼	
帰（歸）	2	キ	帰還　帰納　復帰	

キ

漢字	学年	音訓	例	備考
		かえる	帰る　帰り	↔返る
		かえす	帰す	↔返す
基	5	キ	基礎　基準　基地	
		もと	基　基づく	↔下　元　本
		もとい	基	
寄	5	キ	寄宿　寄贈　寄港	数寄屋
		よる	寄る　近寄る　身寄り	最寄り
		よせる	寄せる　人寄せ	寄席
規	5	キ	規則　規律　定規	
喜	4	キ	喜劇　悲喜　歓喜	
		よろこぶ	喜ぶ　喜び　喜ばしい	
幾		キ	幾何学	
		いく	幾つ　幾ら　幾日	
揮	6	キ	揮発油　指揮　発揮	
期	3	キ	期間　期待　予期	
		ゴ	最期　この期に及んで	
棋		キ	棋士　棋譜　将棋	
貴	6	キ	貴重　貴下　騰貴	
		たっとい	貴い	↔尊い
		とうとい	貴い	↔尊い
		たっとぶ	貴ぶ	↔尊ぶ
		とうとぶ	貴ぶ	↔尊ぶ
棄		キ	棄権　放棄　遺棄	

ギ

漢字	学年	音訓	例	備考
旗	4	キ	旗手　旗艦　国旗	
		はた	旗　旗色　手旗	
器（器）	4	キ	器量　器用　陶器	
		うつわ	器	
輝		キ	輝石　光輝	
		かがやく	輝く　輝き　輝かしい	
機	4	キ	機械　機会　危機	
		はた	機　機織り	
騎		キ	騎士　騎馬　一騎当千	
技	5	ギ	技術　技師　特技	
		わざ	技	↔業
宜		ギ	適宜　便宜	
偽（僞）		ギ	偽名　真偽　虚偽	
		いつわる	偽る　偽り	
		にせ	偽　偽物　偽札	
欺		ギ	詐欺	
		あざむく	欺く	
義	5	ギ	義理　意義　正義	
疑	6	ギ	疑念　疑問　容疑	
		うたがう	疑う　疑い　疑わしい	
儀		ギ	儀式　威儀　地球儀	
戯（戲）		ギ	戯曲　遊戯　児戯	
		たわむれる	戯れる　戯れ	

漢字	学年	音訓	例	備考
擬		ギ	擬音　擬人法　模擬	
犠（犧）		ギ	犠牲　犠打	
議	4	ギ	議論　会議　異議	
菊		キク	菊　菊花　白菊	
吉		キチ	吉日　吉例　大吉	「吉日」は、「キツジツ」とも
		キツ	吉報　不吉	
喫		キツ	喫煙　満喫　喫する	
詰		キツ	詰問　難詰　面詰	
		つめる	詰める　詰め物	
		つまる	詰まる　行き詰まる	
		つむ	詰む　詰み	
却		キャク	却下　退却　売却	
客	3	キャク	客間　客車　乗客	
		カク	客死　主客　旅客	
脚		キャク	脚部　脚本　三脚	
		キャ	脚立　行脚	
		あし	脚　机の脚	↔足
逆	5	ギャク	逆上　逆転　順逆	
		さか	逆立つ　逆さ　逆さま	
		さからう	逆らう	
虐		ギャク	虐待　虐殺　残虐	
		しいたげる	虐げる	
九	1	キュウ	九百　三拝九拝	
		ク	九分九厘　九月	
		ここの	九日　九重	
		ここのつ	九つ	
久	5	キュウ	永久　持久　耐久	
		ク	久遠	
		ひさしい	久しい　久々	
及		キュウ	及第　追及　普及	
		およぶ	及ぶ　及び腰	
		および	及び〔接〕	
		およぼす	及ぼす	
弓	2	キュウ	弓道　弓状　洋弓	
		ゆみ	弓　弓矢	
丘		キュウ	丘陵　砂丘	
		おか	丘	
旧（舊）	5	キュウ	旧道　新旧　復旧	
休	1	キュウ	休止　休憩　定休	
		やすむ	休む　休み	
		やすまる	休まる	
		やすめる	休める　気休め	
吸	6	キュウ	吸収　吸入　呼吸	
		すう	吸う	
朽		キュウ	不朽　老朽　腐朽	
		くちる	朽ちる	

漢字	学年	音訓	例	備考
求	4	キュウ	求職　要求　追求	
		もとめる	求める　求め	
究	3	キュウ	究明　研究　学究	
		きわめる	究める	↕窮める　極める
泣	4	キュウ	号泣　感泣	
		なく	泣く　泣き沈む	
急	3	キュウ	急速　急務　緊急	
		いそぐ	急ぐ　急ぎ	
級	3	キュウ	等級　上級　階級	
糾		キュウ	糾弾　紛糾	
宮	3	キュウ	宮殿　宮廷　離宮	
		グウ	宮司　神宮　東宮	
		ク		「宮内庁」などと使う
		みや	宮　宮様	
救	4	キュウ	救助　救援　救急	
		すくう	救う　救い	
球	3	キュウ	球形　球技　地球	
		たま	球	↕玉　弾
給	4	キュウ	給水　配給　月給	
窮		キュウ	窮極　窮屈　困窮	
		きわめる	窮める	↕究める　極める
		きわまる	窮まる	↕極まる
牛	2	ギュウ	牛馬　牛乳　闘牛	
		うし	牛	
去	3	キョ	去年　去就　除去	
		コ	過去	
		さる	去る　去る○日	
巨		キョ	巨大　巨匠　巨万	
居	5	キョ	居住　居室　住居	一言居士
		いる	居る　芝居	
拒		キョ	拒絶　拒否	
		こばむ	拒む	
拠（據）		キョ	拠点　占拠　根拠	
		コ	証拠	
挙（擧）	4	キョ	挙手　挙国　壮挙	
		あげる	挙げる　挙げて〔副〕	↕上げる　揚げる
		あがる	挙がる	↕上がる　揚がる
虚（虛）		キョ	虚無　虚偽　空虚	
		コ	虚空　虚無僧	
許	5	キョ	許可　許諾　特許	
		ゆるす	許す　許し	
距		キョ	距離	
魚	2	ギョ	魚類　金魚　鮮魚	雑魚
		うお	魚　魚市場	
		さかな	魚　魚屋　煮魚	
御		ギョ	御者　制御	

漢字	学年	音訓	例	備考
（御）		ゴ	御飯 御用 御殿	
		おん	御中 御礼	
漁	4	ギョ	漁業 漁船 漁村	
		リョウ	漁師 大漁 不漁	「猟」の字音の転用
凶		キョウ	凶悪 凶作 吉凶	
共	4	キョウ	共同 共通 公共	
		とも	共に 共々 共食い	
叫		キョウ	叫喚 絶叫	
		さけぶ	叫ぶ 叫び	
狂		キョウ	狂気 狂言 熱狂	
		くるう	狂う	
		くるおしい	狂おしい	
京	2	キョウ	京風 上京 帰京	
		ケイ		「京浜、京阪」などと使う
享		キョウ	享有 享受 享楽	
供	6	キョウ	供給 提供 自供	
		ク	供物 供養	
		そなえる	供える お供え	↕備える
		とも	供 子供	
協	4	キョウ	協力 協会 妥協	
況		キョウ	状況 実況 概況	
峡（峽）		キョウ	峡谷 地峡 海峡	
挟（挾） ⊕		キョウ	挟撃	
		はさむ	挟む	
		はさまる	挟まる	
狭（狹）		キョウ	狭量 広狭 偏狭	
		せまい	狭い 狭苦しい	
		せばめる	狭める	
		せばまる	狭まる	
恐		キョウ	恐怖 恐縮 恐慌	
		おそれる	恐れる 恐れ 恐らく	
		おそろしい	恐ろしい	
恭		キョウ	恭賀 恭順	
		うやうやしい	恭しい	
胸	6	キョウ	胸囲 胸中 度胸	
		むね	胸	
		むな	胸板 胸毛 胸騒ぎ	
脅		キョウ	脅迫 脅威	
		おびやかす	脅かす	
		おどす	脅す 脅し 脅し文句	
		おどかす	脅かす	
強	2	キョウ	強弱 強要 勉強	
		ゴウ	強引 強情 強盗	
		つよい	強い 強がる	
		つよまる	強まる	
		つよめる	強める	

漢字	学年	音訓	例	備考
		しいる	強いる 無理強い	
教	2	キョウ	教育 教訓 宗教	
		おしえる	教える 教え	
		おそわる	教わる	
郷（鄉）	6	キョウ	郷里 郷土 異郷	
		ゴウ	郷士 近郷 在郷	
境	5	キョウ	境界 境地 逆境	
		ケイ	境内	
		さかい	境 境目	
橋	3	キョウ	橋脚 鉄橋 歩道橋	
		はし	橋 丸木橋	
矯 ⊕		キョウ	矯正 奇矯	
		ためる	矯める 矯め直す	
鏡	4	キョウ	鏡台 望遠鏡 反射鏡	眼鏡
		かがみ	鏡	
競	4	キョウ	競争 競技 競泳	
		ケイ	競馬 競輪	
		きそう	競う	
		せる	競る 競り合う	
響（響）		キョウ	音響 影響 交響曲	
		ひびく	響く 響き	
驚		キョウ	驚異 驚嘆	
		おどろく	驚く 驚き	
		おどろかす	驚かす	

漢字	学年	音訓	例	備考
仰		ギョウ	仰視 仰天 仰角	
		コウ	信仰	
		あおぐ	仰ぐ	
		おおせ	仰せ	
暁（曉）		ギョウ	暁天 今暁 通暁	
		あかつき	暁	
業	3	ギョウ	業績 職業 卒業	
		ゴウ	業病 罪業 自業自得	
		わざ	業 仕業 早業	↔技
凝		ギョウ	凝固 凝結 凝視	
		こる	凝る 凝り性	
		こらす	凝らす	
曲	3	キョク	曲線 曲面 名曲	
		まがる	曲がる	
		まげる	曲げる	
局	3	キョク	局部 時局 結局	
極	4	キョク	極限 終極 積極的	
		ゴク	極上 極秘 至極	
		きわめる	極める 極め付き 極めて〔副〕	↔究める ↔窮める
		きわまる	極まる 極まり	↔窮まる
		きわみ	極み	
玉	1	ギョク	玉座 玉石 宝玉	
		たま	玉 目玉	↔球 弾
斤		キン	斤量	

漢字	学年	音訓	例	備考
均	5	キン	均等 均一 平均	
近	2	キン	近所 近代 接近	
		ちかい	近い 近づく 近道	
金	1	キン	金属 金銭 純金	
		コン	金色 金剛力 黄金	
		かね	金 金持ち 針金	
		かな	金物 金具 金縛り	
菌		キン	細菌 殺菌 保菌者	
勤（勤）	6	キン	勤務 勤勉 出勤	
		ゴン	勤行	
		つとめる	勤める 勤め	↕努める 務める
		つとまる	勤まる	
琴		キン	琴線 木琴 手風琴	
		こと	琴	
筋	6	キン	筋肉 筋骨 鉄筋	
		すじ	筋 筋書 大筋	
禁	5	キン	禁止 禁煙 厳禁	
緊		キン	緊張 緊密 緊急	
謹（謹）		キン	謹慎 謹賀 謹呈	
		つつしむ	謹む 謹んで〔副〕	↕慎む
襟 ⊕		キン	襟度 開襟 胸襟	
		えり	襟 襟首	
吟		ギン	吟味 詩吟 苦吟	

漢字	学年	音訓	例	備考
銀	3	ギン	銀貨 銀行 水銀	
区（區）	3	ク	区別 区々 地区	
句	5	ク	句集 字句 節句	
苦	3	ク	苦心 苦労 辛苦	
		くるしい	苦しい 苦しがる 見苦しい	
		くるしむ	苦しむ 苦しみ	
		くるしめる	苦しめる	
		にがい	苦い 苦虫 苦々しい	
		にがる	苦り切る	
駆（驅）		ク	駆使 駆逐 先駆	
		かける	駆ける 抜け駆け	
		かる	駆る 駆り立てる	
具	3	グ	具体的 具備 道具	
愚		グ	愚問 愚鈍 暗愚	
		おろか	愚かだ 愚かしい	
空	1	クウ	空想 空港 上空	
		そら	空 空色 青空	
		あく	空く 空き巣	↕開く 明く
		あける	空ける	↕開ける 明ける
		から	空 空手 空手形	
偶		グウ	偶然 偶数 配偶者	
遇		グウ	境遇 待遇 遇する	
隅 ⊕		グウ	一隅	

漢字	学年	音訓	例	備考
		すみ	隅　片隅	
屈		クツ	屈辱　屈伸　不屈	
掘		クツ	掘削　発掘　採掘	
		ほる	掘る	
繰		くる	繰る　繰り返す	
君	3	クン	君主　君臨　諸君	
		きみ	君　母君	
訓	4	クン	訓練　教訓　音訓	
勲（勳）		クン	勲功　勲章　殊勲	
薫（薰）		クン	薫風　薫陶	
		かおる	薫る　薫り	↕香る
軍	4	グン	軍隊　軍備　空軍	
郡	4	グン	郡部　○○郡	
群	5	グン	群居　大群　抜群	
		むれる	群れる	
		むれ	群れ	
		むら	群すずめ　群千鳥　群がる	
兄	2	ケイ	兄事　父兄　義兄	兄さん
		キョウ	兄弟	「兄弟」は、「ケイテイ」と読むこともある
		あに	兄	
刑		ケイ	刑罰　刑法　処刑	
形	2	ケイ	形態　形成　図形	
		ギョウ	形相　人形	
		かた	形　形見　手形	↕型
		かたち	形	
系	6	ケイ	系統　系列　体系	
径（徑）	4	ケイ	直径　直情径行	
茎（莖）		ケイ	球茎　地下茎	
		くき	茎　歯茎	
係	3	ケイ	係累　係争　関係	
		かかる	係る	↕掛かる
		かかり	係　係員　庶務係	↕掛
型	4	ケイ	原型　模型　典型	
		かた	型　型紙　血液型	↕形
契		ケイ	契約　契機　黙契	
		ちぎる	契る　契り	
計	2	ケイ	計算　計画　寒暖計	時計
		はかる	計る	↕測る　量る　図る　謀る
		はからう	計らう　計らい	
恵（惠）		ケイ	恵贈　恵与　恩恵	
		エ	恵方参り　知恵	
		めぐむ	恵む　恵み	
啓		ケイ	啓発　啓示　拝啓	
掲（揭）		ケイ	掲示　掲載　前掲	
		かかげる	掲げる	
渓（溪）⊕		ケイ	渓谷　渓流　雪渓	

漢字	学年	音訓	例	備考
経（經）	5	ケイ	経費　経済　経験	
		キョウ	経文　お経　写経	読経
		へる	経る	
蛍（螢）⊕		ケイ	蛍光灯　蛍光塗料	
		ほたる	蛍	
敬	6	ケイ	敬意　敬服　尊敬	
		うやまう	敬う	
景	4	ケイ	景気　風景　光景	景色
軽（輕）	3	ケイ	軽快　軽薄　軽率	
		かるい	軽い　軽々と　手軽だ	
		かろやか	軽やかだ	
傾		ケイ	傾斜　傾倒　傾向	
		かたむく	傾く　傾き	
		かたむける	傾ける	
携		ケイ	携帯　必携　提携	
		たずさえる	携える	
		たずさわる	携わる	
継（繼）		ケイ	継続　継承　中継	
		つぐ	継ぐ　継ぎ	接ぐ↕次ぐ
慶		ケイ	慶弔　慶祝　慶賀	
憩		ケイ	休憩	
		いこい	憩い	
		いこう⊕	憩う	
警	6	ケイ	警告　警戒　警察	
鶏（鷄）		ケイ	鶏卵　鶏舎　養鶏	
		にわとり	鶏	
芸（藝）	4	ゲイ	芸術　芸能　文芸	
迎		ゲイ	迎合　歓迎　送迎	
		むかえる	迎える　出迎え	
鯨		ゲイ	鯨油　捕鯨	
		くじら	鯨	
劇	6	ゲキ	劇薬　劇場　演劇	
撃（擊）		ゲキ	撃退　攻撃　打撃	
		うつ	撃つ　早撃ち	打つ↕討つ
激	6	ゲキ	激動　感激　激する	
		はげしい	激しい　激しさ	
欠（缺）	4	ケツ	欠乏　欠席　補欠	
		かける	欠ける	
		かく	欠く	
穴	6	ケツ	穴居　墓穴	
		あな	穴	
血	3	ケツ	血液　血統　鮮血	
		ち	血　鼻血	
決	3	ケツ	決裂　決意　解決	
		きめる	決める　取り決め	
		きまる	決まる　決まり	

漢字	学年	音訓	例	備考
結	4	ケツ	結論　結婚　連結	
		むすぶ	結ぶ　結び	
		ゆう	結う　元結	
		ゆわえる	結わえる	
傑		ケツ	傑物　傑作　豪傑	
潔	5	ケツ	潔白　清潔　純潔	
		いさぎよい	潔い	
月	1	ゲツ	月曜　明月　歳月	五月晴れ　五月雨
		ガツ	正月　九月	
		つき	月　月見　三日月	
犬	1	ケン	犬歯　愛犬　野犬	
		いぬ	犬	
件	5	ケン	件数　事件　条件	
見	1	ケン	見学　見地　意見	
		みる	見る　下見	↕診る
		みえる	見える	
		みせる	見せる　顔見せ	
券	5	ケン	乗車券　旅券　債券	
肩		ケン	肩章　双肩　比肩	
		かた	肩	
建	4	ケン	建築　建議　封建的	
		コン	建立	
		たてる	建てる　建物　二階建て	↕立てる
		たつ	建つ　一戸建ち	↕立つ
研（硏）	3	ケン	研究　研修	
		とぐ	研ぐ	
県（縣）	3	ケン	県庁　県立　〇〇県	
倹（儉）		ケン	倹約　節倹　勤倹	
兼		ケン	兼用　兼任　兼職	
		かねる	兼ねる	
剣（劍）		ケン	剣道　剣舞　刀剣	
		つるぎ	剣	
軒		ケン	軒数　一軒	
		のき	軒　軒先	
健	4	ケン	健康　健闘　強健	
		すこやか	健やかだ	
険（險）	5	ケン	険悪　危険　保険	
		けわしい	険しい　険しさ	
圏（圈）		ケン	圏内　圏外　成層圏	
堅		ケン	堅固　堅実　中堅	
		かたい	堅い	↕硬い　固い
検（檢）	5	ケン	検査　検討　点検	
嫌 ⊕		ケン	嫌悪　嫌疑	
		ゲン	機嫌	
		きらう	嫌う　嫌い	
		いや	嫌だ　嫌がる　嫌気がさす	
献（獻）		ケン	献上　献身的　文献	

漢字	学年	音訓	例	備考
		コン	献立　一献	
絹	6	ケン	絹布　人絹	
		きぬ	絹　薄絹	
遣		ケン	遣外　派遣　分遣	
		つかう	遣う　金遣い	↕使う
		つかわす	遣わす	
権（權）	6	ケン	権利　権威　人権	
		ゴン	権化　権現	
憲	6	ケン	憲法　憲章　官憲	
賢		ケン	賢人　賢明　先賢	
		かしこい	賢い	
謙		ケン	謙虚　謙譲	
繭		ケン	繭糸	
		まゆ	繭　繭玉	
顕（顯）		ケン	顕著　顕彰　顕微鏡	
験（驗）	4	ケン	試験　経験　実験	
		ゲン	験がある　霊験	
懸		ケン	懸垂　懸賞　懸命	
		ケ	懸念　懸想	
		かける	懸ける　命懸け	↕掛ける　架ける
		かかる	懸かる	↕掛かる　架かる
元	2	ゲン	元素　元気　多元	
		ガン	元祖　元日　元来	

漢字	学年	音訓	例	備考
		もと	元　元帳　家元	↕下　本　基
幻		ゲン	幻滅　幻覚　夢幻	
		まぼろし	幻	
玄		ゲン	玄米　玄関　幽玄	玄人
言	2	ゲン	言行　言論　宣言	
		ゴン	言上　伝言　無言	
		いう	言う　物言い	
		こと	言葉　寝言	
弦		ゲン	上弦　正弦	
		つる	弦	
限	5	ゲン	限度　制限　期限	
		かぎる	限る　限り	
原	2	ゲン	原因　原理　高原	
		はら	原　野原　松原	海原　河原・川原
現	5	ゲン	現象　現在　表現	
		あらわれる	現れる　現れ	↕表れる
		あらわす	現す	↕表す　著す
減	5	ゲン	減少　増減　加減	
		へる	減る　目減り	
		へらす	減らす　人減らし	
源	6	ゲン	源泉　水源　資源	
		みなもと	源	
厳（嚴）	6	ゲン	厳格　厳重　威厳	

漢字	学年	音訓	例	備考
		ゴン	荘厳	
		おごそか	厳かだ	
		きびしい	厳しい　厳しさ	
コ				
己	6	コ	自己　利己	
		キ	知己　克己	
		おのれ	己	
戸	2	コ	戸外　戸籍　下戸	
		と	戸　雨戸	
古	2	コ	古代　古典　太古	
		ふるい	古い　古株　古びる	
		ふるす	使い古す	
呼	6	コ	呼吸　呼応　点呼	
		よぶ	呼ぶ　呼び声	
固	4	コ	固定　固有　堅固	
		かためる	固める　固め	
		かたまる	固まる　固まり	
		かたい	固い　固さ	↕堅い　硬い
孤		コ	孤児　孤独　孤立	
弧		コ	弧状　括弧　円弧	
故	5	コ	故郷　故意　事故	
		ゆえ	故　故に	
枯		コ	枯死　枯淡　栄枯	
		かれる	枯れる　枯れ木	
		からす	枯らす　木枯らし	
個	5	コ	個人　個性　一個	
庫	3	コ	倉庫　文庫　車庫	
		ク	庫裏	
湖	3	コ	湖水　湖沼　湖畔	
		みずうみ	湖	
雇		コ	雇用　雇員　解雇	
		やとう	雇う　日雇い	
誇		コ	誇示　誇大　誇張	
		ほこる	誇る　誇り　誇らしい	
鼓		コ	鼓動　鼓舞　太鼓	
		つづみ	鼓　小鼓	
顧		コ	顧慮　顧問　回顧	
		かえりみる	顧みる	↕省みる
ゴ				
五	1	ゴ	五穀　五色　五目飯	五月晴れ　五月雨
		いつ	五日	
		いつつ	五つ	
互		ゴ	互角　互選　相互	
		たがい	互い　互いに　互い違い	
午	2	ゴ	午前　正午　子午線	
呉		ゴ	呉服　呉越同舟	
後	2	ゴ	前後　午後	
		コウ	後続　後悔　後輩	

漢字	音訓	例	備考
	のち	後　後添い　後の世	
	うしろ	後ろ　後ろめたい	
	あと	後　後味　後回し	↕跡
	おくれる	後れる　後れ毛　気後れ	↕遅れる
娯	ゴ	娯楽	
悟	ゴ	悟性　覚悟　悔悟	
	さとる	悟る　悟り	
碁	ゴ	碁石　碁盤　囲碁	
語 2	ゴ	語学　新語　国語	
	かたる	語る　物語	
	かたらう	語らう　語らい	
誤 6	ゴ	誤解　正誤　錯誤	
	あやまる	誤る　誤り	
護 5	ゴ	護衛　救護　保護	
口 1	コウ	口述　人口　開口	
	ク	口調　口伝　異口同音	
	くち	口　口絵　出口	
工 2	コウ	工場　加工　人工	
	ク	工面　細工　大工	
公 2	コウ	公平　公私　公園	
	おおやけ	公	
孔	コウ	鼻孔　気孔	
功 4	コウ	功名　功績　成功	
	ク	功徳	
巧	コウ	巧拙　巧妙　技巧	
	たくみ	巧みな術	
広（廣） 2	コウ	広大　広言　広義	
	ひろい	広い　広場　広々と	
	ひろまる	広まる	
	ひろめる	広める	
	ひろがる	広がる　広がり	
	ひろげる	広げる	
甲	コウ	甲乙　装甲車	
	カン	甲板　甲高い	「甲板」は、「コウハン」とも
交 2	コウ	交通　交番　社交	
	まじわる	交わる　交わり	
	まじえる	交える	
	まじる	交じる	↕混じる
	まざる	交ざる	↕混ざる
	まぜる	交ぜる　交ぜ織り	↕混ぜる
	かう	飛び交う	
	かわす	交わす	
光 2	コウ	光線　栄光　観光	
	ひかる	光る　光り輝く	
	ひかり	光　稲光	
向 3	コウ	向上　傾向　趣向	

漢字	学年	音訓	例	備考
		むく	向く　向き	
		むける	向ける　顔向け	
		むかう	向かう　向かい	
		むこう	向こう　向こう側	
后（コウ）	6	コウ	皇后　皇太后	
好	4	コウ	好意　好敵手　良好	
		このむ	好む　好み　好ましい	
		すく	好く　好き嫌い　好きな絵	
江		コウ	江湖	
		え	入り江	
考	2	コウ	考慮　思考　参考	
		かんがえる	考える　考え	
行	2	コウ	行進　行為　旅行	
		ギョウ	行列　行政　修行	
		アン	行脚　行火	
		いく	行く	
		ゆく	行く　行く末	↕逝く　行方
		おこなう	行う　行い	
坑		コウ	坑道　炭坑　廃坑	
孝	6	コウ	孝行　孝心　不孝	
抗		コウ	抗争　抗議　対抗	
攻		コウ	攻守　攻撃　専攻	
		せめる	攻める	
更		コウ	更新　更迭　変更	
		さら	更に　今更	
		ふける	更ける　夜更け	
		ふかす	更かす　夜更かし	
効（效）	5	コウ	効果　効力　時効	
		きく	効く　効き目	↕利く
幸	3	コウ	幸福　不幸　行幸	
		さいわい	幸い　幸いな事	
		さち	幸	
		しあわせ	幸せ　幸せな人	
拘		コウ	拘束　拘留　拘置	
肯		コウ	肯定　首肯	
侯		コウ	諸侯　王侯	
厚	5	コウ	厚情　厚生　濃厚	
		あつい	厚い　厚み	
恒（恆）		コウ	恒常　恒例　恒久	
洪 ⊕		コウ	洪水　洪積層	
皇	6	コウ	皇帝　皇室　皇后	「天皇」は、「テンノウ」
		オウ	法皇	
紅	6	コウ	紅白　紅茶　紅葉	紅葉（もみじ）
		ク	真紅　深紅	
		べに	紅　口紅	
		くれない	紅	

漢字	学年	音訓	例	備考
荒		コウ	荒天　荒廃　荒涼	
		あらい	荒い　荒波　荒々しい	↕粗い
		あれる	荒れる　荒れ地　大荒れ	
		あらす	荒らす　倉庫荒らし	
郊		コウ	郊外　近郊	
香		コウ	香水　香気　線香	
		キョウ	香車	
		か	香　色香　移り香	
		かおり	香り	↕薫り
		かおる⊕	香る	↕薫る
候	4	コウ	候補　気候　測候所	
		そうろう	候文　居候	
校	1	コウ	校閲　将校　学校	
耕	5	コウ	耕作　耕地　農耕	
		たがやす	耕す	
航	4	コウ	航海　航空　就航	
貢		コウ	貢献	
		ク	年貢	
		みつぐ	貢ぐ　貢ぎ物	
降	6	コウ	降雨　降参　下降	
		おりる	降りる　乗り降り	↕下りる
		おろす	降ろす	↕下ろす　卸す
		ふる	降る　大降り	
高	2	コウ	高低　高級　最高	
		たかい	高い　高台　高ぶる	
		たか	高　売上高	
		たかまる	高まる　高まり	
		たかめる	高める	
康	4	コウ	健康　小康	
控		コウ	控除　控訴	
		ひかえる	控える　控え	
黄（黃）	2	コウ	黄葉	
		オウ	黄金　卵黄	硫黄
		き	黄　黄色い　黄ばむ	
		こ	黄金	
慌		コウ	恐慌	
		あわてる	慌てる　大慌て	
		あわただしい	慌ただしい　慌ただしさ　慌ただしげだ	
港	3	コウ	港湾　漁港　出港	
		みなと	港	
硬		コウ	硬度　硬貨　生硬	
		かたい	硬い　硬さ	↕堅い　固い
絞		コウ	絞殺　絞首刑	
		しぼる	絞る　絞り上げる　絞り	↕搾る
		しめる	絞める	↕締める
		しまる	絞まる	↕締まる

漢字	学年	音訓	例	備考
項		コウ	項目 事項 条項	
溝 ⊕		コウ	下水溝 排水溝	
		みぞ	溝	
鉱（鑛）	5	コウ	鉱物 鉱山 鉄鉱	
構	5	コウ	構造 構内 結構	
		かまえる	構える 構え	
		かまう	構う 構わない	
綱		コウ	綱紀 綱領 大綱	
		つな	綱 横綱	
酵		コウ	酵母	
稿		コウ	草稿 原稿 投稿	
興	5	コウ	興行 復興 振興	
		キョウ	興味 興趣 余興	
		おこる	興る	↕起こる
		おこす	興す	↕起こす
衡		コウ	均衡 平衡 度量衡	
鋼	6	コウ	鋼鉄 鋼材 製鋼	
		はがね	鋼	
講	5	コウ	講義 講演 聴講	
購		コウ	購入 購買 購読	
号（號）	3	ゴウ	号令 号外 番号	
合	2	ゴウ	合同 合計 結合	
		ガッ	合併 合宿 合点	「合点」は、「ガテン」とも
		カッ	合戦	
		あう	合う 落ち合う 試合	↕会う 遭う
		あわす	合わす	
		あわせる	合わせる 問い合わせる	↕併せる
拷		ゴウ	拷問	
剛		ゴウ	剛健 金剛力	
豪		ゴウ	豪遊 豪雨 文豪	
克		コク	克服 克明 克己	
告	4	コク	告示 告白 報告	
		つげる	告げる	
谷	2	コク	幽谷	
		たに	谷 谷川	
刻	6	コク	彫刻 時刻 深刻	
		きざむ	刻む 刻み	
国（國）	2	コク	国際 国家 外国	
		くに	国 島国	
黒（黑）	2	コク	黒板 漆黒 暗黒	
		くろ	黒 真っ黒 白黒	
		くろい	黒い 黒さ 腹黒い	
穀（穀）	6	コク	穀物 雑穀 脱穀	
酷		コク	酷似 冷酷 残酷	
獄		ゴク	獄舎 地獄 疑獄	
骨	6	コツ	骨子 筋骨 老骨	

漢字	学年	音訓	例	備考
（骨）		ほね	骨 骨折り	
込		こむ	込む 人込み	
		こめる	込める やり込める	
今	2	コン	今後 今日 今朝 今年 昨今	今日（きょう） 今朝（けさ） 今年（ことし）
		キン	今上	
		いま	今 今し方	
困	6	コン	困難 困窮 貧困	
		こまる	困る	
昆 ⊕		コン	昆虫 昆布	「昆布」は、「コブ」とも
恨		コン	遺恨 痛恨 悔恨	
		うらむ	恨む 恨み	
		うらめしい	恨めしい	
根	3	コン	根拠 根気 平方根	
		ね	根 根強い 屋根	
婚		コン	婚約 結婚 新婚	
混	5	コン	混合 混雑 混迷	
		まじる	混じる 混じり物	↕交じる
		まざる	混ざる	↕交ざる
		まぜる	混ぜる 混ぜ物	↕交ぜる
紺		コン	紺青 紺屋 濃紺	「紺屋」は、「コウや」とも
魂		コン	魂胆 霊魂 商魂	
		たましい	魂 負けじ魂	
墾		コン	開墾	
懇		コン	懇切 懇親会	
		ねんごろ	懇ろだ	
左	1	サ	左右 左翼 左遷	
		ひだり	左 左利き	
佐		サ	佐幕 補佐 大佐	
査	5	サ	査察 調査 巡査	
砂	6	サ	砂丘 砂糖	砂利
		シャ	土砂	
		すな	砂 砂場	
唆		サ	教唆 示唆	
		そそのかす	唆す	
差	4	サ	差異 差別 誤差	差し支える
		さす	差す	↕刺す 指す 挿す
詐		サ	詐欺 詐取 詐称	
鎖		サ	鎖国 連鎖 封鎖	
		くさり	鎖	
座	6	ザ	座席 座談 星座	
		すわる	座る 座り込み	↕据わる
才	2	サイ	才能 才覚 秀才	
再	5	サイ	再度 再選 再出発	
		サ	再来年 再来月 再来週	
		ふたたび	再び	
災	5	サイ	災害 災難 火災	

漢字	学年	音訓	例	備考
		わざわい	災い	
妻（サイ）	5	サイ	妻子　夫妻　良妻	
		つま	妻　人妻	
砕（碎）		サイ	砕石　砕氷　粉砕	
		くだく	砕く	
		くだける	砕ける	
宰		サイ	宰領　宰相　主宰	
栽		サイ	栽培　盆栽	
彩		サイ	彩色　色彩　淡彩	
		いろどる	彩る　彩り	
採	5	サイ	採集　採用　採光	
		とる	採る	↕取る　執る　捕る
済（濟）	6	サイ	返済　救済　経済	
		すむ	済む　使用済み	
		すます	済ます	
祭	3	サイ	祭礼　文化祭	
		まつる	祭る　祭り上げる	
		まつり	祭り　秋祭り	
斎（齋）		サイ	斎場　潔斎　書斎	
細	2	サイ	細心　詳細　零細	
		ほそい	細い　細腕　心細い	
		ほそる	細る	
		こまか	細かだ	
		こまかい	細かい	
菜	4	サイ	菜園　菜食　野菜	
		な	菜　青菜	
最	4	サイ	最大　最近　最先端	最寄り
		もっとも	最も	
裁	6	サイ	裁縫　裁判　体裁	
		たつ	裁つ　裁ち物	↕断つ　絶つ
		さばく	裁く　裁き	
債		サイ	債務　負債　公債	
催		サイ	催眠　開催　主催	
		もよおす	催す　催し	
歳		サイ	歳末　歳月　二十歳	
		セイ	歳暮	二十歳（はたち）
載		サイ	積載　掲載　記載	
		のせる	載せる	↕乗せる
		のる	載る	↕乗る
際	5	サイ	際限　交際　この際	
		きわ	際　際立つ　窓際	
在（ザイ）	5	ザイ	在留　在宅　存在	
		ある	在る　在りし日	↕有る
材	4	ザイ	材木　材料　人材	
剤（劑）		ザイ	薬剤師　錠剤　消化剤	
財	5	ザイ	財産　私財　文化財	

漢字	学年	音訓	例	備考
		サイ	財布	
罪	5	ザイ	罪状 犯罪 謝罪	
		つみ	罪	
崎 ⊕		さき	○○崎	
作	2	サク	作為 著作 豊作	
		サ	作業 作用 動作	
		つくる	作る	↔造る
削		サク	削除 削減 添削	
		けずる	削る	
昨	4	サク	昨日 昨年 一昨日	昨日(きのう)
索		サク	索引 思索 鉄索	
策	6	サク	策略 政策 対策	
酢		サク	酢酸	
		す	酢 酢の物	
搾		サク	搾取 圧搾	
		しぼる	搾る	↔絞る
錯		サク	錯誤 錯覚 交錯	
咲		さく	咲く 遅咲き	
冊	6	サツ	冊子 別冊	
		サク	短冊	
札	4	サツ	札入れ 表札 入札	
		ふだ	札 名札	
刷	4	サツ	刷新 印刷 増刷	
		する	刷る	
殺(殺)	4	サツ	殺人 殺到 黙殺	
		サイ	相殺	
		セツ	殺生	
		ころす	殺す 殺し 見殺し	
察	4	サツ	察知 観察 考察	
撮		サツ	撮影	
		とる	撮る	
擦		サツ	擦過傷 摩擦	
		する	擦る 擦り傷	
		すれる	擦れる 靴擦れ	
雑(雜)	5	ザツ	雑談 雑音 混雑	雑魚
		ゾウ	雑炊 雑木林 雑兵	
皿 ⊕	3	さら	皿 灰皿	
三	1	サン	三角 三流 再三	三味線
		み	三日月 三日(みっか)	
		みつ	三つ指	
		みっつ	三つ	
山	1	サン	山脈 高山 登山	山車
		やま	山	築山
参(參)	4	サン	参加 参万円 降参	
		まいる	参る 寺参り	
桟(棧) ⊕		サン	桟 桟橋	桟敷
蚕(蠶)	6	サン	蚕糸 蚕食 養蚕	

漢字	音訓	例	備考
	かいこ	蚕	
惨（慘）	サン	惨劇 悲惨 陰惨	
	ザン	惨死 惨殺	
	みじめ	惨めだ	
産 4	サン	産業 生産 出産	土産
	うむ	産む 産み月	↕生む
	うまれる	産まれる	↕生まれる
	うぶ	産湯 産着 産毛	
傘 ⊕	サン	傘下 落下傘	
	かさ	傘 雨傘 日傘	
散 4	サン	散歩 散文 解散	
	ちる	散る 散り散りに	
	ちらす	散らす	
	ちらかす	散らかす	
	ちらかる	散らかる	
算 2	サン	算数 計算 予算	
酸 5	サン	酸味 酸素 辛酸	
	すい	酸い 酸っぱい	
賛（贊） 5	サン	賛成 賛同 称賛	
残（殘） 4	ザン	残留 残念 敗残	名残
	のこる	残る 残り	
	のこす	残す 食べ残し	
暫	ザン	暫時 暫定	

漢字	音訓	例	備考
士 4	シ	士官 武士 紳士	一言居士 博士
子 1	シ	子孫 女子 帽子	
	ス	金子 扇子 様子	迷子 息子
	こ	子 親子 年子	
支 5	シ	支持 支障 支店	
	ささえる	支える 支え	差し支える
止 2	シ	止宿 静止 中止	波止場
	とまる	止まる 行き止まり	↕留まる 泊まる
	とめる	止める 歯止め	↕留める 泊める
氏 4	シ	氏名 姓氏 某氏	
	うじ	氏 氏神	
仕 3	シ	仕事 出仕	
	ジ	給仕	
	つかえる	仕える	
史 4	シ	史学 歴史 国史	
司 4	シ	司会 司令 上司	
四 1	シ	四角 四季 四十七士	
	よ	四人 四日（よっか） 四月目	
	よつ	四つ角	
	よっつ	四つ	
	よん	四回 四階	
市 2	シ	市民 市況 都市	
	いち	市 競り市	

シ

漢字	学年	音訓	例	備考
矢	2	シ	一矢を報いる	
		や	矢　矢印　矢面	
旨		シ	要旨　趣旨　本旨	
		むね	旨	
死	3	シ	死亡　死角　必死	
		しぬ	死ぬ　死に絶える	
糸（絲）	1	シ	綿糸　蚕糸　製糸	
		いと	糸　糸目　毛糸	
至	6	シ	至当　夏至　冬至	
		いたる	至る　至って〔副〕	
伺		シ	伺候	
		うかがう	伺う　伺い	
志	5	シ	志望　有志　寸志	
		こころざす	志す	
		こころざし	志	
私	6	シ	私立　私腹　公私	
		わたくし	私　私する	
使	3	シ	使役　使者　駆使	
		つかう	使う　使い	↕遣う
刺		シ	刺激　名刺　風刺	
		さす	刺す　刺し殺す	↕差す　指す　挿す
		ささる	刺さる	
始	3	シ	始終　年始　開始	
		はじめる	始める　始め	↕初め　初めて
		はじまる	始まる　始まり	
姉	2	シ	姉妹　諸姉	
		あね	姉　姉上	姉さん
枝	5	シ	枝葉	
		えだ	枝	
祉（祉）		シ	福祉	
肢 ⊕		シ	肢体　下肢　選択肢	
姿	6	シ	姿勢　容姿　雄姿	
		すがた	姿	
思	2	シ	思想　意思　相思	
		おもう	思う　思い　思わしい	
指	3	シ	指示　指導　屈指	
		ゆび	指　指先	
		さす	指す　指図　名指し	↕差す　刺す　挿す
施		シ	施設　施政　実施	
		セ	施主　施療　布施	
		ほどこす	施す　施し	
師	5	シ	師匠　教師　医師	師走
紙	2	シ	紙面　用紙　新聞紙	
		かみ	紙　紙くず　厚紙	
脂		シ	脂肪　油脂　樹脂	
		あぶら	脂　脂ぎる	↕油

漢字	学年	音訓	例	備考
視（視）	6	シ	視覚　視力　注視	
紫		シ	紫紺　紫煙　紫外線	
		むらさき	紫　紫色	
詞	6	シ	歌詞　作詞　品詞	祝詞
歯（齒）	3	シ	歯科　乳歯　義歯	
		は	歯　入れ歯	
嗣		シ	嗣子　嫡嗣	
試	4	シ	試験　試作　追試	
		こころみる	試みる　試み	
		ためす	試す　試し	
詩	3	シ	詩情　詩人　詩歌	「詩歌」は、「シイカ」とも
資	5	シ	資本　資格　物資	
飼	5	シ	飼育　飼料	
		かう	飼う	
誌	6	シ	誌面　日誌　雑誌	
雌		シ	雌雄　雌伏	
		め	雌花　雌牛　雌しべ	
		めす	雌　雌犬	
賜		シ	賜暇　下賜　恩賜	
		たまわる	賜る	
諮		シ	諮問	
		はかる	諮る	
示	5	ジ	示威　示談　指示	
		シ	示唆	
		しめす	示す　示し	
字	1	ジ	字画　文字　活字	
		あざ	字　大字	
寺	2	ジ	寺院　社寺　末寺	
		てら	寺　尼寺	
次	3	ジ	次回　次元　目次	
		シ	次第	
		つぐ	次ぐ　次いで〔副〕	↕継ぐ
		つぎ	次　次に　次々と	
耳	1	ジ	耳鼻科　中耳炎	
		みみ	耳　早耳	
自	2	ジ	自分　自由　各自	
		シ	自然	
		みずから	自ら	
似	5	ジ	類似　酷似　疑似	
		にる	似る　似顔	
児（兒）	4	ジ	児童　幼児　優良児	稚児
		ニ	小児科	
事	3	ジ	事物　無事　師事	
		ズ	好事家	
		こと	事　仕事　出来事	
侍		ジ	侍従　侍女　侍医	

漢字	音訓	例	備考
	さむらい	侍	
治 4	ジ	政治　療治　自治	
	チ	治安　治水	
	おさめる	治める	↕修める
	おさまる	治まる	↕修まる
	なおる	治る	↕直る
	なおす	治す	↕直す
持 3	ジ	持参　持続　支持	
	もつ	持つ	
時 2	ジ	時間　時候　当時	時雨　時計
	とき	時　時めく　時々	
滋	ジ	滋味　滋養	
慈	ジ	慈愛　慈善　慈悲	
	いつくしむ	慈しむ　慈しみ	
辞（辭） 4	ジ	辞書　辞職　式辞	
	やめる	辞める	
磁 6	ジ	磁石　磁気　陶磁器	
璽	ジ	御璽　国璽	
式 3	シキ	式典　形式　数式	
識 5	シキ	識別　意識　知識	
軸	ジク	軸　車軸　地軸	
七 1	シチ	七五三　七福神	七夕
	なな	七月目	
	ななつ	七つ	
	なの	七日	「七日」は、「なぬか」とも
失 4	シツ	失望　失敗　消失	
	うしなう	失う	
室 2	シツ	室内　皇室　居室	
	むろ	室　室咲き	
疾	シツ	疾患　疾走　悪疾	
執	シツ	執務　執筆　確執	
	シュウ	執念　執心　我執	
	とる	執る	↕取る　採る
湿（濕）	シツ	湿度　湿地　多湿	
	しめる	湿る　湿り	
	しめす	湿す	
漆	シツ	漆器　漆黒　乾漆	
	うるし	漆	
質 5	シツ	質問　質実　本質	
	シチ	質屋　人質	
	チ	言質	
実（實） 3	ジツ	実力　充実　実に	
	み	実　実入り	
	みのる	実る　実り	
芝	しば	芝　芝居	芝生
写（寫） 3	シャ	写真　描写　映写	

漢字	学年	音訓	例	備考
		うつす	写す　写し	↕映す
		うつる	写る　写り	↕映る
社（社）	2	シャ	社会　会社　神社	
		やしろ	社	
車	1	シャ	車輪　車庫　電車	山車
		くるま	車　歯車	
舎	5	シャ	舎監　校舎　寄宿舎	田舎
者（者）	3	シャ	医者　前者　第三者	猛者
		もの	者　若者	
射	6	シャ	射撃　発射　日射病	
		いる	射る	
捨	6	シャ	捨象　取捨　喜捨	
		すてる	捨てる　捨て子	
赦		シャ	赦免　大赦　恩赦	
斜		シャ	斜面　斜線　傾斜	
		ななめ	斜め	
煮（煮）		シャ	煮沸	
		にる	煮る　雑煮	
		にえる	煮える　生煮え	
		にやす	業を煮やす	
遮 ⊕		シャ	遮断	
		さえぎる	遮る	
謝	5	シャ	謝絶　感謝　陳謝	
		あやまる	謝る　平謝り	
邪		ジャ	邪悪　邪推　正邪	風邪
蛇 ⊕		ジャ	蛇の目　蛇腹　大蛇	
		ダ	蛇行　蛇足　長蛇	
		へび	蛇	
勺		シャク		
尺	6	シャク	尺度　尺貫法	
借	4	シャク	借用　借金　貸借	
		かりる	借りる　借り	
酌 ⊕		シャク	酌量　晩酌	
		くむ	酌む　酌み交わす	
釈（釋）		シャク	釈明　釈放　解釈	
爵		シャク	爵位	
若	6	ジャク	若年　若干　自若	
		ニャク	老若	「老若」は、「ロウジャク」とも
		わかい	若い　若者　若々しい	若人
		もしくは	若しくは	
弱	2	ジャク	弱点　弱小　強弱	
		よわい	弱い　弱虫　足弱	
		よわる	弱る	
		よわまる	弱まる	
		よわめる	弱める	
寂		ジャク	寂滅　静寂　閑寂	
		セキ	寂然　寂として	「寂然」は、「ジャクネン」とも

漢字	学年	音訓	例	備考
（寂）		さび	寂	
		さびしい	寂しい 寂しがる	
		さびれる	寂れる	
手	1	シュ	手腕 挙手 選手	上手 下手 手伝う
		て	手 手柄 素手	
		た	手綱 手繰る	
主	3	シュ	主人 主権 施主	「法主（ホッス）」は、「ホウシュ、ホッシュ」とも
		ス	法主 坊主	
		ぬし	主 地主	
		おも	主な 人々	
守	3	シュ	守備 保守 攻守	
		ス	留守	
		まもる	守る 守り	
		もり	お守り 子守 灯台守	
朱		シュ	朱肉 朱筆 朱塗り	
取	3	シュ	取捨 取材 聴取	
		とる	取る	↕採る 執る 捕る
狩		シュ	狩猟	
		かる	狩る 狩り込み	
		かり	狩り ぶどう狩り	
首	2	シュ	首尾 首席 自首	
		くび	首 首飾り	
殊		シュ	殊勝 殊勲 特殊	

漢字	学年	音訓	例	備考
（殊）		こと	殊に 殊の外 殊更	
珠		シュ	珠玉 珠算 真珠	数珠
酒	3	シュ	酒宴 飲酒 洋酒	お神酒
		さけ	酒 酒好き 甘酒	
		さか	酒屋 酒場 酒盛り	
種	4	シュ	種類 人種 品種	
		たね	種 菜種 一粒種	
趣		シュ	趣向 趣味 興趣	
		おもむき	趣	
寿（壽）		ジュ	寿命 長寿 米寿	
		ことぶき	寿	
受	3	ジュ	受諾 受験 甘受	
		うける	受ける 受付	↕請ける
		うかる	受かる	
授	5	ジュ	授与 伝授 教授	
		さずける	授ける	
		さずかる	授かる	
需		ジュ	需要 需給 必需品	
儒		ジュ	儒学 儒教 儒者	
樹	6	ジュ	樹木 樹立 街路樹	
収（收）	6	シュウ	収穫 収入 回収	
		おさめる	収める	↕納める
		おさまる	収まる	↕納まる

漢字	学年	音訓	例	備考
囚		シュウ	囚人 死刑囚	
州	3	シュウ	州議会 六大州	
		す	州 中州 三角州	
舟		シュウ	舟運 舟艇 舟航	
		ふね	舟 小舟 渡し舟	↕船
		ふな	舟遊び 舟宿 舟歌	
秀		シュウ	秀逸 秀才 優秀	
		ひいでる	秀でる	
周	4	シュウ	周知 周囲 円周	
		まわり	周り	↕回り
宗	6	シュウ	宗教 宗派 改宗	
		ソウ	宗家 宗匠	
拾	3	シュウ	拾得 収拾	
		ジュウ	拾万円	
		ひろう	拾う 拾い物	
秋	2	シュウ	秋季 秋分 晩秋	
		あき	秋	
臭（臭）		シュウ	臭気 悪臭 俗臭	
		くさい	臭い 臭み 臭さ	
修	5	シュウ	修飾 修養 改修	
		シュ	修行	
		おさめる	修める	↕治める
		おさまる	修まる	↕治まる

漢字	学年	音訓	例	備考
終	3	シュウ	終了 終日 最終	
		おわる	終わる 終わり	
		おえる	終える	
習	3	シュウ	習得 習慣 練習	
		ならう	習う 手習い	↕倣う
週	2	シュウ	週刊 週末 毎週	
就	6	シュウ	就任 就寝 去就	
		ジュ	成就	
		つく	就く	↕着く 付く
		つける	就ける	↕着ける 付ける
衆	6	シュウ	衆寡 民衆 聴衆	
		シュ	衆生	
集	3	シュウ	集合 集結 全集	
		あつまる	集まる 集まり	
		あつめる	集める 人集め	
		つどう	集う 集い	
愁		シュウ	愁傷 哀愁 憂愁	
		うれえる⊕	愁える	↕憂える
		うれい	愁い	↕憂い
酬		シュウ	報酬 応酬	
醜		シュウ	醜悪 醜態 美醜	
		みにくい	醜い 醜さ	
襲		シュウ	襲撃 襲名 世襲	

漢字	学年	音訓	例	備考
		おそう	襲う	
十	1	ジュウ	十字架　十文字	十重二十重 二十・二十歳 二十日
		ジッ	十回	
		とお	十　十日	
		と	十色　十重	
汁 ⊕		ジュウ	果汁　墨汁	
		しる	汁　汁粉	
充		ジュウ	充実　充電　補充	
		あてる	充てる	↔当てる
住	3	ジュウ	住所　安住　衣食住	
		すむ	住む	
		すまう	住まう　住まい	
柔		ジュウ	柔軟　柔道　懐柔	
		ニュウ	柔和　柔弱	
		やわらか	柔らかだ	↔軟らか
		やわらかい	柔らかい	↔軟らかい
重	3	ジュウ	重量　重大　二重	
		チョウ	重畳　慎重　貴重	
		え	一重　八重桜	十重二十重
		おもい	重い　重たい	
		かさねる	重ねる　重ね着	
		かさなる	重なる	
従（從）	6	ジュウ	従事　従順　服従	
		ショウ	従容	
		ジュ	従○位	
		したがう	従う　従って〔接〕	
		したがえる	従える	
渋（澁）		ジュウ	渋滞　苦渋	
		しぶ	渋　渋紙	
		しぶい	渋い　渋さ　渋み	
		しぶる	渋る	
銃		ジュウ	銃砲　銃弾　小銃	
獣（獸）		ジュウ	獣類　猛獣　鳥獣	
		けもの	獣	
縦（縱）	6	ジュウ	縦横　縦断　操縦	
		たて	縦	
叔（シュク）		シュク	伯叔	叔父（おじ） 叔母（おば）
祝（祝）	4	シュク	祝賀　祝日　慶祝	祝詞
		シュウ	祝儀　祝言	
		いわう	祝う	
宿	3	シュク	宿泊　宿題　合宿	
		やど	宿　宿屋	
		やどる	宿る　雨宿り	
		やどす	宿す	
淑		シュク	淑女　貞淑　私淑	
粛（肅）		シュク	粛清　静粛　自粛	

漢字	音訓	例	備考
縮 6	シュク	縮小 縮図 短縮	
	ちぢむ	縮む 伸び縮み	
	ちぢまる	縮まる	
	ちぢめる	縮める	
	ちぢれる	縮れる 縮れ毛	
	ちぢらす	縮らす	
塾 ⊕	ジュク	塾 私塾	
熟 6	ジュク	熟練 熟慮 成熟	
	うれる	熟れる	
出 1	シュツ	出入 出現 提出	
	スイ	出納	
	でる	出る 出窓 遠出	
	だす	出す	
述 5	ジュツ	叙述 陳述 著述	
	のべる	述べる	
術 5	ジュツ	術策 技術 芸術	
俊	シュン	俊敏 俊秀 俊才	
春 2	シュン	春季 立春 青春	
	はる	春 春めく	
瞬	シュン	瞬間 瞬時 一瞬	
	またたく	瞬く 瞬き	
旬	ジュン	旬刊 上旬	
巡	ジュン	巡回 巡業 一巡	
	めぐる	巡る 巡り歩く	お巡りさん

漢字	音訓	例	備考
盾	ジュン	矛盾	
	たて	盾 後ろ盾	
准	ジュン	准将 批准	
殉	ジュン	殉死 殉職 殉難	
純 6	ジュン	純真 純粋 不純	
循	ジュン	循環 因循	
順 4	ジュン	順序 順調 従順	
準 5	ジュン	準備 基準 標準	
潤	ジュン	潤色 潤沢 湿潤	
	うるおう	潤う 潤い	
	うるおす	潤す	
	うるむ	潤む	
遵	ジュン	遵守 遵法	
処 6 (處)	ショ	処置 処罰 処女	
初 4	ショ	初期 初心者 最初	
	はじめ	初め	↕始め
	はじめて	初めて〔副〕	
	はつ	初の受賞 初雪 初耳	
	うい	初陣 初々しい	
	そめる	書き初め 出初め式	
所 3	ショ	所得 住所 近所	
	ところ	所 台所	

漢字	学年	音訓	例	備考
書	2	ショ	書画 書籍 読書	
		かく	書く	
庶		ショ	庶民 庶務	
暑（暑）	3	ショ	暑気 残暑 避暑	
		あつい	暑い 暑さ	↔熱い
署（署）	6	ショ	署名 署長 警察署	
緒（緒）		ショ	緒戦 由緒 端緒	
		チョ	情緒	「情緒」は、「ジョウショ」とも
		お	緒 鼻緒	
諸（諸）	6	ショ	諸君 諸国 諸般	
女	1	ジョ	女子 女流 少女	海女
		ニョ	女人 天女 善男善女	
		ニョウ	女房	
		おんな	女 女心 女らしい	
		め	女神 女々しい	乙女
如		ジョ	欠如 突如 躍如	
		ニョ	如実 如来 不如意	
助	3	ジョ	助力 助監督 救助	
		たすける	助ける 助け	
		たすかる	助かる 大助かり	
		すけ	助太刀	
序	5	ジョ	序幕 順序 秩序	
叙（敍）		ジョ	叙述 叙景 叙勲	

漢字	学年	音訓	例	備考
徐		ジョ	徐行 徐々に	
除	6	ジョ	除外 除数 解除	
		ジ	掃除	
		のぞく	除く	
小	1	ショウ	小心 大小 縮小	小豆
		ちいさい	小さい 小さな	
		こ	小型 小鳥 小切手	
		お	小川 小暗い	
升		ショウ		
		ます	升 升目	
少	2	ショウ	少年 多少 減少	
		すくない	少ない	
		すこし	少し	
召		ショウ	召喚 国会の召集	
		めす	召す 召し上がる	
匠		ショウ	師匠 巨匠 意匠	
床		ショウ	起床 病床 温床	
		とこ	床 床の間 寝床	
		ゆか	床 床下	
抄		ショウ	抄録 抄本 抄訳	
肖		ショウ	肖像 不肖	
尚⊕		ショウ	尚早 高尚	
招	5	ショウ	招待 招致 招請	

漢字	学年	音訓	例	備考
		まねく	招く 招き	
承	5	ショウ	承知 承諾 継承	
		うけたまわる	承る	
昇		ショウ	昇降 昇進 上昇	
		のぼる	昇る	↕上る 登る
松	4	ショウ	松竹梅 白砂青松	
		まつ	松 松原 門松	
沼		ショウ	沼沢 湖沼	
		ぬま	沼 沼地	
昭	3	ショウ		
宵 ⊕		ショウ	徹宵	
		よい	宵	
将（將）	6	ショウ	将来 将棋 大将	
消	3	ショウ	消滅 消極的 費消	
		きえる	消える 立ち消え	
		けす	消す 消しゴム	
症		ショウ	症状 炎症 重症	
祥（祥）		ショウ	発祥 吉祥 不祥事	
称（稱）		ショウ	称賛 名称 称する	
笑	4	ショウ	笑覧 微笑 談笑	
		わらう	笑う 大笑い	
		えむ	ほくそ笑む 笑み	笑顔
唱	4	ショウ	唱歌 合唱 提唱	
		となえる	唱える	
商	3	ショウ	商売 商業 貿易商	
		あきなう	商う 商い	
渉（涉）		ショウ	渉外 干渉 交渉	
章	3	ショウ	憲章 勲章 文章	
紹		ショウ	紹介	
訟		ショウ	訴訟	
勝	3	ショウ	勝敗 優勝 名勝	
		かつ	勝つ 勝ち 勝手	
		まさる	勝る 男勝り	
掌		ショウ	掌中 職掌 車掌	
晶		ショウ	結晶 水晶	
焼（燒）	4	ショウ	焼却 燃焼 全焼	
		やく	焼く 炭焼き	
		やける	焼ける 夕焼け	
焦		ショウ	焦土 焦慮 焦心	
		こげる	焦げる 黒焦げ	
		こがす	焦がす	
		こがれる	焦がれる	
		あせる	焦る 焦り	
硝		ショウ	硝石 硝酸	
粧		ショウ	化粧	
詔		ショウ	詔勅 詔書	

漢字	学年	音訓	例	備考
		みことのり	詔	
証（證）	5	ショウ	証拠　証明　免許証	
象	4	ショウ	象徴　対象　現象	
		ゾウ	象眼　巨象	
傷	6	ショウ	傷害　負傷　感傷	
		きず	傷　古傷　傷つく	
		いたむ	傷む	↔痛む　悼む
		いためる	傷める	↔痛める
奨（奬）		ショウ	奨励　奨学金　推奨	
照	4	ショウ	照明　照会　対照的	
		てる	照る　日照り	
		てらす	照らす	
		てれる	照れる	
詳		ショウ	詳細　詳報　未詳	
		くわしい	詳しい　詳しさ	
彰		ショウ	表彰　顕彰	
障	6	ショウ	障害　障子　故障	
		さわる	障る　差し障り	
衝		ショウ	衝突　衝動　折衝	
賞	4	ショウ	賞罰　賞与　懸賞	
償		ショウ	償金　弁償　代償	
		つぐなう	償う　償い	
礁		ショウ	岩礁　暗礁　さんご礁	

漢字	学年	音訓	例	備考
鐘		ショウ	半鐘　警鐘	
		かね	鐘	
上	1	ジョウ	上旬　上昇　地上	上手
		ショウ	上人　身上をつぶす	「身上」は、「シンショウ」と「シンジョウ」とで意味が違う
		うえ	上　身の上	
		うわ	上着　上積み	
		かみ	上　川上	
		あげる	上げる　売り上げ	↔挙げる　揚げる
		あがる	上がる　上がり	↔揚がる　挙がる
		のぼる	上る　上り	↔昇る　登る
		のぼせる	上せる	
		のぼす	上す	
丈		ジョウ	丈六　丈夫な体	
		たけ	丈　背丈	
冗		ジョウ	冗談　冗長　冗費	
条（條）	5	ジョウ	条理　条約　箇条	
状（狀）	5	ジョウ	状態　白状　免状	
乗（乘）	3	ジョウ	乗数　乗車　大乗的	
		のる	乗る　乗り物	↔載る
		のせる	乗せる	↔載せる
城	6	ジョウ	城内　城下町　落城	
		しろ	城　城跡	
浄（淨）		ジョウ	浄化　清浄　不浄	

漢字	学年	音訓	例	備考
剰（剩）		ジョウ	剰余　過剰　余剰	
常	5	ジョウ	常備　日常　非常	
		つね	常　常に　常々	
		とこ	常夏	
情	5	ジョウ	情報　情熱　人情	
		セイ	風情	
		なさけ	情け	
場	2	ジョウ	場内　会場　入場	
		ば	場　場所　広場	
畳（疊）		ジョウ	畳語　重畳	
		たたむ	畳む　折り畳み	
		たたみ	畳　畳表　青畳	
蒸	6	ジョウ	蒸気　蒸発	
		むす	蒸す　蒸し暑い	
		むれる	蒸れる	
		むらす	蒸らす	
縄（繩）⊕		ジョウ	縄文　自縄自縛	
		なわ	縄　縄張	
壌（壤）⊕		ジョウ	土壌	
嬢（孃）		ジョウ	令嬢　愛嬢　お嬢さん	
錠		ジョウ	錠前　錠剤　手錠	
譲（讓）		ジョウ	譲渡　譲歩　謙譲	
		ゆずる	譲る　親譲り	
醸（釀）		ジョウ	醸造　醸成	
		かもす	醸す　醸し出す	

漢字	学年	音訓	例	備考
色	2	ショク	原色　特色　物色	景色
		シキ	色彩　色調　色欲	
		いろ	色　桜色　色づく	
食	2	ショク	食事　食料　会食	
		ジキ	断食	
		くう	食う　食い物	
		くらう	食らう	
		たべる	食べる　食べ物	
植	3	ショク	植樹　植物　誤植	
		うえる	植える　植木	
		うわる	植わる	
殖		ショク	生殖　利殖　学殖	
		ふえる	殖える	↕増える
		ふやす	殖やす	↕増やす
飾		ショク	装飾　修飾　服飾	
		かざる	飾る　飾り	
触（觸）		ショク	触媒　触発　接触	
		ふれる	触れる	
		さわる	触る	
嘱（囑）		ショク	嘱託　委嘱	
織	5	ショク	織機　染織　紡織	
		シキ	組織	

漢字	学年	音訓	例	備考
		おる	織る　織物	
職	5	ショク	職業　職務　就職	
辱		ジョク	恥辱　雪辱　屈辱	
		はずかしめる	辱める　辱め	
心	2	シン	心身　感心　中心	
		こころ	心　心得る　親心	心地
申	3	シン	申告　申請　内申書	
		もうす	申す　申し上げる	
伸		シン	伸縮　屈伸　追伸	
		のびる	伸びる　背伸び	↕延びる
		のばす	伸ばす	↕延ばす
臣	4	シン	臣下　君臣	
		ジン	大臣	
身	3	シン	身体　単身　等身大	
		み	身　身内　親身	
辛		シン	辛苦　辛酸　香辛料	
		からい	辛い　辛み　辛うじて	
侵		シン	侵入　侵害　不可侵	
		おかす	侵す	↕犯す　冒す
信	4	シン	信用　信頼　通信	
津		シン	興味津々	
		つ	津波　津々浦々	
神（神）	3	シン	神聖　神経　精神	お神酒　神楽
		ジン	神社　神宮　神通力	
		かみ	神　神様　貧乏神	
		かん	神主	
		こう	神々しい	
唇 ⊕		シン	口唇	
		くちびる	唇	
娠		シン	妊娠	
振		シン	振動　振興　不振	
		ふる	振る　振り	
		ふるう	振るう	↕奮う　震う
浸		シン	浸水　浸透	
		ひたす	浸す　水浸し	
		ひたる	浸る	
真（眞）	3	シン	真偽　写真　純真	
		ま	真南　真新しい　真っ先　真ん中	真っ赤　真っ青
針	6	シン	針路　運針　秒針	
		はり	針　針金	
深	3	シン	深山　深夜　水深	
		ふかい	深い　深入り　深み	
		ふかまる	深まる	
		ふかめる	深める	
紳		シン	紳士	
進	3	シン	進級　進言　前進	

漢字	学年	音訓	例	備考
		すすむ	進む　進み	
		すすめる	進める	↕勧める 薦める
シン 森	1	シン	森林　森閑　森厳	
		もり	森	
診		シン	診察　診療　往診	
		みる	診る	↕見る
寝（寢）		シン	寝室　寝具　就寝	
		ねる	寝る　寝入る　昼寝	
		ねかす	寝かす	
慎（愼）		シン	慎重　謹慎	
		つつしむ	慎む　慎み	↕謹む
新	2	シン	新旧　新聞　革新	
		あたらしい	新しい　新しさ　新しがる	
		あらた	新ただ	
		にい	新妻　新盆	
審		シン	審判　審議　不審	
震		シン	震動　震災　地震	
		ふるう	震う　身震い	↕奮う 振るう
		ふるえる	震える　震え	
薪		シン	薪炭　薪水	
		たきぎ	薪	
親	2	シン	親族　親友　肉親	
		おや	親　親子　父親	
		したしい	親しい　親しさ	
		したしむ	親しむ	
ジン 人	1	ジン	人道　人員　成人	玄人 仲人 大人 二人 素人 若人 一人
		ニン	人間　人情　人形	
		ひと	人　人手　旅人	
刃		ジン	白刃　凶刃　自刃	
		は	刃　刃物　両刃	
仁	6	ジン	仁義　仁術	
		ニ	仁王	
尽（盡）		ジン	尽力　無尽蔵	
		つくす	尽くす　心尽くし	
		つきる	尽きる	
		つかす	愛想を尽かす	
迅		ジン	迅速　疾風迅雷	
甚 ⊕		ジン	甚大　激甚　幸甚	
		はなはだ	甚だ	
		はなはだしい	甚だしい	
陣		ジン	陣頭　陣痛　円陣	
尋		ジン	尋問　尋常　千尋	
		たずねる	尋ねる　尋ね人	↕訪ねる
ズ 図（圖）	2	ズ	図画　図表　地図	
		ト	図書　意図　壮図	
		はかる	図る	↕計る 測る 量る 謀る

漢字	学年	音訓	例	備考
水	1	スイ	水分 水陸 海水	清水
		みず	水 水色 水浴び	
吹		スイ	吹奏 吹鳴 鼓吹	息吹 吹雪 ↕噴く
		ふく	吹く	
垂	6	スイ	垂直 懸垂 胃下垂	
		たれる	垂れる 雨垂れ	
		たらす	垂らす	
炊		スイ	炊事 自炊 雑炊	
		たく	炊く 飯炊き	
帥		スイ	統帥 元帥	
粋(粹)		スイ	粋人 純粋 精粋	
衰		スイ	衰弱 盛衰 老衰	
		おとろえる	衰える 衰え	
推	6	スイ	推進 推薦	
		おす	推す	↕押す
酔(醉)		スイ	酔漢 麻酔 心酔	
		よう	酔う 酔い 二日酔い	
遂		スイ	遂行 未遂 完遂	
		とげる	遂げる	
睡		スイ	睡眠 熟睡 午睡	
穂(穗)		スイ	穂状 出穂期	
		ほ	穂 稲穂	
錘		スイ	紡錘	
		つむ	錘	
随(隨)		ズイ	随行 随意 追随	
髄(髓)		ズイ	骨髄 脳髄 真髄	
枢(樞)		スウ	枢軸 枢要 中枢	
崇		スウ	崇拝 崇高	
数(數)	2	スウ	数字 数量 年数	数珠 数寄屋・数奇屋 「人数」は、「ニンズウ」とも
		ス	人数	
		かず	数	
		かぞえる	数える 数え年	
据 ⊕		すえる	据える 据え置く	
		すわる	据わる 据わり	↕座る
杉 ⊕		すぎ	杉 杉並木	
寸	6	スン	寸法 寸暇 一寸先	
畝		せ		
		うね	畝 畝間 畝織	
瀬(瀨)		せ	瀬 浅瀬 立つ瀬	
是		ゼ	是非 是認 国是	
井		セイ・	油井 市井	
		ショウ	天井	
		い	井戸	
世	3	セイ	世紀 時世 処世	
		セ	世界 世間 出世	
		よ	世 世の中	

漢字	学年	音訓	例	備考
正	1	セイ	正義 正誤 訂正	
		ショウ	正直 正面 正月	
		ただしい	正しい 正しさ	
		ただす	正す	
		まさ	正に 正夢	
生	1	セイ	生活 発生 先生	芝生
		ショウ	生滅 一生 誕生	
		いきる	生きる 長生き	
		いかす	生かす	
		いける	生ける 生け捕り	
		うまれる	生まれる 生まれ	↕産まれる
		うむ	生む	↕産む
		おう	生い立ち 生い茂る	
		はえる	生える 芽生える	
		はやす	生やす	
		き	生糸 生地 生一本	
		なま	生の野菜 生水 生々しい	
成	4	セイ	成功 完成 賛成	
		ジョウ	成就 成仏	
		なる	成る 成り立つ	
		なす	成す 成し遂げる	
西	2	セイ	西暦 西部 北西	
		サイ	西国 東西	
		にし	西 西日	
声（聲）	2	セイ	声楽 声援 名声	
		ショウ	大音声	
		こえ	声 呼び声 歌声	
		こわ	声色	
制	5	セイ	制度 制限 統制	
姓		セイ	姓名 改姓 同姓	
		ショウ	百姓	
征		セイ	征服 遠征 出征	
性	5	セイ	性質 理性 男性	
		ショウ	性分 相性 根性	
青	1	セイ	青天 青銅 青年	
		ショウ	緑青 紺青 群青	
		あお	青 青ざめる	真っ青
		あおい	青い 青さ	
斉（齊）	⊕	セイ	斉唱 一斉	
政	5	セイ	政治 行政 家政	
		ショウ	摂政	
		まつりごと	政	
星	2	セイ	星座 流星 衛星	
		ショウ	明星	
		ほし	星 黒星	
牲		セイ	犠牲	

漢字	学年	音訓	例	備考
省	4	セイ	反省 内省 帰省	
		ショウ	省略 各省	
		かえりみる	省みる	↕顧みる
		はぶく	省く	
逝（+）		セイ	逝去 急逝 長逝	
		ゆく	逝く	↕行く
清	4	セイ	清潔 清算 粛清	清水
		ショウ	六根清浄	
		きよい	清い 清らかだ	
		きよまる	清まる	
		きよめる	清める	
盛	6	セイ	盛大 隆盛 全盛	
		ジョウ	繁盛	
		もる	盛る 盛り上がる	
		さかる	燃え盛る 盛り 花盛り	
		さかん	盛んだ 盛んに	
婿		セイ	女婿	
		むこ	婿 花婿	
晴	2	セイ	晴天 晴雨 快晴	
		はれる	晴れる 晴れ 晴れやかだ	
		はらす	晴らす 気晴らし	
勢	5	セイ	勢力 優勢 情勢	
		いきおい	勢い	
聖	6	セイ	聖書 聖人 神聖	
誠	6	セイ	誠実 誠意 至誠	
		まこと	誠 誠に	
精	5	セイ	精米 精密 精力	
		ショウ	精進 不精	
製	5	セイ	製造 製鉄 鉄製	
誓		セイ	誓約 誓詞 宣誓	
		ちかう	誓う 誓い	
静（靜）	4	セイ	静止 静穏 安静	
		ジョウ	静脈	
		しず	静々と 静けさ	
		しずか	静かだ	
		しずまる	静まる	↕鎮まる
		しずめる	静める	↕鎮める 沈める
請		セイ	請求 請願 申請	
		シン	普請	
		こう	請う	
		うける	請ける 請負 下請け	↕受ける
整	3	セイ	整理 整列 調整	
		ととのえる	整える	↕調える
		ととのう	整う	↕調う
税	5	ゼイ	税金 免税 関税	
夕	1	セキ	今夕 一朝一夕	七夕

漢字	学年	音訓	例	備考
		ゆう	夕方　夕日　夕べ	
斥		セキ	斥候　排斥	
石	1	セキ	石材　岩石　宝石	
		シャク	磁石	
		コク	石高　千石船	
		いし	石　小石	
赤	1	セキ	赤道　赤貧　発赤	
		シャク	赤銅	
		あか	赤　赤字　赤ん坊	真っ赤
		あかい	赤い	
		あからむ	赤らむ	
		あからめる	赤らめる	
昔	3	セキ	昔日　昔年　昔時	
		シャク	今昔	
		むかし	昔　昔話	
析		セキ	析出　分析　解析	
隻		セキ	隻手　数隻	
席	4	セキ	席上　座席　出席	寄席
惜		セキ	惜敗　痛惜　愛惜	
		おしい	惜しい	
		おしむ	惜しむ　負け惜しみ	
責	5	セキ	責務　責任　職責	
		せめる	責める　責め	
跡		セキ	追跡　旧跡　遺跡	
		あと	跡　足跡　屋敷跡	↕後
積	4	セキ	積雪　蓄積　面積	
		つむ	積む　下積み	
		つもる	積もる　見積書	
績	5	セキ	紡績　成績　業績	
籍		セキ	書籍　戸籍　本籍	
切	2	セツ	切断　親切　切に	
		サイ	一切	
		きる	切る	
		きれる	切れる	
折	4	セツ	折衷　折衝　屈折	
		おる	折る　折り紙　折り箱	
		おり	折　……する折	
		おれる	折れる　名折れ	
拙		セツ	拙劣　拙速　巧拙	
窃(竊)		セツ	窃盗　窃取	
接	5	セツ	接触　接待　直接	
		つぐ	接ぐ　接ぎ木　骨接ぎ	↕継ぐ
設	5	セツ	設立　設備　建設	
		もうける	設ける	
雪	2	セツ	雪辱　降雪　積雪	雪崩　吹雪
		ゆき	雪　雪解け　初雪	

漢字	学年	音訓	例	備考
摂(攝)		セツ	摂取 摂生	
節(節)	4	セツ	節約 季節 関節	
		セチ	お節料理	
		ふし	節 節穴	
説	4	セツ	説明 小説 演説	
		ゼイ	遊説	
		とく	説く	
舌	5	ゼツ	舌端 弁舌 筆舌	
		した	舌 猫舌 二枚舌	
絶	5	ゼツ	絶妙 絶食 断絶	
		たえる	絶える	
		たやす	絶やす	
		たつ	絶つ	↕ 裁つ 断つ
千	1	セン	千円 千人力 千差万別	
		ち	千草 千々に	
川	1	セン	川柳 河川	
		かわ	川 川岸 小川	川原 ↕ 河原
仙 ⊕		セン	仙骨 仙人 酒仙	
占		セン	占拠 占星術 独占	
		しめる	占める 買い占め	
		うらなう	占う 占い	
先	1	セン	先方 先生 率先	
		さき	先 先立つ	

漢字	学年	音訓	例	備考
宣	6	セン	宣言 宣誓 宣伝	
専(專)	6	セン	専門 専属 専用	
		もっぱら	専ら	
泉	6	セン	泉水 源泉 温泉	
		いずみ	泉	
浅(淺)	4	セン	浅薄 浅学 深浅	
		あさい	浅い 浅瀬 遠浅	
洗	6	セン	洗面 洗練 洗剤	
		あらう	洗う	
染	6	セン	染色 染料 汚染	
		そめる	染める 染め物	
		そまる	染まる	
		しみる	染みる 油染みる	
		しみ	染み 染み抜き	
扇		セン	扇子 扇風機 扇状地	
		おうぎ	扇 舞扇	
栓 ⊕		セン	栓 給水栓 消火栓	
旋		セン	旋回 旋律 周旋	
船	2	セン	船舶 乗船 汽船	
		ふね	船 大船 親船	↕ 舟
		ふな	船旅 船賃	
戦(戰)	4	セン	戦争 苦戦 論戦	
		いくさ	戦 勝ち戦	

漢字	学年	音訓	例	備考
		たたかう	戦う　戦い	↕闘う
践（踐）		セン	実践	
銭（錢）	5	セン	銭湯　金銭	
		ぜに	銭　銭入れ　小銭	
銑		セン	銑鉄	
潜（潛）		セン	潜水　潜在的　沈潜	
		ひそむ	潜む	
		もぐる	潜る　潜り込む	
線	2	セン	線路　点線　光線	
遷		セン	遷延　遷都　変遷	
選	4	セン	選択　選挙　当選	
		えらぶ	選ぶ	
薦		セン	推薦　自薦	
		すすめる	薦める	↕進める　勧める
繊（纖）		セン	繊細　繊維　化繊	
鮮		セン	鮮魚　鮮明　新鮮	
		あざやか	鮮やかだ	
全	3	ゼン	全部　全国　完全	
		まったく	全く　全うする	
前	2	ゼン	前後　以前　空前	
		まえ	前　前向き　名前	
善	6	ゼン	善悪　善処　慈善	
		よい	善い	↕良い
然	4	ゼン	当然　自然　必然	
		ネン	天然	
禅（禪）		ゼン	禅宗　禅寺　座禅	
漸		ゼン	漸次　漸進的　東漸	
繕		ゼン	修繕　営繕	
		つくろう	繕う　繕い	
阻		ソ	阻止　阻害　険阻	
		はばむ	阻む	
祖（祖）	5	ソ	祖父　祖述　元祖	
租		ソ	租税　公租公課	
素	5	ソ	素材　元素　平素	素人
		ス	素顔　素手　素性	
措		ソ	措置　措辞　挙措	
粗		ソ	粗密　粗野　精粗	
		あらい	粗い	↕荒い
組	2	ソ	組織　組成　改組	
		くむ	組む　組み込む	
		くみ	組　組長　赤組	
疎		ソ	疎密　疎外　親疎	
		うとい	疎い	
		うとむ	疎む　疎ましい	
訴		ソ	訴訟　告訴　哀訴	
		うったえる	訴える　訴え	

漢字	音訓	例	備考
塑	ソ	塑像　彫塑　可塑性	
礎	ソ	礎石　基礎　定礎	
	いしずえ	礎	
双（雙）	ソウ	双肩　双方　無双	
	ふた	双子　双葉	↕二
壮（壯）	ソウ	壮大　壮健　強壮	
早 1	ソウ	早期　早晩　早々に	早乙女　早苗
	サッ	早速　早急	
	はやい	早い　早口　素早い	↕速い
	はやまる	早まる	
	はやめる	早める	↕速める
争（爭） 4	ソウ	争議　競争　紛争	
	あらそう	争う　争い	
走 2	ソウ	走行　競走　滑走	
	はしる	走る　先走る	師走
奏 6	ソウ	奏楽　演奏　合奏	
	かなでる	奏でる	
相 3	ソウ	相当　相談　真相	相撲
	ショウ	首相　宰相	
	あい	相手　相宿	
荘（莊）	ソウ	荘厳　荘重　別荘	
草 1	ソウ	草案　雑草　牧草	草履
	くさ	草　草花　語り草	

漢字	音訓	例	備考
送 3	ソウ	送別　放送　運送	
	おくる	送る　見送り	↕贈る
倉 4	ソウ	倉庫　穀倉	
	くら	倉　倉敷料	↕蔵
捜（搜）	ソウ	捜索　捜査	
	さがす	捜す	↕探す
挿（插）⊕	ソウ	挿入　挿話	
	さす	挿す　挿絵　挿し木	↕差す　刺す　指す
桑	ソウ	桑園	
	くわ	桑　桑畑	
掃	ソウ	掃除　清掃　一掃	
	はく	掃く	
曹⊕	ソウ	法曹　法曹界　陸曹	
巣（巢） 4	ソウ	営巣　卵巣　病巣	
	す	巣　巣箱　巣立つ	
窓 6	ソウ	車窓　同窓　深窓	
	まど	窓　窓口　出窓	
創 6	ソウ	創造　独創　刀創	
喪	ソウ	喪失	
	も	喪　喪服　喪主	
葬	ソウ	葬儀　埋葬　会葬	
	ほうむる	葬る	
装（裝） 6	ソウ	装置　服装　変装	
	ショウ	装束　衣装	

漢字	学年	音訓	例	備考
		よそおう	装う 装い	
僧（僧）		ソウ	僧院 高僧 尼僧	
想	3	ソウ	想像 感想 予想	
		ソ	愛想	
層（層）	6	ソウ	層雲 高層 断層	
総（總）	5	ソウ	総合 総意 総括	
遭		ソウ	遭遇 遭難	
		あう	遭う	↕合う 会う
槽 (⊕)		ソウ	水槽 浴槽	
操	6	ソウ	操縦 操作 節操	
		みさお	操	
		あやつる	操る 操り人形	
燥		ソウ	乾燥 焦燥 高燥	
霜		ソウ	霜害 晩霜	
		しも	霜 霜柱 初霜	
騒（騷）		ソウ	騒動 騒音 物騒	
		さわぐ	騒ぐ 騒ぎ 騒がしい	
藻 (⊕)		ソウ	藻類 海藻 詞藻	
		も	藻	
造	5	ゾウ	造船 造花 構造	
		つくる	造る	↕作る
像	5	ゾウ	肖像 現像 想像	
増（增）	5	ゾウ	増減 増加 激増	
		ます	増す 水増し	
		ふえる	増える	↕殖える
		ふやす	増やす	↕殖やす
憎（憎）		ゾウ	憎悪 愛憎	
		にくむ	憎む	
		にくい	憎い 憎さ	
		にくらしい	憎らしい	
		にくしみ	憎しみ	
蔵（藏）	6	ゾウ	蔵書 貯蔵 土蔵	
		くら	蔵 酒蔵	↕倉
贈（贈）		ゾウ	贈与 贈呈 贈答	
		ソウ	寄贈	「寄贈」は、「キゾウ」とも
		おくる	贈る 贈り物	↕送る
臓（臟）	6	ゾウ	臓器 内臓 心臓	
即（卽）		ソク	即応 即席 即興	
束	4	ソク	束縛 結束 約束	
		たば	束 花束 束ねる	
足	1	ソク	足跡 遠足 補足	足袋
		あし	足 足音 素足	↕脚
		たりる	足りる	
		たる	舌足らず	
		たす	足す	
促		ソク	促進 促成 催促	

漢字	旧字体	学年	音訓	例	備考
			うながす	促す	
則		5	ソク	法則　鉄則　変則	
息		3	ソク	休息　消息　子息	
			いき	息　息巻く　吐息	息吹　息子
速		3	ソク	速度　敏速　時速	
			はやい	速い　速さ	↔早い
			はやめる	速める	↔早める
			すみやか	速やかだ	
側		4	ソク	側面　側近　側壁	
			かわ	側　裏側　片側	
測		5	ソク	測量　目測　推測	
			はかる	測る	↔計る　量る　図る
俗			ゾク	俗事　風俗　民俗	
族		3	ゾク	一族　家族　民族	
属	屬	5	ゾク	属性　従属　金属	
賊			ゾク	賊軍　盗賊	
続	續	4	ゾク	続出　続行　連続	
			つづく	続く　続き	
			つづける	続ける	
卒		4	ソツ	卒業　卒中　兵卒	
率		5	ソツ	率先　引率　軽率	
			リツ	比率　能率　百分率	
			ひきいる	率いる	

漢字	旧字体	学年	音訓	例	備考
存		6	ソン	存在　存続　既存	
			ゾン	存分　保存　存じます	
村		1	ソン	村長　村落　農村	
			むら	村　村里　村芝居	
孫		4	ソン	子孫　嫡孫	
			まご	孫	
尊		6	ソン	尊敬　尊大　本尊	
			たっとい	尊い	↔貴い
			とうとい	尊い	↔貴い
			たっとぶ	尊ぶ	↔貴ぶ
			とうとぶ	尊ぶ	↔貴ぶ
損		5	ソン	損失　欠損　破損	
			そこなう	損なう　見損なう	
			そこねる	損ねる	
他		3	タ	他国　自他　排他的	
多		2	タ	多少　多数　雑多	
			おおい	多い	
打		3	ダ	打撃　打破　乱打	
			うつ	打つ	↔討つ　撃つ
妥			ダ	妥当　妥結　妥協	
堕	墮		ダ	堕落	
惰			ダ	惰眠　惰気　怠惰	
駄 ⊕			ダ	駄菓子　駄作　無駄	

漢字	学年	音訓	例	備考
太	2	タイ	太陽　太鼓　皇太子	太刀
		タ	丸太	
		ふとい	太い	
		ふとる	太る	
対（對）	3	タイ	対立　絶対　反対	
		ツイ	対句　一対	
体（體）	2	タイ	体格　人体　主体	
		テイ	体裁　風体	
		からだ	体　体つき	
耐		タイ	耐久　耐火　忍耐	
		たえる	耐える	↕堪える
待	3	タイ	待機　待遇　期待	
		まつ	待つ　待ち遠しい	
怠		タイ	怠惰　怠慢	
		おこたる	怠る	
		なまける	怠ける　怠け者	
胎		タイ	胎児　受胎　母胎	
退	5	タイ	退却　退屈　進退	立ち退く
		しりぞく	退く	
		しりぞける	退ける	
帯（帶）	4	タイ	携帯　地帯　連帯	
		おびる	帯びる	
		おび	帯　角帯	

漢字	学年	音訓	例	備考
泰		タイ	泰然　泰斗　安泰	
袋		タイ	風袋　郵袋	足袋
		ふくろ	袋　紙袋	
逮		タイ	逮捕　逮夜	
替		タイ	代替	為替
		かえる	替える　両替	↕換える　代える　変える
		かわる	替わる	↕換わる　代わる　変わる
貸	5	タイ	貸借　貸与　賃貸	
		かす	貸す　貸し	
隊	4	タイ	隊列　軍隊　部隊	
滞（滯）		タイ	滞在　滞貨　沈滞	
		とどこおる	滞る	
態	5	タイ	態勢　形態　容態	
大	1	ダイ	大小　大胆　拡大	大人
		タイ	大衆　大した　大して	大和絵、大和魂等
		おお	大型　大通り　大水	
		おおきい	大きい　大きさ　大きな	
		おおいに	大いに	
代	3	ダイ	代理　世代　現代	
		タイ	代謝　交代	
		かわる	代わる　代わり	↕換わる　替わる　変わる
		かえる	代える	↕換える　替える　変える
		よ	代　神代	

漢字	旧字体	学年	音訓	例	備考
			しろ	代物 苗代	
台	（臺）	2	ダイ	台地 灯台 一台	
			タイ	台風 舞台	
第		3	ダイ	第一 第三者 及第	
題		3	ダイ	題名 問題 出題	
滝	（瀧）		たき	滝 滝つぼ	
宅		6	タク	宅地 自宅 帰宅	
択	（擇）		タク	選択 採択 二者択一	
沢	（澤）		タク	光沢 潤沢	
			さわ	沢	
卓			タク	卓越 卓球 食卓	
拓			タク	拓本 開拓	
託			タク	託宣 委託 結託	
濯 ⊕			タク	洗濯	
諾			ダク	諾否 承諾 快諾	
濁			ダク	濁流 濁音 清濁	
			にごる	濁る 濁り	
			にごす	濁す	
但			ただし	但し 但し書き	
達		4	タツ	達人 調達 伝達	友達
脱			ダツ	脱衣 脱出 虚脱	
			ぬぐ	脱ぐ	
			ぬげる	脱げる	
奪			ダツ	奪回 奪取 争奪	
			うばう	奪う 奪い取る	
棚 ⊕			たな	棚 戸棚 大陸棚	
丹			タン	丹念 丹精	
担	（擔）	6	タン	担当 担架 負担	
			かつぐ	担ぐ	
			になう	担う	
単	（單）	4	タン	単独 単位 簡単	
炭		3	タン	炭鉱 木炭 石炭	
			すみ	炭 炭火 消し炭	
胆	（膽）		タン	大胆 落胆 魂胆	
探		6	タン	探求 探訪 探知	
			さぐる	探る 探り	
			さがす	探す	↕捜す
淡			タン	淡水 濃淡 冷淡	
			あわい	淡い 淡雪	
短		3	タン	短歌 短所 長短	
			みじかい	短い	
嘆	（嘆）		タン	嘆息 嘆願 驚嘆	
			なげく	嘆く 嘆き	
			なげかわしい	嘆かわしい	
端			タン	端正 末端 極端	
			はし	端 片端	
			は	端数 半端 軒端	

漢字	学年	音訓	例	備考
		はた	端　川端　道端	
誕	6	タン	誕生　生誕	
鍛		タン	鍛錬	
		きたえる	鍛える　鍛え方	
団(團)	5	ダン	団結　団地　集団	
		トン	布団	
男	1	ダン	男子　男女　男性	
		ナン	長男　美男　善男善女	
		おとこ	男　男らしい	
段	6	ダン	段落　階段　手段	
断(斷)	5	ダン	断絶　断定　判断	
		たつ	断つ　塩断ち	↕裁つ　絶つ
		ことわる	断る　断り	
弾(彈)		ダン	弾力　弾圧　爆弾	
		ひく	弾く　弾き手	↕引く
		はずむ	弾む　弾み	
		たま	弾	↕玉　球
暖	6	ダン	暖流　暖房　温暖	
		あたたか	暖かだ	↕温か
		あたたかい	暖かい	↕温かい
		あたたまる	暖まる	↕温まる
		あたためる	暖める	↕温める
談	3	ダン	談話　談判　相談	
壇		ダン	壇上　花壇　文壇	
		タン	土壇場	
地	2	チ	地下　天地　境地	心地
		ジ	地面　地震　地元	意気地
池	2	チ	貯水池　電池	
		いけ	池　古池	
知	2	チ	知識　知人　通知	
		しる	知る　物知り	
値	6	チ	価値　数値　絶対値	
		ね	値　値段	
		あたい	値　値する	↕価
恥		チ	恥辱　無恥　破廉恥	
		はじる	恥じる　恥じ入る	
		はじ	恥　生き恥	
		はじらう	恥じらう　恥じらい	
		はずかしい	恥ずかしい	
致		チ	誘致　合致　風致	
		いたす	致す	
遅(遲)		チ	遅延　遅刻　遅速	
		おくれる	遅れる　遅れ	↕後れる
		おくらす	遅らす	
		おそい	遅い　遅咲き	
痴(癡)		チ	痴情　愚痴	

漢字	学年	音訓	例	備考
稚		チ	稚魚　稚拙　幼稚	稚児
置	4	チ	位置　放置　処置	
		おく	置く	
竹	1	チク	竹林　竹馬の友　爆竹	竹刀
		たけ	竹　竹やぶ　さお竹	
畜		チク	畜産　牧畜　家畜	
逐		チク	逐次　逐一　駆逐	
蓄		チク	蓄積　蓄電池　貯蓄	
		たくわえる	蓄える　蓄え	
築	5	チク	築港　建築　改築	築山
		きずく	築く　築き上げる	
秩		チツ	秩序	
窒		チツ	窒息　窒素	
茶	2	チャ	茶色　茶番劇　番茶	
		サ	茶菓　茶話会　喫茶	
着	3	チャク	着用　着手　土着	
		ジャク	愛着　執着	「愛着」，「執着」は，「アイチャク」，「シュウチャク」とも
		きる	着る　着物　晴れ着	
		きせる	着せる　お仕着せ	
		つく	着く　船着き場	↕付く　就く
		つける	着ける	↕付ける　就ける
嫡		チャク	嫡子　嫡流	
中	1	チュウ	中央　中毒　胸中	
		なか	中　中庭　真ん中	↕仲
仲	4	チュウ	仲介　仲裁　伯仲	仲人
		なか	仲　仲間	↕中
虫（蟲）	1	チュウ	虫類　幼虫　害虫	
		むし	虫　毛虫	
沖		チュウ	沖積層　沖天　沖する	
		おき	沖	
宙	6	チュウ	宙返り　宇宙	
忠	6	チュウ	忠実　忠勤　誠忠	
抽		チュウ	抽出　抽象	
注	3	チュウ	注入　注意　発注	
		そそぐ	注ぐ	
昼（晝）	2	チュウ	昼夜　昼食　白昼	
		ひる	昼　昼寝　真昼	
柱	3	チュウ	支柱　円柱　電柱	
		はしら	柱　帆柱　大黒柱	
衷		チュウ	衷心　折衷　苦衷	
鋳（鑄）		チュウ	鋳造　鋳鉄　改鋳	
		いる	鋳る　鋳物　鋳型	
駐		チュウ	駐車　駐在　進駐	
著（著）	6	チョ	著名　著作　顕著	
		あらわす	著す	↕表す　現す
		いちじるしい	著しい　著しさ	

漢字	学年	音訓	例	備考
貯	4	チョ	貯蓄　貯金　貯水池	
丁	3	チョウ	丁数　落丁　二丁目	
		テイ	丁字路　甲乙丙丁	
弔		チョウ	弔問　弔辞　慶弔	
		とむらう	弔う　弔い	
庁（廳）	6	チョウ	庁舎　官庁　県庁	
兆	4	チョウ	兆候　前兆　億兆	
		きざす	兆す	
		きざし	兆し	
町	1	チョウ	町会　市町村	
		まち	町　町外れ	↕街
長	2	チョウ	長女　長所　成長	
		ながい	長い　長さ	↕永い
挑 ⊕		チョウ	挑戦　挑発	
		いどむ	挑む	
帳	3	チョウ	帳面　帳簿　通帳	蚊帳
張	5	チョウ	張力　拡張　主張	
		はる	張る　欲張る　引っ張る	
彫		チョウ	彫刻　彫塑　木彫	
		ほる	彫る　木彫り	
眺 ⊕		チョウ	眺望	
		ながめる	眺める　眺め	
釣 ⊕		チョウ	釣果　釣魚　釣艇	
		つる	釣る　釣り　釣り合い	

漢字	学年	音訓	例	備考
頂	6	チョウ	頂上　頂点　絶頂	
		いただく	頂く　頂き物	
		いただき	頂	「山頂」の意
鳥	2	チョウ	鳥類　野鳥　一石二鳥	
		とり	鳥　鳥居　小鳥	
朝	2	チョウ	朝食　早朝　今朝	今朝（けさ）
		あさ	朝　朝日　毎朝	
脹		チョウ	膨脹	
超		チョウ	超越　超過　入超	
		こえる	超える	↕越える
		こす	超す	↕越す
腸	4	チョウ	腸炎　大腸　胃腸	
跳		チョウ	跳躍	
		はねる	跳ねる	
		とぶ	跳ぶ　縄跳び	↕飛ぶ
徴（徵）		チョウ	徴収　特徴　象徴	
潮	6	チョウ	潮流　満潮　風潮	
		しお	潮　潮風	
澄		チョウ	清澄	
		すむ	澄む　上澄み	
		すます	澄ます　澄まし顔	
調	3	チョウ	調和　調査　好調	
		しらべる	調べる　調べ	

漢字	音訓	例	備考
（調）	ととのう	調う	↕整う
	ととのえる	調える	↕整える
聴（聽）	チョウ	聴覚　聴衆　傍聴	
	きく	聴く	↕聞く
懲（懲）	チョウ	懲罰　懲戒　懲役	
	こりる	懲りる　性懲りもなく	
	こらす	懲らす	
	こらしめる	懲らしめる	
直　2	チョク	直立　直接　実直	
	ジキ	直訴　直筆　正直	
	ただちに	直ちに	
	なおす	直す　手直し	↕治す
	なおる	直る　仲直り	↕治る
勅（敕）	チョク	勅語　勅使　詔勅	
沈	チン	沈滞　沈黙　浮沈	
	しずむ	沈む　浮き沈み	
	しずめる	沈める	↕静める　鎮める
珍	チン	珍客　珍重　珍妙	
	めずらしい	珍しい　珍しさ　珍しがる	
朕	チン		
陳	チン	陳列　陳謝　開陳	
賃　6	チン	賃金　賃上げ　運賃	
鎮（鎭）	チン	鎮座　鎮静　重鎮	
	しずめる	鎮める	↕静める　沈める
	しずまる	鎮まる	↕静まる
追　3	ツイ	追跡　追放　訴追	
	おう	追う	
墜	ツイ	墜落　墜死　撃墜	
通　2	ツウ	通行　通読　普通	
	ツ	通夜	
	とおる	通る　通り	
	とおす	通す　通し	
	かよう	通う　通い	
痛　6	ツウ	痛快　苦痛　心痛	
	いたい	痛い　痛さ	
	いたむ	痛む　痛み　痛ましい	↕傷む　悼む
	いためる	痛める	↕傷める
塚（塚）⊕	つか	塚　貝塚	
漬⊕	つける	漬ける　漬物	
	つかる	漬かる	
坪	つぼ	坪数　建坪	
低　4	テイ	低級　低気圧　高低	
	ひくい	低い　低さ	
	ひくめる	低める	
	ひくまる	低まる	
呈	テイ	呈上　進呈　贈呈	

漢字	学年	音訓	例	備考
廷		テイ	宮廷　法廷　出廷	
弟	2	テイ	弟妹　義弟　子弟	
		ダイ	兄弟	
		デ	弟子	
		おとうと	弟	
定	3	テイ	定価　安定　決定	
		ジョウ	定石　定紋　必定	
		さだめる	定める　定め	
		さだまる	定まる	
		さだか	定かだ	
底	4	テイ	底流　海底　到底	
		そこ	底　奥底	
抵		テイ	抵抗　抵触　大抵	
邸		テイ	邸宅　邸内　私邸	
亭 ⊕		テイ	亭主　料亭	
貞		テイ	貞淑　貞操　貞節	
帝		テイ	帝王　帝国　皇帝	
訂		テイ	訂正　改訂	
庭	3	テイ	庭園　校庭　家庭	
		にわ	庭　庭先	
逓（遞）		テイ	逓信　逓送　逓減	
停	4	テイ	停止　停車　調停	
偵 ⊕		テイ	偵察　探偵　内偵	
堤		テイ	堤防　防波堤	
		つつみ	堤	
提	5	テイ	提供　提案　前提	
		さげる	提げる　手提げ	↕下げる
程	5	テイ	程度　日程　過程	
		ほど	程　程遠い　身の程	
艇		テイ	艦艇　舟艇　競艇	
締		テイ	締結	
		しまる	締まる　締まり	↕閉まる　絞まる
		しめる	締める　締め切る　引き締め	↕閉める　絞める
泥（デイ） ⊕		デイ	泥土　雲泥　拘泥	
		どろ	泥　泥沼　泥棒	
的（テキ）	4	テキ	的中　目的　科学的	
		まと	的　的外れ	
笛	3	テキ	汽笛　警笛　牧笛	
		ふえ	笛　口笛	
摘		テキ	摘要　摘発　指摘	
		つむ	摘む　摘み草	
滴		テキ	水滴　点滴　一滴	
		しずく	滴	
		したたる	滴る　滴り	
適	5	テキ	適切　適度　快適	
敵	5	テキ	敵　敵意　匹敵	
		かたき	敵　敵役　商売敵	

漢字	学年	音訓	例	備考
迭		テツ	更迭	
哲		テツ	哲学 哲人 先哲	
鉄（鐵）	3	テツ	鉄道 鉄筋 鋼鉄	
徹		テツ	徹底 徹夜 貫徹	
撤		テツ	撤去 撤回 撤兵	
天	1	テン	天地 天然 雨天	
		あめ	天	
		あま	天の川 天下り	
典	4	テン	典拠 古典 式典	
店	2	テン	店舗 開店 本店	
		みせ	店 夜店	
点（點）	2	テン	点線 点火 採点	
展	6	テン	展示 展開 発展	
添		テン	添加 添付 添削	
		そえる	添える 添え手紙	
		そう	添う 付き添う	↔沿う
転（轉）	3	テン	転出 回転 運転	
		ころがる	転がる	
		ころげる	転げる	
		ころがす	転がす	
		ころぶ	転ぶ	
田	1	デン	田地 水田 油田	田舎
		た	田 田植え	

漢字	学年	音訓	例	備考
伝（傳）	4	デン	伝言 伝統 宣伝	伝馬船
		つたわる	伝わる	
		つたえる	伝える 言い伝え	
		つたう	伝う	手伝う
殿		デン	殿堂 宮殿 貴殿	
		テン	御殿	
		との	殿様 殿方	
		どの	○○殿	
電	2	デン	電気 電報 発電	
斗		ト	斗酒 北斗七星	
吐		ト	吐露 吐血 音吐朗々	
		はく	吐く 吐き気	
徒	4	ト	徒歩 徒労 信徒	
途		ト	途上 帰途 前途	
都（都）	3	ト	都会 都心 首都	
		ツ	都合 都度	
		みやこ	都 都落ち	
渡		ト	渡航 渡河 譲渡	
		わたる	渡る 渡り	
		わたす	渡す 渡し	
塗		ト	塗布 塗装 塗料	
		ぬる	塗る 塗り	
土	1	ド	土木 国土 粘土	土産

漢字	音訓	例	備考
	ト	土地	
	つち	土 赤土	
奴	ド	奴隷 守銭奴	
努 4	ド	努力	
	つとめる	努める 努めて(副)	↔勤める 務める
度 3	ド	度胸 制度 限度	
	ト	法度	
	タク	支度	
	たび	度 度重なる この度	
怒	ド	怒号 怒気 激怒	
	いかる	怒る 怒り 怒り狂う	
	おこる	怒る	
刀 2	トウ	刀剣 短刀 名刀	太刀 竹刀
	かたな	刀	
冬 2	トウ	冬季 冬至 越冬	
	ふゆ	冬 冬枯れ	
灯(燈) 4	トウ	灯火 電灯 点灯	(三省堂注 当用漢字字体表の字体「燈」は「灯」と改められた)
	ひ	灯	↔火
当(當) 2	トウ	当惑 当然 妥当	
	あたる	当たる 当たり	
	あてる	当てる 当て	↔充てる
投 3	トウ	投資 投下 暴投	投網
	なげる	投げる 身投げ	

漢字	音訓	例	備考
豆 3	トウ	豆腐 納豆	小豆
	ズ	大豆	
	まめ	豆 豆粒 煮豆	
東 2	トウ	東西 東国 以東	
	ひがし	東 東側	
到	トウ	到着 到底 周到	
逃	トウ	逃走 逃亡 逃避	
	にげる	逃げる 夜逃げ	
	にがす	逃がす	
	のがす	逃す 見逃す	
	のがれる	逃れる 一時逃れ	
倒	トウ	倒産 圧倒 傾倒	
	たおれる	倒れる 共倒れ	
	たおす	倒す	
凍	トウ	凍結 凍死 冷凍	
	こおる	凍る 凍り付く	
	こごえる	凍える 凍え死に	
唐	トウ	唐本 唐突	
	から	唐織 唐草模様	
島 3	トウ	島民 半島 列島	
	しま	島 島国 離れ島	
桃	トウ	桃源境 白桃 桜桃	
	もも	桃 桃色	

漢字	学年	音訓	例	備考
討	6	トウ	討伐、討論、検討	
		うつ	討つ、敵討ち	↔打つ、撃つ
透		トウ	透写、透明、浸透	
		すく	透く、透き間	
		すかす	透かす、透かし	
		すける	透ける	
党（黨）	6	トウ	党派、政党、徒党	
悼		トウ	悼辞、哀悼、追悼	
		いたむ	悼む	↔痛む、傷む
盗（盜）		トウ	盗難、盗用、強盗	
		ぬすむ	盗む、盗み	
陶		トウ	陶器、陶酔、薫陶	
塔		トウ	五重の塔、石塔	
搭 ⊕		トウ	搭載、搭乗、搭乗券	
棟 ⊕		トウ	上棟、病棟	
		むね	棟、別棟	
		むな	棟木	
湯	3	トウ	湯治、熱湯、微温湯	
		ゆ	湯、湯水、煮え湯	
痘		トウ	種痘、水痘、天然痘	
登	3	トウ	登壇、登校、登記	
		ト	登山、登城	
		のぼる	登る、山登り	↔上る、昇る
答	2	トウ	答弁、応答、問答	
		こたえる	答える	
		こたえ	答え	
等	3	トウ	等分、等級、平等	
		ひとしい	等しい	
筒		トウ	封筒、水筒、円筒形	
		つつ	筒、筒抜け	
統	5	トウ	統一、統計、伝統	
		すべる	統べる	
稲（稻）		トウ	水稲、陸稲	
		いね	稲、稲刈り	
		いな	稲作、稲穂	
踏		トウ	踏破、踏襲、高踏的	
		ふむ	踏む、足踏み	
		ふまえる	踏まえる	
糖	6	トウ	糖分、砂糖、製糖	
頭	2	トウ	頭部、年頭、船頭	
		ズ	頭脳、頭上、頭痛	
		ト	音頭	
		あたま	頭、頭金、頭打ち	
		かしら	頭、頭文字、旗頭	
謄		トウ	謄写、謄本	
闘（鬭）		トウ	闘争、闘志、戦闘	
		たたかう	闘う、闘い	↔戦う

漢字	学年	音訓	例	備考
騰		トウ	騰貴　暴騰　沸騰	
同	2	ドウ	同情　異同　混同	
		おなじ	同じ　同じだ　同い年	
洞（+）		ドウ	洞穴　洞察　空洞	
		ほら	洞穴	
胴		ドウ	胴体　双胴船	
動	3	ドウ	動物　活動　騒動	
		うごく	動く　動き	
		うごかす	動かす	
堂	4	ドウ	堂々と　殿堂　母堂	
童	3	ドウ	童話　童心　児童	
		わらべ	童　童歌	
道	2	ドウ	道路　道徳　報道	
		トウ	神道	
		みち	道　近道	
働	4	ドウ	労働　実働	
		はたらく	働く　働き	
銅	5	ドウ	銅器　銅像　青銅	
導	5	ドウ	導入　指導　半導体	
		みちびく	導く　導き	
峠（とうげ）		とうげ	峠　峠道	
匿		トク	匿名　隠匿	
特	4	トク	特殊　特産　独特	

漢字	学年	音訓	例	備考
得	4	トク	得意　会得　損得	
		える	得る	
		うる	得るところ　書き得る	↕獲る
督		トク	督促　督励　監督	
徳（德）	5	トク	徳義　徳用　道徳	
篤		トク	篤農　危篤　懇篤	
毒	4	ドク	毒薬　毒舌　中毒	
独（獨）	5	ドク	独立　独断　単独	
		ひとり	独り　独り者	
読（讀）	2	ドク	読書　音読　購読	読経
		トク	読本	
		トウ	読点　句読点	
		よむ	読む　読み	↕詠む
凸（+）		トツ	凸版　凸レンズ　凹凸	凸凹（でこぼこ）
突（突）		トツ	突然　突端　衝突	
		つく	突く　一突き	
届（屆）	6	とどける	届ける　届け	
		とどく	届く　行き届く	
屯（+）		トン	駐屯　駐屯地	
豚		トン	養豚	
		ぶた	豚　子豚	
鈍		ドン	鈍感　鈍角　愚鈍	
		にぶい	鈍い　鈍さ	

漢字	音訓	例	備考
	にぶる	鈍る	
曇	ドン	曇天	
	くもる	曇る 曇り	
内 2	ナイ	内外 内容 家内	
	ダイ	内裏 参内	
	うち	内 内側 内気	
南 2	ナン	南北 南端 指南	
	ナ	南無	
	みなみ	南 南向き	
軟	ナン	軟化 軟弱 硬軟	
	やわらか	軟らかだ	↕柔らか
	やわらかい	軟らかい	↕柔らかい
難(難) 6	ナン	難易 困難 非難	
	かたい	許し難い 有り難い	
	むずかしい	難しい 難しさ	「むつかしい」とも
二 1	ニ	二番目 十二分 十二月	十重二十重 二十・二十歳 二十日 二人 二日
	ふた	二重まぶた	
	ふたつ	二つ	↕双
尼	ニ	尼僧 修道尼	
	あま	尼 尼寺	
弐(貳)	ニ	弐万円	
肉 2	ニク	肉類 肉薄 筋肉	
日 1	ニチ	日時 日光 毎日	明日 昨日
	ジツ	連日 平日 休日	今日 一日 二十日 日和 二日
	ひ	日 日帰り 月曜日	
	か	三日 十日	
入 1	ニュウ	入学 侵入 収入	
	いる	寝入る 大入り 気に入る	↕要る
	いれる	入れる 入れ物	
	はいる	入る	
乳 6	ニュウ	乳児 乳液 牛乳	乳母
	ちち	乳	
	ち	乳首 乳飲み子	
尿	ニョウ	尿意 尿素 夜尿症	
任 5	ニン	任意 任務 責任	
	まかせる	任せる 人任せ	
	まかす	任す	
妊	ニン	妊娠 懐妊 不妊	
忍	ニン	忍者 忍耐 残忍	
	しのぶ	忍ぶ 忍び足 忍びやかだ	
	しのばせる	忍ばせる	
認 6	ニン	認識 承認 否認	
	みとめる	認める	
寧	ネイ	安寧 丁寧	
熱 4	ネツ	熱病 熱湯 情熱	
	あつい	熱い 熱さ	↕暑い

ネン・ノウ

漢字	学年	音訓	例	備考
年	1	ネン	年代　少年　豊年	
		とし	年　年子　年寄り	今年
念	4	ネン	念願　信念　断念	
粘		ネン	粘土　粘液　粘着	
		ねばる	粘る　粘り　粘り強い	
燃	5	ネン	燃焼　燃料　可燃性	
		もえる	燃える　燃え尽きる	
		もやす	燃やす	
		もす	燃す	
悩（惱）		ノウ	悩殺　苦悩　煩悩	
		なやむ	悩む　悩み　悩ましい	
		なやます	悩ます	
納	6	ノウ	納入　納涼　収納	
		ナッ	納得　納豆	
		ナ	納屋	
		ナン	納戸	
		トウ	出納	
		おさめる	納める　御用納め	↕収める
		おさまる	納まる　納まり	↕収まる
能	5	ノウ	能力　芸能　効能	
脳（腦）	6	ノウ	脳髄　首脳　頭脳	
農	3	ノウ	農業　農具　酪農	
濃		ノウ	濃厚　濃紺　濃淡	
		こい	濃い　濃さ	

ハ・バ・ハイ

漢字	学年	音訓	例	備考
把 ⊕		ハ	把握　把持　一把（ワ） 三把（バ）　十把（パ）	「把（ハ）」は前に来る音によって「ワ、バ、パ」になる
波	3	ハ	波浪　波及　電波	
		なみ	波　波立つ　荒波	波止場
派	6	ハ	派遣　派生　流派	
破	5	ハ	破壊　破産　撃破	
		やぶる	破る　型破り	
		やぶれる	破れる　破れ	↕敗れる
覇（霸）⊕		ハ	覇権　覇者　制覇	
馬	2	バ	馬車　競馬　乗馬	
		うま	馬　馬小屋	
		ま	馬子　絵馬	伝馬船
婆		バ	老婆　産婆役	
拝（拜）	6	ハイ	拝見　拝礼　崇拝	
		おがむ	拝む　拝み倒す	
杯		ハイ	祝杯　銀杯　一杯	
		さかずき	杯	
背	6	ハイ	背後　背景　腹背	
		せ	背　背丈　背中	
		せい	背　上背	
		そむく	背く	
		そむける	背ける	
肺	6	ハイ	肺臓　肺炎　肺活量	

漢字	学年	音訓	例	備考
俳	6	ハイ	俳優　俳句　俳味	
配	3	ハイ	配分　交配　心配	
		くばる	配る	
排		ハイ	排斥　排気　排除	
敗	4	ハイ	敗北　腐敗　失敗	
		やぶれる	敗れる	↔破れる
廃（廢）		ハイ	廃止　廃物　荒廃	
		すたれる	廃れる	
		すたる	廃る　はやり廃り	
輩		ハイ	輩出　同輩　先輩	
売（賣）	2	バイ	売買　売品　商売	
		うる	売る　売り出す	
		うれる	売れる　売れ行き	
倍	3	バイ	倍率　倍加　二倍	
梅（梅）	4	バイ	梅園　梅雨　紅梅	梅雨（つゆ）
		うめ	梅　梅見　梅酒	
培		バイ	培養　栽培	
		つちかう	培う	
陪		バイ	陪席　陪食　陪審	
媒		バイ	媒介　媒体　触媒	
買	2	バイ	買収　売買　購買	
		かう	買う　買い物	
賠		バイ	賠償	

漢字	学年	音訓	例	備考
白	1	ハク	白髪　紅白　明白	白髪（しらが）
		ビャク	黒白	
		しろ	白　白黒　真っ白	
		しら	白壁　白む　白ける	
		しろい	白い	
伯		ハク	伯仲　画伯	伯父（おじ）　伯母（おば）
拍		ハク	拍手　拍車　一拍	
		ヒョウ	拍子	
泊		ハク	宿泊　停泊　外泊	
		とまる	泊まる　泊まり	↔止まる　留まる
		とめる	泊める	↔止める　留める
迫		ハク	迫害　脅迫　切迫	
		せまる	迫る	
舶		ハク	舶来　船舶	
博	4	ハク	博識　博覧　博士号	博士
		バク	博労　博徒	
薄		ハク	薄情　薄謝　軽薄	
		うすい	薄い　薄着　品薄	
		うすめる	薄める	
		うすまる	薄まる	
		うすらぐ	薄らぐ	
		うすれる	薄れる	
麦（麥）	2	バク	麦芽　麦秋　精麦	

漢字	学年	音訓	例	備考
		むぎ	麦　麦粉　小麦	
漠 ⊕		バク	漠然　広漠　砂漠	
縛		バク	束縛　捕縛	
		しばる	縛る　金縛り	
爆		バク	爆発　爆弾　原爆	
箱	3	はこ	箱　箱庭　小箱	
畑	3	はた	畑　畑作	
		はたけ	畑　畑違い　麦畑	
肌 ⊕		はだ	肌　肌色　地肌	
八	1	ハチ	八月　八方	
		や	八重桜	八百屋　八百長
		やつ	八つ当たり	
		やっつ	八つ	
		よう	八日	
鉢 ⊕		ハチ	鉢　植木鉢	
		ハツ	衣鉢	
発（發）	3	ハツ	発明　発射　突発	
		ホツ	発作　発端　発起	
髪（髮）		ハツ	頭髪　白髪　整髪	白髪（しらが）
		かみ	髪　髪結い　日本髪	
伐		バツ	伐採　征伐　殺伐	
抜（拔）		バツ	抜群　選抜	
		ぬく	抜く　くぎ抜き	
		ぬける	抜ける　気抜け	
		ぬかす	抜かす	
		ぬかる	抜かる　抜かり	
罰		バツ	罰金　処罰　天罰	
		バチ	罰当たり	
閥		バツ	門閥　財閥　派閥	
反	3	ハン	反映　反対　違反	
		ホン	謀反	
		タン	反物	
		そる	反る　反り	
		そらす	反らす	
半	2	ハン	半分　半面　大半	
		なかば	半ば	
犯	5	ハン	犯罪　共犯　侵犯	
		おかす	犯す	侵す↔冒す
帆		ハン	帆船　帆走　出帆	
		ほ	帆　帆柱　帆前船	
伴		ハン	同伴　随伴	
		バン	伴奏　伴食	
		ともなう	伴う	
判	5	ハン	判定　判明　裁判	
		バン	A判　大判	
坂	3	ハン	急坂	

漢字	学年	音訓	例	備考
		さか	坂　坂道　下り坂	
板	3	ハン	乾板　鉄板	
		バン	黒板　掲示板	
		いた	板　板前	
版	5	ハン	版画　写真版　出版	
班	6	ハン	班長　救護班	
畔		ハン	湖畔	
般		ハン	諸般　一般　先般	
販		ハン	販売　販路　市販	
飯	4	ハン	御飯　炊飯　赤飯	
		めし	飯　飯粒　五目飯	
搬		ハン	搬入　搬出　運搬	
煩		ハン	煩雑	
		ボン	煩悩	
		わずらう	煩う　煩い　煩わしい	↕患う
		わずらわす	煩わす	
頒		ハン	頒布　頒価	
範		ハン	範囲　師範　模範	
繁（繁）		ハン	繁栄　繁茂　繁華街	
藩		ハン	藩主　廃藩	
晩（晩）	6	バン	晩夏　今晩　早晩	
番	2	バン	番人　番組　順番	
蛮（蠻）		バン	蛮行　蛮人　野蛮	
盤		バン	基盤　円盤　碁盤	
比	5	ヒ	比較　比例　無比	
		くらべる	比べる　背比べ	
皮	3	ヒ	皮膚　皮相　樹皮	
		かわ	皮　毛皮	↕革
妃		ヒ	妃殿下　王妃	
否	6	ヒ	否定　適否　安否	
		いな	否　否めない	
批	6	ヒ	批判　批評　批准	
彼		ヒ	彼我　彼岸	
		かれ	彼　彼ら	
		かの	彼女	
披 ⊕		ヒ	披見　披露　直披	
肥	5	ヒ	肥大　肥料　施肥	
		こえる	肥える	
		こえ	肥　下肥	
		こやす	肥やす	
		こやし	肥やし	
非	5	ヒ	非難　非常　是非	
卑（卑）		ヒ	卑近　卑屈　卑下	
		いやしい	卑しい　卑しさ	
		いやしむ	卑しむ	
		いやしめる	卑しめる	

漢字	音訓	例	備考
ヒ			
飛 4	ヒ	飛行 飛躍 雄飛	
	とぶ	飛ぶ 飛び火	↕跳ぶ
	とばす	飛ばす	
疲	ヒ	疲労 疲弊	
	つかれる	疲れる 疲れ	
	つからす	疲らす	
秘（祕） 6	ヒ	秘密 秘書 神秘	
	ひめる	秘める	
被	ヒ	被服 被害 被告	
	こうむる	被る	
悲 3	ヒ	悲喜 悲劇 慈悲	
	かなしい	悲しい 悲しがる	
	かなしむ	悲しむ 悲しみ	
扉 ⊕	ヒ	開扉 門扉	
	とびら	扉	
費 4	ヒ	費用 消費 旅費	
	ついやす	費やす	
	ついえる	費える 費え	
碑（碑）	ヒ	碑銘 石碑 記念碑	
罷	ヒ	罷業 罷免	
避	ヒ	避難 逃避 不可避	
	さける	避ける	
ビ			
尾	ビ	尾行 首尾 末尾	
	お	尾 尾頭付き 尾根	
美 3	ビ	美醜 美術 賛美	
	うつくしい	美しい 美しさ	
備 5	ビ	備考 守備 準備	
	そなえる	備える 備え	↕供える
	そなわる	備わる	
微	ビ	微細 微笑 衰微	
鼻 3	ビ	鼻音 鼻孔 耳鼻科	
	はな	鼻 鼻血 小鼻	
ヒツ			
匹	ヒツ	匹敵 匹夫 馬匹	
	ひき	数匹	
必 4	ヒツ	必然 必死 必要	
	かならず	必ず 必ずしも	
泌	ヒツ	分泌	「分泌」は、「ブンピ」とも
	ヒ	泌尿器	
筆 3	ヒツ	筆力 筆記 毛筆	
	ふで	筆 筆先	
ひめ			
姫	ひめ	姫 姫松	
ヒャク			
百 1	ヒャク	百貨店 百科全書 数百	八百屋 八百長
ヒョウ			
氷 3	ヒョウ	氷点 氷山 結氷	
	こおり	氷	
	ひ	氷雨	
表 3	ヒョウ	表面 代表 発表	

漢字	学年	音訓	例	備考
		おもて	表　表門　裏表	↕面
		あらわす	表す	↕現す　著す
		あらわれる	表れる	↕現れる
俵	5	ヒョウ	一俵　土俵	
		たわら	俵　米俵	
票	4	ヒョウ	票決　投票　伝票	
評	5	ヒョウ	評価　評判　定評	
漂		ヒョウ	漂着　漂白　漂流	
		ただよう	漂う	
標	4	ヒョウ	標準　標本　目標	
苗		ビョウ	種苗　痘苗	
		なえ	苗　苗木	早苗
		なわ	苗代	
秒	3	ビョウ	秒針　秒速　寸秒	
病	3	ビョウ	病気　病根　看病	
		ヘイ	疾病	
		やむ	病む　病み付き	
		やまい	病	
描		ビョウ	描写　素描　点描	
		えがく	描く　描き出す	
猫 ⊕		ビョウ	愛猫	
		ねこ	猫	
品	3	ヒン	品評　作品　上品	
		しな	品　品物　手品	
浜（濱）		ヒン	海浜	
		はま	浜　浜辺　砂浜	
貧	5	ヒン	貧富　貧弱　清貧	
		ビン	貧乏	
		まずしい	貧しい　貧しさ	
賓（賓）		ヒン	賓客　主賓　来賓	
頻（頻） ⊕		ヒン	頻度　頻発　頻繁	
敏（敏）		ビン	敏速　機敏　鋭敏	
瓶（甁） ⊕		ビン	瓶　瓶詰　花瓶	
不	4	フ	不当　不利　不賛成	
		ブ	不作法　不用心	
夫	4	フ	夫妻　農夫　凡夫	
		フウ	夫婦　工夫	
		おっと	夫	
父	2	フ	父母　父兄　祖父	叔父・伯父(おじ)
		ちち	父　父親	お父さん
付	4	フ	付与　交付　給付	
		つける	付ける　名付け	↕着ける　就ける
		つく	付く　気付く	↕着く　就く
布	5	フ	布陣　綿布　分布	
		ぬの	布　布地　布目	
扶		フ	扶助　扶養　扶育	

フ

漢字	学年	音訓	例	備考
府	4	フ	府県 首府 政府	
怖		フ	恐怖	
		こわい	怖い 怖がる	
附		フ	附属 寄附	
負	3	フ	負担 負傷 勝負	
		まける	負ける 負け	
		まかす	負かす	
		おう	負う 負い目 背負う	
赴		フ	赴任	
		おもむく	赴く	
浮		フ	浮沈 浮力 浮薄	浮気 浮つく
		うく	浮く 浮き 浮世絵	
		うかれる	浮かれる	
		うかぶ	浮かぶ	
		うかべる	浮かべる	
婦	5	フ	婦人 夫婦 主婦	
符		フ	符号 切符 音符	
富	5	フ	富強 富裕 貧富	
		フウ	富貴	「富貴」は、「フッキ」とも
		とむ	富む 富み栄える	
		とみ	富	
普		フ	普通 普遍 普請	
腐		フ	腐心 腐敗 陳腐	
		くさる	腐る	
		くされる	腐れ縁 ふて腐れる	
		くさらす	腐らす	
敷		フ	敷設	
		しく	敷く 敷石 屋敷	桟敷
膚		フ	皮膚 完膚	[三省堂注 当用漢字音訓表にあった訓「はだ」は削除された なお、「肌」参照]
賦		フ	賦役 月賦 天賦	
譜		フ	系譜 楽譜 年譜	

ブ

漢字	学年	音訓	例	備考
侮(侮)		ブ	侮辱 軽侮	
		あなどる	侮る 侮り	
武	5	ブ	武力 武士 文武	
		ム	武者人形 荒武者	
部	3	ブ	部分 全部 本部	部屋
舞		ブ	舞踏 舞台 鼓舞	
		まう	舞う 舞い上がる	
		まい	舞 舞扇	

フウ

漢字	学年	音訓	例	備考
封		フウ	封鎖 封書 密封	
		ホウ	封建的 素封家	
風	2	フウ	風力 風俗 強風	風邪
		フ	風情 中風	
		かぜ	風 そよ風	
		かざ	風上 風車	

フク

漢字	学年	音訓	例	備考
伏		フク	伏線 起伏 潜伏	
		ふせる	伏せる うつ伏せ	

漢字	学年	音訓	例	備考
		ふす	伏す 伏し拝む	
服	3	フク	服装 服従 洋服	
副	4	フク	副業 副作用 正副	
幅		フク	幅員 振幅 全幅	
		はば	幅 横幅	
復	5	フク	復活 往復 報復	
福（福）	3	フク	福祉 福徳 幸福	
腹	6	フク	腹案 空腹 山腹	
		はら	腹 腹芸 太っ腹	
複	5	フク	複数 複雑 重複	
覆		フク	覆面 転覆	
		おおう	覆う 覆い	
		くつがえす	覆す	
		くつがえる	覆る	
払（拂）		フツ	払暁 払底	
		はらう	払う 払い 月払い	
沸		フツ	沸騰 沸点 煮沸	
		わく	沸く 沸き上がる	
		わかす	沸かす 湯沸かし	
仏（佛）	5	ブツ	仏事 仏像 念仏	
		ほとけ	仏 仏様 生き仏	
物	3	ブツ	物質 人物 動物	
		モツ	食物 進物 禁物	

漢字	学年	音訓	例	備考
		もの	物 物語 品物	果物
粉	4	フン	粉末 粉砕 粉飾	
		こ	粉 小麦粉	
		こな	粉 粉雪	
紛		フン	紛失 紛争 内紛	
		まぎれる	紛れる 紛れ	
		まぎらす	紛らす	
		まぎらわす	紛らわす	
		まぎらわしい	紛らわしい	
雰 ⊕		フン	雰囲気	
噴		フン	噴火 噴出 噴水	
		ふく	噴く 噴き出す	↕吹く
墳		フン	墳墓 古墳	
憤		フン	憤慨 義憤 発憤	
		いきどおる	憤る 憤り	
奮	6	フン	奮起 奮発 興奮	
		ふるう	奮う 奮い立つ 奮って〔副〕	↕震う 振るう
分	2	ブン	分解 自分 水分	
		フン	分別 分銅 三十分	
		ブ	一分一厘 五分	
		わける	分ける 引き分け	
		わかれる	分かれる	↕別れる
		わかる	分かる	

漢字	学年	音訓	例	備考
		わかつ	分かつ　分かち合う	
文	1	ブン	文学　文化　作文	
		モン	文字　経文　天文学	「文字」は「モジ」とも
		ふみ	恋文	
聞	2	ブン	新聞　風聞　見聞	
		モン	聴聞　前代未聞	
		きく	聞く　人聞き	↔聴く
		きこえる	聞こえる　聞こえ	
丙		ヘイ	丙種　甲乙丙	
平	3	ヘイ	平面　平和　公平	
		ビョウ	平等	
		たいら	平らな土地　平らげる	
		ひら	平手　平謝り　平たい	
兵	4	ヘイ	兵器　兵隊　撤兵	
		ヒョウ	兵糧　雑兵	
併(併)		ヘイ	併合　併用　合併	
		あわせる	併せる　併せて〔接〕	↔合わせる
並(竝)	6	ヘイ	並行　並列　並立	
		なみ	並の品　並木　足並み	
		ならべる	並べる　五目並べ	
		ならぶ	並ぶ　並び	
		ならびに	並びに	
柄		ヘイ	横柄　権柄ずく	
		がら	柄　家柄　身柄	
		え	柄	
陛	6	ヘイ	陛下	
閉	6	ヘイ	閉店　閉口　密閉	
		とじる	閉じる　閉じ込める	
		とざす	閉ざす	
		しめる	閉める	↔締める
		しまる	閉まる	↔締まる
塀(塀)⊕		ヘイ	塀　板塀	
幣		ヘイ	貨幣　紙幣　御幣担ぎ	
弊		ヘイ	弊害　旧弊　疲弊	
米	2	ベイ	米作　米価　米食	
		マイ	精米　新米　白米	
		こめ	米　米粒	
壁		ヘキ	壁面　壁画　岸壁	
		かべ	壁　壁土　白壁	
癖		ヘキ	習癖　病癖　潔癖	
		くせ	癖　口癖	
別	4	ベツ	別離　区別　特別	
		わかれる	別れる　別れ	↔分かれる
片	6	ヘン	紙片　破片　断片	
		かた	片方　片手　片一方	
辺(邊)	4	ヘン	辺境　周辺　その辺	

漢字	旧字体	学年	音訓	例	備考
			あたり	辺り	
			べ	海辺　岸辺	
返		3	ヘン	返却　返事　返礼	
			かえす	返す　仕返し	↕帰す
			かえる	返る　寝返り	↕帰る
変	變	4	ヘン	変化　異変　大変	
			かわる	変わる　変わり種	↕替わる　代わる　換わる
			かえる	変える	↕替える　代える　換える
偏			ヘン	偏向　偏見　偏食	
			かたよる	偏る　偏り	
遍			ヘン	遍歴　普遍　一遍	
編		5	ヘン	編集　編成　長編	
			あむ	編む　手編み	
弁	辨　瓣　辯	5	ベン	弁償　花弁　雄弁	
便		4	ベン	便利　便法　簡便	
			ビン	便乗　郵便　定期便	
			たより	便り　初便り　花便り	
勉	勉	3	ベン	勉強　勉学　勤勉	
歩	步	2	ホ	歩道　徒歩　進歩	
			ブ	歩合　日歩	
			フ	歩	
			あるく	歩く	
			あゆむ	歩む　歩み	
保		5	ホ	保護　保存　担保	
			たもつ	保つ	
捕			ホ	捕獲　捕虜　逮捕	
			とらえる	捕らえる	
			とらわれる	捕らわれる	
			とる	捕る　捕り物	↕取る　採る
			つかまえる	捕まえる	
			つかまる	捕まる	
浦			ホ		
			うら	浦　津々浦々	
補		6	ホ	補欠　補充　候補	
			おぎなう	補う　補い	
舗			ホ	舗装　店舗	
母		2	ボ	母性　父母　祖母	乳母　お母さん　叔母・伯母　母屋・母家
			はは	母　母親	
募			ボ	募金　募集　応募	
			つのる	募る	
墓		5	ボ	墓地　墓参　墓穴	
			はか	墓　墓参り	
慕			ボ	慕情　敬慕　思慕	
			したう	慕う　慕わしい	
暮		6	ボ	暮春　歳暮　薄暮	

漢字	音訓	例	備考
暮	くれる	暮れる 暮れ	
	くらす	暮らす 暮らし	
簿	ボ	簿記 名簿 帳簿	
方 2	ホウ	方法 方角 地方	行方
	かた	お乗りの方 話し方 敵方	
包 4	ホウ	包囲 包容力 内包	
	つつむ	包む 包み 小包	
芳	ホウ	芳香 芳紀 芳志	
	かんばしい	芳しい 芳しさ	
邦	ホウ	邦楽 本邦 連邦	
奉	ホウ	奉納 奉仕 信奉	
	ブ	奉行	
	たてまつる	奉る	
宝（寶） 6	ホウ	宝石 国宝 財宝	
	たから	宝 宝船 子宝	
抱	ホウ	抱負 抱懐 介抱	
	だく	抱く	
	いだく	抱く	
	かかえる	抱える 一抱え	
放 3	ホウ	放送 放棄 追放	
	はなす	放す 手放す	↔離す
	はなつ	放つ	
	はなれる	放れる	↔離れる

漢字	音訓	例	備考
法 4	ホウ	法律 文法 方法	「法主」は、「ホウシュ」とも
	ハッ	法度	
	ホッ	法主	
泡 ⊕	ホウ	気泡 水泡 発泡	
	あわ	泡 泡立つ	
胞	ホウ	胞子 同胞 細胞	
俸 ⊕	ホウ	俸給 年俸 本俸	
倣	ホウ	模倣	
	ならう	倣う	↔習う
峰	ホウ	秀峰 霊峰 連峰	
	みね	峰 剣が峰	
砲	ホウ	砲撃 大砲 鉄砲	
崩	ホウ	崩壊	雪崩
	くずれる	崩れる 山崩れ	
	くずす	崩す	
訪 6	ホウ	訪問 来訪 探訪	
	おとずれる	訪れる 訪れ	
	たずねる	訪ねる	↔尋ねる
報 5	ホウ	報酬 報告 情報	
	むくいる	報いる 報い	
豊（豐） 5	ホウ	豊作 豊満 豊富	
	ゆたか	豊かだ	
飽	ホウ	飽和 飽食	

漢字	学年	音訓	例	備考
		あきる	飽きる 飽き 見飽きる	
		あかす	……に飽かして	
褒（襃）⊕		ホウ	褒章 褒美 過褒	
		ほめる	褒める	
縫		ホウ	縫合 縫製 裁縫	
		ぬう	縫う 縫い目	
亡	6	ボウ	亡父 亡命 存亡	
		モウ	亡者	
		ない	亡い 亡き人 亡くす 亡くなる	多く文語の「亡き」で使う ↕無い
乏		ボウ	欠乏 貧乏 耐乏	
		とぼしい	乏しい 乏しさ	
忙		ボウ	忙殺 多忙 繁忙	
		いそがしい	忙しい 忙しさ	
坊		ボウ	坊主 朝寝坊 赤ん坊	
		ボッ	坊ちゃん	
妨		ボウ	妨害	
		さまたげる	妨げる 妨げ	
忘	6	ボウ	忘却 忘年会 備忘	
		わすれる	忘れる 物忘れ	
防	5	ボウ	防備 堤防 予防	
		ふせぐ	防ぐ 防ぎ	
房		ボウ	独房 冷房 僧房	
		ふさ	房 一房 乳房	
肪		ボウ	脂肪	
某		ボウ	某氏 某国 某所	
冒		ボウ	冒険 冒頭 感冒	
		おかす	冒す	↕犯す 侵す
剖		ボウ	解剖	
紡		ボウ	紡績 混紡	
		つむぐ	紡ぐ	
望	4	ボウ	望郷 希望 人望	
		モウ	所望 大望 本望	「大望」は、「タイボウ」とも
		のぞむ	望む 望み 望ましい	
傍		ボウ	傍線 傍聴 路傍	
		かたわら	傍ら	
帽		ボウ	帽子 脱帽 無帽	
棒	6	ボウ	棒グラフ 棒読み 鉄棒	
貿	5	ボウ	貿易	
暴	5	ボウ	暴言 横暴 乱暴	
		バク	暴露	
		あばく	暴く 暴き出す	
		あばれる	暴れる 大暴れ	
膨		ボウ	膨大	
		ふくらむ	膨らむ 膨らみ	
		ふくれる	膨れる 青膨れ	
謀		ボウ	謀略 無謀 首謀者	

漢字	音訓	例	備考
	ム	謀反	
	はかる	謀る	↕計る 量る 図る
北 (2)	ホク	北進　北方　敗北	
	きた	北　北風　北半球	
木 (1)	ボク	木石　大木　土木	
	モク	木造　樹木　材木	木綿
	き	木　並木　拍子木	
	こ	木立　木陰	
朴	ボク	純朴　素朴	
牧 (4)	ボク	牧場　牧師　遊牧	
	まき	牧場	
僕	ボク	僕　公僕	
墨（墨）	ボク	筆墨　白墨　遺墨	
	すみ	墨　墨絵　まゆ墨	
撲	ボク	撲殺　撲滅　打撲	相撲
没	ボツ	没収　没交渉　出没	
堀	ほり	堀　外堀　釣堀	
本 (1)	ホン	本質　本来　資本	
	もと	本　旗本	↕下 元 基
奔	ホン	奔走　奔放　出奔	
翻（飜）	ホン	翻意　翻訳　翻刻	
	ひるがえる	翻る	
	ひるがえす	翻す	
凡	ボン	凡人　凡百　平凡	
	ハン	凡例	
盆	ボン	盆栽　盆地　旧盆	
麻	マ	麻薬　麻酔　亜麻	
	あさ	麻	
摩	マ	摩擦　摩天楼	
磨	マ	研磨	
	みがく	磨く　磨き粉	
魔	マ	魔法　悪魔　邪魔	
毎（毎） (2)	マイ	毎度　毎日　毎々	
妹 (2)	マイ	姉妹　義妹　令妹	
	いもうと	妹	
枚 (6)	マイ	枚数　枚挙　大枚	
埋	マイ	埋没　埋蔵　埋葬	
	うめる	埋める　埋め立て　穴埋め	
	うまる	埋まる	
	うもれる	埋もれる　埋もれ木	
幕 (6)	マク	幕切れ　天幕　暗幕	
	バク	幕府　幕末　幕僚	
膜	マク	膜質　鼓膜　粘膜	
又	また	又　又は	
末 (4)	マツ	末代　本末　粉末	
	バツ	末子　末弟	「末子、末弟」は「マッシ、マッテイ」とも

漢字	学年	音訓	例	備考
（末）		すえ	末　末っ子　末頼もしい	
抹⊕（マツ）		マツ	抹殺　抹消　一抹	
万（萬）（マン）	2	マン	万一　万年筆　巨万	
		バン	万国　万端　万全	
満（滿）	4	マン	満月　満足　充満	
		みちる	満ちる　満ち潮	
		みたす	満たす	
慢		マン	慢性　怠慢　自慢	
漫		マン	漫画　漫歩　散漫	
未（ミ）	4	ミ	未来　未満　前代未聞	
味	3	ミ	味覚　意味　興味	三味線
		あじ	味　味見　塩味	
		あじわう	味わう　味わい	
魅		ミ	魅力　魅惑　魅する	
岬⊕（みさき）		みさき	岬	
密（ミツ）	6	ミツ	密約　厳密　秘密	
脈（ミャク）	4	ミャク	脈絡　動脈　山脈	
妙（ミョウ）		ミョウ	妙案　奇妙　巧妙	
民（ミン）	4	ミン	民族　民主的　国民	
		たみ	民	
眠		ミン	不眠　安眠　睡眠	
		ねむる	眠る　眠り	
		ねむい	眠い　眠たい　眠気	

漢字	学年	音訓	例	備考
矛（ム）		ム	矛盾	
		ほこ	矛　矛先	
務	5	ム	事務　職務　義務	
		つとめる	務める　務め	↔勤める　努める
無	4	ム	無名　無理　皆無	
		ブ	無事　無礼　無愛想	
		ない	無い　無くす　無くなる	↔亡い
夢	5	ム	夢幻　夢中　悪夢	
		ゆめ	夢　夢見る　初夢	
霧		ム	霧笛　濃霧　噴霧器	
		きり	霧　霧雨　朝霧	
娘（むすめ）		むすめ	娘　娘心　小娘	
名（メイ）	1	メイ	名誉　氏名　有名	
		ミョウ	名字　本名　大名	
		な	名　名前	仮名　名残
命	3	メイ	命令　運命　生命	
		ミョウ	寿命	
		いのち	命　命拾い	
明	2	メイ	明暗　説明　鮮明	
		ミョウ	明日　光明　灯明	明日（あす）
		あかり	明かり　薄明かり	
		あかるい	明るい　明るさ	
		あかるむ	明るむ	

漢字	音訓	例	備考
	あからむ	明らむ	
	あきらか	明らかだ	
	あける	明ける 夜明け	↕開ける 空ける
	あく	明く	↕開く 空く
	あくる	明くる日 明くる朝	
	あかす	明かす 種明かし	
迷 5	メイ	迷路 迷惑 低迷	
	まよう	迷う 迷い	迷子
盟 6	メイ	加盟 同盟 連盟	
銘	メイ	銘柄 碑銘	
鳴 2	メイ	鳴動 悲鳴 雷鳴	
	なく	鳴く 鳴き声	
	なる	鳴る 耳鳴り	
	ならす	鳴らす	
滅	メツ	滅亡 消滅 絶滅	
	ほろびる	滅びる	
	ほろぼす	滅ぼす	
免（免）	メン	免許 免除 放免	
	まぬかれる	免れる	「まぬがれる」とも
面 3	メン	面会 顔面 方面	
	おも	川の面 面影 面長	
	おもて	面 細面	↕表
	つら	面 面魂 鼻面	
綿 5	メン	綿布 綿密 純綿	木綿
	わた	綿 真綿	
茂	モ	繁茂	
	しげる	茂る 茂み	
模 6	モ	模範 模型 模倣	
	ボ	規模	
毛 2	モウ	毛髪 毛細管 不毛	
	け	毛 毛糸 抜け毛	
妄 ⊕	モウ	妄信 妄想 迷妄	「妄言」は、「モウゲン」とも
	ボウ	妄言	
盲	モウ	盲点 盲従 文盲	（三省堂注 当用漢字音訓表にあった訓「めくら」は削除された）
耗	モウ	消耗	
	コウ	心神耗弱	「モウ」は慣用音
猛	モウ	猛烈 猛獣 勇猛	猛者
網	モウ	網膜 漁網 通信網	
	あみ	網 網戸	投網
目 1	モク	目的 目前 項目	
	ボク	面目	「面目」は、「メンモク」とも
	め	目 目立つ 結び目	
	ま	目の当たり 目深	
黙（默）	モク	黙殺 暗黙 沈黙	
	だまる	黙る 黙り込む	
門 2	モン	門戸 門下生 専門	

漢字	学年	音訓	例	備考
（門）		かど	門 門口 門松	
紋		モン	紋章 指紋 波紋	
問	3	モン	問題 問答 訪問	
		とう	問う 問いただす	
		とい	問い	
		とん	問屋	「問屋」は、「といや」とも
匁		もんめ		
夜	2	ヤ	夜半 深夜 昼夜	
		よ	夜が明ける 夜風 月夜	
		よる	夜 夜昼	
野	2	ヤ	野外 野性 分野	
		の	野 野原 野放し	野良
厄 ⊕		ヤク	厄 厄年 災厄	
役	3	ヤク	役所 役目 荷役	
		エキ	役務 使役 兵役	
約	4	ヤク	約束 約半分 節約	
訳（譯）	6	ヤク	訳文 翻訳 通訳	
		わけ	訳 内訳 申し訳	
薬（藥）	3	ヤク	薬剤 薬局 火薬	
		くすり	薬 飲み薬	
躍		ヤク	躍動 躍起 飛躍	
		おどる	躍る 躍り上がる	↔踊る
由	3	ユ	由来 経由	
		ユウ	自由 理由 事由	
		ユイ	由緒	
		よし	…の由	
油	3	ユ	油脂 油田 石油	
		あぶら	油 油絵 水油	↔脂
愉		ユ	愉快 愉悦	
諭		ユ	諭旨 教諭 説諭	
		さとす	諭す 諭し	
輸	5	ユ	輸出 輸送 運輸	
癒 ⊕		ユ	癒着 治癒 平癒	
唯		ユイ	唯一 唯物論 唯美主義	
		イ	唯々諾々	
友	2	ユウ	友好 友情 親友	
		とも	友	友達
有	3	ユウ	有益 所有 特有	
		ウ	有無 有象無象	
		ある	有る 有り金	↔在る
勇	4	ユウ	勇敢 勇気 武勇	
		いさむ	勇む 勇み足 勇ましい	
幽		ユウ	幽境 幽玄 幽霊	
悠 ⊕		ユウ	悠然 悠長 悠々	
郵	6	ユウ	郵便 郵送 郵券	
猶		ユウ	猶予	

漢字	音訓	例	備考
裕	ユウ	裕福　富裕　余裕	
遊 3	ユウ	遊戯　遊離　交遊	
	ユ	遊山	
	あそぶ	遊ぶ　遊び	
雄	ユウ	雄大　英雄　雌雄	
	お	雄しべ　雄牛　雄々しい	
	おす	雄　雄犬	
誘	ユウ	誘惑　誘発　勧誘	
	さそう	誘う　誘い水	
憂	ユウ	憂愁　憂慮　一喜一憂	
	うれえる	憂える　憂え	↔愁える
	うれい	憂い	↔愁い
	うい	憂い　憂き目　物憂い	「憂き」は文語の連体形
融	ユウ	融解　融和　金融	
優 6	ユウ	優越　優柔　俳優	
	やさしい	優しい　優しさ	
	すぐれる	優れる	
与（與）	ヨ	与党　授与　関与	
	あたえる	与える	
予（豫） 3	ヨ	予定　予備　猶予	
余（餘） 5	ヨ	余剰　余地　残余	
	あまる	余る　余り	
	あます	余す	
誉（譽）	ヨ	名誉　栄誉	
	ほまれ	誉れ	
預 5	ヨ	預金　預託	
	あずける	預ける	
	あずかる	預かる　預かり	
幼 6	ヨウ	幼児　幼虫　幼稚	
	おさない	幼い　幼友達	
用 2	ヨウ	用意　使用　費用	
	もちいる	用いる	
羊 3	ヨウ	羊毛　綿羊　牧羊	
	ひつじ	羊	
洋 3	ヨウ	洋楽　洋風　海洋	
要 4	ヨウ	要点　要注意　重要	
	いる	要る	↔入る
容 5	ヨウ	容易　容器　形容	
庸	ヨウ	凡庸　中庸	
揚	ヨウ	意気揚々　抑揚　掲揚	
	あげる	揚げる　荷揚げ	↔上げる　↔挙げる
	あがる	揚がる	↔上がる　↔挙がる
揺（搖）	ヨウ	動揺	
	ゆれる	揺れる　揺れ	
	ゆる	揺り返し　揺りかご	
	ゆらぐ	揺らぐ	

漢字	音訓	例	備考
（揺）	ゆるぐ	揺るぐ　揺るぎない	
	ゆする	揺する　貧乏揺すり	
	ゆさぶる	揺さぶる	
	ゆすぶる	揺すぶる	
葉　3	ヨウ	葉緑素　落葉　紅葉	紅葉（もみじ）
	は	葉　枯れ葉　落ち葉	
陽　3	ヨウ	陽光　陰陽　太陽	
溶	ヨウ	溶解　溶液　水溶液	
	とける	溶ける	↔解ける
	とかす	溶かす	↔解かす
	とく	溶く	↔解く
腰	ヨウ	腰痛　腰部	
	こし	腰　腰だめ　物腰	
様（樣）　3	ヨウ	様式　様子　模様	
	さま	様　〇〇様	
踊	ヨウ	舞踊	
	おどる	踊る	↔躍る
	おどり	踊り	
窯	ヨウ	窯業	
	かま	窯	
養　4	ヨウ	養育　養子　休養	
	やしなう	養う	
擁	ヨウ	擁護　擁立　抱擁	
謡（謠）	ヨウ	謡曲　民謡　歌謡	
	うたい	謡　素謡	
	うたう⊕	謡う	↔歌う
曜　2	ヨウ	曜日　七曜表　日曜	
抑	ヨク	抑圧　抑制　抑揚	
	おさえる	抑える　抑え	↔押さえる
浴　4	ヨク	浴場　海水浴	浴衣
	あびる	浴びる　水浴び	
	あびせる	浴びせる	
欲　6	ヨク	欲望　食欲　無欲	
	ほっする	欲する	
	ほしい	欲しい　欲しがる	
翌　6	ヨク	翌春　翌年　翌々日	
翼	ヨク	左翼　尾翼	
	つばさ	翼	
裸	ラ	裸身　裸体　赤裸々	
	はだか	裸　丸裸	
羅⊕	ラ	羅列　羅針盤　網羅	
来（來）　2	ライ	来年　来歴　往来	
	くる	来る　出来心	
	きたる	来る〇日	
	きたす	来す	
雷	ライ	雷雨　雷名　魚雷	

漢字	学年	音訓	例	備考
		かみなり	雷	
頼（賴）		ライ	依頼　信頼　無頼漢	
		たのむ	頼む　頼み	
		たのもしい	頼もしい	
		たよる	頼る　頼り	
絡		ラク	連絡　脈絡	
		からむ	絡む　絡み付く	
		からまる	絡まる	
落	3	ラク	落語　落涙　集落	
		おちる	落ちる　落ち着く	
		おとす	落とす　力落とし	
酪		ラク	酪農	
乱（亂）	6	ラン	乱戦　混乱　反乱	
		みだれる	乱れる　乱れ	
		みだす	乱す	
卵	6	ラン	卵黄　鶏卵　産卵	
		たまご	卵	
覧（覽）	6	ラン	観覧　展覧　一覧	
濫		ラン	濫伐　濫費　濫用	
欄（欄）		ラン	欄干　欄外　空欄	
吏		リ	吏員　官吏　能吏	
利	4	リ	利益　鋭利　勝利	砂利
		きく	利く　左利き　口利き	↕効く
里	2	リ	里程　郷里　千里眼	
		さと	里　里心　村里	
理	2	リ	理科　理由　整理	
痢		リ	疫痢　下痢　赤痢	
裏	6	リ	裏面　表裏	
		うら	裏　裏口	
履		リ	履歴　履行　弊履	草履
		はく	履く　履物	
離		リ	離別　距離　分離	
		はなれる	離れる　離れ　乳離れ	↕放れる
		はなす	離す	↕放す
陸	4	リク	陸地　陸橋　着陸	
立	1	リツ	立案　起立　独立	
		リュウ	建立	
		たつ	立つ　立場　夕立	立ち退く　↕建つ
		たてる	立てる　立て札	↕建てる
律	6	リツ	律動　規律　法律	
		リチ	律儀	
略	5	リャク	略称　計略　侵略	
柳		リュウ	花柳界　川柳	
		やなぎ	柳　柳腰	
流	3	リュウ	流行　流動　電流	
		ル	流布　流転　流罪	

漢字	学年	音訓	例	備考
		ながれる	流れる　流れ	
		ながす	流す　流し	
留	5	リュウ	留意　留学　保留	
		ル	留守	
		とめる	留める　帯留め	↕止める　泊める
		とまる	留まる　歩留まり	↕止まる　泊まる
竜（龍）	⊕	リュウ	竜　竜頭蛇尾	
		たつ	竜巻	
粒		リュウ	粒子　粒々辛苦	
		つぶ	粒　豆粒	
隆（隆）		リュウ	隆起　隆盛　興隆	
硫		リュウ	硫安　硫酸　硫化銀	硫黄
旅	3	リョ	旅行　旅情　旅券	
		たび	旅　旅先　船旅	
虜（虜）		リョ	虜囚　捕虜	
慮		リョ	遠慮　考慮　無慮	
了		リョウ	了解　完了　校了	
両（兩）	3	リョウ	両親　両立　千両	
良	4	リョウ	良好　良心　優良	野良
		よい	良い	↕善い
料	4	リョウ	料金　料理　材料	
涼		リョウ	涼味　清涼剤　納涼	
		すずしい	涼しい　涼しさ	

漢字	学年	音訓	例	備考
		すずむ	涼む　夕涼み	
猟（獵）		リョウ	猟師　狩猟　渉猟	
陵		リョウ	陵墓　丘陵	
		みささぎ	陵	
量	4	リョウ	量産　測量　度量	
		はかる	量る	↕計る　測る　図る　謀る
僚		リョウ	僚友　官僚　同僚	
領	5	リョウ	領土　要領　大統領	
寮		リョウ	寮生　寮母　独身寮	
療		リョウ	療養　医療　治療	
糧		リョウ	糧食　糧道	
		ロウ	兵糧	
		かて	糧	
力	1	リョク	権力　努力　能力	
		リキ	力量　力作　馬力	
		ちから	力　力仕事　底力	
緑（綠）	3	リョク	緑茶　緑陰　新緑	
		ロク	緑青	
		みどり	緑　薄緑	
林	1	リン	林業　林立　山林	
		はやし	林　松林	
厘		リン	一分一厘	
倫		リン	倫理　人倫　絶倫	

見出し	漢字	学年	音訓	例	備考
リン	輪	4	リン	輪番 一輪 車輪	
			わ	輪 輪切り 首輪	
	隣		リン	隣室 隣接 近隣	
			となる	隣り合う	
			となり	隣 両隣	
	臨	6	リン	臨時 臨床 君臨	
			のぞむ	臨む	
ルイ	涙（淚）		ルイ	感涙 声涙 落涙	
			なみだ	涙 涙ぐむ 涙ぐましい	
	累		ルイ	累計 累積 係累	
	塁（壘）		ルイ	塁審 敵塁 土塁	
	類（類）	4	ルイ	類型 種類 分類	
レイ	令	4	レイ	令嬢 法令 命令	
	礼（禮）	3	レイ	礼儀 謝礼 無礼	
			ライ	礼賛 礼拝	「礼拝」は、「レイハイ」とも
	冷	4	レイ	冷却 冷淡 寒冷	
			つめたい	冷たい 冷たさ	
			ひえる	冷える 底冷え	
			ひや	冷や 冷や汗 冷ややかだ	
			ひやす	冷やす	
			ひやかす	冷やかす 冷やかし	
			さめる	冷める	
			さます	冷ます 湯冷まし	
	励（勵）		レイ	励行 奨励 精励	
			はげむ	励む 励み	
			はげます	励ます 励まし	
	戻（戾）⊕		レイ	戻入 返戻	
			もどす	戻す 差し戻し	
			もどる	戻る 後戻り	
	例	4	レイ	例外 例年 用例	
			たとえる	例える 例え 例えば	
	鈴		レイ	電鈴 振鈴 予鈴	
			リン	風鈴 呼び鈴	
			すず	鈴	
	零		レイ	零下 零細 零落	
	霊（靈）		レイ	霊感 霊魂 霊長類	
			リョウ	悪霊 死霊	
			たま	霊 霊屋	
	隷		レイ	隷書 隷属 奴隷	
	齢（齡）		レイ	樹齢 年齢 妙齢	
	麗		レイ	麗人 端麗 美麗	
			うるわしい	麗しい 麗しさ	
レキ	暦（曆）		レキ	暦年 還暦 太陽暦	
			こよみ	暦 花暦	
	歴（歷）	4	レキ	歴史 歴訪 経歴	
レツ	列	3	レツ	列外 列車 陳列	

漢字	学年	音訓	例	備考
劣		レツ	劣等 卑劣 優劣	
		おとる	劣る	
烈		レツ	烈火 壮烈 猛烈	
裂		レツ	決裂 破裂 分裂	
		さく	裂く 八つ裂き	↕割く
		さける	裂ける 裂け目	
恋（戀）		レン	恋愛 恋慕 失恋	
		こう	恋い慕う 恋い焦がれる	
		こい	恋 初恋 恋する	
		こいしい	恋しい 恋しがる	
連	4	レン	連合 連続 関連	
		つらなる	連なる	
		つらねる	連ねる	
		つれる	連れる 連れ	
廉		レン	廉価 清廉 破廉恥	
練（練）	3	レン	練習 試練 熟練	
		ねる	練る 練り直す	
錬（鍊）		レン	錬金術 鍛錬 精錬	
炉（爐）		ロ	炉辺 暖炉 原子炉	
路	3	ロ	路上 道路	
		じ	家路 旅路 山路	
露		ロ	露出 露店 雨露	
		ロウ＋	披露	
		つゆ	露 夜露	
老	4	ロウ	老巧 老人 長老	
		おいる	老いる 老い	
		ふける	老ける 老け役	
労（勞）	4	ロウ	労働 労力 疲労	
郎（郞）		ロウ	新郎	
朗（朗）	6	ロウ	朗読 朗々と 明朗	
		ほがらか	朗らかだ 朗らかさ	
浪		ロウ	浪費 波浪 放浪	
廊（廊）		ロウ	廊下 回廊 画廊	
楼（樓）		ロウ	楼閣 鐘楼 望楼	
漏		ロウ	漏電 疎漏 脱漏	
		もる	漏る 雨漏り	
		もれる	漏れる	
		もらす	漏らす	
六	1	ロク	六月 六法 丈六	
		む	六月目	
		むつ	六つ切り	
		むっつ	六つ	
		むい	六日	
録（錄）	4	ロク	録音 記録 実録	
論	6	ロン	論証 論理 議論	
和	3	ワ	和解 和服 柔和	日和、大和絵、大和魂等

漢字	音訓	例
	オ⊕	和尚
	やわらぐ	和らぐ
	やわらげる	和らげる
	なごむ	和む
	なごやか	和やかだ
話 2	ワ	話題　会話　童話
	はなす	話す　話し合い
	はなし	話　昔話　立ち話
賄	ワイ	収賄　贈賄
	まかなう	賄う　賄い
惑	ワク	惑星　迷惑　誘惑
	まどう	惑う　惑い
枠⊕	わく	枠　枠内　窓枠
湾（灣）	ワン	湾内　湾入　港湾
腕	ワン	腕章　腕力　敏腕
	うで	腕　腕前　細腕

付表

読み	語
あす	明日
あずき	小豆
あま	海女
いおう	硫黄
いくじ	意気地
いちげんこじ	一言居士
いなか	田舎
いぶき	息吹
うなばら	海原
うば	乳母
うわき	浮気
うわつく	浮つく
えがお	笑顔
おかあさん	お母さん
おじ	叔父／伯父
おとうさん	お父さん
おとな	大人
おとめ	乙女
おば	叔母／伯母
おまわりさん	お巡りさん
おみき	お神酒
おもや	母屋／母家
かぐら	神楽
かし	河岸
かぜ	風邪
かな	仮名
かや	蚊帳
かわせ	為替
かわら	河原／川原
きのう	昨日
きょう	今日
くだもの	果物
くろうと	玄人
けさ	今朝
けしき	景色
ここち	心地
ことし	今年
さおとめ	早乙女
ざこ	雑魚
さじき	桟敷
さしつかえる	差し支える
さつきばれ	五月晴れ
さなえ	早苗
さみだれ	五月雨
しぐれ	時雨
しない	竹刀
しばふ	芝生
しみず	清水
しゃみせん	三味線
じゃり	砂利
じゅず	数珠
じょうず	上手
しらが	白髪
しろうと	素人
しわす（「しはす」とも言う。）	師走
すきや	数寄屋／数奇屋
すもう	相撲
ぞうり	草履

読み	表記
だし	山車
たち	太刀
たちのく	立ち退く
たなばた	七夕
たび	足袋
ちご	稚児
ついたち	一日
つきやま	築山
つゆ	梅雨
でこぼこ	凸凹
てつだう	手伝う
てんません	伝馬船
とあみ	投網
とえはたえ	十重二十重
どきょう	読経
とけい	時計
ともだち	友達
なこうど	仲人
なごり	名残
なだれ	雪崩
にいさん	兄さん
ねえさん	姉さん
のら	野良
のりと	祝詞
はかせ	博士
はたち	二十／二十歳
はつか	二十日
はとば	波止場
ひとり	一人
ひより	日和
ふたり	二人
ふつか	二日
ふぶき	吹雪
へた	下手
へや	部屋
まいご	迷子
まっか	真っ赤
まっさお	真っ青
みやげ	土産
むすこ	息子
めがね	眼鏡
もさ	猛者
もみじ	紅葉
もめん	木綿
もより	最寄り
やおちょう	八百長
やおや	八百屋
やまと＝	大和＝（大和絵 大和魂等）
ゆかた	浴衣
ゆくえ	行方
よせ	寄席
わこうど	若人

書体について

書き文字の書体は、楷書(かいしょ)体・行書体・草書体の三つに分けられる。楷書体は点画をくずさずに、きっちりと書いたもの、行書体は点画を少しくずしたもの、草書体は点画を極端にくずして、続け書きにしたものである。

和文活字でよく用いられる書体には、次の四つがある。

1　明朝(みんちょう)体　荒海や佐渡に横たふ天の川
2　楷書体　(1) 正楷体　荒海や佐渡に横たふ天の川
　　　　　(2) 教科書体　荒海や佐渡に横たふ天の川
3　ゴシック体　**荒海や佐渡に横たふ天の川**
　（丸ゴシック体　**荒海や佐渡に横たふ天の川**）
4　アンチック体　**あらうみやさどにヨコタフアマノガ**

1は読みやすいので書籍・新聞・雑誌などに最もよく用いられる書体である。2の正楷体はあいさつ状・年賀状・名刺などに、教科書体は小学校の教科書などに、3は小見出しや、文中で特に注意させたい箇所などに用いられる。4は平仮名と片仮名しかないが、辞書の見出しや子供の本などに用いられる。

以上のほかに、清朝(せいちょう)体（楷書体の一種）・宋朝(そうちょう)体・隷書体・行書体などがあり、名刺や年賀状などに用いられる。なお、草書体は読みにくいので、ほとんど用いられない。

（三省堂編修所解説）

当用漢字表等　と　常用漢字表　との対比

・「常用漢字表」（昭和五六年一〇月一日内閣告示）の制定に伴い、「当用漢字表」（昭和二一年一一月一六日内閣告示）のほかに、字体を定めた「当用漢字字体表」（昭和二四年四月二八日内閣告示）、音訓や語例を示した「当用漢字音訓表」（昭和四八年六月一八日内閣告示）も廃止された。

・ここに掲げたのはそれらの特徴を対比した表で、三省堂編修所で作成したものである。なお、〔 〕中の「答申」とは、昭和五六年三月二三日付、国語審議会から文部大臣への答申をさす。

（三省堂編修所注）

一　性格と運用

当用漢字表

・字種（一八五〇字）を示した表である。

・現代国語を書き表すために、日常使用する漢字の範囲を、次のように定める。（告示文）

・この表は、法令・公用文書・新聞・雑誌及び一般社会で、使用する漢字の範囲を示したものである。（まえがき 第1項）

・この表の漢字で書き表せない言葉は、別の言葉に替えるか、又は、仮名書きにする。（使用上の注意事項 イ）

・専門用語については、この表を基準として、

常用漢字表

・字種（一九四五字）・字体・音訓・語例等を総合的に示した表である。

・法令・公用文書・新聞・雑誌・放送など、一般の社会生活において、現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安を示すものである。

〔「目安」の補足説明として、答申に「法令・公用文書・新聞・雑誌・放送等、一般の社会生活において、この表を無視してほしいままに漢字を使用してもよいというのではなく、この表を努力目標として尊重することが期待されるものである」「この表を基に、実情に応じて独自の漢字使用の取決めをそれぞれ作成するなど、分野によってこの表の扱い方に差を生ずることを妨げないものである」とある。〕

・この表の運用に当たっては、個々の事情に応じて適切な考慮を加える余地のあるものである。

・科学・技術・芸術その他の各種専門分野や個々人の表記にまで及ぼそ

整理することが望ましい。（使用上の注意事項　チ）

・固有名詞については、法規上その他に関係するところが大きいので、別に考えることとした。（まえがき　第3項）

・振り仮名は、原則として使わない。（使用上の注意事項　ト）

・当て字は仮名書きにする。（使用上の注意事項　へ）

・代名詞・副詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞は、なるべく仮名書きにする。（使用上の注意事項　ロ）

・動植物の名称は、仮名書きにする。（使用上の注意事項　ホ）

うとするものではない。

・過去の著作や文書における漢字使用を否定するものではない。

・固有名詞を対象とするものではない。

・告示では触れていない。

〔答申には「読みにくいと思われるような場合は、必要に応じて振り仮名を用いるような配慮をするのも一つの方法であろう。」とある。〕

・「付表」に、いわゆる当て字や熟字訓など、主として一字一字の音訓として挙げにくいものを語の形で掲げた。

・代名詞・副詞・接続詞で広く使用されるものは語例として漢字で掲げてある。

・感動詞・助動詞・助詞は語例欄にも掲げられていない。

〔答申には「感動詞・助動詞・助詞のための字種や音訓は取り上げない」とあり、仮名書きが普通と考えられているのであろう。〕

・語例として漢字で掲げてある。

〔以上の「性格と運用」は、「当用漢字音訓表」（昭和四八年内閣告示）とほとんど同じである。〕

二　字　体

当用漢字字体表

・当用漢字について、字体の標準を示した。

・一八五〇字のうち約五〇〇字について略体の採用、点画の整理などを行った。

常用漢字表

・「当用漢字字体表」の字体は変更しない。（例外、燈→灯）

・「当用漢字表」より増えた漢字については、「当用漢字字体表」に準じて略体の採用や点画の整理を行ったものがある。（缶 縄 蛍 壌など）

・字体は、活字字体のもとになる形で示してある。
・この表の字体を筆写（楷書（かいしょ））の標準とする際には、点画の長短・方向・曲直、つけるかはなすか、とめるかはねるか、とめるかはらうか等について、必ずしも拘束しないものがある。

・字体は、明朝（みんちょう）体活字の一種を例に用いて現代の通用字体を示した。
・字体は文字の骨組みであるから、各種明朝体活字のデザイン上の差異は問題にする必要がない。
・明朝体活字の形と筆写の楷書の間には、印刷上・手書き上の習慣の相違に基づく違いがある。
・筆写の楷書では、点画の長短・方向、つけるかはなすか、はらうかとめるか、はねるかとめるか等について、いろいろな書き方がある。

三　当用漢字（音訓）表より増えた漢字

・「常用漢字表」では、「当用漢字（音訓）表」より漢字が九五字増えている。ここには、増えた漢字とその音訓・語例・備考を抜粋して掲げた。
・（　）は「常用漢字表」に添えられた康熙字典体、〔　〕は三省堂編修所で添えた、一般に通用している字体である。（三省堂編修所注）

漢字	音訓	語例
猿	エン	野猿　類人猿　犬猿の仲
	さる	猿
凹	オウ	凹凸　凹面鏡　凹レンズ
渦	カ	渦中
	うず	渦　渦潮　渦巻く
靴	カ	製靴
	くつ	靴　靴下　革靴
稼	カ	稼業　稼動
	かせぐ	稼ぐ　稼ぎ
拐〔拐〕〔拐〕	カイ	拐帯　誘拐
涯	ガイ	生涯
垣	かき	垣　垣根
殻（殼）	カク	甲殻　地殻
	から	殻　貝殻
潟	かた	干潟　○○潟
喝（喝）	カツ	喝破　一喝　恐喝
褐（褐）	カツ	褐色　茶褐色
缶（罐）	カン	缶　缶詰　製缶
頑	ガン	頑強　頑健　頑固
挟（挾）	キョウ	挟撃

漢字	音訓	例	備考
	はさむ はさまる	挟む 挟まる	
矯	キョウ ためる	矯正　奇矯 矯める　矯め直す	
襟	キン えり	襟度　開襟　胸襟 襟　襟首	
隅	グウ すみ	一隅 隅　片隅	
渓(溪)	ケイ	渓谷　渓流　雪渓	
蛍(螢)	ケイ ほたる	蛍光灯　蛍光塗料 蛍	
嫌〔嫌〕	ケン ゲン きらう いや	嫌悪　嫌疑 機嫌 嫌う　嫌い 嫌だ　嫌がる　嫌気がさす	
洪	コウ	洪水　洪積層	
溝〔溝〕	コウ みぞ	下水溝　排水溝 溝	
昆	コン	昆虫　昆布	「昆布」は、「コブ」とも。
崎	さき	○○崎	
皿	さら	皿　灰皿	
桟(棧)	サン	桟　桟橋	
傘	サン	傘下　落下傘	

漢字	音訓	例	備考
	かさ	傘　雨傘　日傘	
肢	シ	肢体　下肢　選択肢	
遮〔遮〕	シャ さえぎる	遮断 遮る	
蛇	ジャ ダ へび	蛇の目　蛇腹　大蛇 蛇行　蛇足　長蛇 蛇	
酌〔酌〕	シャク くむ	酌量　晩酌 酌む　酌み交わす	
汁	ジュウ しる	果汁　墨汁 汁　汁粉	
塾	ジュク	塾　私塾	
尚〔尚〕	ショウ	尚早　高尚	
宵〔宵〕	ショウ よい	徹宵 宵	
縄(繩)	ジョウ なわ	縄文　自縄自縛 縄　縄張	
壌(壤)	ジョウ	土壌	
唇	シン くちびる	口唇 唇	
甚	ジン はなはだ はなはだしい	甚大　激甚　幸甚 甚だ 甚だしい	
据	すえる	据える　据え置く	

漢字	音訓	例	備考
	すわる	据わる　据わり	↕座る
杉	すぎ	杉　杉並木	
斉(齊)	セイ	斉唱　一斉	
逝〔逝〕	セイ	逝去　急逝　長逝	
	ゆく	逝く	↕行く
仙	セン	仙骨　仙人　酒仙	
栓〔栓〕	セン	栓　給水栓　消火栓	
挿〔插〕	ソウ	挿入　挿話	
	さす	挿す　挿絵　挿し木	↕差す　刺す　指す
曹	ソウ	法曹　法曹界　陸曹	
槽	ソウ	水槽　浴槽	
藻〔藻〕	ソウ	藻類　海藻　詞藻	
	も	藻	
駄	ダ	駄菓子　駄作　無駄	
濯〔濯〕	タク	洗濯	
棚〔棚〕	たな	棚　戸棚　大陸棚	
挑	チョウ	挑戦　挑発	
	いどむ	挑む	
眺	チョウ	眺望	
	ながめる	眺める　眺め	
釣〔釣〕	チョウ	釣果　釣魚　釣艇	
	つる	釣る　釣り　釣り合い	
塚(塚)	つか	塚　貝塚	

漢字	音訓	例	備考
漬	つける	漬ける　漬物	
	つかる	漬かる	
亭	テイ	亭主　料亭	
偵	テイ	偵察　探偵　内偵	
泥	デイ	泥土　雲泥　拘泥	
	どろ	泥　泥沼　泥棒	
搭〔搭〕	トウ	搭載　搭乗　搭乗券	
棟	トウ	上棟　病棟	
	むね	棟　別棟	
	むな	棟木	
洞	ドウ	洞穴　洞察　空洞	
	ほら	洞穴	
凸	トツ	凸版　凸レンズ　凹凸	
屯	トン	駐屯　駐屯地	
把	ハ	把握　把持　一把(ワ)　三把(バ)　十把(パ)	「把(ハ)」は、前に来る音によって「ワ」、「バ」、「パ」になる。
覇(霸)〔覇〕	ハ	覇権　覇者　制覇	
漠〔漠〕	バク	漠然　広漠　砂漠	
肌	はだ	肌　肌色　地肌	
鉢	ハチ	鉢　植木鉢	
	ハツ	衣鉢	
披	ヒ	披見　披露　直披	

漢字・音訓	例	備考
扉〔扉〕ヒ	開扉　門扉	
とびら	扉	
猫〔猫〕ビョウ	愛猫	
ねこ	猫	
頻〔頻〕ヒン	頻度　頻発　頻繁	
瓶〔瓶〕ビン	瓶　瓶詰　花瓶	
雰　フン	雰囲気	
塀〔塀〕ヘイ	塀　板塀	
泡〔泡〕ホウ	気泡　水泡　発泡	
あわ	泡　泡立つ	
俸　ホウ	俸給　年俸　本俸	
褒〔褒〕ホウ	褒章　褒美　過褒	
ほめる	褒める	
朴　ボク	純朴　素朴	
僕　ボク	僕　公僕	
堀　ほり	堀　外堀　釣堀	
磨〔磨〕マ	研磨	
みがく	磨く　磨き粉	
抹　マツ	抹殺　抹消　一抹	
岬　みさき	岬	
妄〔妄〕モウ	妄信　妄想　迷妄	「妄言」は、「モウゲン」とも。
ボウ	妄言	
厄　ヤク	厄　厄年　災厄	
癒〔癒〕ユ	癒着　治癒　平癒	
悠　ユウ	悠然　悠長　悠々	
羅　ラ	羅列　羅針盤　網羅	
竜〔龍〕リュウ	竜　竜頭蛇尾	
たつ	竜巻	
戻〔戻〕レイ	戻入　返戻	
もどす	戻す　差し戻し	
もどる	戻る　後戻り	
枠　わく	枠　枠内　窓枠	

四　当用漢字音訓表より増減した音訓など

1　増えた音訓

栄　はえる　　危　あやぶむ　　憩　いこう

香　かおる　　愁　うれえる　　謡　うたう

露　ロウ〔披露〕　　和　オ〔和尚〕

2　減った訓

膚　はだ　　盲　めくら

3　増えた「付表」の語

おじ{叔父/伯父}　　おば{叔母/伯母}

さじき　桟敷　　でこぼこ　凸凹

4　字体が変更になった字

燈　→　灯

当用漢字表

・昭和二一年一一月一六日内閣告示第三二号から抜粋。「日常使用する漢字の範囲」を制限したものである。
・これに代わるものとして、昭和五六年一〇月一日に「常用漢字表」が制定され、「当用漢字表」は廃止された。
・両者の違いについては一〇〇ページを参照されたい。（三省堂編修所注）

まえがき

一、この表は、法令・公用文書・新聞・雑誌および一般社会で、使用する漢字の範囲を示したものである。
一、この表は、今日の国民生活の上で、漢字の制限があまり無理がなく行われることをめやすとして選んだものである。
一、固有名詞については、法規上その他に関係するところが大きいので、別に考えることとした。
一、簡易字体については、現在慣用されているものの中から採用し、これを本体として、参考のため原字をその下に掲げた。
一、字体と音訓との整理については、調査中である。

使用上の注意事項

イ、この表の漢字で書きあらわせないことばは、別のことばにかえるか、または、かな書きにする。
ロ、代名詞・副詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞は、なるべくかな書きにする。
ハ、外国（中華民国を除く）の地名・人名は、かな書きにする。
　ただし、「米国」「英米」等の用例は、従来の慣習に従ってもさしつかえない。
ニ、外来語は、かな書きにする。
ホ、動植物の名称は、かな書きにする。
ヘ、あて字は、かな書きにする。
ト、ふりがなは、原則として使わない。
チ、専門用語については、この表を基準として、整理することが望ましい。

（以下表は省略）

常用漢字の筆順

・筆順は正確で整った字を書くためのものである。楷書(かいしょ)の場合、上から下へ、左から右へ、外から内へというのが大体の原則である。しかし、必ずしも一つの漢字に一つの筆順しかないというわけではない。本書では、常用漢字の、通用と認められる筆順を示した。

・次掲の「一」「二」は、文部省編「筆順指導の手びき」(昭和三三年三月刊)から抜粋した。「三」の教育漢字の筆順もこれによったが、より分かりやすいようにと工夫した。

・教育漢字以外の常用漢字の筆順も、右の本に準じた。

・全体を通して、東京学芸大学の鈴木真喜男教授の助言と、荒尾禎秀講師の援助を受けた。

(三省堂編修所注)

一 使用上の留意点

1 本書に取りあげた筆順は、学習指導上の観点から、一つの文字については一つの形に統一されているが、このことは本書に掲げられた以外の筆順で、従来行われてきたものを誤りとするものではない。

2 本書に示されたものは、楷書体の筆順であるが、行書体では一部筆順のかわるものもある。その場合でも、新字体から著しくかけ離れた形のものは望ましくない。

3 原則では、当用漢字別表(いわゆる教育漢字)のすべてを例としてはあげてないが、他の文字の理論的な面については、原則および一覧表とを考えあわせて類推理解することができる。

4 当用漢字別表の漢字以外の当用漢字についても、原則や一覧表によって、適正な筆順を類推することができる。

5 本書の原則において取りあげている点画の名称は、次に記すとおりである。

点(てん)

横画(よこかく・おうかく→「横(よこ)」「よこぼう」)

縦画(たてかく・じゅうかく→「縦(たて)」「たてぼう」)

左払い(「人」の第1画に相当する画で、方向・長さには、いろいろある。)

右払い(「人」の第2画に相当する画で、方向・長さには、いろいろある。)

6 その他、次の名称も適当に取り入れて説明指導することがよい。

(折れ)　(はね)　(とめ)

(曲がり)　(はらい)

二　筆順の原則

大原則　１　上から下へ

上から下へ（上の部分から下の部分へ）書いていく。

a　上の点画から。

三 一 二 三　言

工 一 丅 工

b　上の部分から。

喜 士 吉 吉 壴 喜

客 宀 安 客

築 ⺮ 筑 築

大原則　２　左から右へ

左から右へ（左の部分から右の部分へ）書いていく。

a　左の点画から。

川 丿 川 川　順 州

学 丶 丷 ⺍　挙 魚 1234

帯 一 卄 卅 卌

脈 𠂆 𠂢 𠂢

b　左の部分から。

竹 ケ 竹　羽

休 亻 休　語

例 亻 伢 例　湖 術

原則　１　横画がさき

横画と縦画とが交差する場合は、ほとんどの場合、横画をさきに書く。（横画があとになるのは原則２の場合）

a　横・縦の順

十 一 十　計 古 支 草

土 一 十 土　圧 舎 周

士 一 十 士　志 吉 喜

七 一 七　切

大 一 ナ 大　太

告 ノ ⺧ 牛 生　任 庭

木 一 十 木　述

寸 一 寸 寸　寺

b　横・縦・縦の順

共 一 卄 共　散 港

編 冂 円 冊

花 一 卄　荷

算 一 廾　形 鼻

帯 一 卄 卌 帯

無 𠂉 無 無

c　横・横・縦の順

用 冂 月 用　通

末 一 二 キ 末　未 妹

耕 三 丰 耒

夫 二 夫 夫　春 実

d　横・横・縦・縦の順

耕 二 井　囲

原則　２　横画があと

横画と縦画とが交差したときは、次の場合に限って、横画をあとに書く。

a　田

田 冂 田 田 田　男 町 細

b　田の発展したもの

由 冂 巾 由 由　黄 画

曲 冂 巾 曲 曲 曲　豊

角 ⺈ 用 用 用　解

再 冂 再 再 再　構

c　王

王 一 丅 干 王　玉 美

d　王の発展したもの

王* 一 丅 干 王 王

進 亻 什 隹 隹　集 観

馬 厂 F 馬 馬　駅

主* 一 十 キ 主　生 麦

表 清 星

井* 一 十 廾 丼 丼　寒

構

原則　３　中がさき

中と左右があって、左右が１、２画である場合は、中をさきに書く。

小 亅 小 小　少京示
宗系細
当 ' ⺌ ⺌　光常
水 亅 才 水　氷永
氺* 亅 ⺀ 氺　緑暴
氺* 亻 氺 氺　衆
業 ⺌ ⺌ 业
赤 ⺉ ⺉ 小　変
楽 白 泊 泊　薬
承 手 矛 承　率

〔例外〕原則3には、二つの例外がある。

火 丷 火　秋炭焼
忄 忄 忄　性

原則 4　外側がさき

「くにがまえ」のように囲む形をとるものは、さきに書く。

国 冂 国 国　因
同 冂 同　円
内 冂 内　肉納
司 ㇆ 司　詞羽

〔注〕「区」は左のように書く。「医」も同じ。

区 一 ㄨ 区

原則 5　左払いがさき

左払いと右払いとが交差する場合は、左払いをさきに書く。

文 亠 ナ 文　父故支
収 処
人 ノ 人　入欠金

原則 6　つらぬく縦画は最後

字の全体をつらぬく縦画は、最後に書く。

中 口 中　申神
車半事建
書 聿 書　妻
平 豆 平　評洋達拝
手 三 手　争

上にも、下にも、つきぬけない縦画は、上部・縦画・下部の順で書く。

里 曰 甲 里　野黒
重 亩 重 重　動
謹 廿 苗 堇　勤

原則 7　つらぬく横画は最後

字の全体をつらぬく横画は、最後に書く。

女 く 女　安努
子 了 子　字存
母　毎海慣
舟　舟 船 与

〔注〕「世」だけは違う。

世 一 廿 世

原則 8　横画と左払い

横画が長く、左払いが短い字では、左払いをさきに書く。

右 ノ ナ 右　有布希

横画が短く、左払いが長い字では、横画をさきに書く。

左 一 ナ 左
友在存抜

特に注意すべき筆順

A　広く用いられる筆順が、二つ以上あるものについて

1　(A)の字は、もともと㋑の筆順だけである。

(A)　止正足走武

丨 ト……………㋑

(B)の字は㋑も㋺も行われるが、本書では(A)にあわせて、㋑をとる。

(B)　上点店

丨 ト……………㋑
ト……………㋺

2　(a)「耳」は㋑の筆順が普通である。

耳 ⾂ 耳……………㋑

(b)「みみへん」は㋑も㋺も行われるが、本書では(a)にあわせて、㋑を

とる。

取最職厳 ｛ 耳 耳 ……㋑ ／ 丌 耳 ……㋺

3 「必」の筆順は、いろいろあるが、㋩は熟しておらず、㋺よりも㋑が形をとりやすいので、本書では㋑をとる。

必 ｛ 、 ソ 义 必 必……㋑ ／ ノ 义 义 必 必……㋺ ／ 心 必……㋩ ／ その他

4 「はつがしら」の筆順は、いろいろあるが、本書では、左半と対称的で、かつ最も自然な㋑をとる。

発登 ｛ ……㋑ ／ ……㋺ ／ ……㋩

5 「感」の筆順には、㋑と㋺とがあるが、本書では、字体表の字体と一致し、大原則1にそう㋑をとる。

感 ｛ 后 咸 感……㋑ ／ 后 忎 感……㋺

6 「馬」の筆順には、㋑や㋺などがあるが、本書では、大原則1にそう㋑をとる。

馬 ｛ ｢ 𠂇 臣 馬……㋑ ／ ｢ 𠂇 馬 馬……㋺

7 「無」の筆順には、㋑や㋺などがあるが、本書では、大原則1にそう㋑をとる。

無 ｛ 𠂉 無 無 無……㋑ ／ 𠂉 𠂉 無……㋺

8 「興」の筆順としては、㋑と㋺が考えられるが、本書では大原則2にそう㋑をとる。

興 ｛ 𦥑 𦥑 興……㋑ ／ 冂 𦥑 興……㋺

B 原則では説明できないもの

1 「にょう」には、さきに書く「にょう」(a)と、あとに書く「にょう」(b)とがある。

(a) 夊 走 免 是
処 起 勉 題

(b) 辶 廴 乚
近 建 直

2 さきに書く左払い(a)と、あとに書く左払い(b)とがある。

(a) 九 及

(b) 力 刀 万 方 別

三 常用漢字の筆順表

・「当用漢字表」より増えた漢字（九五字）には⊕印をつけた。
・「学年別漢字配当表」の漢字（一〇〇六字）は赤色にし、1～6の数字で配当学年を示した。
（三省堂編修所注）

【ア】

亜 一 ｢ 冖 亜 亜 亜

哀 亠 亠 言 亨 哀 哀

愛 4 ⺈ 爫 爫 㤅 愛 愛

悪 3 一 二 亜 亜 悪 悪

漢字	学年
握	
圧	5
扱	
安	3
案	4
暗	3

【イ】

漢字	学年
以	4
衣	4
位	4
囲	4
医	3
依	
委	3
威	
胃	4
為	
尉	
異	6
移	5
偉	
意	3
違	
維	
慰	
遺	6
緯	
域	6
育	3
一	1
壱	
逸	
芋	
引	2
印	4
因	5
姻	
員	3
院	3
陰	
飲	3
隠	
韻	

【ウ】

漢字	学年
右	1
宇	6
羽	2
雨	1
運	3
雲	2

【エ】

漢字	学年
永	5
泳	3
英	4
映	6
栄	4
営	5
詠	
影	
鋭	
衛	5
易	5
疫	
益	5
液	5
駅	3
悦	
越	
謁	
閲	
円	1
延	6
沿	6
炎	
宴	
援	
園	2
煙	
猿 ⊕	
遠	2
鉛	
塩	4
演	5
縁	

【オ】

音	卸	乙	虞	憶	億	屋	横	奥	翁	桜	殴	欧	押	往	応	央	凹	王	汚
1					4	3	3			5				5	5	3		1	

【カ】

荷	家	夏	架	科	河	果	価	佳	花	何	仮	可	加	火	化	下	穏	温	恩
3	2	2		2	5	4	5		1	2	5	5	4	1	3	1		3	5

餓	雅	賀	芽	画	我	蚊	課	稼	箇	歌	寡	禍	靴	暇	嫁	過	渦	貨	菓	華
		5	4	2	6		4			2						5		4		

懐	壊	塊	解	階	開	絵	械	皆	界	海	悔	拐	怪	改	戒	快	会	灰	回	介
			5	3	3	2	4		3	2				4		5	2	6	2	

隔	較	覚	郭	⊕殻	核	格	革	拡	角	各	⊕垣	概	該	慨	街	⊕涯	害	劾	外	貝
		4				5	6	6	2	4					4		4		2	1

株	且	轄	⊕褐	滑	割	渇	⊕喝	活	括	⊕潟	掛	額	楽	岳	学	穫	嚇	獲	確	閣
6					6			2				5	2		1				5	6

換	堪	喚	寒	貫	患	勘	乾	陥	看	巻	冠	官	肝	完	⊕缶	汗	甘	刊	干	刈
			3						6	6		4		4				5	6	

簡	環	館	還	憾	緩	監	歓	関	管	慣	漢	感	幹	寛	勧	閑	間	款	棺	敢
6		3						4	4	5	3	3	5				2			

【キ】

奇	汽	忌	希	岐	気	机	危	企
	2		4		1	6	6	

願	顔	頑	眼	岩	岸	含	丸	鑑	艦	観
4	2		5	2	3		2			4

旗	棄	貴	棋	期	揮	幾	喜	規	寄	基	帰	鬼	飢	起	記	既	軌	紀	季	祈
4		6		3	6		4	5	5	5	2			3	2			4	4	

客	却	詰	喫	吉	菊	議	犠	擬	戯	儀	疑	義	欺	偽	宜	技	騎	機	輝	器
3						4					6	5				5		4		4

球	救	宮	糾	級	急	泣	究	求	朽	吸	休	旧	丘	弓	及	久	九	虐	逆	脚
3	4	3		3	3	4	3	4		6	1	5		2		5	1		5	

享	京	狂	叫	共	凶	漁	御	魚	距	許	虚	挙	拠	拒	居	巨	去	牛	窮	給
	2			4		4		2		5		4			5		3	2		4

仰	驚	響	競	鏡	⊕矯	橋	境	郷	教	強	脅	胸	恭	恐	狭	⊕挟	峡	況	協	供
			4	4		3	5	6	2	2		6							4	6

銀	吟	⊕襟	謹	緊	禁	筋	琴	勤	菌	金	近	均	斤	玉	極	局	曲	凝	業	暁
3					5	6		6		1	2	5		1	4	3	3		3	

群	郡	軍	薫	勲	訓	君	繰	掘	屈	遇	⊕隅	偶	空	愚	具	駆	苦	句	区
5	4	4			4	3							1		3		3	5	3

【ケ】

漢字	学年
兄	2
刑	
形	2
系	6
径	4
茎	
係	3
型	4
契	
計	2
恵	
啓	
掲	
渓 ⊕	
経	5
蛍 ⊕	
敬	6
景	4
軽	3
傾	
携	
継	
慶	
憩	
警	6
鶏	
芸	4
迎	
鯨	
劇	6
撃	
激	6
欠	4
穴	6
血	3
決	3
結	4
傑	
潔	5
月	1
犬	1
件	5
見	1
券	5
肩	
建	4
研	3
県	3
倹	
健	4
兼	
剣	
軒	
険	5
圏	
堅	
検	5
嫌 ⊕	
献	
絹	6
遣	
権	6
憲	6
賢	
謙	
繭	
顕	
験	4
懸	
元	2
幻	
玄	
言	2
弦	
限	5
原	2
現	5
減	5
源	6
厳	6

【コ】

漢字	学年
己	6
戸	2

悟	娯	後	呉	午	互	五	顧	鼓	誇	雇	湖	庫	個	枯	故	弧	孤	固	呼	古
		2		2		1					3	3	5		5			4	6	2

坑	行	考	江	好	后	向	光	交	甲	広	巧	功	孔	公	工	口	護	誤	語	碁
	2	2		4	6	3	2	2		2		4		2	2	1	5	6	2	

航	耕	校	候	香	郊	荒	紅	皇	⊕洪	恒	厚	侯	肯	拘	幸	効	更	攻	抗	孝
4	5	1	4				6	6			5				3	5				6

講	鋼	衡	興	稿	酵	綱	構	鉱	⊕溝	項	絞	硬	港	慌	黄	控	康	高	降	貢
5	6		5				5	5					3		2		4	2	6	

恨	昆⊕	困	今	込	骨	獄	酷	穀	黒	国	刻	谷	告	克	豪	剛	拷	合	号	購
		6	2		6			6	2	2	6	2	4					2	3	

妻	災	再	才	座	鎖	詐	差	唆	砂	査	佐	左	【サ】	懇	墾	魂	紺	混	婚	根
5	5	5	2	6			4		6	5		1						5		3

財	剤	材	在	際	載	歳	催	債	裁	最	菜	細	斎	祭	済	採	彩	栽	宰	砕
5		4	5	5					6	4	4	2		3	6	5				

三	皿⊕	雑	擦	撮	察	殺	刷	札	冊	咲	錯	搾	酢	策	索	昨	削	作	崎⊕	罪
1	3	5			4	4	4	4	6					6		4		2		5

史	仕	氏	止	支	子	士	【シ】	暫	残	賛	酸	算	散	⊕傘	産	惨	蚕	⊕桟	参	山
4	3	4	2	5	1	4			4	5	5	2	4		4		6		4	1

指	思	姿	⊕肢	祉	枝	姉	始	刺	使	私	志	伺	至	糸	死	旨	矢	市	四	司
3	2	6			5	2	3		3	6	5		6	1	3		2	2	1	4

次	寺	字	示	諮	賜	雌	誌	飼	資	詩	試	嗣	歯	詞	紫	視	脂	紙	師	施
3	2	1	5				6	5	5	3	4		3	6		6		2	5	

疾	室	失	七	軸	識	式	璽	磁	辞	慈	滋	時	持	治	侍	事	児	似	自	耳
	2	4	1		5	3		6	4			2	3	4		3	4	5	2	1

⊕				⊕																
勺	蛇	邪	謝	遮	煮	斜	赦	捨	射	者	舎	車	社	写	芝	実	質	漆	湿	執
			5					6	6	3	5	1	2	3		3	5			

																		⊕		
寿	趣	種	酒	珠	殊	首	狩	取	朱	守	主	手	寂	弱	若	爵	釈	酌	借	尺
		4	3			2		3		3	3	1		2	6				4	6

衆	就	週	習	終	修	臭	秋	拾	宗	周	秀	舟	州	囚	収	樹	儒	需	授	受
6	6	2	3	3	5		2	3	6	4			3		6	6			5	3

														⊕						
粛	淑	宿	祝	叔	縦	獣	銃	渋	従	重	柔	住	充	汁	十	襲	醜	酬	愁	集
		3	4		6				6	3		3			1					3

処	遵	潤	準	順	循	純	殉	准	盾	巡	旬	瞬	春	俊	術	述	出	熟	⊕塾	縮
6			5	4		6							2		5	5	1	6		6

床	匠	召	少	升	小	除	徐	叙	序	助	如	女	諸	緒	署	暑	庶	書	所	初
			2		1	6			5	3		1	6		6	3		2	3	4

紹	章	渉	商	唱	笑	称	祥	症	消	将	⊕宵	昭	沼	松	昇	承	招	⊕尚	肖	抄
	3		3	4	4				3	6		3		4		5	5			

礁	償	賞	衝	障	彰	詳	照	奨	傷	象	証	詔	粧	硝	焦	焼	晶	掌	勝	訟
		4		6			4		6	4	5					4			3	

醸	譲	錠	嬢	⊕壌	⊕縄	蒸	畳	場	情	常	剰	浄	城	乗	状	条	冗	丈	上	鐘
						6		2	5	5			6	3	5	5			1	

⊕唇	神	津	信	侵	辛	身	臣	伸	申	心	辱	職	織	嘱	触	飾	殖	植	食	色
	3		4			3	4		3	2		5	5					3	2	2

仁	刃	人	親	薪	震	審	新	慎	寝	診	森	進	紳	深	針	真	浸	振	娠
6		1	2				2				1	3		3	6	3			

随	錘	穂	睡	遂	酔	推	衰	粋	帥	炊	垂	吹	水	図	【ス】	尋	陣	⊕甚	迅	尽
						6					6		1	2						

【セ】

征	姓	制	声	西	成	生	正	世	井	是	瀬	畝	【セ】	寸	⊕杉	⊕据	数	崇	枢	髄
		5	2	2	4	1	1	3						6			2			

整	請	静	誓	製	精	誠	聖	勢	晴	婿	盛	清	⊕逝	省	牲	星	政	⊕斉	青	性
3		4		5	5	6	6	5	2		6	4		4		2	5		1	5

設	接	窃	拙	折	切	籍	績	積	跡	責	惜	席	隻	析	昔	赤	石	斥	夕	税
5	5			4	2		5	4		5		4			3	1	1		1	5

船	旋	⊕栓	扇	染	洗	浅	泉	専	宣	先	占	⊕仙	川	千	絶	舌	説	節	摂	雪
2				6	6	4	6	6	6	1			1	1	5	5	4	4		2

戦	践	銭	銑	潜	線	遷	選	薦	繊	鮮	全	前	善	然	禅	漸	繕
4		5			2		4				3	2	6	4			

【ソ】

阻	祖
	5

租	素	措	粗	組	疎	訴	塑	礎	双	壮	早	争	走	奏	相	荘	草	送	倉	捜
	5			2							1	4	2	6	3		1	3	4	

挿	桑	掃	曹	巣	窓	創	喪	葬	装	僧	想	層	総	遭	槽	操	燥	霜	騒	藻
⊕			⊕	4	6	6			6		3	6	5		⊕	6				⊕

造	像	増	憎	蔵	贈	臓	即	束	足	則	促	息	速	側	測	俗	族	属	賊	続
5	5	5		6		6		4	1	5		3	3	4	5		3	5		4

怠	待	耐	体	対	太	駄	惰	堕	妥	打	多	他	【タ】	損	尊	孫	村	存	率	卒
	3		2	3	2					3	2	3		5	6	4	1	6	5	4

卓	沢	択	宅	滝	題	第	台	代	大	態	滞	隊	貸	替	逮	袋	泰	帯	退	胎
			6		3	3	2	3	1	5		4	5					4	5	

誕	端	嘆	短	淡	探	胆	炭	単	担	丹	棚	奪	脱	達	但	濁	諾	濯	託	拓
6			3		6		3	4	6					4						

竹	置	稚	痴	遅	致	恥	値	知	池	地	【チ】	壇	談	暖	弾	断	段	男	団	鍛
1	4						6	2	2	2			3	6		5	6	1	5	

鋳	衷	柱	昼	注	抽	忠	宙	沖	虫	仲	中	嫡	着	茶	窒	秩	築	蓄	逐	畜
		3	2	3		6	6		1	4	1		3	2			5			

腸	超	脹	朝	鳥	頂	⊕釣	⊕眺	彫	張	帳	⊕挑	長	町	兆	庁	弔	丁	貯	著	駐
4			2	2	6				5	3		2	1	4	6		3	4	6	

⊕塚	痛	通	墜	追	【ツ】	鎮	賃	陳	朕	珍	沈	勅	直	懲	聴	調	澄	潮	徴	跳
	6	2		3			6						2			3		6		

提	堤	⊕偵	停	逓	訂	庭	帝	貞	⊕亭	邸	抵	底	定	弟	呈	低	廷	【テ】	坪	⊕漬
5			4			3						4	3	2		4				

添	展	点	店	典	天	撤	徹	鉄	哲	迭	敵	適	滴	摘	笛	的	泥⊕	締	艇	程
	6	2	2	4	1			3			5	5			3	4				5

【ト】

灯	冬	刀	怒	度	努	奴	土	塗	渡	都	途	徒	吐	斗	電	殿	伝	田	転
4	2	2		3	4		1			3		4			2		4	1	3

湯	棟⊕	搭⊕	塔	陶	盗	悼	党	透	討	桃	島	唐	凍	倒	逃	到	東	豆	投	当
3							6		6		3						2	3	3	2

働	道	童	堂	動	胴	洞⊕	同	騰	闘	謄	頭	糖	踏	稲	統	筒	等	答	登	痘
4	2	3	4	3			2				2	6			5		3	2	3	

銅 5
導 5
峠
匿
特 4
得 4
督
徳 5
篤
毒 4
独 5
読 2
凸
突
届 6
屯
豚
鈍
曇

【ナ】

内 2

南 2
軟
難 6

【ニ】

二 1
尼
弐
肉 2
日 1
入 1
乳 6
尿
任 5
妊
忍
認 6

【ネ】

寧
熱 4
年 1
念 4

粘
燃 5

【ノ】

悩
納 6
能 5
脳 6
農 3
濃

【ハ】

把
波 3
派 6
破 5
覇
馬 2
婆
拝 6
杯
背 6
肺 6

俳 6
配 3
排
敗 4
廃
輩
売 2
倍 3
梅 4
培
陪
媒
買 2
賠
白 1
伯
拍
泊
迫
舶
博 4

伴	帆	犯	半	反	閥	罰	抜	伐	髪	発	⊕鉢	八	⊕肌	畑	箱	爆	縛	⊕漠	麦	薄
		5	2	3						3		1		3	3				2	

比	【ヒ】	盤	蛮	番	晩	藩	繁	範	頒	煩	搬	飯	販	般	畔	班	版	板	坂	判
5				2	6							4				6	5	3	3	5

美	尾	避	罷	碑	費	⊕扉	悲	被	秘	疲	飛	卑	非	肥	⊕披	彼	批	否	妃	皮
3					4		3		6		4		5	5			6	6		3

⊕猫	描	病	秒	苗	標	漂	評	票	俵	表	氷	百	姫	筆	泌	必	匹	鼻	微	備
		3	3		4		5	4	5	3	3	1		3		4		3		5

漢字	品	浜	貧	賓	頻	敏	瓶
学年	3		5		⊕		⊕

【フ】

漢字	不	夫	父	付	布	扶	府	怖	附	負	赴	浮	婦
学年	4	4	2	4	5		4			3			5

漢字	符	富	普	腐	敷	膚	賦	譜	侮	武	部	舞	封	風	伏	服	副	幅	復	福	腹
学年		5								5	3			2		3	4		5	3	6

漢字	複	覆	払	沸	仏	物	粉	紛	雰	噴	墳	憤	奮	分	文	聞
学年	5				5	3	4		⊕				6	2	1	2

【ヘ】

漢字	丙	平	兵	併
学年		3	4	

漢字	並	柄	陛	閉	塀	幣	弊	米	壁	癖	別	片	辺	返	変	偏	遍	編	弁	便	勉
学年	6		6	6	⊕			2			4	6	4	3	4			5	5	4	3

【ホ】

放	抱	宝	奉	邦	芳	包	方	簿	暮	慕	墓	募	母	舗	補	浦	捕	保	歩
3		6				4	2		6		5		2		6			5	2

防	忘	妨	坊	忙	乏	亡	縫	⊕褒	飽	豊	報	訪	崩	砲	峰	倣	⊕俸	胞	⊕泡	法
5	6					6				5	5	6								4

撲	墨	⊕僕	牧	⊕朴	木	北	謀	膨	暴	貿	棒	帽	傍	望	紡	剖	冒	某	肪	房
			4		1	2			5	5	6			4						

【マ】

⊕抹	末	又	膜	幕	埋	枚	妹	毎	魔	⊕磨	摩	麻
	4			6		6	2	2				

盆	凡	翻	奔	本	⊕堀	没
				1		

万 2　満 4　慢　漫

【ミ】

未 4　味 3　魅　岬　密 6　脈 4　妙　民 4　眠

【ム】

矛　務 5　無 4　夢 5　霧　娘

【メ】

名 1　命 3　明 2　迷 5　盟 6　銘　鳴 2　滅　免　面 3　綿 5

【モ】

茂　模 6　毛 2　妄　盲　耗　猛　網

目 1　黙　門 2　紋　問 3　匁

【ヤ】

夜 2　野 2　厄　役 3　約 4　訳 6　薬 3　躍

【ユ】

由 3　油 3　愉　諭　輸 5

癒　唯　友 2　有 3　勇 4　幽　悠　郵 6　猶　裕　遊 3　雄　誘　憂　融　優 6

【ヨ】

与　予 3　余 5　誉

曜	謡	擁	養	窯	踊	様	腰	溶	陽	葉	揺	揚	庸	容	要	洋	羊	用	幼	預
2			4			3			3	3				5	4	3	3	2	6	5

吏	【リ】	欄	濫	覧	卵	乱	酪	落	絡	頼	雷	来	⊕羅	裸	【ラ】	翼	翌	欲	浴	抑
				6	6	6		3				2					6	6	4	

慮	虜	旅	硫	隆	粒	⊕竜	留	流	柳	略	律	立	陸	離	履	裏	痢	理	里	利
		3					5	3		5	6	1	4			6		2	2	4

臨	隣	輪	倫	厘	林	緑	力	糧	療	寮	領	僚	量	陵	猟	涼	料	良	両	了
6		4			1	3	1				5		4				4	4	3	

【ル】

涙	累	塁	類
			4

【レ】

令	礼	冷	励	戻⊕	例	鈴	零	霊	隷	齢	麗	暦	歴	列
4	3	4			4								4	3

劣	烈	裂	恋	連	廉	練	錬
				4		3	

【ロ】

炉	路	露	老	労	郎	朗	浪	廊	楼	漏	六
	3		4	4		6					1

録	論
4	6

【ワ】

和	話	賄	惑	枠⊕	湾	腕
3	2					

学年	ア	イ	ウ
1		一	右雨
2		引	羽雲
3	悪安暗	医委意育員院飲	運
4	愛案	以衣位囲胃印	
5	圧	移因	
6		異遺域	宇

学年別漢字配当表

・平成元年三月一五日文部省告示「小学校学習指導要領」(平成四年四月施行)では、学年別漢字配当表の漢字（一〇〇六字）を小学校各学年で指導するように定めている。(この表の漢字を学習漢字・教育用漢字などと呼ぶ。)

・小学校では、その学年に配当されている漢字を読み、その大体を書くことができるように指導する。(必要に応じて、一学年前または後の学年で指導してもよい。)

・ここには、学年別漢字配当表の漢字を音別に並べかえ、見やすくして掲げた。

・表の「総数」とは、その学年までに配当されている漢字の総数という意味である。

・「漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること」とされている。しかし、「常用漢字表」(昭和五六年一〇月一日内閣告示)の「字体についての解説」には、「筆写の楷書では、点画の長短、方向、つけるかはなすか、はらうかとめるか、はねるかとめるか等については、いろいろな書き方がある」旨書かれており(八ページ参照)、厳密にこの「標準字体」どおりでなければならないというわけではない。漢字というものは骨組みさえしっかりしていればよく、細部の筆遣いにまでこだわる必要はない。未と末、千と干、大と丈のように別の字になってしまうものは細部まで注意する必要があるが、例えば「標準字体」の女年外宮牧を女年外宮牧と書いても一向に差し支えない。「標準字体」は、その漢字を初めて学習する児童を指導する際の手本とするために設けられたものであろう。学校で習う前にすでにその漢字を習得している児童もいることであり、書き取りテストでは、「標準字体」どおりではないからといって誤りとしてはならない。

・本告示は昭和五二年七月二三日付告示を改定したもの。旧表から一〇字（壱勧歓兼釈需称是俗弐）削られ、新たに二〇字（桜激札皿枝飼松盛昔巣装束誕笛豆梅箱並暮夢）加えられた。（三省堂編修所注）

エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	
円	王音	下火花貝学	気九休玉金	空	月犬見	五口校	左三山	子四糸字
園遠		何科夏家歌画回会海絵外角楽活間丸岩顔	汽記帰弓牛魚京強教近		兄形計元言原	戸古午後語工公広交光考行高黄合谷国黒今	才細作算	止市矢姉思紙
泳駅	央横屋温	化荷界開階寒感漢館岸	起期客究急級宮球去橋業曲局銀	区苦具君	係軽血決研県	庫湖向幸港号根	祭皿	仕死使始指歯
英栄塩	億	加果貨課芽改械害街各覚完官管関観願	希季紀喜旗器機議求泣救給挙漁共協鏡競極	訓軍郡	径型景芸欠結建健験	固功好候航康告	差菜最材昨札刷殺察参産散残	士氏史司試児治
永営衛易益液演	応往桜恩	可仮価河過賀快解格確額刊幹慣眼	基寄規技義逆久旧居許境均禁	句群	経潔件券険検限現減	故個護効厚耕鉱構興講混	査再災妻採際在財罪雑酸賛	支志枝師資飼示
映延沿		我灰拡革閣割株干巻看簡	危机揮貴疑吸供胸郷勤筋		系敬警劇激穴絹権憲源厳	己呼誤后孝皇紅降鋼刻穀骨困	砂座済裁策冊蚕	至私姿視詞誌

学年	チ	タ	ソ	セ	ス	シ
1	竹中虫町	大男	早草足村	正生青夕石赤千川先	水	耳七車手十出女小上森人
2	地池知茶昼長鳥朝直	多太体台	組走	西声星晴切雪船線前	図数	寺自時室社弱首秋週春書少場色食心新親
3	着注柱丁帳調	他打対待代第題炭短談	相送想息速族	世整昔全		詩次事持式実写者主守取酒受州拾終習集住重宿所暑助昭消商章勝乗植申身神真深進
4	置仲貯兆腸	帯隊達単	争倉巣束側続卒孫	成省清静席積折節説浅戦選然		辞失借種周祝順初松笑唱焼象照賞臣信
5	築張	退貸態団断	祖素総造像増則測属率損	制性政勢精製税責績接設舌絶銭		似識質舎謝授修述術準序招承証条状常情織職
6	値宙忠著庁頂潮賃	宅担探誕段暖	奏窓創装層操蔵臓存尊	盛聖誠宣専泉洗染善	垂推寸	磁射捨尺若樹収宗就衆従縦縮熟純処署諸除将傷障城蒸針仁

ツ	テ	ト	ナ	ニ	ネ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ
	天田	土		二日入	年		白八	百	文		木本	
通	弟店点電	刀冬当東答頭同道読	内南	肉			馬売買麦半番		父風分聞	米	歩母方北	毎妹万
追	定庭笛鉄転	都度投豆島湯登等動童				農	波配倍箱畑発反坂板	皮悲美鼻筆氷表秒病品	負部服福物	平返勉	放	
	低底停的典伝	徒努灯堂働特得毒			熱念		敗梅博飯	飛費必票標	不夫付府副粉	兵別辺変便	包法望牧	末満
	提程適敵	統銅導徳独		任	燃	能	破犯判版	比肥非備俵評貧	布婦富武復複仏	編弁	保墓報豊防貿暴	
痛	展	討党糖届	難	乳認		納脳	派拝背肺俳班晩	否批秘	腹奮	並陛閉片	補暮宝訪亡忘棒	枚幕

学年	総数	計	ワ	ロ	レ	ル	リ	ラ	ヨ	ユ	ヤ	モ	メ	ム	ミ
1	八〇	八〇		六			立力林					目	名		
2	二四〇	一六〇	話				里理	来	用曜	友	夜野	毛門	明鳴		
3	四四〇	二〇〇	和	路	礼列練		流旅両緑	落	予羊洋葉陽様	由油有遊	役薬	問	命面		味
4	六四〇	二〇〇		老労録	令冷例歴連	類	利陸良料量輪		要養浴	勇	約			無	未脈民
5	八二五	一八五					略留領		余預容	輸			迷綿	務夢	
6	一〇〇六	一八一		朗論			裏律臨	乱卵覧	幼欲翌	郵優	訳	模	盟		密

「異字同訓」の漢字の用法

・「当用漢字音訓表」が告示された昭和四八年六月一八日に「参考資料」として発表されたもので、国語審議会漢字部会の作成による。（三省堂編修所注）

1　この表は、同音で意味の近い語が、漢字で書かれる場合、その慣用上の使い分けの大体を、用例で示したものである。

2　その意味を表すのに、二つ以上の漢字のどちらを使うかが一定せず、どちらを用いてもよい場合がある。又、一方の漢字が広く一般的に用いられるのに対して、他方の漢字はある限られた範囲にしか使われないものもある。

3　その意味を表すのに、適切な漢字のない場合、又は漢字で書くことが適切でない場合がある。このときは、当然仮名で書くことになる。

あう

合う――計算が合う　目が合う　服が体に合う　好みに合う　割に合わない仕事　駅で落ち合う

会う――客と会う時刻　人に会いに行く

遭う――災難に遭う　にわか雨に遭う

あがる・あげる

上がる・上げる――地位が上がる　物価が上がる　腕前を上げる　お祝いの品物を上げる

揚がる・揚げる――花火が揚がる　歓声が揚がる　たこを揚げる　船荷を揚げる　てんぷらを揚げる

挙げる――例を挙げる　全力を挙げる　国を挙げて　犯人を挙げる

あく・あける

明く・明ける――背の明いた服　目明き千人　夜が明ける

空く・空ける――席が空く　空き箱　家を空ける　時間を空ける

開く・開ける――幕が開く　開いた口がふさがらない　店を開ける　窓を開ける

あし

足――足の裏　手足　足しげく通う　客足

脚――机の脚(足)　えり脚(足)　船脚(足)

あたい

価――価が高くて買えない　商品に価を付ける

値――そのものの持つ値　未知数xの値を求める　称賛に値する

あたたかい・あたたかだ・あたたまる・あたためる

暖かい・暖かだ・暖まる・暖める――暖かい心　暖かな

毛布　暖まった空気　室内を暖める

温かい・温かだ・温まる・温める――温かい料理　温かな家庭　心温まる話　スープを温める

あたる・あてる

当たる・当てる――ボールが体に当たる　任に当たる　予報が当たる　出発に当たって　胸に手を当てる　日光に当てる　当て外れ

充てる――建築費に充(当)てる　保安要員に充(当)てる

あつい

暑い――今年の夏は暑い　暑い部屋　暑がり屋

熱い――熱い湯

厚い――厚い壁で隔てる　支持者の層が厚い　手厚いもてなし

あと

跡――足の跡　苦心の跡が見える　容疑者の跡を追う　跡目を継ぐ

後――後の祭り　後を頼んで行く　後から行く　後になり先になり

あぶら

油――油を流したような海面　ごまの油で揚げる　水と油　火に油を注ぐ

脂――脂がのる年ごろ　牛肉の脂　脂ぎった顔

あやまる

誤る――適用を誤る　誤りを見付ける

謝る――謝って済ます　手落ちを謝る

あらい

荒い――波が荒い　気が荒い　金遣いが荒い

粗い――網の目が粗い　きめが粗い　仕事が粗い

あらわす・あらわれる

表す・表れる――言葉に表す　喜びを顔に表す　喜びの表れ

現す・現れる――姿を現す　太陽が現れる　怪獣が現れる

著す――書物を著す

ある

有る――財産が有る　子が有る　有り合わせ　有り金　有様

在る――日本はアジアの東に在る　在り方

あわせる

合わせる――手を合わせて拝む　時計を合わせる　調子を合わせる　力を合わせる

併せる――二つの会社を併せる　両者を併せて考える　併せて健康を祈る

いたむ・いためる

痛む・痛める――足が痛む　腰を痛める

傷む・傷める――家が傷む　傷んだ果物　建物を傷める

悼む――死を悼む　故人を悼む

いる

入る――念の入った話　気に入る　仲間入り　恐れ入る

要る――金が要る　保証人が要る　親の承諾が要る　何

も要らない

うける

受ける――注文を受ける　命令を受ける　保護を受ける　相談を受ける

請ける――請け負う　下請け

うつ

打つ――くぎを打つ　碁を打つ　電報を打つ　心を打つ　話　打ち消す

討つ――賊を討つ　義士の討ち入り　相手を討ち取る

撃つ――鉄砲を撃つ　いのししを猟銃で撃つ

うつす・うつる

写す・写る――書類を写す　写真を写す　風景を文章に写す　写真の中央に写っている人

映す・映る――幻燈を映す　スクリーンに映す　壁に影が映る　鏡に姿が映る　着物がよく映る

うむ・うまれる

生む・生まれる――新記録を生む　傑作を生む　下町生まれ　京都に生まれる

産む・産まれる――卵を産み付ける　産みの苦しみ　産み月　予定日が来てもなかなか産まれない

うれい・うれえ

憂い・憂え――後顧の憂い(え)　災害を招く憂い(え)がある

愁い――春の愁い　愁いに沈む

える

得る――勝利を得る　許可を得る　得物を振り回す

獲る――獲物をねらう

おかす

犯す――過ちを犯す　法を犯す

侵す――権利を侵(犯)す　国境を侵(犯)す

冒す――危険を冒す　激しい雨を冒して行く

おくる

送る――荷物を送る　卒業生を送る　順に席を送る　送り状

贈る――お祝いの品を贈る　感謝状を贈る　故人に位を贈る

おくれる

遅れる――完成が遅れる　列車が遅れる　会合に遅れる

後れる――気後れする　人に後れを取る　後れ毛

おこす・おこる

起こす・起こる――体を起こす　訴訟を起こす　朝早く起こす　事件が起こる　持病が起こる　物事の起こり

興す・興る――産業を興す　国が興る

おさえる

押さえる――紙の端を押さえる　証拠を押さえる　要点を押さえる　差し押さえる

抑える――物価の上昇を抑える　要求を抑える　怒りを抑える

おさまる・おさめる

収まる・収める――博物館に収まる　争いが収まる　効

果を収める　成功を収める　目録に収める

納まる・納める――品物が納まった　国庫に納まる　税を納める　注文の品を納める

治まる・治める――国内がよく治まる　痛みが治まる　領地を治める

修まる・修める――身持ちが修まらない　学を修める

おす

押す――ベルを押す　横車を押す　押し付けがましい

推す――会長に推す　推して知るべしだ

おどる

踊る――リズムに乗って踊る　踊らされて動く　盆踊り　踊り子

躍る――馬が躍り上がる　小躍りして喜ぶ　胸が躍る

おもて

表――裏と表　表で遊ぶ　表向き

面――面も振らずまっしぐらに　矢面に立つ

おりる・おろす

降りる・降ろす――電車を降りる　高所から飛び降りる　月面に降り立つ　霜が降りる　次の駅で降ろして下さい　主役から降ろされた

下りる・下ろす――幕が下りる　錠が下りる　許可が下りる　枝を下ろす　貯金を下ろす

卸す――小売りに卸す　卸値　たな卸し

かえす・かえる

返す・返る――もとの持ち主に返す　借金を返す　恩返し　貸した金が返る　正気に返る　返り咲き

帰す・帰る――親もとへ帰す　故郷へ帰る　帰らぬ人となる　帰り車

かえりみる

顧みる――過去を顧みる　顧みて他を言う

省みる――自らを省みる　省みて恥じるところがない

かえる・かわる

変える・変わる――形を変える　観点を変える　位置が変わる　心変わりする　声変わり　変わり種

換える・換わる――物を金に換える　名義を書き換える　車を乗り換える　金に換わる

替える・替わる――振り替える　替え地　替え歌　二の替わり　入れ替わる　社長が替わる

代える・代わる――書面をもってあいさつに代える　父に代わって言う　身代わりになる

かおる

薫る――風薫る

香り――茶の香り

（三省堂編修所注　「常用漢字表」では、「香」に訓「かおる」が掲げられている。）

かかる・かける

掛かる・掛ける――迷惑が掛かる　腰を掛ける　保険を掛ける　壁掛け　掛け売り

懸かる・懸ける――月が中天に懸かる　優勝が懸かる

賞金を懸ける　命を懸けて
架かる・架ける――橋が架かる　橋を架ける　電線を架ける
係る――本件に係る訴訟　係り結び　係員

かげ
陰――山の陰　陰の声　陰口を利く
影――障子に影が映る　影を隠す　影も形もない　影が薄い

かた
形――自由形　跡形もなく
型――型にはまる　一九七〇年型　血液型　鋳型

かたい
堅い――堅い材木　堅炭　手堅い商売
固い――団結が固い　固練り　頭が固い　固く信じる
硬い――硬い石　硬い表現

かわ
皮――皮をはぐ　とらの皮　木の皮　化けの皮　面の皮
革――革のくつ　なめし革

かわく
乾く――空気が乾く　干し物が乾く　乾いた土
渇く――のどが渇く　渇きを覚える

きく
聞く――物音を聞いた　話し声を聞く　うわさを聞く
聞き流しにする
聴く――音楽を聴く　国民の声を聴く

きく
効く――薬が効く　宣伝が効く　効き目がある
利く――左手が利く　目が利く　機転が利く

きわまる・きわめる
窮まる・窮める――進退窮まる　窮まりなき宇宙　真理を窮(究)める
極まる・極める――不都合極まる言動　山頂を極める
栄華を極める　見極める　極めて優秀な成績
究める――学を究(窮)める

くら
倉――倉敷料　倉荷証券
蔵――蔵座敷　蔵払い

こえる・こす
越える・越す――山を越える　峠を越す　年を越す　引っ越す
超える・超す――現代を超(越)える　人間の能力を超(越)える　百万円を超(越)える額　一千万人を超(越)す人口

こおる・こおり
凍る――湖水が凍る　土が凍る
氷――氷が張った　氷をかく　氷砂糖

さがす
捜す――うちの中を捜す　犯人を捜す

探す――空き家を探(捜)す　あらを探(捜)す

さく

裂く――布を裂く　仲を裂く　引き裂く
割く――時間を割く　紙面を割く　人手を割く

さげる

下げる――値段を下げる　軒に下げる
提げる――手に提げる　手提げかばん

さす

差す――腰に刀を差す　かさを差す　差しつ差されつ
　行司の差し違え　抜き差しならぬ　差し支え　差し出す
指す――目的地を指して進む　名指しをする　指し示す
刺す――人を刺す　布を刺す　本塁で刺される　とげが刺さる

さます・さめる

覚ます・覚める――太平の眠りを覚ます　迷いを覚ます
　目が覚める　寝覚めが悪い
冷ます・冷める――湯冷まし　湯が冷める　料理が冷め
　る　熱が冷める

しずまる・しずめる

静まる・静める――心が静まる　あらしが静まる　鳴り
　を静める　気を静める
鎮まる・鎮める――内乱が鎮まる　反乱を鎮める　痛み
　を鎮める
沈める――船を沈める

しぼる

絞る――手ぬぐいを絞る　絞り染め
搾る――乳を搾る　搾り取る

しまる・しめる

締まる・締める――ひもが締まる　引き締まった顔　帯
　を締める　ねじを締める　心を引き締める　申し込み
　の締め切り
絞まる・絞める――首が絞まる　首を絞める　羽交い絞め
閉まる・閉める――戸が閉まる　ふたを閉める　店を閉める

すすめる

進める――前へ進める　時計を進める　交渉を進める
勧める――入会を勧める　転地を勧める
薦める――候補者として薦める

する

刷る――名刺を刷る　刷り物
擦る――転んでひざを擦りむく　擦り傷　洋服が擦り切れる

そう

沿う――川沿いの家　線路に沿って歩く
添う――影の形に添うように　連れ添う　付き添い

そなえる・そなわる

備える・備わる――台風に備える　調度品を備える　老
　後の備え　必要品はすべて備わっている　人徳が備わる
供える――お神酒を供える　お供え物

たえる
堪える――任に堪える　鑑賞に堪えない　遺憾に堪えない
耐える――重圧に耐(堪)える　風雪に耐(堪)える　困苦欠乏に耐(堪)える

たずねる
尋ねる――道を尋ねる　由来を尋ねる　尋ね人
訪ねる――知人を訪ねる　史跡を訪ねる　明日お訪ねします

たたかう
戦う――敵と戦う
闘う――病気と闘う

たつ
断つ――退路を断つ　快刀乱麻を断つ　茶断ち
絶つ――命を絶つ　縁を絶つ　消息を絶つ　後を絶たない
裁つ――生地を裁つ　紙を裁つ　裁ちばさみ

たつ・たてる
立つ・立てる――演壇に立つ　席を立つ　使者に立つ　危機に立つ　見通しが立つ　うわさが立つ　立ち合う　柱を立てる　計画を立てる　手柄を立てる　顔を立てる　立て直す
建つ・建てる――家が建つ　ビルを建てる　銅像を建てる　建て前

たっとい・とうとい
尊い――尊い神　尊い犠牲を払う
貴い――貴い資料　貴い体験

たま
玉――玉にきず　目の玉　玉をみがく
球――電気の球　球を投げる
弾――ピストルの弾

つかう
使う――機械を使って仕事をする　重油を使う
遣う――気遣う　心遣い　小遣い銭　仮名遣い

つく・つける
付く・付ける――墨が顔に付く　味方に付く　利息が付く　名を付ける　気を付ける　条件を付ける　付け加える
着く・着ける――席に着く　手紙が着く　東京に着く　船を岸に着ける　仕事に手を着ける　衣服を身に着ける
就く・就ける――床に就く　緒に就く　職に就く　役に就ける

つぐ
次ぐ――事件が相次ぐ　富士山に次ぐ山　取り次ぐ　次の間
継ぐ――布を継ぐ　跡を継ぐ　引き継ぐ　継ぎ目　継ぎを当てる
接ぐ――木を接ぐ　骨を接ぐ　接ぎ木

つくる
作る――米を作る　規則を作る　小説を作る　まぐろを刺身に作る　生け作り
造る――船を造る　庭園を造る　酒を造る

つつしむ
慎む――身を慎む　酒を慎む　言葉を慎む
謹む――謹んで聞く　謹んで祝意を表する

つとめる
努める――完成に努める　解決に努める　努めて早起きする
勤める――会社に勤める　永年勤め上げた人　本堂でお勤めをする人　勤め人
務める――議長を務める　主役を務める　主婦の務めを果たす

とく・とける
解く・解ける――結び目を解く　包囲を解く　問題を解く　会長の任を解かれる　ひもが解ける　雪解け　疑いが解ける
溶く・溶ける――絵の具を溶く　砂糖が水に溶ける　地域社会に溶け込む

ととのう・ととのえる
整う・整える――整った文章　隊列を整える　身辺を整える　調子を整える
調う・調える――嫁入り道具が調う　晴れ着を調える　味を調える　費用を調える

とぶ
飛ぶ――鳥が空を飛ぶ　アフリカに飛ぶ　うわさが飛ぶ　海に飛び込む　家を飛び出す　飛び石
跳ぶ――みぞを跳ぶ　三段跳び　跳びはねる

とまる・とめる
止まる・止める――交通が止まる　水道が止まる　笑いが止まらない　息を止める　通行止め
留まる・留める――小鳥が木の枝に留(止)まる　ボタンを留める　留め置く　書留
泊まる・泊める――船が港に泊まる　宿直室に泊まる　友達を家に泊める

とる
取る――手に取る　着物の汚れを取る　資格を取る　メモを取る　連絡を取る　年を取る
採る――血を採る　高校の卒業生を採る　会議で決を採る
執る――筆を執る　事務を執る　式を執り行う
捕る――ねずみを捕る　生け捕る　捕り物
撮る――写真を撮る　映画を撮る

ない
無い――金が無い　無い物ねだり
亡い――亡き父をしのぶ

なおす・なおる
直す・直る――誤りを直す　機械を直す　服装を直す　故障を直す　ゆがみが直る
治す・治る――風邪を治(直)す　けがが治(直)る　治(直)らない病気

なか

中――箱の中　両者の中に入る
仲――仲がいい　仲を取り持つ　仲働き

ながい
長い――長い髪の毛　長い道　気が長い　枝が長く伸びる
永い――ついに永い眠りに就く　永の別れ　末永く契る

ならう
習う――先生にピアノを習う　見習う
倣う――前例に倣う

のせる・のる
乗せる・乗る――母を飛行機に乗せて帰す　電波に乗せる　計略に乗せる　電車に乗って行く　馬に乗る　風に乗って飛ぶ　時流に乗る　相談に乗る
載せる・載る――自動車に貨物を載せる　たなに本を載せる　雑誌に広告を載せる　机に載っている本　新聞に載った事件

のばす・のびる
伸ばす・伸びる――手足を伸ばす　勢力を伸ばす　草が伸びる　身長が伸びる　学力が伸びる　伸び伸びと育つ
延ばす・延びる――出発を延ばす　開会を延ばす　地下鉄が郊外まで延びる　寿命が延びる　支払いが延び延びになる

のぼる
上る――水銀柱が上る　損害が一億円に上る　川を上る　坂を上る　上り列車
登る――山に登る　木に登る　演壇に登る
昇る――日が昇(上)る　天に昇(上)る

はえ・はえる
映え・映える――夕映え　紅葉が夕日に映える
栄え――栄えある勝利　見事な出来栄え　見栄えがする

はかる
図る――合理化を図る　解決を図る　便宜を図る
計る――時間を計る　計り知れない恩恵　まんまと計られる
測る――水深を測る　標高を測る　距離を測る　面積を測る　測定器で測る
量る――目方を量る　升で量る　容積を量る
謀る――暗殺を謀る　悪事を謀る
諮る――審議会に諮る

はじまる・はじめ・はじめて・はじめる
初め・初めて――初めこう思った　初めての経験
始まる・始め・始める――会が始まる　始めと終わり　御用始め　仕事を始める

はな
花――花も実もない　花の都　花形
華――華やか　華々しい

はなす・はなれる
離す・離れる――間を離す　駅から遠く離れた町　離れ

島　職を離れる　離れ離れになる
放す・放れる――鳥を放す　見放す　放し飼い　矢が弦を放れる　放れ馬

はやい
早い――時期が早い　気が早い　早く起きる　早変わり　早口　矢継ぎ早
速い――流れが速い　投手の球が速い　テンポが速い　車の速さ

ひ
火――火が燃える　火に掛ける　火を見るより明らか
燈――燈がともる　遠くに町の燈が見える

ひく
引く――綱を引く　線を引く　例を引く　車を引く
弾く――ピアノを弾く　ショパンの曲を弾く

ふえる・ふやす
殖える・殖やす――財産が殖える　財産を殖やす
増える・増やす――人数が増える　水かさが増える　人数を増やす

ふく
吹く――風が吹く　笛を吹く
噴く――火を噴き出す　火山が煙を噴く

ふける
更ける――夜が更ける　秋が更ける
老ける――老けて見える　老け込む

ふた
二――二重　二目と見られない　二つ折り
双――双子　双葉

ふね
舟――舟をこぐ　小舟　ささ舟
船――船の甲板　船で帰国する　船旅　親船

ふるう
振るう――士気が振るう　事業が振るわない　刀を振るう
震う――声を震わせる　身震い　武者震い
奮う――勇気を奮って立ち向かう　奮って参加する　奮い立つ

まざる・まじる・まぜる
交ざる・交じる・交ぜる――麻が交ざっている　漢字仮名交じり文　交ぜ織り
混ざる・混じる・混ぜる――酒に水が混ざる　西洋人の血が混じる　異物が混じる　雑音が混じる　セメントに砂を混ぜる　絵の具を混ぜる

まち
町――町と村　町ぐるみの歓迎　町役場　下町
街――街を吹く風　学生の街　街の明かり

まるい
丸い――背中が丸くなる　丸く治める　丸ごと　丸太　日の丸
円い――円(丸)い窓　円(丸)く輪になる

まわり

回り——身の回り　胴回り

周り——池の周り　周りの人

みる

見る——遠くの景色を見る　エンジンの調子を見る　面倒を見る

診る——患者を診る　脈を診る

もと

下——法の下に平等　一撃の下に倒した

元——火の元　出版元　元が掛かる

本——本を正す　本と末

基——資料を基にする　基づく

や

屋——屋根　酒屋　屋敷

家——二階家　家主　家賃

やぶる・やぶれる

破る・破れる——約束を破る　障子が破れる　平和が破れる

敗れる——競技に敗れる　勝負に敗れる　人生に敗れる

やわらかい・やわらかだ

柔らかい・柔らかだ——柔らかい毛布　身のこなしが柔らかだ　物柔らかな態度

軟らかい・軟らかだ——表情が軟(柔)らかい　軟(柔)らかい話　軟(柔)らかな土

よい

良い——品質が良い　成績が良い　手際が良い

善い——善い行い　世の中のために善いことをする

よむ

読む——本を読む　字を読む　人の心を読む　秒読み

詠む——和歌を詠む　一首詠む

わかれる

分かれる——道が二つに分かれる　意見が分かれる　勝敗の分かれ目

別れる——幼い時に両親と別れる　友と駅頭で別れる　家族と別れて住む

わざ

業——至難の業　離れ業　軽業　業師

技——柔道の技　技をみがく

わずらう・わずらわす

煩う・煩わす——思い煩う　人手を煩わす　心を煩わす

患う——胸を患う　三年ほど患う

同音異義語の使い分け

・音読みが同じで意味が異なるために、使い分けに迷ったり、間違ったりすると思われる語を集めて、五十音順に配列した。
・中段に意味や使い分けのヒントを、下段にその用例を示した。＊印は「常用漢字表」外の漢字である。
・この項は三省堂編修所で作成したものである。
（三省堂編修所注）

語	意味	用例
哀惜	悲しむ	哀惜の念に堪えない
愛惜	大切にする・	愛惜の品々を手放す
異義	異なる意味	同音で異義の言葉
異議	異なる意見	異議はありませんか
偉業	立派な仕事	偉業を成し遂げる
遺業	死者が残した仕事	父の遺業を継ぐ
意思	考え	本人の意思　意思表示
意志	強い気持ち	意志の強い人　意志薄弱
遺志	生前の考え	故人の遺志を生かす
異状	変化・変調	身体には異状がない
異常	アブノーマル	性格異常者　異常乾燥
一律	一様	一律に扱う　千編一律
一率	同じ率	一率に増額する
移動	一般的	机を移動させる
異動	人事	人事異動　営業部に異動
引退	職や地位から退く	社長を引退する
隠退	俗世から身を引く	郷里に隠退する
運行	一般的	列車の運行　天体の運行
運航	船舶・航空機	連絡船の運航
営利	金もうけ	営利を目的とする
栄利	名誉と利益	栄利をむさぼる
温情	思いやり	温情主義の悪い面
恩情	いつくしみ	先生の恩情　恩情を謝す
回顧	顧みる	幼時を回顧する　回顧録
懐古	懐しむ	懐古の情　懐古趣味
会席料理	日本式の宴会で出す料理	
懐石料理	茶の湯の席で出す料理	
開帳	寺院	秘仏を開帳する　出開帳
開張	ばくち	とばく場を開張する
改定	改正	運賃を改定する
改訂	訂正	辞書を改訂する
改締	結び直し	条約を改締する
回答	返事	要求に回答する
解答	答え	正しい解答　模範解答
外灯	屋外の電灯	外灯をつける
街灯	街路灯	街灯がともる
回復	一般的	元気回復　失地の回復
快復	病気が治る	御快復を祈る
解放	自由にする	奴隷解放　民族解放運動
開放	開け放す	校庭の開放　門戸開放
科学	サイエンス	自然科学　科学技術
化学	ケミストリー	物理と化学　化学反応
夏季	季節・一般的	夏季特別大廉売
夏期	期間	夏期休暇　夏期講習会
家業	家の職業	家業に精出す　家業専従
稼業	仕事	豆腐屋稼業は朝が早い
格差	格付けの差・一般的	格差是正　賃金格差
較差	最高と最低の差	業種間較差　年較差
学習	一般的	語学の学習　学習指導
学修	修得	学修単位　学修した課程
加重	加え重ねる	刑を加重する　加重平均
過重	重すぎる	過重な労働　責任過重
荷重	限界の重量	荷重に耐える
過小	小さすぎる	過小評価　過小な資本
過少	少なすぎる	所得を過少に申告する
寡少	少ない	寡少勢力
仮説	物理学・化学	仮説を立てる
仮設	数学・論理学	命題の仮設
仮設	仮に設ける	仮設の小屋　仮設停留場
架設	敷設	鉄橋の架設　電話架設費
過程	プロセス・一般的	事件の過程　製造過程

語	意味	用例
課程	教育	中学の課程　教科課程
科料	刑の名	科料または拘留
過料	行政処分	過料に処する
観	見える	別人の観がある
感	感じる	隔世の感がある
監査	監督検査	会計監査　定期監査
鑑査	美術	出品を鑑査する　無鑑査
観察	注意深く見る	生態を観察する　保護観察
監察	監督検査	行政監察
幹事	世話役	旅行の幹事　同窓会幹事
監事	監査役	学会の監事
観賞	見て楽しむ	景色を観賞する
鑑賞	芸術品を味わう	映画を鑑賞する
感心	感服	出来栄えに感心する
関心	興味	なりゆきに関心を持つ
歓心	喜び	上役の歓心を買う
寒心	憂慮	寒心に堪えない非行問題
歓声	喜びの声	記録達成に歓声を上げる
喚声	叫び声	喚声を上げて突進する
感知	知る	計画を相手に感知された
関知	関係する	当社の関知しないことだ
議員	人	議員の特典　市議会議員
議院	国会	議院の意思　議院規則
機械	複雑なしくみ	工作機械　精密機械・
器械	道具	測定器械　器械体操
帰還	任務を終えて	本国に帰還する
帰館	自宅や旅館へ	連日深夜の御帰館

語	意味	用例
寄港	途中で寄る	横浜に寄港する
帰航	帰る	帰航の途につく
帰港	出発港に戻る	任務を終えて帰港する
規制	統制	営業を規制する　交通規制
規正	公正に	政治資金を規正する
既製	製品	既製の洋服　既製品
既成	存在	既成の事実　既成の概念
期成	やり遂げようとする	反対期成同盟
規定	個々の条項	前項の規定による
規程	規則(の題名)	退職金規程　出張規程
起点	始まる点	起点と終点　鉄道の起点
基点	距離の原点	…を基点として五キロ
急迫	差し迫る	事態が急迫する　情勢急迫
窮迫	困る	生活が窮迫する　財政窮迫
究明	明らかにする	原因を究明する　真相究明
糾明	ただす	犯人を糾明する　罪状糾明
狂喜	夢中で喜ぶ	優勝に狂喜乱舞する
驚喜	驚いて喜ぶ	思わぬ出会いに驚喜する
競争	一般的	販売競争　生存競争
競走	レース	駅伝競走　百メートル競走
共同		共同で行う　共同作業
協同		協同して行う　協同組合
脅迫	刑法	暴行脅迫　脅迫状
強迫	心理	強迫観念に悩む
局限	限る	範囲を局限して考える
極限	限界	極限に達する
極言	極端な言い方	…とまで極言する

語	意味	用例
局地	限られた土地	局地交渉　局地的の大雨
極地	南北両極の地	極地を探検する　極地法
極致	最上	快楽の極致　美の極致
訓示	職務上・書面	幹部に訓示する　訓示伝達
訓辞	教え・口頭	校長の訓辞を聞く
群集	集まる	群集する大衆　群集心理
群衆	人々	数千の群衆　群衆整理
係数	数学・物理	係数を掛ける　膨脹係数
計数	算用・数字	計数に明るい人　計数管理
決済	精算	現金で決済する　手形決済
決裁	裁定	部長が決裁する　未決裁
原形	元の形	原形をとどめない
原型	元になる型	胸像の原型　原型を作る
現状	現在の状態	現状を打破する　現状維持
現場	行われた場所	殺人の現場に急行する
原状	元の状態	原状に復する　原状回復
好意	友好心	好意を持つ　好意的
厚意	親切心	厚意を謝す　厚意に甘える
向学	学問に志す	向学心に燃える
好学	学問を好む	好学の士が集まる
後学	後輩・将来	後学のために話す
交換	取り換える	部品の交換　ちり紙交換
交歓	懇親	留学生との交歓　交歓試合
好機	チャンス	好機を逸する　好機到来
好期	よい時節	登山の好期になる
広言	相手構わず	無遠慮に広言する
公言	表立って言う	公言した手前　天下に公言

語	意味	用例
巧言	うまい口先	巧言に惑う　巧言令色
広告	宣伝	雑誌の広告　求人広告
公告	公示	官報に公告する　競売公告
考察	一般的	原因を考察する
高察	尊敬して	御高察願います
厚情	親切心	御厚情を感謝いたします
交情	交際	今後とも御交情のほどを
厚生	生活を豊かに	福利と厚生　厚生施設
更生	再起・再建	自力で更生　会社更生法
購読	買って読む	雑誌を購読する　購読料
講読	書物の講義	万葉集の講読
広報	PR	広報活動　広報車
公報	官庁からの報告	選挙公報　戦死の公報
紅葉	赤くなる	カエデが紅葉する
黄葉	黄色くなる	イチョウが黄葉する
勾*留	未決	被疑者を勾留する
拘留	刑の名	三十日未満の拘留に処す
五官	器官―目 耳 鼻 皮膚 舌	五官に感じる
五感	感覚―視 聴 臭 触 味	五感が鋭い
固持	しっかり持つ	信念を固持する
固辞	辞退	固辞して引き受けない
今期	決算期	今期の売上げ　今期は欠損
今季	シーズン	今季の首位打者
採決	可否の決定	採決の結果　強行採決
裁決	処分の決定	申請に裁決　裁決に従う
債券	借金の証書	債券の発行　電話債券
債権	貸し手の権利	債権と債務　債権者
最後	おしまい	最後を飾る　最後の願い
最期	死ぬ	壮烈な最期　最期の地
作為	つくりごと	作為の跡がある　無作為
作意	作品の意図	作意がよくわからない
作成	内容を作る	計画を作成　予算案の作成
作製	具体物を作る	受信機を作製する
試案	一般的	試案を作成する　一試案
私案	自分の案	私案にすぎない
思案	考える	思案に余る　思案顔
死角	届かない所	死角に入る　ライトの死角
視角	見える範囲	視角が広い
時期	一般的	紅葉の時期　時期尚早
時機	チャンス	時機を失する　時機到来
志向	意図	志向するところに従う
指向	向かう	一点に指向する　指向性
指示	示す	指示を与える　指示に従う
支持	支える	支持する政党
時世	時代	ありがたい御時世
時勢	成り行き	時勢に順応する
実体	実物	実体がない
実態	実際の状態	使用の実態　実態調査
辞典	ことばが主	国語辞典　英和辞典
字典	文字が主	常用漢字字典　康熙字典
事典	事柄が主	百科事典　音楽事典
試問	試験・質問	口頭試問　試問に答える
諮問	意見を聞く	審議会に諮問する
秋季	一般的・季節	秋季大運動会
秋期	期間	秋期講習会
就業	仕事をする	就業規則　就業時間
修業	身に着ける	修業年限　修業証書
終業	終わる	終業と始業　終業時刻
修正	一般的	原文を修正する　修正案
修整	写真	原板を修整する　修整液
周知	知れ渡る	周知の事実　周知徹底させる
衆知	みんなの知恵	衆知を集める
収容	一般的	負傷者を収容する　収容能力
収用	法律・強制的	土地収用法　収用権
終了	一般的	会期を終了する　試合終了
修了	学業	課程を修了する　修了証書
修業	一般的	住み込みで修業中　花嫁修業
修行	仏教・武芸	仏道を修行する　武者修行
粛正	事態が対象	綱紀を粛正する　粛正選挙
粛清	人物が対象	反対派を粛清する　血の粛清
主催	開催	農協主催　展覧会の主催者
主宰	運営管理	会議を主宰　俳誌の主宰者
主席	最高責任者	政府主席　故毛沢東主席
首席	第一位	首席で卒業　代表団首席
主題	テーマ	小説の主題　主題歌
首題	標題	首題の件について…
需要	要求	需要と供給　潜在需要
需用	入用	電力の需用者　需用者負担
春季	一般的・季節	春季大特売　春季攻勢
春期	期間	春期休暇　春期補講
紹介	引き合わせ	友人を紹介する　自己紹介

語	意味	用例
照会	問い合わせ	手紙で照会する　照会中
障害	妨げ	障害の排除　障害物競走
傷害	負傷	傷害致死　傷害事件
少額	額が少ない	多額と少額　少額の貯蓄
小額	額面が小さい	小額紙幣　小額公債
招集	一般的	総会を招集する　休日招集
召集	天皇が	国会を召集する　召集令状
条令	一般的	条令に違反する
条例	法規名	東京都条例　公安条例
初期	初めの時期	初期の症状が表れる
所期	期待	所期の目的を達成する
食料	食べ物	食料品店　生鮮食料品
食糧	主食	食糧不足　食糧の確保
所用	用事	所用のため外出する
所要	入用	所要の金額　所要時間
新規	新しい	新規に始める　新規採用
新奇	珍しい	新奇をてらう　新奇な型
信書	書状	信書の秘密　信書を開く
親書	自筆の書面	親書を携える　親書を頂く
侵食	一般的	隣国が国境を侵食する
浸食	自然が侵す	川の浸食作用
心身	精神と身体	心身鍛練　心身障害者
心神	精神	心神耗弱者　心神喪失
人身	からだ	人身事故　人身売買
人心	こころ	人心を惑わす　人心一新
深長	深い	意味深長　深長なニュアンス
慎重	じっくり	慎重に構える　慎重審議

語	意味	用例
進入	中へ	列車が進入する　進入路
侵入	無理に	敵国に侵入　怪漢が侵入
浸入	水　しみる	濁水が浸入　皮膚から浸入
進路	一般的	将来の進路　進路指導
針路	船舶・航空機	船の針路
推奨	勧める	新製品の推奨　推奨銘柄
推賞	ほめる	推賞に値する業績
制圧	一般的	反対派を制圧する
征圧	病菌	ガンを征圧する
成育	一般的	わが子の成育を見守る
生育	植物	稲の生育　苗が生育する
生気	活気	生気にあふれる　生気回復
正気	正しい気風	天地の正気　正気の歌
精気	魂	万物の精気　精気を集中
生業	職業	生業に励む　農を生業とする
正業	正当な職業	正業に就く　正業に戻る
成型	型で作る	合成樹脂の成型　成型加工
成形	形を作る	陶器の成形　プレスで成形
整形	形や機能を整える	整形外科　整形手術
精根	根気	精根が尽きる　精根不足
精魂	精神	精魂を傾ける　不屈の精魂
正座	上座・正しく座る	正座に着く　正座を崩す
静座	修養	仏前に静座する　食後の静座
製作	一般的	家具を製作する　製作費
制作	芸術	制作に没頭　絵画の制作
精算	詳しい差引計算	概算と精算　運賃の精算
清算	結末をつける	借金の清算　過去の清算

語	意味	用例
正装	正式な服装	正装の軍人　正装して臨席
盛装	晴れ着	盛装で外出　盛装を凝らす
成長	動物・一般的	子供が成長する　経済成長
生長	植物	木が生長する
正当	正しく当然	正当な理由　正当防衛
正統	正しい系統	正統を継ぐ　正統派
成年	二十歳	成年に達する　未成年
青年	若者	青年団　青年学級
勢力	勢い	勢力を伸ばす　勢力範囲
精力	活動力	精力を傾ける　精力絶倫
節制	控えめ	節制を保つ　酒を節制する
摂生	養生	病後の摂生　不摂生
潜行	一般的	地下に潜行する　敵地潜行
潜航	水中に	深海に潜航する　急速潜航
専有	一人で	専有と共有　専有する土地
占有	所持	他人の占有する物　占有権
専用	その人だけ	専用と共用　社長専用車
占用	占拠使用	道路を占用する　占用料
壮図	壮大な計画	壮図を抱く　壮図空しく
壮途	壮図の門出	壮途に就く　壮途に上る
阻害	妨げる	計画を阻害する　阻害行為
疎外	退ける	自己を疎外する　人間疎外
速成	早く仕上げる	速成を期する　速成講座
促成	成長を促す	促成栽培　促成教育
即製	その場で作る	即製のうどん　即製販売
即断	その場で	即断を下す　即断できない
速断	早まって	速断を戒める　速断するな

語	意味	用例
即決	その場で	面談の上即決　速戦即決
速決	早まって	速決を避ける
即効	一般的	特に即効がある　即効薬
速効	すぐ	速効と遅効　速効肥料
大系	シリーズ	世界文学大系　化学大系
体系	システム	学問の体系　体系的知識
体形	フォーム	体形が崩れる
体型	タイプ	体型に合わせる　標準体型
対象	オブジェクト	調査の対象　学生を対象に
対照	コントラスト	色の対照　原文と対照する
対称	シンメトリー	左右対称　対称の位置
体制	システム	資本主義体制　非常体制
態勢	身構え	決戦の態勢　協力態勢
体勢	フォーム	崩れた体勢　不利な体勢
退避	一般的	校庭に退避する　退避訓練
待避	交通	急行列車の待避　待避線
探究	きわめる	原因を探究　真理の探究
探求	求める	平和を探求　犯人の探求
丹精	心を込める	丹精したかいがある
丹誠	真心	丹誠込めて育てる
坦々*	平たい	坦々とした道路　平々坦々
淡々	あっさり	淡々たる心境　淡々と語る
徴収	取り立てる	会費を徴収する　税の徴収
徴集	集める	物資を徴集する　馬の徴集
調製	作る	靴を調製する　特別調製品
調整	整える	機械の調整　意見の調整
著名	有名	著名な学者　著名な場所

語	意味	用例
著明	はっきり	著明な事実　著明な意図
沈静	落ち着く	景気が沈静する
鎮静	落ち着かせる	神経を鎮静させる　鎮静剤
沈痛	心を痛める	沈痛な顔
鎮痛	痛みを鎮める	鎮痛剤を飲む
追究	きわめる	真理を追究する
追求	求める	利潤の追求　幸福の追求
追及	追い詰める	犯人を追及する　責任追及
定形	一定の形	定形を保つ　定形郵便物
定型	一定の型	定型どおり　定型詩
適正	正しい	適正な価格　適正に配置
適性	適した性質	適性のない人　適性検査
転化	変わる	糖分がぶどう糖に転化する
転嫁	他に負わせる	責任を転嫁する
伝染	病気	はしかが伝染する　伝染病
伝線	繊維	ほつれの伝線　靴下の伝線
伝道	宗教	キリスト教の伝道　伝道師
伝導	物理	熱の伝導　電気の伝導
伝動	機械	動力の伝動装置
冬季	一般的・季節	冬季オリンピック
冬期	期間	冬期休暇　冬期特別練成会
同形	形が同じ	同形の車両　同形の窓
同型	型が同じ	同型の器具　同型の靴
同系	系統が同じ	同系の会社　同系に属する
同士	仲間	女同士の集まり　同士打ち
同志	同じ考えの人	同志を募る　同志の人々
動静	様子	動静を探る　最近の動静

語	意味	用例
動勢	動き方	人口の動勢　世界の動勢
内向	性格	内向性の人　内向型
内攻	病気	病気が内攻する　内攻症状
配水	配る	各戸に配水する　配水管
排水	外へ出す	排水をよくする　排水溝
廃水	汚水	廃水を川へ流す　工場廃水
反抗	手向かう	先生に反抗する　反抗期
反攻	攻め返す	反攻に転じる　反攻作戦
半切	半分に切る	カードを半切にする
半折	書画用紙	半折に書き初めを書く
反面	反対の面	安い反面劣悪だ　反面教師
半面	半分	物の半面だけ見る
微小	小さい	微小な生物　微小な傷
微少	少ない	微少な金額　微少な量
必死	全力で	必死の努力　必死に走る
必至	必ず	成功は必至だ　必至の情勢
表記	書き表す・表書き	漢字表記　表記の住所
標記	見出し・しるし	標記の件につき…
表決	議決権の行使	表決に加わる　表決権
票決	投票で決定	票決に入る　票決の結果
表示	一般的・明示	価格表示　添加物の表示
標示	交通関係	標示に従う　道路標示
標題	題目	書類の標題　講演の標題
表題	書名・作品名	本の表題　詩の表題
不純	純粋でない	不純物　不純な動機
不順	順調でない	不順な気候　生理不順
不信	信用しない	不信の念　不信を招く

語	意味	用例
不審	疑わしい	不審な行動　不審な点あり
夫人	妻	夫人同伴　賢夫人
婦人	女	婦人参政権　貴婦人
敷設	一般的	鉄道を敷設する　機雷敷設
布設	水道	水道を布設する
不断	断えざる	不断の努力　不断の香
普段	平素の	普段からの努力　普段着
不用	用いない	不用品　予算の不用額
不要	いらない	不要の買い物　不急不要
並行	並んで	並行して行う　並行路線
平行	交わらない	平行する直線　平行棒
平衡	つりあい	平衡を保つ　平衡感覚
別条	変わったこと	別条のない毎日
別状	変わった様子	命に別状はない
偏在	一部だけにある	西日本に偏在する
遍在	どこにでもある	全国に遍在する
編集	一般的	雑誌を編集する　編集後記
編修	史書・辞書等	古代史の編修　辞典の編修
編成	一般的	番組の編成　五両編成
編制	集め組織する	学級の編制　戦時編制
変体	異なった形	変体仮名
変態	異常・変わる	変態的　昆虫の変態
報償	償う	報償金　役務に対する報償
報奨	奨励	報奨金　売上げ増の報奨
報賞	賞品	功労者の報賞
褒章	栄典制度	紫綬褒章　紺綬褒章
法令	法律・命令	法令で定める　法令の施行
法例	法令の適用例	商法の法例　適用法例
保険	損害補償制度	火災保険　生命保険
保健	健康保持増進	保健衛生　保健所　保健婦
補習	学習	放課後の補習　補習授業
補修	修理	屋根を補修する　補修工事
保証	請け合う	身元を保証する　保証人
保障	守る	身分を保障する　社会保障
補償	償う	損害を補償する　補償金
未到	到達しない	前人未到の記録
未踏	足を入れない	人跡未踏の地
民族	人間集団	民族意識　少数民族
民俗	風俗習慣	民俗芸能　民俗語彙*
無常	はかない	無常の人生　諸行無常
無情	情け心がない	無情の雨　ああ無情
夢想	種々考える	夢想にふける　夢想家
無想	何も考えない	無念無想　無想の境地
明快	筋道が明らか	明快に答える　論旨明快
明解	解釈が明らか	明解を与える　明解な注釈
名答	優れた答え	御名答　名答でなく迷答
明答	明確な答え	明答が得られない
野生	自然のままに育つ	野生の馬　野生の植物
野性	自然のままの性質	野性に返る　野性的
遊戯	一般的	室内遊戯　幼稚園の遊戯
遊技	営業許可の娯楽	遊技場
優生	素質改善	優生学　優生保護法
優性	遺伝因子	優性と劣性　優性遺伝
優勢	勢力	優勢な相手　優勢を保つ
雄図	計画	雄図空しく引き返す
雄途	雄図の門出	雄途に就く　雄途に上る
用件	用事	用件を話す　山ほどの用件
要件	重要・必要	要件の処理　成功の要件
要項	必要な事項	要項をメモする　募集要項
要綱	要約した大綱	国語学要綱　講演の要綱
幼児	五、六歳の子供	幼児を預かる　幼児教育
幼時	幼年時代	幼時を回想する
用談	用事の話	用談を済ませる
要談	重要な相談	役員室で要談中　要談あり
用地	一般的	用地を買収する　住宅用地
要地	重要な土地	交通の要地　軍事上の要地
用務	仕事	会社の用務　用務員
要務	重要な任務	要務を帯びて出張する
来期	決算期	来期の売上げ目標
来季	シーズン	来季期待の選手
両用	使い道	切削研磨両用　水陸両用
両様	様式・やり方	両様の解釈　和戦両様
劣性	遺伝因子	優性と劣性　劣性遺伝
劣勢	勢力	劣勢を盛り返す
連係	一般的	連係を保つ　連係動作
連携	連絡提携	連携して事に当たる
労使	労働者と使用者	労使の交渉　労使の代表
労資	労働者と資本家	労資の対立　労資協調
路次	途中	出張の路次　都への路次
路地	狭い道	路地で遊ぶ　路地裏
露地	露天	露地栽培

書き間違いやすい漢字

・漢字には、読みの同じものや形の似ているものなどが多いが、一般に書き間違いやすいと思われる語を集めて、五十音順に配列した。
・見出しは現代かなづかい。正しい漢字を赤色で示し、誤字の右には×印をつけた。中段の＊印の字は「常用漢字表」外の漢字である。
・この項は三省堂編修所で作成したものである。

（三省堂編修所注）

読み	正	誤
あいあいがさ	**相合い傘**で行く	相々×・合×々
あいくるしい	**愛くるしい**少女	愛苦×しい
あいぼう	仕事の**相棒**	合×棒・相坊×
あおにさい	**青二才**のくせに	青二歳×
あくぎょう	**悪行**がやまない	悪業×
あくたい	**悪態**をつく	悪体×
あっせん	仕事を**斡旋**＊する	斡施×
あっとう	相手を**圧倒**する	圧到×
あて	本人**宛**＊の手紙	当×て
あとかた	**跡形**もなく焼けた	跡方×
あとづける	発展を**跡付ける**	後×付ける
あやまち	**過ち**を改める	誤×ち
あやまり	**誤り**を正す	過×り
ありかた	基本方針の**在り方**	有×り方
あんじる	**案じる**より産むが…	安×じる
あんぴ	**安否**を尋ねる	安非×
いがい	**意外**な出来事	以×外
いがた	**鋳型**に流し込む	鋳形×
いぎ	**威儀**を正す	威義×
いきしょうてん	**意気衝天**	意気昇×天
いきとうごう	**意気投合**	意気当×合
いきようよう	**意気揚々**	意気洋×々
いくじ	**意気地**がない	意久×地
いくどうおん	**異口同音**	異句×同音
いこん	**遺恨**を晴らす	意×恨
いさい	**異彩**を放つ	偉×彩
いしゅ	**異種**と同種	違×種
いしゅ	**意趣**を晴らす	遺×趣
いせき	**移籍**した選手	移席×
いそがしい	**忙しい**毎日	急×がしい
いちがい	**一概**に言えない	一慨×
いちげん	**一見**の客	一現×
いちどう	**一堂**に会する	一同×
いちようらいふく	**一陽来復**	一陽来福×
いっかくせんきん	**一獲**（攫＊）**千金**を夢みる	一穫×
いっきかせい	**一気呵成**＊にやる	一気加×勢×
いっしどうじん	**一視同仁**	一視同人×
いっしゅうき	**一周忌**の法要	一週×忌
いっしゅうねん	**一周年**記念	一週×年
いっしょ	**一緒**に食事する	一諸×
いっしょうけんめい	**一生懸命**に働く	一生県×命
いっしょくそくはつ	**一触即発**の危機	一触速×発
いっしんどうたい	**一心同体**の間柄	一身×同体
いってつ	老いの**一徹**	一轍×・一撤×
いってんばり	いやだの**一点張り**	一天×張り
いっとうちをぬく	**一頭地を抜く**	一等×地を…
いっぱいちにまみれる	**一敗地にまみれる**	一敗血×にまみれる
いはん	規則に**違反**する	違犯×
いみしんちょう	**意味深長**	深重×・慎×重×
いりょく	**威力**を発揮する	偉×力
いわや	**岩屋**にひそむ	岩家×
いんえい	**陰影**に富んだ文章	隠×影
いんご	仲間で使う**隠語**	陰×語
いんさん	**陰惨**＊な光景	陰酸×
いんじゅんこそく	**因循姑息**な方法	因盾×姑息
いんぜん	**隠然**たる勢力	陰×然
いんそつ	児童を**引率**する	引卒×
いんどう	**引導**を渡す	引道×
いんとく	**陰徳**と陽報	隠×徳
いんとく	物資を**隠匿**する	陰×匿・隠得×
いんにんじちょう	**隠忍自重**	陰×忍自重
いんぺい	**隠蔽**＊された事実	陰×蔽
いんぼう	**陰謀**をたくらむ	隠×謀
うきめ	**憂き目**を見る	浮×き目

読み	正	誤
うけおう	建築を**請け負う**	受×け負う
うけたまわる	謹んで**承る**	受け賜×る
うちょうてん	**有頂天**になる	有頂点×
うのけ	**兎***の毛で突いたほど	鵜×の毛
うのめ	**鵜***の目鷹*の目	兎×の目
うるさがた	**うるさ型**のおやじ	うるさ方×
うわずる	声が**上ずる**	浮×わ×ずる
えいし	参議院の**衛視**	衛士×
えいぞう	テレビの**映像**	影×像×
エムばん	**M判**のシャツ	M番×
えんえん	**延々**(蜿*蜒*)長蛇の列	遠×々
えんがわ	**縁側**に腰掛ける	緑×測×
えんぎ	**縁起**を担ぐ	緑×喜×
えんぜつ	選挙**演説**	演舌×
えんだん	**演壇**に上る	演段×
えんぼう	**遠謀**深慮	遠望×
えんゆうかい	**園遊会**の名士	宴×遊会
おうおう	**往々**にして不在だ	応×々
おうぎ(おくぎ)	**奥義**を究める	奥儀×
おうしん	医者に**往診**を頼む	応×診
おうだ	友人を**殴打**する	欧×打
おうたい	受付で**応対**する	応待×
おうふく	自動車で**往復**する	往複×・住×腹×
おおいに	**大いに**遊ぼう	多×いに
おおぜい	**大勢**の人々	多×勢
おおだてもの	財界の**大立て者**	大立て物×
おおもの	政界の**大物**	大者×

読み	正	誤
おかしらつき	鯛*の**尾頭付き**	お頭×付き
おかん	風邪で**悪寒**がする	悪感×
おそまき	**遅蒔*き**ながら	遅巻×き
おちいる	危機に**陥る**	落×ち入×る
おとろえる	勢力が**衰える**	劣×える
おなじみ	**お馴*染み**の客	同×じみ
おもかげ	**面影**(俤*)をしのぶ	思×影
おもしろい	**面白い**話を聞く	思×白い
おんき	三百年の**遠忌**	御×忌
おんぎょく	歌舞**音曲**の類	音玉×
おんけん	**穏健**な思想	温×健
おんこう	**温厚**な性質	温好×
おんこちしん	**温故知新**	温古×知新
おんのじ	一万円なら**御の字**	恩×の字
おんぴょうもじ	**音標文字**で示す	音表×文字
がい	志士の**概**がある	慨×
かいき	**怪奇**小説	怪気×
かいき	**回帰**熱　北**回帰**線	回起×
かいきいわい	**快気祝い**	回×気
かいきゅう	**懐旧**の念がつのる	回×旧・壊×旦×
かいてき	**快適**な生活	快的×
かえうた	**替え歌**を歌う	変×・代×え歌
かえりざく	王座に**返り咲く**	帰×り咲く
かくう	**架空**の人物	仮×空
がくしょく	**学殖**豊かな先生	学植×
かくしん	成功を**確信**する	確心×
かくとく	資格を**獲得**する	穫×得

読み	正	誤
がくぶち	絵を**額縁**に入れる	額緑×
がくれい	**学齢**に達する	学令×
かげのこえ	**陰の声**が教える	影×の声
かげひなた	**陰日向**なく働く	影×日向
かげぼうし	**影法師**を踏む	陰×法師
かげむしゃ	**影武者**が取り巻く	陰×武者
かじ	**鍛冶**屋　刀**鍛冶**	鍛×治×・鍛治×
かしゃく	**仮借**ない取り立て	苛×借
がしんしょうたん	**臥薪嘗*胆**	臥薪嘗炭×
かす	一万円**貸す**	借×す
かたがみ	洋裁の**型紙**	形×紙
かたよる	一方に**偏る**	傾×よ×る
かっこ	**括弧**でくくる	活×孤×
かとうきょうそう	**過当競争**	過等×競走×
かどまつ	正月の**門松**	角×松
かなづかい	**仮名遣い**を直す	仮名遺×い
かひ	**可否**を問う	可非×
かび	**華美**な服装	花×美
かへい	**貨幣**の価値	貸×弊×
がりゅうてんせい	**画竜点睛***を欠く	点晴×・天×晴×
かりる	金を**借りる**	貸×りる
かわいそう	**可哀相**な子供	可愛×相
かん	**勘**に頼る	感×に頼る
かんいっぱつ	**間一髪**セーフ	間一発×
かんか	誤りを**看過**する	観×過
かんがい	**感慨**にふける	感概×
かんげい	訪問を**歓迎**する	観×仰×

読み	正しい書き方	誤り
かんこ	**歓呼**の声を上げる	歓乎×
かんこつだったい	**換骨奪胎**の文章	換骨脱×体×
かんしょうちたい	**緩衝地帯**を設ける	暖×衡×・間×衝
がんぜん	**眼前**に展開する	顔×前
かんたい	**歓待**を受ける	観×待・勧×侍×
かんてつ	要求を**貫徹**する	完×徹・貫撤×
かんどころ	**勘所**を押さえる	感×所
かんねん	だめだと**観念**する	感×念
かんぱ	意図を**看破**する	観×破
かんぺき	**完璧***な仕上がり	完壁×
かんぼう	流行性**感冒**	寒×冒
かんぽうやく	**漢方薬**	漢法×薬
かんまん	**緩慢**な動作	緩漫×
かんめい	**感銘**を受ける	肝×銘
かんゆう	保険の**勧誘**	観×誘・歓×誘
かんれき	**還暦**を祝う	環×暦・還歴×
きいっぽん	**生一本**な性格	気×一本
きおく	**記憶**をたどる	気×憶・記臆×
ぎおん	**祇*園**の舞妓*	祗×園
きがい	**気概**のない男	気慨×
きがた	靴の**木型**	木形×
きかん	消化・呼吸の**器官**	器管×・機×関
きかん	連日深夜の御**帰館**	帰還×
ききいっぱつ	**危機一髪**	危機一発×
ききゅう	**危急**存亡の時	機×急
きぐう	**奇遇**に驚く	奇偶×
きけつ	議論の**帰結**する所	帰決×

読み	正しい書き方	誤り
きけん	**危険**を冒す	危倹×
きげん	**紀元**前　**紀元**元年	記×元
きげん	**機嫌**をそこねる	気×嫌
きこう	**紀行**文　万葉**紀行**	記×行
きこう	不順な**気候**	気侯×
きごこち	**着心地**のよい洋服	気×心地
ぎじ	**疑似**赤痢	擬×似・偽×似
きしゃ	**喜捨**を求める	寄×捨
ぎせい	**犠牲**を払う	議×性×・儀×性×
きせつ	**季節**の替わり目	期×節・李×節
きせん	**機先**を制する	気×先
ぎぞう	文書を**偽造**する	欺×造
きたい	**奇態**な事件	奇体×
きてき	**汽笛**が鳴る	気×笛
きばん	発展の**基盤**を作る	基磐×
きぼ	**規模**が小さい	規摸×
きまじめ	**生まじめ**な性格	気×まじめ
ぎまん	相手を**欺瞞***する	偽×瞞
きもいり	先生の**肝煎***りで	肝入り
きゃっかんてき	**客観的**	客感×的
きゅうえん	**救援**の物資	急×援
きゅうきゅう	**救急**車　**救急**病院	急×救・救求×
きゅうきょう	**窮境**を切り抜ける	窮況×
きゅうくつ	**窮屈**な座席	窮窟×・究×屈
きゅうしゅう	知識を**吸収**する	吸集×・吸拾×
きゅうせんぽう	反対派の**急先鋒***	急先方×
きゅうたい	**旧態**依然として	旧体×

読み	正しい書き方	誤り
きゅうち	**窮地**に追い込む	究×地
きゅうてんちょっか	**急転直下**の解決	九×天×
きゅうやくせいしょ	**旧約聖書**	旧訳×聖書
きょうい	**驚異**の目をみはる	驚威×
きょうか	陣容を**強化**する	強加×
ぎょうかい	鉄鋼**業界**　**業界**紙	業会×
きょうぐう	恵まれた**境遇**	境偶×
きょうこう	**恐慌**を来す	恐荒×
きょうせい	欠点を**矯正**する	矯整×・嬌×正
ぎょうせき	**業績**を上げる	業積×・業蹟×
きょうねん	**享年**七十八歳	亨×年
きょうみしんしん	**興味津々**	深×々
きょうらく	**享楽**にふける	興×楽・亨×楽
きょうりょく	仕事に**協力**する	共×力
ぎょかく	**漁獲**量が多い	魚×獲・漁穫×
ぎょぎょう	遠洋**漁業**	魚×業
ぎょしょう	**魚礁**を設ける	漁×礁
ぎょじょう	北洋の**漁場**	魚×場
ぎょせん	**漁船**を建造する	魚×船
ぎょもう	ナイロンの**漁網**	魚×網
きんがわ	**金側**の腕時計	金皮×・金革×
きんけん	**勤倹**貯蓄に励む	勤険×
きんこう	**均衡**が破れる	均衝×
きんじょうとうち	**金城湯池**	湯地×
きんしん	自宅で**謹慎**する	勤×慎
きんせいひん	**禁制品**を売る	禁製×品
ぐうぜん	**偶然**出会った	遇×然

ぐうはつてき　**偶発的**な事故　遇×発的
くがい　**苦界**に身を沈める　苦海×
くく　掛け算の**九九**　九々×
くすだま　**薬玉**を割る　楠×玉
くちきき　先生の**口利き**で　口聞×き
くちく　敵を**駆逐**する　駆遂×
くちょう　**口調**を整える　句×調
くっしん　身体を**屈伸**する　屈身×
くのう　**苦悩**が絶えない　若×脳×
くはい　**苦杯**を喫する　苦敗×
くびじっけん　犯人の**首実検**をする　首実験×
くめん　金を**工面**する　苦×面
くもり　**曇り**のち雨　雲×り
くよう　先祖の**供養**をする　供要×
くろうしょう　**苦労性**の人　苦労症×
ぐんしょう　**群小**の零細企業　群少×・郡×小
くんとう　**薫陶**を受ける　訓×陶・薫淘×
くんぷう　五月の**薫風**　勲×風・董×風
ぐんゆう　**群雄**が割拠する　郡×雄
けいき　…を**契機**として　契期×
けいさつしょ　**警察署**　驚×察所×
けいしきてき　**形式的**なあいさつ　型×式的
けいしょう　**軽少**な損害　軽小×
けいそつ　**軽率**な行動　軽卒×
けいたい　特異な**形態**　形体×
けいど　**経度**と緯度　径×度
けいとう　学説に**傾倒**する　傾到×

けいふく　意見に**敬服**する　敬伏×
けいぼ　先生を**敬慕**する　敬募×
けいもう　大衆を**啓蒙***する　啓盲×
けいゆ　大阪**経由**で行く　径×由
けいるい　**係累**が多い　系×累
げきぶつ　**劇物**の取り扱い　激×物
げきやく　**劇薬**を飲む　激×薬
げきらい　相手を**毛嫌い**する　気×謙×い
げきりん　**逆鱗***に触れる　激×鱗
げざい　**下剤**を掛ける　解×剤
けしん　仏様の**化身**　化神×
けっかい　**決壊**した堤防　欠×懐×
けっきょく　**結局**だめだった　結極×・決×局
けつじょ　責任感の**欠如**　欠除×
けっしん　次回で**結審**する　決×審
けっせい　**血清**を注射する　血精×
けっせんとうひょう　**決選投票**　決戦×投票
けっそん　**欠損**を埋める　決×損
けつべつ　親友と**決**(訣*)**別**する　袂×別
けつぼう　食糧が**欠乏**する　欠亡×
けつまくえん　**結膜炎**の治療　血×膜炎
けつれつ　交渉が**決裂**する　決烈×・欠×裂
けつろん　**結論**が出る　決×論
げどく　**解毒**剤　**解毒**薬　下×毒
げねつ　**解熱**剤　**解熱**錠　下×熱
けんいん　**牽*引**車　**牽*引**力　索×引
げんいん　**原因**がわからない　元×困×・源×因×

けんおん　一日四回の**検温**　験×温
げんか　**原価**を計算する　元×価
けんかい　**見解**を表明する　見界×
げんかしょうきゃく　**減価償却**　原×価消×却
げんご　**原語**で歌う　源×語
けんし　変死者を**検視**する　験×視
げんし　**原資**を確保する　源×資
けんじつ　**堅実**な考え方　健×実
げんしてき　**原始的**な方法　元×始的
げんしゅ　一国の**元首**　元主×
げんじゅうみん　**原住民**の生活　現×住民
げんしょう　人口が**減少**する　減小×
げんしんてき　**献身的**な努力　献心×的
けんせい　敵を**牽*制**する　索×制
げんせい　**原生**林　**原生**動物　源×世
けんせつ　ビルを**建設**する　健×設・建説×
けんぜん　**健全**な精神　建×全
げんせん　**源泉**課税　原×泉
げんぞう　写真を**現像**する　現象×
げんそく　**原則**に従う　元×則
けんとう　**検討**に値する　研×討・験×討
けんびきょう　**顕微鏡**　検×微境×
けんぶん　現場を**検分**する　見×分
けんぼうしょう　**健忘症**　建×忘性×
けんめい　**懸命**に努力する　県×命
けんやく　**倹約**を旨とする　険×約
こういしょう　**後遺症**　後遺×症

読み	正	誤
こうか	**効果**を上げる	功×果
こうかんしんけい	**交感神経**	交換×神経
こうぎ	教室で**講義**する	講議×
こうきしゅくせい	**綱紀粛正**	網×規×粛清×
ごうきゅう	**剛球**投手	鋼×球
こうけい	**口径**四十五センチ	口経×
こうげん	灯台の**光源**	光原×
こうげんれいしょく	**巧言令色**	好×言冷×色
こうこう	病**膏*肓***に入る	膏盲×
こうし	御**厚志**を謝する	好×志
こうしゃく	**侯爵**	候×爵
ごうじょう	**強情**を張る	剛×情
こうせいぶっしつ	**抗生物質**	抗性×物質
こうせき	**功績**をたたえる	効×績・功積×
ごうそう	**豪壮**な邸宅	豪荘×
こうたい	**交代**　**交替**	更×代・更×替
こうたいし	**皇太子**	皇大×子
こうたいじんぐう	**皇大神宮**	皇太×神宮
ごうたん	**豪胆**(**剛胆**)な男	強×胆
こうてつ	大臣を**更迭**する	交×送×
こうとうしもん	**口頭試問**	口答×試門×
こうにゅう	資材を**購入**する	講×入
こうばい	**購買**部　**購買**力	購売×・講×買
こうはいち	港の**後背地**	向×背地
こうびん	**幸便**に託する	好×便
こうふく	敵に**降伏**する	降覆×
こうぼく	坑道の**坑木**	杭×木

読み	正	誤
こうほしゃ	議長の**候補者**	侯×捕×者
こうまん	**高慢**な態度	高漫×
こうめいせいだい	**公明正大**	光×明正大
こうり	**功利**的　**功利**主義	効×利
こうわ	**講**(媾*)**和**条約	購×和
こがいしゃ	**子会社**と親会社	小×会社
こきょう	**故郷**をしのぶ	古×郷
こくそ	暴力事件で**告訴**する	告訢×
こくめい	**克明**に記録する	刻×明
こころよく	**快く**承諾する	心×快く
こじ	**孤児**を収容する	弧×児・狐×児
こぞう	お寺の**小僧**	子×僧
こづかい	お**小遣い**をもらう	小使×い
こどく	**孤独**を味わう	弧×独
こども	**子供**と遊ぶ	小×供
ごへい	**語弊**があるが…	誤×弊・語幣×
こべつほうもん	選挙の**戸別訪問**	個×別訪門×
こもん	会社の**顧問**	顧門×
こゆう	**固有**の性質	個×有
ごらく	**娯楽**の殿堂	誤×楽
こりつ	敵中に**孤立**する	弧×立・狐×立
ごりむちゅう	**五里霧中**	五里夢×中
ごんごどうだん	**言語道断**	言語同×断
こんじょう	**根性**を鍛える	根情×・根生×
こんてい	**根底**から覆る	根低×
さいか	**裁可**を仰ぐ	載×下×・栽×可
さいきかんぱつ	**才気煥*発**	才機×換×発

読み	正	誤
さいくつ	鉱石を**採掘**する	採堀×
ざいげん	**財源**を捜す	財原×
さいこうちょう	**最高潮**に達する	最高調×
さいじき	俳句の**歳時記**	歳事×記
ざいせいちゅう	故人の**在世中**は	在生×中
さいそく	返事を**催促**する	再×捉×
さいだいもらさず	**細大漏らさず**	最×大
さいてい	**最低**の生活	最底×
さいばい	野菜を**栽培**する	裁×倍×
さいばんしょ	**裁判所**	裁判署×
さいほう	**裁縫**を習う	栽×縫・裁方×
さいりょう	**裁量**の余地なし	採×量
ざせつ	計画が**挫*折**する	座×折
さっこん	**昨今**の陽気は	昨近×
さっとう	見物人が**殺到**する	殺倒×
ざんぎゃく	**残虐**な行為	惨×虜×
ざんしん	**斬*新**なデザインの車	暫×新・漸×親×
ざんにん	**残忍**な性格	惨×忍
さんび	**酸鼻**を窮める現場	惨×鼻
さんまん	注意が**散漫**だ	散慢×
さんみいったい	**三位一体**	三身×一体
さんをみだす	**算を乱す**	散×を乱す
しあい	野球の**試合**	仕×合
しおけむり	**潮煙**が上がる	塩×煙
しかたがない	**仕方がない**	仕形×
しきゅうしき	**始球式**を行う	試×球式
じく	**字句**を訂正する	辞×句

しげき	刺激を与える	刺×激
しげん	資源を大切に	資原×
じげん	次元が違う　三次元	次限×
じこ	自己を見失う	自個×・自巳×
しこうさくご	試行錯誤	思×考錯誤
しこうひん	嗜*好品を贈る	趣×向品
じさん	弁当を持参する	自×参
しそうけんご	志操堅固	思×想堅固
したい	美しい姿態	姿体×
しつうはったつ	四通八達	四通発×達
じっし	試験を実施する	実旋×
じっせき	実績を上げる	実積×・実蹟×
してき	ミスを指摘する	指適×
してんのう	一門の四天王	四天皇×
しとめる	一発で仕留める	刺×止める
しにものぐるい	死に物狂いで進む	死に者×狂い
じばん	地盤が沈下する	地磐×
しふく	雌伏十年	雌服×
しへい	紙幣を偽造する	紙弊×
しまつ	きちんと始末する	仕×末
じまん	仕上がりを自慢する	自漫×
しめい	役員を指名する	指命×
じゃくしょう	弱小の国々	弱少×
しゃだつ	洒*脱な人柄	洒悦×
じゃっかん	弱冠二十歳で…	若×冠
しゃれ	洒*落がうまい	酒×落
しゅうかんし	週刊誌を買う	週間×誌

しゅうぎ	開店の祝儀	祝義×
しゅうぎょとう	集魚灯をつける	集漁×灯
しゅうしふ	終止符を打つ	終止譜×
しゅうしゅう	事態を収拾する	拾×収・収捨×
しゅうたい	醜態を演じる	醜体×
じゅうにしちょう	十二指腸	十二支×腸
しゅうねん	五周年の記念日	週×年
しゅうふく	本殿を修復する	修覆×
じゅうふく	記事が重複する	重復×
しゅかん	主観と客観　主観的	主感×
じゅぎょう	英語の授業　授業料	受×業
しゅくさつばん	縮刷版の辞書	縮冊×版
しゅくしょう	機構を縮小する	縮少×
しゅこう	趣向を凝らす	趣好×
しゅじい	主治医の診断	主事×医
しゅちょう	自治体の首長	主×長
しゅっしょしんたい	出処進退	出所×進退
しゅと	日本の首都は東京	主×都
しゅとけん	首都圏の交通網	主×都県×
しゅはん	一味の主犯	首×犯
しゅはん	内閣の首班	主×班
しゅふ	世界各国の首府	主×府
しゅぼうしゃ	事件の首謀者	主×媒×者
じゅわき	電話機の受話器	受話機×
じゅんかん	血液が循環する	巡×環・循還×
じゅんぎょう	地方を巡業する	巡行×
じゅんしん	純真な心	純心×

じゅんぱい	霊場を巡拝する	順×拝
じょうき	蒸気を発生させる	蒸汽×
しょうけい	小憩ののち出発	小熄×
じょうけい	情景の描写	状×景
しょうこ	証拠を示す	証固×
しょうこう	小康を保つ	少×康
しょうこくみん	少国民の教育	小×国民
しょうさ	小差で負ける	少×差
しょうじ	少時休憩する	小×時
しょうしんしょうめい	正真正銘	正真証×明×
じょうたい	正常な状態	状体×・状熊×
じょうだん	冗談じゃない	笑×談
じょうてい	委員会に上程する	上提×・上呈×
しょうど	大火で焦土と化す	焼×土
しょうどう	合併を唱道する	称×道
しょうとつ	車が衝突する	衡×突
しょうにか	小児科の医者	少×児科
しょうねん	少年と少女	小×年
しょうばい	商売を始める	商買×
じょうひ	冗費を省く	剰×費
しょうぶん	損な性分	生×分
じょうまん	冗漫な説明	冗慢×
しょうみ	正味二〇キロ	正身×
しょうゆ	醤*油で味を付ける	正×油
じょがい	適用を除外する	徐×外
しょくさん	殖産を図る	植×産
しょくぜん	食膳*に供する	食前×

読み	正しい用例	誤り
しょくもう	**植毛**の手術	殖×毛
しょくりん	山に**植林**する	殖×林
しょこう	**諸侯**の領地	諸候×
じょこう	**徐行**して通る	除×行
しょさい	**書斎**の本棚	書斉×
しょし	**初志**を貫徹する	所×思×
じょじょに	**徐々に**動く	除×々
しょせいじゅつ	**処世術**にたける	処生×術
しょばつ	厳重に**処罰**する	所×罰
しょほう	**処方**を誤る　**処方**箋*	処法×
しりめつれつ	**支離滅裂**	四×離減×列×
しれい	**指令**を発する	使×令
しんがい	権利を**侵害**する	浸×害
しんかん	**森閑**と静まる	森間×
しんぎ	**真偽**を確かめる	真疑×
しんきいってん	**心機一転**	心気×一転
しんきくさい	**辛気臭い**	心×気臭い
しんきんかん	**親近感**を持つ	身×近感
しんげんち	地震の**震源地**	震原×地
じんじいどう	**人事異動**	人事移×動
しんじつ	**真実**を述べる	信×実
じんせいかん	**人生観**を記す	人世×感×
じんせきみとう	**人跡未踏**の地	人跡未到×
しんぞく	同居の**親族**	親属×
しんたく	**信託**銀行　投資**信託**	信托×
じんちく	**人畜**に無害	人蓄×
しんちょう	**慎重**に計画する	深×長×

読み	正しい用例	誤り
しんとう	**浸**(滲*)**透**する	侵×透
しんにん	内閣を**信任**する	信認×
しんぷく	先生に**心服**する	心伏×
しんぼう	**辛抱**が足りない	辛棒×
しんみ	**親身**の指導	親味×
しんみょう	**神妙**な態度	真×妙
しんめい	**身命**を賭*して	心×命
しんやくせいしょ	**新約聖書**	新訳×聖書
しんゆう	無二の**親友**	真×友
しんらい	**信頼**を裏切る	親×頼
すいがら	たばこの**吸い殻**	吹×い穀×
すいげんち	**水源地**の森林	水原×池×
すいばん	**水盤**に花を生ける	水磐×
すうき	**数奇**な運命	数寄×
ずがいこつ	**頭蓋***骨**の骨折	頭骸×骨
すじょう	**素性**が知れる	素生×・素状×
ずのう	鋭い**頭脳**	頭悩×
せいえい	**精鋭**を率いる	清×英×
せいおん	**静穏**を保つ	静隠×
せいか	芸術の**精華**	精花×
せいかがく	**生化学**の研究	生科×学
せいけいげか	**整形外科**	整型×・成×形
せいし	事態を**正視**する	静×視
せいじゅく	実が**成熟**する	生×熱×
せいしょうねん	**青少年**の団体	青小×年
せいせき	**成績**を上げる	成積×
せいてんはくじつ	**青天白日**	晴×天白日

読み	正しい用例	誤り
せいふく	敵を**征服**する	征伏×
ぜいむしょ	**税務署**	税務所×
せいらい	**生来**の病弱	性×来
せいれき	**西暦**紀元	西歴×記×元
せきしゅつ	成分を**析出**する	折×出・柝×出
せきべつ	**惜別**の情	寂×別・借×別
せきをおく	…に**籍を置く**	席×を置く
せっかい	**切開**手術	切解×
せっきょう	信者に**説教**する	説経×
せっしゅう	土地を**接収**する	摂×収・接集
せっしょう	外国と**折衝**する	接×衝
せったい	客を**接待**する	接対×・接侍×
ぜったい	**絶対**にありえない	絶体×
ぜったいぜつめい	**絶体絶命**	絶×対絶命
せっぱく	締切日が**切迫**する	接×泊×
せっぱん	利益を**折半**する	切×半
せっぷく	反対派を**説伏**する	説服×
ぜつりん	精力**絶倫**	絶輪×
ぜひ	**是非**を論じる	是否×
せんかい	上空を**旋回**する	施×回
ぜんごさく	**善後策**を講じる	前×後策
せんざい	**潜在**意識	先×在
ぜんじ	**漸次**回復している	暫×時×
ぜんしょ	**善処**を約束する	善所×
ぜんじんみとう	**前人未到**の記録	未踏×
せんせい	**専制**政治　**専制**君主	専政×
ぜんぜん	**全然**わからない	全々×

よみ	正	誤
せんでん	特売の**宣伝**	宜×伝
せんとう	町の**銭湯**へ行く	洗×湯
ぜんときん	**前渡金**を払う	前途×金
せんにゅうかん	**先入観**を持つ	先入感×
せんばん	**旋盤**で加工する	施×盤・旋磐×
せんぷうき	**扇風機**を回す	旋×風器×
せんべつ	**餞*別**を贈る	銭×別
せんぺんいちりつ	**千編**(篇*)**一律**	千遍×一率×
せんもん	**専門**家　**専門**店	専問×
そうかい	**掃海**作業　**掃海**艇	捜×海
そうけん	**壮健**な身体	壮建×
そうご	**相互**に行う	双×互
そうこう	**装甲**車　**装甲**板	装鋼×
そうごん	**荘厳**な寺院	壮×厳×
ぞうさく	**造作**のいい家	雑×作
そうしそうあい	**相思相愛**	想×思想×愛
そうじょうこうか	**相乗効果**	双×乗功×果
そうじょうせき	**相乗積**	総×乗績×
そうだい	**壮大**な建築物	荘×大
そうたいてき	**相対的**に見て	双×対的
そうちょう	**荘重**な儀式	壮×重
そうへき	学界の**双璧***	双壁×
そうほう	**双方**の言い分	相×方
そうらんざい	**騒乱罪**を適用する	争×乱罪
そうれい	**壮麗**な宮殿	荘×麗
そえん	**疎遠**な間柄	粗×遠
そくざ	**即座**に承知する	速×座
そくじ	**即時**撤去する	速×時
そくしん	計画を**促進**する	速×進
そくせき	**即席**で料理する	速×席
そくせんそっけつ	**速戦即決**	即×戦速×決
ぞっかい	会議を**続開**する	続会×
そっこく	**即刻**解散せよ	速×刻
そっせん	**率先**して行う	卒×先
そっせんきゅうこう	**率先躬*行**	卒×先窮×行
そっとう	会場で**卒倒**する	率×到×
そりん	松の**疎林**が続く	粗×林
そろう	工事の**疎漏**	疏×漏
そんぞく	**尊属**殺人　直系**尊属**	尊族×
たいいんれき	**太陰暦**	大×陰暦
たいき	自宅で**待機**する	侍×期×
たいぎめいぶん	**大義名分**	大議×明×文×
たいぐう	**待遇**が悪い	侍×偶×・対×遇
たいくつ	**退屈**で困る	怠×屈
たいこ	**太古**の遺跡	大×古
たいこ	**太鼓**をたたく	大×鼓
たいこう	計画の**大綱**	大項×・大網×
たいこうしゃ	**対向車**のライト	対行×車
たいこうぼう	**太公望**	大×公望
だいじんぐう	**大神宮**の宮司	太×神宮
たいせいよう	**大西洋**	太×西洋
たいてい	**大抵**は大丈夫だ	大低×
たいねつ	**耐熱**ガラス	対×熱
たいふう	**台**(颱*)**風**の襲来	大×風
たいへいよう	**太平洋**	大×平洋
たいよう	**大洋**を航海する	太×洋
たいよう	**太陽**系　**太陽**暦	大×陽
たいようしゅう	**大洋州**	太×洋州
だいろっかん	**第六感**が働く	第六官×
だかい	局面を**打開**する	打解×
たかみ	**高み**の見物	高見×
だき	**惰気**満々	随×気・堕×気
たきょう	**他郷**へ働きに出る	他境×
たしせいせい	**多士済々**	多子×斉×々
たしょう	**多少**の点は	多小×
たしょうのえん	**他生の縁**	多×少×・多×生
だせい	**惰性**で生きている	惰勢×・堕×性
たちんぼう	**立ちん坊**	立ちん棒×
たっかん	人生を**達観**する	達感×
だっきゃく	危機を**脱却**する	脱脚×
だっこく	稲を**脱穀**する	脱殻×
だらく	**堕落**した幹部たち	惰×落・随×落
だりょく	**惰力**で走る	堕×力・随×力
だんあつ	**弾圧**に抵抗する	断×圧
たんか	**担架**に乗せる	担荷×
たんぐつ	**短靴**を買う	単×靴
たんてき	**端的**に言えば	単×的・短×的
たんとうちょくにゅう	**単刀直入**	短×刀直入
たんぱくしつ	**蛋*白質**	淡×泊×質
たんぺいきゅう	**短兵急**に言う	単×兵急
ちぐう	**知遇**を得る	知偶×

読み	正しい書き方	誤り
ちくじ	逐次連絡する	遂×次
ちくしょう	畜生にも劣る	蓄×生
ちくじょう	逐条審議に入る	遂×条
ちくせき	利益を蓄積する	畜×積・蓄績×
ちせき	治績を調べる	治跡×・治積×
ちたい	遅滞なく調べる	遅帯×
ちゃくしゅつし	嫡出子	摘×出子
ちゃくふく	公金を着服する	着腹×
ちゅうけい	伝達を中継する	仲×断×
ちゅうこく	忠告に逆らう	注×告
ちゅうさい	仲裁に入る	中×裁・仲栽×
ちゅうする	天に沖する煙	柱×・注×する
ちゅうぶらりん	宙ぶらりん	中×ぶらりん
ちょうこうぜつ	長広舌を振るう	長口×・講×説×
ちょうしゅう	聴衆に訴える	聴集×
ちょうする	意見を徴する	聴×する
ちょうだい	頂戴*の品々	頂載×
ちょうふく	重複した説明	重復×
ちょくじょうけいこう	直情径行	直情経×行
ちょすいち	貯水池のダム	貯水地×
ちょちく	貯蓄に励む	貯畜×
ちょっけい	直径を測る	直経×
ついおく	追憶にふける	追億×
つうへい	役人の通弊として	通幣×
つまようじ	爪*楊*枝	妻×揚×枝
ていか	実力が低下する	底×下
ていきょう	無償で提供する	堤×共×

読み	正しい書き方	誤り
ていこう	激しく抵抗する	低×抗
ていさい	体裁を整える	態×裁・体栽×
ていじょう	記念品を呈上する	提×上
ていせい	帝政ロシア	帝制×
ていそくすう	定足数に達する	定則×数
ていたい	景気が停滞する	低×滞
ていとう	抵当に入れる	低×当
ていのう	低能な学生	低脳×
ていめい	暗雲が低迷する	停×迷
てきざい	適材を適所に	適才×・敵×財
てきれいき	適齢期の娘	適令×季×
てっかい	提案を撤回する	徹×回・撒×回
てっきょ	建物を撤去する	徹×去
てっしゅう	テントを撤収する	徹×収
てったい	米軍が撤退する	徹×退
てってい	徹底を図る　徹底的	撤×低×
てっとうてつび	徹頭徹尾反対する	撤×頭撤×尾
てっぱい	制限を撤廃する	徹×廃・撤癈×
てばなす	宝を手放す	手離×す
てらこや	寺子屋式の授業	寺小×屋
てんかたいへい	天下太平	天下大×平
てんき	…を転機として	転期×
でんげん	電源を切る	電原×
てんしゅかく	城の天守閣	天主×閣
てんじょう	高い天井　天井裏	天上×
てんじょうむきゅう	天壌無窮	天壊×無窮
てんしんらんまん	天真爛*漫	天身×・天心×

読み	正しい書き方	誤り
でんわき	電話機の受話器	電話器×
といとしょく	徒衣徒食	徒為×徒食
とうかい	倒壊した家屋	到×壊・倒懐×
とうかしたしむ	灯火親しむ	灯下×親しむ
どうかせん	導火線に点火する	道×火線
とうき	地価が騰貴する	謄×貴
どうぎ	動議を提出する	動義×
とうげんきょう	桃源郷を夢みる	桃原×境×
どうこういきょく	同工異曲の案	同巧×委×曲
とうさい	貨物を搭載する	塔×裁×・搭戴×
とうししんたく	投資信託	投資信托×
とうしゃばん	謄写版の印刷	騰×写判×
とうじょう	飛行機に搭乗する	塔×乗
とうじん	遺産を蕩*尽する	湯×尽
どうすい	導水管　導水路	道×水
とうぜん	当然のなりゆき	当前×
とうそつ	部下を統率する	統卒×
とうてい	到底不可能だ	到低×・倒×底
とうのむかし	疾うの昔	遠×の昔
どうひょう	道標に従って行く	導×標
どうほう	海外の同胞	同朋×
とうほん	戸籍謄本	騰×本
とうらい	時節到来　到来物	当×来・倒×来
とおりいっぺん	通り一遍の手紙	通り一辺×
ときょうそう	徒競走で一着	徒競争×
とくぎ	特技のある人	得×技
どくごかん	読後感を話す	読後観×

とくしか　**篤志家**の寄付　特×・徳×志家
とくしゅ　**特殊**な形　特種×
どくしょひゃっぺん　**読書百遍**　読書百編×
どくぜつ　**毒舌**を振るう　毒説×
どくせん　利益を**独占**する　独専×
どくそうてき　**独創的**な発明　独想×的
どくだんじょう　彼の**独壇場**だ　独壇上×
とくてん　会員の**特典**　特点×
とくよう　お**徳用**の品　**徳用**米　特×用
としのこう　亀*の甲より**年の功**　年の甲×
としょう　川を**徒渉**する　従×捗×
どじょう　**土壌**の改良　土壊×
とつぜんへんい　**突然変異**　突然変移×
とほう　**途方**に暮れる　途法×
どろじあい　**泥仕合い**になる　泥試×合
どんよく　**貪欲**な男　貧×欲
ないじょう　**内情**を探る　内状×
ないぞう　電源を**内蔵**する　内臓×
なかがい　魚の**仲買**　中×買
なや　農家の**納屋**　納家×
なんぎ　悪路で**難儀**する　難義×
なんぎょうくぎょう　**難行苦行**　難業×苦業×
なんこう　交渉が**難航**する　難行×
なんなく　**難なく**合格した　何×なく
にくしん　**肉親**と別れる　肉身×
にくはく　敵に**肉薄**する　肉迫×
にそくさんもん　**二束三文**の値打ち　二足×三文

にっしんげっぽ　**日進月歩**の科学　日新×月歩
にゅうか　資材が**入荷**する　入貨×
にゅうぎょけん　**入漁権**の確保　入魚×権
にんしょう　**認証**式　**認証**官　任×証
に(じ)んめんじゅうしん　**人面獣心**の男　人面獣身×
にんよう　条件を**認容**する　認用×
ねつげん　**熱源**を確保する　熱原×
ねむる　一人で**眠る**　寝×むる
ねんしょう　**年少**の者　**年少**組　年小×
のうかんき　**農閑期**の出稼ぎ　農間×季×
のうきぐ　**農機具**の販売　農器×具
のうさつ　男性を**悩殺**する　脳×殺
のうずい　**脳髄**の活動　脳随×・悩×髄
のうはんき　**農繁期**の作業　農煩×季×
のうふ　**納付**金　**納付**期限　納附×
のきば　**軒端**のつらら　軒場×
のほうず　**野放図**に育てる　野方×図
はいか　**配下**の者　拝×下
はいき　書類を**廃棄**する　癈×棄
はいぐうしゃ　**配偶者**あり　配遇×者
はいし　規約を**廃止**する　癈×止
はいしゅつ　学者が**輩出**する　配×出
ばいしょう　損害を**賠償**する　陪×償・倍×賞×
ばいしん　**陪審**制度　**陪審**員　倍×審・培×審
はいせき　外資を**排斥**する　排斤×
はいふく　**拝復**　拝複×
ばいよう　菌を**培養**する　倍×養

はかい　**破壊**されたビル　破壌×・破懐×
はくりょく　**迫力**ある試合　薄×力・魄×力
はけん　役員を**派遣**する　派遺×
はつおんびん　**撥***音便**　発×音便
はっき　威力を**発揮**する　発輝×
はっしょう　回教**発祥**の地　発生×
はっぽうさい　**八宝菜**を注文する　八芳×菜
はつらつ　元気**溌*剌***　発×剌
はつろ　愛情の**発露**　発路×
はてんこう　**破天荒**の事業　破天候×
はなお　下駄の**鼻緒**　花×諸・鼻尾×
はながた　一座の**花形**　花型×
はながみ　**鼻紙**でかむ　花×紙
はらん　**波乱**(瀾*)万丈　破×乱
はわたり　**刃渡り**二〇センチ　歯×渡り
はんえい　性格を**反映**する　反影×
はんけい　円の**半径**　半経×
ばんじきゅうす　**万事休す**　万事窮×す
はんしょく　菌が**繁殖**する　繁植×
はんしんふずい　**半身不随**　半身不髄×
ばんぜん　**万全**を期する　万善×
はんぷ　特別に**頒布**する　頒付×
はんぷく　練習を**反復**する　反複×
ばんりょくそうちゅう　**万緑叢*中**紅一点　万緑草×中
ひかん　将来を**悲観**する　悲感×
ひこう　**非行**を重ねる　否×行
ひこうかい　**非公開**の審議　否×公開

読み	用例	誤記
ひこうしき	**非公式**の発言	否×公式
ひこうにん	**非公認**の候補者	否×公認
ひじゅん	条約を**批准**する	比×准・批準×
ひそう	**皮相**な見解	皮層×・皮想×
ひそう	**悲壮**な覚悟	悲想×・非×荘×
ひだち	産後の**肥立ち**	日×立ち
ひってき	彼に**匹敵**する者は	匹適×・比×敵
ひてい	うわさを**否定**する	非×定
ひとごと	**人事**のように	人言×
ひなん	相手を**非難**する	否×難
ひにん	事実を**否認**する	非×認
ひのこ	**火の粉**を浴びる	火の子×
ひへい	国が**疲弊**する	疲幣×
びみょう	**微妙**な問題	徴×妙
ひょうしょう	功績を**表彰**する	表賞×
びょうじょう	**病状**を尋ねる	病情×
びんぼう	**貧乏**暇なし	貪×乏・貧棒×
ふうこうめいび	**風光明媚***	風光名×美
ふうてい	怪しい**風体**の者	風態×
ふかけつ	**不可欠**の要件	不可決×
ふくざつ	**複雑**な事情	復×雑×
ふくしゃ	資料を**複写**する	復×写
ふくしん	**腹心**の部下	腹臣×
ふくせい	名画を**複製**する	復×製・複生×
ふくせん	**伏線**を張る	複×線
ふくせん	**複線**の線路	復×線
ふくぞう	**腹蔵**のない意見	腹臓×

読み	用例	誤記
ふしぎ	**不思議**な事件	不思儀×
ふしまつ	火の**不始末**	不仕×末
ぶしょ	各人の**部署**	部所×
ふしょうぶしょう	**不承不承**	不性×・不精×
ふしょく	勢力を**扶植**する	扶殖×
ふそくふり	**不即不離**	不則×不離
ふたく	委員会に**付託**する	附×託
ぶつだん	**仏壇**を飾る	仏段×・仏檀×
ふっとう	湯が**沸騰**する	沸謄×
ふはい	**腐敗**した政界	腐廃×
ふへん	**普遍**的　**普遍**性	普偏×・不×変×
ふへんふとう	**不偏不党**	不変×不党
ふわらいどう	**付和雷同**	不×和雷動×
ふんいき	静かな**雰囲気**	零×囲気
ふんがい	汚職に**憤慨**する	憤概×・噴×慨
ふんき	負けて**奮起**する	憤×起・奮気×
ふんきゅう	会議が**紛糾**する	粉×糾
ふんげき	**憤激**して帰る	噴×激
ふんこつさいしん	**粉骨砕身**	紛×骨細×心×
ふんさい	岩石を**粉砕**する	粉細×・紛×砕
ふんしつ	書類を**紛失**する	粉×失
ふんしょく	決算を**粉飾**する	紛×飾
ふんせき	成分を**分析**する	分折×・分柝×
ふんそう	**紛争**が続発する	粉×争
ふんぱつ	祝儀を**奮発**する	憤×発
ふんぱんもの	**噴飯物**の計画	憤×飯者×
へいがい	**弊害**を除く	幣×害

読み	用例	誤記
へいじょう	**平常**の生活	平生×
へいせつ	幼稚園を**併設**する	並×設
へいはつ	余病を**併発**する	並×発
へいふく	**平伏**して謝る	平服×
へんくつ	**偏屈**な性格	変×屈
へんけん	**偏見**を持つ	遍×見・変×見
へんさい	借金を**返済**する	返斉×
ほうがい	**法外**な要求	方×外
ぼうがい	安眠を**妨害**された	防×害
ほうかご	**放課後**の運動	放科×後
ほうがちょう	**奉加帳**を回す	奉賀×帳
ほうかつ	全体を**包括**する	抱×活
ぼうけん	**冒険**をする	冒検×
ほうこ	資源の**宝庫**	豊×庫
ぼうし	騒音を**防止**する	妨×止
ほうしゃ	神社に**報謝**する	報捨×
ぼうじゃくぶじん	**傍若無人**	暴×若無尽×
ぼうとう	地価が**暴騰**する	暴謄×
ほうねんまんさく	**豊年満作**	豊年万×作
ほうまん	**放漫**な経営	放慢×
ほうもん	新居を**訪問**する	訪門×
ほうよう	**法要**を営む	法養×
ほうれつ	カメラの**放列**	砲×列
ほかく	鯨を**捕獲**する	捕穫×
ほけん	生命**保険**の**保険**料	保検×・保倹×
ぼんさい	**盆栽**をいじる	盆裁×
まぎわ	出発の**間際**	真×際

読み	正しい書き方	誤り
ますい	麻酔を掛ける	魔×酔・麻睡×
まぢか	間近に迫る	真×近
まぶか	目深にかぶる	真×深
まやく	麻薬の中毒	魔×薬
まんじょういっち	満場一致	万×場一致
まんせい	慢性の中耳炎	漫×性
まんぜん	漫然と暮らす	慢×然
まんてん	満点の成績	万×点
まんべんなく	万遍なく見る	万辺×
まんゆう	諸国を漫遊する	慢×遊
みきわめる	限界を見窮める	見決める
みせいねん	未成年の男子	未青×年
みせや	店屋で買う	店家×
みぜん	火事を未然に防ぐ	未前×
みつげつ	蜜*月の思い出	密×月
みっせつ	密接な関係	密切×
むがむちゅう	無我夢中	無我無×中
むちゅう	夢中で走る	無×中
むぼう	無謀な行為	無暴×・無媒×
むよう	無用の長物	無要×
めいがら	酒の銘柄	名×柄
めいぎ	名義を変更する	名儀×
めいし	名刺を出す	名刺×
めいめい	銘々が注意する	名×々
もうかんじゅうそう	盲管銃創	盲貫×銃創
もうじゃ	金の亡者	妄×者
もくそう	目礼し目送する	黙×送

読み	正しい書き方	誤り
もくひ	黙秘する　黙秘権	黙否×
もけい	客船の模型	模形×
もじばん	文字盤の字	文字板×
もちこむ	材料を持ち込む	持ち越×む
もはん	模範とする人物	摸×範
もよう	模様を描く	摸×様
もんぴょう	門標を掲げる	門表×
やかたぶね	屋形船	家×型×船
やごう	料理屋の屋号	家×号
やっき	捜索に躍起になる	躍気×
やぬし	横柄な家主	屋×主
やね	屋根を修理する	家×根
ゆいごん	父の遺言　遺言状	遺×言
ゆうこう	友好関係　友好的	友交×
ゆうすいち	上流の遊水池	遊水地×
ゆうぜん	友禅の着物	友染×・友仙×
ゆうそう	勇壮なマーチ	雄×荘×
ゆうたい	社長を勇退する	優×退
ゆうだい	雄大な景色	勇×大
ゆうひ	海外に雄飛する	勇×飛
ゆうふく	裕福な暮らし	有×福・祐×副×
ゆうもう	勇猛な軍人	雄×猛
ゆうよ	支払いを猶予する	猶余×・裕×予
ゆるがせ	忽*せにできない	揺×るがせ
ようぎょじょう	養魚場を営む	養漁×場
ようじ	楊*枝でほじくる	揚×枝
ようじゃく	幼弱な時期	幼若×

読み	正しい書き方	誤り
ようしょう	幼少のころ	幼小×
ようせい	人材を養成する	養生×
よぎない	余儀ない事情	余義×・予×儀
よきん	銀行へ預金する	予×金
よくせい	行動を抑制する	抑勢×
よご	手術の予後	余×後
よせい	余生を送る	余世×
よだん	予断を許さない	余×断
よゆう	余裕を持つ	余猶×・予×裕
よろん	輿*論の動向	与×論
らっかん	情勢を楽観する	楽感×
りしょく	利殖を目的とする	利植×・利食×
りちぎ	律義(儀)な人	律気×
りゃくぎ	略儀ながら…	略義×
れいぎ	礼儀を重んじる	礼義×
れいげん	霊験あらたか	霊顕×
れいふじん	令夫人を同伴	令婦×人
れきじつ	山中暦日なし	歴×日
れんしょ	名前を連署する	連書×
れんたい	連帯感　連帯責任	連体×
ろうこう	老巧な選手	老功×
ろうぜき	狼*藉*を働く	浪×籍×
ローマほうおう	ローマ法王	法皇×
ろうれい	老齢に達する	老令×
わいきょく	事実を歪*曲する	否×曲
わいろ	賄*賂を贈る	賄路×

同音の漢字による書きかえ

・昭和三一年七月五日国語審議会から文部大臣に報告されたもの。

・教科書や新聞・雑誌などでは広く用いられているが、中には、しっくりしない感じを与えるものもあるのは否めない。（三省堂編修所注）

1　当用漢字の使用を円滑にするため、当用漢字表以外の漢字を含んで構成されている漢語を処理する方法の一つとして、表中同音の別の漢字に書きかえることが考えられる。ここには、その書きかえが妥当であると認め、広く社会に用いられることを希望するものを示した。

2　同字で、単に字体の異なるだけのものも掲げてある。（例　糺×明→糾明）

3　字音の中には、いわゆる慣用音によったものもある。（例　撒×水→散水）

矢印の上は当用漢字表にない漢字で書かれる漢語、下は書きかえてある。一字のものは、上の字は下の字に書きかえてさしつかえないことを示す。

(法)　法令用語改正例　(化)　〃（化学編）
(物)　学術用語集(物理学編)　(船)　〃（船舶工学編）
(土)　〃（土木工学編）　(建)　〃（建築学編）
(鉱)　〃（採鉱ヤ金学編）　(医)　医学用語集(第一次選定)
および現在文部省学術用語分科審議会医学用語専門部会で採用のもの。
×…当用漢字表にない漢字（＊は常用漢字　三省堂注）

あ

愛慾×→愛欲
闇×→暗
安佚×→安逸
暗翳×→暗影
暗誦×→暗唱
按×分→案分
闇×夜→暗夜

い

意嚮×→意向
慰藉×料→慰謝料(法)
衣裳×→衣装
遺蹟×→遺跡
一挺×→一丁
陰翳×→陰影

え

叡×智×→英知
頴×才→英才

焔×→炎
掩×護→援護
苑×地→園地(法)

お

臆×説→憶説
臆×測→憶測
恩誼×→恩義

か

誡×→戒
廻×→回
外廓×→外郭(法)
快濶×→快活
皆既蝕×→皆既食
誡×告→戒告
開鑿×→開削
廻×送→回送
蛔×虫→回虫(医)
廻×転→回転
恢×復→回復
潰×滅→壊滅
潰×乱→壊乱

廻×廊→回廊
火焔×→火炎
劃×→画
廓×→郭
劃×然→画然
廓×大→郭大
挌×闘→格闘
劃×期的→画期的
活潑×→活発
旱×害→干害
間歇×→間欠
管絃×楽→管弦楽
肝腎×→肝心
旱×天→干天
乾溜×→乾留(化)

き

畸×→奇
稀×→希
気焔×→気炎
饑×餓→飢餓
企劃×→企画

畸×形 → 奇形
稀×元素 → 希元素
稀×釈 → (化)希釈
稀×少 → 希少
徽×章 → 記章
奇蹟× → 奇跡
稀×代 → 希代
綺×談 → 奇談
機智× → 機知
吃×水 → (法)(船)喫水
稀×薄 → 希薄
糺× → 糾
糺×弾 → 糾弾
糺×明 → 糾明
旧蹟× → 旧跡
馭× → 御
兇× → 凶
兇×悪 → 凶悪
饗×応 → 供(法)応
教誨× → 教戒
兇×漢 → 凶漢
兇×器 → 凶器
鞏×固 → 強固
兇×行 → 凶行
兇×刃 → 凶刃
兇×変 → 凶変
兇×暴 → 凶暴
馭×者 → 御者
漁撈× → 漁労
稀×硫酸 → 希硫酸
技倆× → 技量
吟誦× → 吟唱

く

区劃× → 区画
掘鑿× → 掘(鉱)削
訓誡× → 訓戒
燻×製 → 薫製

け

繋×船 → (法)(船)係船
繋×争 → 係争
繋×属 → (法)係属
繋×留 → (法)係留
下剋×上 → 下克上
決潰× → 決壊
蹶×起 → 決起
月蝕× → 月食
訣×別 → 決別
絃× → 弦
絃×歌 → 弦歌
元兇× → 元凶
嶮×岨× → 険阻
研磨×* → 研(鉱)摩
儼×然 → 厳然

こ

倖× → 幸
宏× → 広
礦× → 鉱
交驩× → 交歓
礦×業 → 鉱業
鯁×骨 → 硬骨
交叉× → 交(法)差
扣×除 → 控(法)除
甦×生 → 更生
礦×石 → 鉱(鉱)石
宏×壮 → 広壮
宏×大 → 広大
香奠× → 香典
昂×騰 → 高騰
広汎× → 広範
昂×(亢×)奮 → 興奮
弘×報 → 広(法)報
曠×野 → 広野
昂×揚 → 高揚
強慾× → 強欲
媾×和 → 講和
涸×渇 → 枯渇
古稀× → 古希
古蹟× → 古跡
骨骼× → (動)(医)骨格
雇傭× → 雇(法)用
混淆× → 混交
根柢× → 根底
昏×迷 → 混迷

さ

坐× → 座
醋×酸 → 酢(化)酸
坐×視 → 座視
坐×礁 → 座(船)礁
坐×洲× → 座州
雑沓× → 雑踏
讃× → 賛
三絃× → 三弦
讃×仰 → 賛仰
讃×辞 → 賛辞
撒×水 → 散水
讃×嘆 → 賛嘆
讃×美 → 賛美
撒×布 → 散布

し

色慾× → 色欲
刺戟× → 刺激
史蹟× → 史跡
屍×体 → 死体
七顛×八倒 → 七転八倒(医)
死歿× → 死没

射倖×心 → 射幸心
車輛× → 車両
洲× → 州
輯× → 集
蒐×荷 → 集荷
蒐×集 → 収集
終熄× → 終息
聚×落 → 集落
手蹟× → 手跡
駿×才 → 俊才
陞× → 昇
銷× → 消
銷×夏 → 消夏
銷×却 → 消却（法）
障碍× → 障害（法）
情誼× → 情義
称(賞)讃× → 称(賞)賛
陞×叙 → 昇叙
焦躁× → 焦燥
銷×沈 → 消沈
牆×壁 → 障壁（法）

蒸溜× → 蒸留（化）
書翰× → 書簡
蝕×甚×* → 食尽
食慾× → 食欲（医）
抒×情 → 叙情
試煉× → 試練
鍼×術 → 針術
侵蝕× → 侵食（法）
浸蝕× → 浸食（化）
真蹟× → 真跡
伸暢× → 伸長
滲×透 → 浸透
侵掠× → 侵略
訊×問 → 尋問

す

衰頽× → 衰退

せ

制馭×(禦×) → 制御
棲×(栖×)息 → 生息
性慾× → 性欲（医）
蹟× → 跡

絶讃× → 絶賛
尖×鋭 → 先鋭
全潰× → 全壊
銓×衡 → 選考
煽×情 → 扇情
洗滌× → 洗浄（法）（医）
戦々兢×々 → 戦々恐々
船艙× → 船倉（船）
尖×端 → 先端
擅×断 → 専断
煽×動 → 扇動
戦歿× → 戦没

そ

沮× → 阻
惣× → 総
象嵌× → 象眼
蒼×惶× → 倉皇
綜×合 → 総合
相剋× → 相克
惣×菜 → 総菜
装釘×(幀×) → 装丁

剿×滅 → 掃滅
簇×生 → 族生
沮×止 → 阻止
疏×水 → 疎水
沮×喪 → 阻喪
疏×通 → 疎通
疏×明 → 疎明（法）

た

褪×色 → 退色
頽×勢 → 退勢
頽×廃 → 退廃
颱×風 → 台風
大慾× → 大欲
奪掠× → 奪略
歎× → 嘆
歎×願 → 嘆願
炭礦× → 炭鉱
端坐× → 端座
短篇× → 短編
煖×房 → 暖房（建）
煖×炉 → 暖炉（建）

ち

智× → 知
智×慧× → 知恵
智×能 → 知能
智×謀 → 知謀
註× → 注
註×解 → 注解
註×釈 → 注釈
註×文 → 注文
長篇× → 長編
沈澱× → 沈殿（化）

て

低徊× → 低回
牴×(觝×)触 → 抵触（法）
鄭×重 → 丁重
叮×嚀× → 丁寧
碇×泊 → 停泊（法）
手帖× → 手帳
顚×倒 → 転倒
顚×覆 → 転覆（法）

と

踏× → 踏
倒潰× → 倒壊
踏×襲 → 踏襲
特輯× → 特集
杜×絶 → 途絶

に

日蝕× → 日食

は

悖×徳 → 背徳
破毀× → 破棄(法)
曝×露 → 暴露(法)
破摧× → 破砕
醱×酵 → 発酵
薄倖× → 薄幸
抜萃× → 抜粋
叛× → 反
叛×旗 → 反旗
叛×逆 → 反逆
蕃×殖 → 繁殖(法)
蕃×族 → 蛮族
反撥× → 反発
叛×乱 → 反乱

ひ

蜚×語 → 飛語
筆蹟× → 筆跡
病歿× → 病没

ふ

諷×刺 → 風刺
腐蝕× → 腐食
符牒× → 符丁
物慾× → 物欲
腐爛× → 腐乱

へ

篇× → 編
辺疆× → 辺境
編輯× → 編集

ほ

輔× → 補
哺×育 → 保育
崩潰× → 崩壊
妨碍× → 妨害
抛×棄 → 放棄(法)
防禦× → 防御
繃×帯 → 包帯(医)
厖×大 → 膨大
庖×丁 → 包丁
抛×物線 → 放物線(物)
輔×佐 → 補佐
鋪×装 → 舗装
歿× → 没
輔×導 → 補導
保姆× → 保母

ま

磨×*滅 → 摩滅(土)

む

無智× → 無知
無慾× → 無欲

め

名誉慾× → 名誉欲
棉×花 → 綿花

も

摸× → 模
妄×*動 → 盲動
摸×索 → 模索

や

野鄙× → 野卑

よ

熔×・鎔× → 溶
鎔×解 → 溶解(鉱)
熔×岩 → 溶岩(鉱)
鎔×鉱炉 → 溶鉱炉(鉱)
熔×接 → 溶接(鉱)
慾× → 欲

ら

落磐× → 落盤(鉱)(法)

り

理窟× → 理屈
悧×巧 → 利口
理智× → 理知
離叛× → 離反
掠× → 略
掠×奪 → 略奪
俚×謡 → 里謡
諒× → 了
輛× → 両
諒×解 → 了解
諒×承 → 了承
輪廓× → 輪郭

れ

聯× → 連
連繫× → 連係
聯×合 → 連合
連坐× → 連座
聯×想 → 連想
聯×珠 → 連珠
煉×炭 → 練炭(化)
煉×乳 → 練乳(医)
聯×邦 → 連邦
聯×盟 → 連盟
聯×絡 → 連絡
聯×立 → 連立

わ

彎× → 湾
彎×曲 → 湾曲(法)
彎×入 → 湾入

日本新聞協会の、同音の漢字による書きかえ

・国語審議会報告「同音の漢字による書きかえ」（一六九ページ）にならって、日本新聞協会の新聞用語懇談会が定めたもの。新聞・雑誌などでは広く用いられている。ここには「新訂　新聞用語集」（昭和四四年七月　同協会刊）から、漢字の書きかえに関するもののみを抜粋した。（その後の改訂で削除されたものもある。）

・矢印の上は本来の漢字、下はその書きかえ、×は「当用漢字（音訓）表」にない漢字（ただし、＊は常用漢字）や読みである。

・点線の下には、国語審議会報告「同音の漢字による書きかえ」中の関連事項を掲げた。

（三省堂編修所注）

本来の漢字		書きかえ	関連事項
萎×縮	↓	委縮	
一攫×千金	↓	一獲千金	
臆×病	↓	憶病	憶説　憶測
恰×好	↓	格好	
恰×幅	↓	格幅	
貫禄×	↓	貫録	
義捐×金	↓	義援金	
毀×損	↓	棄損	破棄
気魄×	↓	気迫	
詭×弁	↓	奇弁	
饗×宴	↓	供宴	供応
橋頭堡×	↓	橋頭保	
禁錮×	↓	禁固	
均斉×＊	↓	均整	
燻×蒸	↓	薫蒸	薫製
敬虔×	↓	敬謙	
激昂×	↓	激高	高騰　高揚
眩×惑	↓	幻惑	
勾×引	↓	拘引	
耕耘×機	↓	耕運機	
昂×（亢×）進	↓	高進	高騰　高揚
渾×然	↓	混然	
鑿×岩機	↓	削岩機	開削　掘削
三叉×路	↓	三差路	交差
質種×	↓	質草	
紫斑×	↓	紫班	
駿×足	↓	俊足	俊才
醇×朴×＊	↓	純朴×＊	
饒×舌	↓	冗舌	
食餌×療法	↓	食事療法	
尖×兵	↓	先兵	先鋭　先端
擡×頭	↓	台頭	
抽籤×	↓	抽選	
鳥瞰×図	↓	鳥観図	
廃墟×	↓	廃虚	
波瀾×	↓	波乱	
斑×点	↓	班点	
飄×然	↓	漂然	
披×＊瀝×	↓	披×＊歴	
風光明媚×	↓	風光明美	
敷（布）衍×	↓	敷延	
不恰×好	↓	不格好	
扮×装	↓	粉装	
防遏×	↓	防圧	
捧×持	↓	奉持	
芳醇×	↓	芳純	
堡×塁	↓	保塁	
拇×指	↓	母指	
磨×＊耗	↓	摩耗	研摩　摩滅
脈搏×	↓	脈拍	
名誉毀×損	↓	名誉棄損	破棄
妄×＊執	↓	盲執	盲動
妄×＊想	↓	盲想	〃
妄×＊念	↓	盲念	〃
友誼×	↓	友宜	恩義　情義
優駿×	↓	優俊馬	俊才
悠×＊然	↓	裕然	
油槽×＊船	↓	油送船	
落伍×	↓	落後	
溜×飲	↓	留飲	乾留　蒸留
了（料）簡×	↓	了見	
練（錬）磨×＊	↓	練摩	研摩　摩滅

人名用漢字別表

・子供の名前に用いる文字は戸籍法と戸籍法施行規則によって定められている。このうち、漢字は、常用漢字（一九四五字）と人名用漢字別表の漢字（二八五字）の計二二三〇字に制限されている。
・字体は新字体に限られるが、常用漢字一九五字（「附則別表一」参照）と人名用漢字別表の漢字一〇字（「附則別表二」参照）については、当分の間、旧字体も用いることができる。なお、漢字の読み方は制限されていない。
・漢字の読み方については、「新明解漢和辞典」「三省堂漢和辞典」の巻末付録を参照されたい。
・昭和二六年に発表された人名用漢字別表の漢字は九二字であったが、五一年に二八字、五六年に五四字（常用漢字表に加えられた八字を削除）、平成二年に一一八字、九年に一字追加された。

（三省堂編修所注）

戸籍法　第五十条

①子の名には、常用平易な文字を用いなければならない。
②常用平易な文字の範囲は、命令でこれを定める。

戸籍法施行規則　第六十条〔平成二年四月一日施行〕

戸籍法第五十条第二項〔常用平易な文字の範囲〕の常用平易な文字は、左に掲げるものとする。

一　常用漢字表（昭和五十六年内閣告示第一号）に掲げる漢字（括弧書きが添えられているものについては、括弧の外のものに限る。）
二　別表第二に掲げる漢字
三　片仮名又は平仮名（変体仮名を除く。）

別表第二　人名用漢字別表（第六十条関係）

丑丞乃之也*亘亥亦亨亮伊伍伎伶伽佑侃
侑倖倭偲允冴冶凌凜凪凱勁匡卯叡只叶
吾呂哉唄啄喬嘉圭尭奈奎媛嬉孟宏宥寅
峻崚嵐嵩嵯嶺*巌巳巴巽庄弘*弥彗彦彪彬
怜恕悌惇惟惣慧憧拳捷捺敦斐於旦旭旺
昂昌昴晃晋晏晟晨智暉暢曙朋朔李杏杜
柊柚柾栗栞桂桐梓梢梧梨椋椎椰椿楊楓
楠榛槙槻樺橘檀欣欽毅毬汀汐汰沙洲洵
洸浩淳*渚渥湧滉漱澪煕熊燎燦燿爽爾*猪
玖玲*琢琉琳瑚瑛瑞瑠瑶瑳璃甫皐皓眉眸
睦瞭瞳矩碧碩磯*祐*禄*禎秦稀稔稜*穣竣笙
笹紗紘紬絃絢綜綸綺綾緋翔翠耀耶聡肇
胡胤脩舜艶芙芹苑茉茄茅茜莉莞菖菫萌
萩葵蒔蒼蓉蓮蔦蕉蕗藍藤蘭虎虹蝶衿袈
裟詢誼諄諒赳輔辰迪遥遼邑那郁酉醇采

錦鎌阿隼雛霞靖鞠須頌颯馨駒駿魁鮎鯉
鯛鳩鳳鴻鵬鶴鷹鹿麟麿黎黛亀

〔三省堂注　＊印の漢字は旧字体でも用いることができる。〕

附則

2　当分の間、子の名には、この省令による改正後の戸籍法施行規則第六十条各号に掲げる文字のほか、附則別表に掲げる漢字を用いることができる。

附則別表　人名用漢字許容字体表（附則第二項関係）

〔三省堂注　（　）内は第六十条規定の字体で、新字体〕

一　常用漢字表に掲げる漢字に関するもの

亞（亜）惡（悪）爲（為）逸（逸）衞（衛）謁（謁）緣（縁）
應（応）櫻（桜）奧（奥）橫（横）溫（温）價（価）禍（禍）
悔（悔）海（海）壞（壊）懷（懐）樂（楽）渴（渇）卷（巻）
陷（陥）寬（寛）漢（漢）氣（気）祈（祈）器（器）僞（偽）
戲（戯）虛（虚）峽（峡）狹（狭）響（響）曉（暁）勤（勤）
謹（謹）勳（勲）薰（薫）惠（恵）揭（掲）鷄（鶏）藝（芸）
擊（撃）縣（県）儉（倹）劍（剣）險（険）圈（圏）檢（検）
顯（顕）驗（験）嚴（厳）廣（広）恆（恒）黃（黄）國（国）
黑（黒）穀（穀）碎（砕）雜（雑）祉（祉）視（視）兒（児）
濕（湿）社（社）者（者）煮（煮）壽（寿）收（収）臭（臭）
從（従）澁（渋）獸（獣）縱（縦）祝（祝）暑（暑）署（署）
緖（緒）諸（諸）敍（叙）將（将）祥（祥）涉（渉）燒（焼）
奬（奨）條（条）狀（状）乘（乗）淨（浄）剩（剰）疊（畳）
孃（嬢）讓（譲）釀（醸）神（神）眞（真）寢（寝）愼（慎）
盡（尽）粹（粋）醉（酔）穗（穂）瀨（瀬）齊（斉）靜（静）
攝（摂）節（節）專（専）戰（戦）纖（繊）禪（禅）祖（祖）
壯（壮）爭（争）莊（荘）搜（捜）巢（巣）裝（装）僧（僧）
層（層）騷（騒）增（増）憎（憎）藏（蔵）贈（贈）臟（臓）
卽（即）帶（帯）滯（滞）單（単）嘆（嘆）團（団）彈（弾）
晝（昼）鑄（鋳）著（著）廳（庁）徵（徴）聽（聴）懲（懲）
鎭（鎮）轉（転）傳（伝）都（都）燈（灯）盜（盗）稻（稲）
德（徳）突（突）難（難）拜（拝）賣（売）梅（梅）髮（髪）
拔（抜）繁（繁）晚（晩）卑（卑）祕（秘）碑（碑）賓（賓）
敏（敏）侮（侮）福（福）拂（払）佛（仏）勉（勉）步（歩）
墨（墨）飜（翻）每（毎）默（黙）藥（薬）與（与）搖（揺）
樣（様）謠（謡）來（来）賴（頼）覽（覧）欄（欄）龍（竜）
虜（虜）綠（緑）淚（涙）壘（塁）類（類）曆（暦）歷（歴）
練（練）鍊（錬）郞（郎）朗（朗）廊（廊）錄（録）

二　別表第二に掲げる漢字に関するもの

亙（亘）巖（巌）彌（弥）渚（渚）猪（猪）琢（琢）祐（祐）
祿（禄）禎（禎）穰（穣）

現代仮名遣い

・昭和六一年七月一日内閣告示第一号。
・この告示により、内閣告示「現代かなづかい」（昭和二一年一一月一六日付）は廃止された。
・旧「現代かなづかい」は「大体、現代語音にもとづいて、現代語をかなで書きあらわす場合の準則を示したもの」であるが、新「現代仮名遣い」の性格は「前書き1・2」以下のとおりである。ただし、両者の内容はほとんど変わらない。
・旧「現代かなづかい」のきまりは、仮名の表四表・細則三三項目・備考一〇項目などで示されている。新「現代仮名遣い」は、原則五項目（第1）・特例六項目（第2）・付記一項目などで示されている。
・原文は横書き。

（三省堂編修所注）

前書き

1　この仮名遣いは、語を現代語の音韻に従って書き表すことを原則とし、一方、表記の慣習を尊重して一定の特例を設けるものである。

2　この仮名遣いは、法令、公用文書、新聞、雑誌、放送など、一般の社会生活において、現代の国語を書き表すための仮名遣いのよりどころを示すものである。

3　この仮名遣いは、科学、技術、芸術その他の各種専門分野や個々人の表記にまで及ぼそうとするものではない。

4　この仮名遣いは、主として現代文のうち口語体のものに適用する。原文の仮名遣いによる必要のあるもの、固有名詞などでこれによりがたいものは除く。

5　この仮名遣いは、擬声・擬態的描写や嘆声、特殊な方言音、外来語・外来音などの書き表し方を対象とするものではない。

6　この仮名遣いは、「ホオ・ホホ（頰）」「テキカク・テッカク（的確）」のような発音にゆれのある語について、その発音をどちらかに決めようとするものではない。

7　この仮名遣いは、点字、ローマ字などを用いて国語を書き表す場合のきまりとは必ずしも対応するものではない。

8　歴史的仮名遣いは、明治以降、「現代かなづかい」（昭和二一年内閣告示第三三号）の行われる以前には、社会一般の基準として行われていたものであり、今日においても、歴史的仮名遣いで書かれた文献などを読む機会は多い。歴史的仮名遣いが、我が国の歴史や文化に深いかかわりをもつものとして、尊重されるべきことは言うまでもない。また、この仮名遣いにも歴史的仮名遣いを受け継いでいるところがあり、この仮名遣いの理解を深める上で、歴史的仮名遣いを知ることは有用である。付表において、この仮名遣いと歴史的仮名遣いとの対照を示すのはそのためである。

本文

凡例

1 原則に基づくきまりを第1に示し、表記の慣習による特例を第2に示した。

2 例は、おおむね平仮名書きとし、適宜、括弧内に漢字を示した。常用漢字表に掲げられていない漢字及び音訓には、それぞれ*印及び△印をつけた。

第1

語を書き表すのに、現代語の音韻に従って、次の仮名を用いる。

ただし、下線を施した仮名は、第2に示す場合にだけ用いるものである。

1 直音

あ い う え お
か き く け こ　が ぎ ぐ げ ご
さ し す せ そ　ざ じ ず ぜ ぞ
た ち つ て と　だ ぢ づ で ど
な に ぬ ね の
は ひ ふ へ ほ　ば び ぶ べ ぼ
　　　　　　　ぱ ぴ ぷ ぺ ぽ
ま み む め も
や ゆ よ
ら り る れ ろ
わ を

例　あさひ(朝日)　きく(菊)　さくら(桜)　ついやす(費)　にわ(庭)　ふで(筆)　もみじ(紅葉)　ゆずる(譲)　れきし(歴史)　わかば(若葉)　えきか(液化)　せいがくか(声楽家)　さんぽ(散歩)

2 拗音(よう)

きゃ きゅ きょ　ぎゃ ぎゅ ぎょ
しゃ しゅ しょ　じゃ じゅ じょ
ちゃ ちゅ ちょ　ぢゃ ぢゅ ぢょ
にゃ にゅ にょ
ひゃ ひゅ ひょ　びゃ びゅ びょ
　　　　　　　　ぴゃ ぴゅ ぴょ
みゃ みゅ みょ
りゃ りゅ りょ

例　しゃかい(社会)　しゅくじ(祝辞)　かいじょ(解除)　りゃくが(略画)

〔注意〕 拗音に用いる「や、ゆ、よ」は、なるべく小書きにする。

3 撥音(はつ)　ん

例　まなんで(学)　みなさん　しんねん(新年)　しゅんぶん(春分)

4 促音　っ

例　はしって(走)　かっき(活気)　がっこう(学校)　せっけん(石*鹸)

〔注意〕 促音に用いる「つ」は、なるべく小書きにする。

5 長音

(1) ア列の長音

ア列の仮名に「あ」を添える。
例　おかあさん　おばあさん
(2)　イ列の長音
イ列の仮名に「い」を添える。
例　にいさん　おじいさん
(3)　ウ列の長音
ウ列の仮名に「う」を添える。
例　おさむうございます(寒)　くうき(空気)
ふうふ(夫婦)
うれしゅう存じます　きゅうり
ぼくじゅう(墨汁)　ちゅうもん(注文)
(4)　エ列の長音
エ列の仮名に「え」を添える。
例　ねえさん　ええ(応答の語)
(5)　オ列の長音
オ列の仮名に「う」を添える。
例　おとうさん　とうだい(灯台)
わこうど(若人)　おうむ
かおう(買)　あそぼう(遊)　おはよう(早)
おうぎ(扇)　ほうる(*抛)　とう(塔)
よいでしょう　はっぴょう(発表)
きょう(今日)　ちょうちょう(*蝶々)

第2

特定の語については、表記の慣習を尊重して、次のように書く。

1　助詞の「を」は、「を」と書く。
例　本を読む　岩をも通す　失礼をばいたしました
やむをえない　いわんや…をや　よせばよいものを
てにをは
2　助詞の「は」は、「は」と書く。
例　今日は日曜です　山では雪が降りました
あるいは　または　もしくは
いずれは　さては　ついては　ではさようなら
とはいえ
惜しむらくは　恐らくは　願わくは
これはこれは　こんにちは　こんばんは
悪天候もものかは

〔注意〕　次のようなものは、この例にあたらないものとする。
いまわの際　すわ一大事
雨も降るわ風も吹くわ　来るわ来るわ
きれいだわ
3　助詞の「へ」は、「へ」と書く。
例　故郷へ帰る　…さんへ　母への便り　駅へは数分
4　動詞の「いう(言)」は、「いう」と書く。
例　ものをいう(言)　いうまでもない
昔々あったという
どういうふうに　人というもの　こういうわけ
5　次のような語は、「ぢ」「づ」を用いて書く。
(1)　同音の連呼によって生じた「ぢ」「づ」
例　ちぢみ(縮)　ちぢむ　ちぢれる　ちぢこまる

つづみ（鼓）　つづら　つづく（続）
つづめる（△約）　つづる（*綴）
〔注意〕「いちじく」「いちじるしい」は、この例にあたらない。

(2) 二語の連合によって生じた「ぢ」「づ」

例　はなぢ（鼻血）　そえぢ（添乳）　もらいぢち
そこぢから（底力）　ひぢりめん
いれぢえ（入知恵）　ちゃのみぢゃわん
まぢか（間近）　こぢんまり
ちかぢか（近々）　ちりぢり
みかづき（三日月）　たけづつ（竹筒）
たづな（手綱）　ともづな　にいづま（新妻）
けづめ　ひづめ　ひげづら
おこづかい（小遣）　あいそづかし　わしづかみ
こころづくし（心尽）　てづくり（手作）
こづつみ（小包）　ことづて　はこづめ（箱詰）
はたらきづめ　みちづれ（道連）
かたづく　こづく（小突）　どくづく　もとづく
うらづける　ゆきづまる　ねばりづよい
つねづね（常々）　つくづく　つれづれ

なお、次のような語については、現代語の意識では一般に二語に分解しにくいもの等として、それぞれ「じ」「ず」を用いて書くことを本則とし、「せかいぢゅう」「いなづま」のように「ぢ」「づ」を用いて書くこともできるものとする。

例　せかいじゅう（世界中）
いなずま（稲妻）　かたず（固*唾）　きずな（*絆）
さかずき（杯）　ときわず　ほおずき　みみずく
うなずく　おとずれる（訪）　かしずく
つまずく　ぬかずく　ひざまずく
あせみずく　くんずほぐれつ　さしずめ
でずっぱり　なかんずく
うでずく　くろずくめ　ひとりずつ
ゆうずう（融通）

〔注意〕次のような語の中の「じ」「ず」は、漢字の音読みでもともと濁っているものであって、上記(1)、(2)のいずれにもあたらず、「じ」「ず」を用いて書く。

例　じめん（地面）　ぬのじ（布地）
ずが（図画）　りゃくず（略図）

6　次のような語は、オ列の仮名に「お」を添えて書く。

例　おおかみ　おおせ（仰）　おおやけ（公）
こおり（氷・△郡）　こおろぎ　ほお（*頰・△朴）
ほおずき　ほのお（炎）　とお（十）
いきどおる（憤）　おおう（覆）　こおる（凍）
しおおせる　とおる（通）　とどこおる（滞）
もよおす（催）
いとおしい　おおい（多）　おおきい（大）
とおい（遠）
おおむね　おおよそ

これらは、歴史的仮名遣いでオ列の仮名に「ほ」又は「を」が続くものであって、オ列の長音として発音されるか、オ・オ、コ・オのように発音されるかにかかわらず、オ列の仮名に「お」を添えて書くものである。

付記　次のような語は、エ列の長音として発音されるか、エイ、ケイなどのように発音されるかにかかわらず、エ列の仮名に「い」を添えて書く。

例　かれい　せい(背)
かせいで(稼)　まねいて(招)　春めいて
へい(塀)　めい(銘)　れい(例)
えいが(映画)　とけい(時計)　ていねい(丁寧)

付表

凡例

1　現代語の音韻を目印として、この仮名遣いと歴史的仮名遣いとの主要な仮名の使い方を対照させ、例を示した。

2　音韻を表すのには、片仮名及び長音符号「ー」を用いた。

3　例は、おおむね漢字書きとし、仮名の部分は歴史的仮名遣いによった。常用漢字表に掲げられていない漢字及び音訓には、それぞれ＊印及び△印をつけ、括弧内に仮名を示した。

4　ジの音韻の項には、便宜、拗音の例を併せ挙げた。

現代語の音韻	この仮名遣いで用いる仮名	歴史的仮名遣いで用いる仮名	例
イ	い	い	石　報いる　赤い　意図　愛
		ゐ	井戸　居る　参る　胃　権威
		ひ	貝　合図　費やす　思ひ出　恋しさ
ウ	う	う	歌　馬　浮かぶ　雷雨　機運
		ふ	買ふ　吸ふ　争ふ　危ふい
エ	え	え	柄　枝　心得　見える　栄誉
		ゑ	声　植ゑる　絵　円　知恵
		へ	家　前　考へる　帰る　救へ
	へ	へ	西へ進む
オ	お	お	奥　大人　起きる　お話　雑音
		を	男　十日　踊る　青い　悪寒
		ほ	顔　氷　滞る　直す　大きい
		ふ	仰ぐ　倒れる
	を	を	花を見る
カ	か	か	蚊　紙　静か　家庭　休暇
		くわ	火事　歓迎　結果　生活　愉快
ガ	が	が	石垣　学問　岩石　生涯　発芽
		ぐわ	画家　外国　丸薬　正月　念願
ジ	じ	じ	初め　こじあける　字　自慢　術語
		ぢ	味　恥ぢる　地面　女性　正直
	ぢ	ぢ	縮む　鼻血　底力　近々　入れ知恵
ズ	ず	ず	鈴　物好き　知らずに　人数　洪水
		づ	水　珍しい　一つづつ　図画　大豆
	づ	づ	鼓　続く　三日月　塩漬け　常々
ワ	わ	わ	輪　泡　声色　弱い　和紙
		は	川　回る　思はず　柔らか　＊琵＊琶(びは)

発音	現代仮名遣い	歴史的仮名遣い	例
	は	は	我は海の子　又は
ユー	ゆう	ゆう	勇気　英雄　金融
		ゆふ	夕方
		いう	遊戯　郵便　勧誘　所有
		いふ	都*邑(といふ)
	いう	いふ	言ふ
オー	おう	おう	負うて　応答　欧米
		あう	桜花　奥義　中央
		あふ	扇　押収　凹凸
		わう	弱う　王子　往来　卵黄
		はう	買はう　舞はう　怖うございます
コー	こう	こう	功績　拘束　公平　気候　振興
		こふ	*劫(こふ)
		かう	咲かう　赤う　かうして　講義　健康
		かふ	甲乙　太*閤(たいかふ)
		くわう	光線　広大　恐慌　破天荒
ゴー	ごう	ごう	皇后
		ごふ	業　永*劫(えいごふ)
		がう	急がう　長う　強引　豪傑　番号
		がふ	合同
		ぐわう	*轟音(ぐわうおん)
ソー	そう	そう	僧　総員　競走　吹奏　放送
		さう	話さう　浅う　さうして　草案　体操
		さふ	挿話
ゾー	ぞう	ぞう	増加　憎悪　贈与
		ざう	象　蔵書　製造　内臓　仏像
		ざふ	雑煮
トー	とう	とう	弟　統一　冬至　暴投　北東
		たう	峠　勝たう　痛う　刀剣　砂糖
		たふ	塔　答弁　出納

発音	現代仮名遣い	歴史的仮名遣い	例
ドー	どう	どう	どうして　銅　童話　運動　空洞
		だう	堂　道路　*葡*萄(ぶだう)
		だふ	問答
ノー	のう	のう	能　農家　濃紺
		のふ	昨日
		なう	死なう　危なうございます　脳　苦悩
		なふ	納入
ホー	ほう	ほう	奉祝　俸給　豊年　霊峰
		ほふ	法会
		はう	葬る　包囲　芳香　解放
		はふ	はふり投げる　はふはふの体　法律
ボー	ぼう	ぼう	某　貿易　解剖　無謀
		ぼふ	正法
		ばう	遊ばう　飛ばう　紡績　希望　堤防
		ばふ	貧乏
ポー	ぽう	ぽう	本俸　連峰
		ぽふ	説法
		ぱう	鉄砲　奔放　立方
		ぱふ	立法
モー	もう	もう	もう一つ　啓*蒙(けいもう)
		まう	申す　休まう　甘う　猛獣　本望
ヨー	よう	よう	見よう　ようございます　用　容易　中庸
		やう	八日　早う　様子　洋々　太陽
		えう	幼年　要領　童謡　日曜
		えふ	紅葉
ロー	ろう	ろう	楼　漏電　披露
		ろふ	かげろふ　ふくろふ
		らう	祈らう　暗う　廊下　労働　明朗
		らふ	候文　*蠟*燭(らふそく)
キュー	きゅう	きう	弓術　宮殿　貧窮

		きう きふ	休養　丘陵　永久　要求 及第　急務　給与　階級
ギュー	ぎゅう	ぎう	牛乳
シュー	しゅう	しゅう しう しふ	宗教　衆知　終了 よろしう　周囲　収入　晩秋 執着　習得　襲名　全集
ジュー	じゅう	じゅう じう じふ ぢゅう	充実　従順　臨終　猟銃 柔軟　野獣 十月　渋滞　墨汁 住居　重役　世界中
チュー	ちゅう	ちゅう ちう	中学　衷心　注文　昆虫 抽出　鋳造　宇宙　白昼
ニュー	にゅう	にゅう にう にふ	乳酸 柔和 *埴△生(はにふ)　入学
ヒュー	ひゅう	ひう	△日△向(ひうが)
ビュー	びゅう	びう	誤*謬(ごびう)
リュー	りゅう	りゅう りう りふ	竜　隆盛 留意　流行　川柳 粒子　建立
キョー	きょう	きょう きやう けう けふ	共通　恐怖　興味　吉凶 兄弟　鏡台　経文　故郷　熱狂 教育　矯正　絶叫　鉄橋 今日　脅威　協会　海峡
ギョー	ぎょう	ぎょう ぎやう げう げふ	凝集 仰天　修行　人形 今暁 業務
ショー	しょう	しょう しやう	昇格　承諾　勝利　自称　訴訟 詳細　正直　商売　負傷　文章

		せう せふ	見ませう　小説　消息　少年　微笑 交渉
ジョー	じょう	じょう じやう ぜう ぢやう でう でふ	冗談　乗馬　過剰 成就　上手　状態　感情　古城 *饒舌(ぜうぜつ) 定石　丈夫　市場　令嬢 箇条 一*帖(いちでふ)　六畳
	ぢょう	ぢやう でう	盆△提△灯(ぼんぢやうちん) 一本調子
チョー	ちょう	ちょう ちやう てう てふ	徴収　清澄　尊重 腸　町会　聴取　長短　手帳 調子　朝食　弔電　前兆　野鳥 *蝶(てふ)
ニョー	にょう	にょう ねう	女房 尿
ヒョー	ひょう	ひょう ひやう へう	氷山 拍子　評判　兵糧 表裏　土俵　投票
ビョー	びょう	びやう べう	病気　平等 秒読み　描写
ピョー	ぴょう	ぴょう ぴやう ぺう	結氷　信*憑性(しんぴょうせい) 論評 一票　本表
ミョー	みょう	みやう めう	名代　明日　寿命 妙技
リョー	りょう	りょう りやう れう れふ	丘陵 領土　両方　善良　納涼　分量 寮　料理　官僚　終了 漁　猟

送り仮名の付け方

・昭和四八年六月一八日内閣告示第二号「送り仮名の付け方」は、常用漢字表の告示に伴い、昭和五六年一〇月一日内閣告示第三号によって一部改正された。ここには、改正された部分を含めた全文を示した。
・原文は「本文」のみが横書き。
・これを個々の語にどう適用するかについては、「必携 用字用語辞典」（三省堂刊）を参照されたい。

（三省堂編修所注）

前書き

一　この「送り仮名の付け方」は、法令・公用文書・新聞・雑誌・放送など、一般の社会生活において、「常用漢字表」の音訓によって現代の国語を書き表す場合の送り仮名の付け方のよりどころを示すものである。

二　この「送り仮名の付け方」は、科学・技術・芸術その他の各種専門分野や個々人の表記にまで及ぼそうとするものではない。

三　この「送り仮名の付け方」は、漢字を記号的に用いたり、表に記入したりする場合や、固有名詞を書き表す場合を対象としていない。

「本文」の見方及び使い方

一　この「送り仮名の付け方」の本文の構成は、次のとおりである。

単独の語

1　活用のある語

通則1　（活用語尾を送る語に関するもの）

通則2　（派生・対応の関係を考慮して、活用語尾の前の部分から送る語に関するもの）

2　活用のない語

通則3　（名詞であって、送り仮名を付けない語に関するもの）

通則4　（活用のある語から転じた名詞であって、もとの語の送り仮名の付け方によって送る語に関するもの）

通則5　（副詞・連体詞・接続詞に関するもの）

複合の語

通則6　（単独の語の送り仮名の付け方による語に関するもの）

通則7　（慣用に従って送り仮名を付けない語に関するもの）

付表の語

1　（送り仮名を付ける語に関するもの）

2　（送り仮名を付けない語に関するもの）

二　通則とは、単独の語及び複合の語の別、活用のある語及び活用のない語の別等に応じて考えた送り仮名の付け方に関する基本的な法則をいい、必要に応じ、例外的な事項又は許容的な事項を加えてある。
　したがって、各通則には、本則のほか、必要に応じて例外及び許容を設けた。ただし、通則7は、通則6の例外に当たるものであるが、該当する語が多数に上るので、別の通則として立てたものである。

三　この「送り仮名の付け方」で用いた用語の意義は、次のとおりである。

単独の語………漢字の音又は訓を単独に用いて、漢字一字で書き表す語をいう。

複合の語………漢字の訓と訓、音と訓などを複合させ、漢字二字以上を用いて書き表す語をいう。

付表の語………「常用漢字表」の付表に掲げてある語のうち、送り仮名の付け方が問題となる語をいう。

活用のある語………動詞・形容詞・形容動詞をいう。

活用のない語………名詞・副詞・連体詞・接続詞をいう。

本　則………送り仮名の付け方の基本的な法則と考えられるものをいう。

例　外………本則には合わないが、慣用として行われていると認められるものであって、本則によらず、これによるものをいう。

許　容………本則による形とともに、慣用として行われていると認められるものであって、本則以外に、これによってよいものをいう。

四　単独の語及び複合の語を通じて、字音を含む語は、その字音の部分には送り仮名を要しないのであるから、必要のない限り触れていない。

五　各通則において、送り仮名の付け方が許容によることのできる語については、本則又は許容のいずれに従ってもよいが、個々の語に適用するに当たって、許容に従ってよいかどうか判断し難い場合には、本則によるものとする。

本　文

単独の語

1　活用のある語

通則1

本則　活用のある語（通則2を適用する語を除く。）は、活用語尾を送る。

〔例〕　憤る　承る　書く　実る　催す
　　生きる　陥れる　考える　助ける

例外
(1) 語幹が「し」で終わる形容詞は、「し」から送る。
〔例〕 著しい　惜しい　悔しい　恋しい
珍しい

(2) 活用語尾の前に「か」、「やか」、「らか」を含む形容動詞は、その音節から送る。
〔例〕 暖かだ　細かだ　静かだ
穏やかだ　健やかだ　和やかだ
明らかだ　平らかだ　滑らかだ
柔らかだ

(3) 次の語は、次に示すように送る。
明らむ　味わう　哀れむ　慈しむ　教わる
脅かす(おどかす)　脅かす(おびやかす)　食らう　異なる　逆らう　捕まる　群がる　和らぐ
揺する
明るい　危ない　危うい　大きい　少ない
小さい　冷たい　平たい
新ただ　同じだ　盛んだ　平らだ　懇ろだ
惨めだ
哀れだ　幸いだ　幸せだ　巧みだ

許容　次の語は、(　)の中に示すように、活用語尾の前の音節から送ることができる。

表す(表わす)　著す(著わす)　現れる(現われる)
行う(行なう)　断る(断わる)　賜る(賜わる)

(注意) 語幹と活用語尾との区別がつかない動詞は、例えば、「着る」、「寝る」、「来る」などのように送る。

通則2
本則　活用語尾以外の部分に他の語を含む語は、含まれている語の送り仮名の付け方によって送る。(含まれている語を〔　〕の中に示す。)

〔例〕
(1) 動詞の活用形又はそれに準ずるものを含むもの。
動かす〔動く〕　照らす〔照る〕
語らう〔語る〕　計らう〔計る〕　向かう〔向く〕
浮かぶ〔浮く〕
生まれる〔生む〕　押さえる〔押す〕　捕らえる〔捕る〕
勇ましい〔勇む〕　輝かしい〔輝く〕　喜ばしい〔喜ぶ〕
晴れやかだ〔晴れる〕
及ぼす〔及ぶ〕　積もる〔積む〕　聞こえる〔聞く〕
頼もしい〔頼む〕
起こる〔起きる〕　落とす〔落ちる〕
暮らす〔暮れる〕　冷やす〔冷える〕

当たる〔当てる〕　終わる〔終える〕　変わる〔変える〕　集まる〔集める〕　定まる〔定める〕　連なる〔連ねる〕　交わる〔交える〕
混ざる・混じる〔混ぜる〕
恐ろしい〔恐れる〕

(2) 形容詞・形容動詞の語幹を含むもの。
重んずる〔重い〕　若やぐ〔若い〕
怪しむ〔怪しい〕　悲しむ〔悲しい〕　苦しがる〔苦しい〕
確かめる〔確かだ〕
重たい〔重い〕　憎らしい〔憎い〕　古めかしい〔古い〕
細かい〔細かだ〕　柔らかい〔柔らかだ〕
清らかだ〔清い〕　高らかだ〔高い〕　寂しげだ〔寂しい〕

(3) 名詞を含むもの。
汗ばむ〔汗〕　先んずる〔先〕　春めく〔春〕
男らしい〔男〕　後ろめたい〔後ろ〕

許容 読み間違えるおそれのない場合は、活用語尾以外の部分について、次の（　）の中に示すように、送り仮名を省くことができる。
〔例〕 浮かぶ(浮ぶ)　生まれる(生れる)　押さえる(押える)　捕らえる(捕える)
晴れやかだ(晴やかだ)
積もる(積る)　聞こえる(聞える)
起こる(起る)　落とす(落す)　暮らす(暮す)
当たる(当る)　終わる(終る)　変わる(変る)

(注意) 次の語は、それぞれ〔　〕の中に示す語を含むものとは考えず、通則1によるものとする。
明るい〔明ける〕　荒い〔荒れる〕　悔しい〔悔いる〕　恋しい〔恋う〕

2 活用のない語

通則3

本則 名詞（通則4を適用する語を除く。）は、送り仮名を付けない。
〔例〕 月　鳥　花　山
男　女
彼　何

例外 (1) 次の語は、最後の音節を送る。
辺り　哀れ　勢い　幾ら　後ろ　傍ら　幸い
幸せ　互い　便り　半ば　情け　斜め　独り
誉れ　自ら　災い

(2) 数をかぞえる「つ」を含む名詞は、その「つ」を送る。

〔例〕 一つ 二つ 三つ 幾つ

通則4

本則 活用のある語から転じた名詞及び活用のある語に「さ」、「み」、「げ」などの接尾語が付いて名詞になったものは、もとの語の送り仮名の付け方によって送る。

〔例〕

(1) 活用のある語から転じたもの。

動き 仰せ 恐れ 薫り 曇り 調べ 届け 願い 晴れ
当たり 代わり 向かい
狩り 答え 問い 祭り 群れ
憩い 愁い 憂い 香り 極み 初め
近く 遠く

(2) 「さ」、「み」、「げ」などの接尾語が付いたもの。

暑さ 大きさ 正しさ 確かさ
明るみ 重み 憎しみ
惜しげ

例外 次の語は、送り仮名を付けない。

謡 虞 趣 氷 印 頂 帯 畳
卸 煙 恋 志 次 隣 富 恥 話 光 舞
折 係 掛(かかり) 組 肥 並(なみ) 巻 割

(注意) ここに掲げた「組」は、「花の組」、「赤の組」などのように使った場合の「くみ」であり、例えば、「活字の組みがゆるむ。」などとして使う場合の「くみ」を意味するものではない。「光」、「折」、「係」なども、同様に動詞の意識が残っているような使い方の場合は、この例外に該当しない。したがって、本則を適用して送り仮名を付ける。

許容 読み間違えるおそれのない場合は、次の( )の中に示すように、送り仮名を省くことができる。

〔例〕 曇り(曇) 届け(届) 願い(願) 晴れ(晴)
当たり(当り) 代わり(代り) 向かい(向い)
狩り(狩) 答え(答) 問い(問) 祭り(祭)
群れ(群)
憩い(憩)

通則5

本則 副詞・連体詞・接続詞は、最後の音節を送る。

〔例〕 必ず 更に 少し 既に 再び 全く 最も
来る 去る
及び 且つ 但し

例外 (1) 次の語は、次に示すように送る。

明くる 大いに 直ちに 並びに 若しくは

(2) 次の語は、送り仮名を付けない。

又

(3) 次のように、他の語を含む語は、含まれてい

る語の送り仮名の付け方によって送る。(含まれている語を〔　〕の中に示す。)

〔例〕　併せて〔併せる〕　至って〔至る〕　恐らく〔恐れる〕　従って〔従う〕　絶えず〔絶える〕　例えば〔例える〕　努めて〔努める〕　辛うじて〔辛い〕　少なくとも〔少ない〕　互いに〔互い〕　必ずしも〔必ず〕

複合の語

通則6

本則　複合の語(通則7を適用する語を除く。)の送り仮名は、その複合の語を書き表す漢字の、それぞれの音訓を用いた単独の語の送り仮名の付け方による。

〔例〕

(1)　活用のある語

書き抜く　流れ込む　申し込む　打ち合わせる　向かい合わせる　長引く　若返る　裏切る　旅立つ

聞き苦しい　薄暗い　草深い　心細い　待ち遠しい　軽々しい　若々しい　女々しい

気軽だ　望み薄だ

(2)　活用のない語

石橋　竹馬　山津波　後ろ姿　斜め左　花便り　独り言　卸商　水煙　目印

田植え　封切り　物知り　落書き　雨上がり　墓参り　日当たり　夜明かし　先駆け　巣立ち　手渡し

入り江　飛び火　教え子　合わせ鏡　生き物　落ち葉　預かり金

寒空　深情け

愚か者

行き帰り　伸び縮み　乗り降り　抜け駆け　作り笑い　暮らし向き　売り上げ　取り扱い　乗り換え　引き換え　歩み寄り　申し込み　移り変わり

長生き　早起き　苦し紛れ　大写し

粘り強さ　有り難み　待ち遠しさ

乳飲み子　無理強い　立ち居振る舞い　呼び出し電話

次々　常々

近々　深々

休み休み　行く行く

許容　読み間違えるおそれのない場合は、次の(　)の中に示すように、送り仮名を省くことができる。

〔例〕　書き抜く(書抜く)　申し込む(申込む)　打ち

合わせる（打ち合せる・打合せる）　向かい合わせる（向い合せる）　聞き苦しい（聞苦しい）　待ち遠しい（待遠しい）

田植え（田植）　封切り（封切）　落書き（落書）　雨上がり（雨上り）　日当たり（日当り）　夜明かし（夜明し）

入り江（入江）　飛び火（飛火）　合わせ鏡（合せ鏡）　預かり金（預り金）

抜け駆け（抜駆け）　暮らし向き（暮し向き）　売り上げ（売上げ・売上）　取り扱い（取扱い・取扱）　乗り換え（乗換え・乗換）　引き換え（引換え・引換）　申し込み（申込み・申込）　移り変わり（移り変り）

有り難み（有難み）　待ち遠しさ（待遠しさ）

立ち居振る舞い（立ち居振舞い・立ち居振舞・立居振舞）　呼び出し電話（呼出し電話・呼出電話）

（注意）「こけら落とし（こけら落し）」、「さび止め」、「洗いざらし」、「打ちひも」のように、前又は後ろの部分を仮名で書く場合は、他の部分については、単独の語の送り仮名の付け方による。

通則7

複合の語のうち、次のような名詞は、慣用に従って、送り仮名を付けない。

〔例〕

(1) 特定の領域の語で、慣用が固定していると認められるもの。

ア　地位・身分・役職等の名。

関取　頭取　取締役　事務取扱

イ　工芸品の名に用いられた「織」、「染」、「塗」等。

《博多》織　《型絵》染　《春慶》塗　《鎌倉》彫　《備前》焼

ウ　その他。

書留　気付　切手　消印　小包　振替　切符　踏切

請負　売値　買値　仲買　歩合　両替　割引　組合　手当

倉敷料　作付面積

売上《高》　貸付《金》　借入《金》　繰越《金》　小売《商》　積立《金》　取扱《所》　取扱《注意》　取次《店》　取引《所》　乗換《駅》　乗組《員》　引受《人》　引受《時刻》　引換《券》　《代金》引換　振出《人》　待合《室》　見積《書》　申込《書》

(2) 一般に、慣用が固定していると認められるもの。

奥書　木立　子守　献立　座敷　試合　字引　場合　羽織　葉巻　番組　番付　日付　水引　物置

物語　役割　屋敷　夕立　割合
　合図　合間　植木　置物　織物　貸家　敷石
敷地　敷物　立場　建物　並木　巻紙
　受付　受取
　浮世絵　絵巻物　仕立屋

（注意）

(1)　「《博多》織」、「売上《高》」などのようにして掲げたものは、《　》の中を他の漢字で置き換えた場合にも、この通則を適用する。

(2)　通則7を適用する語は、例として挙げたものだけで尽くしてはいない。したがって、慣用が固定していると認められる限り、類推して同類の語にも及ぼすものである。通則7を適用してよいかどうか判断し難い場合には、通則6を適用する。

付表の語

「常用漢字表」の「付表」に掲げてある語のうち、送り仮名の付け方が問題となる次の語は、次のようにする。

1　次の語は、次に示すように送る。

浮つく　お巡りさん　差し支える　五月晴れ　立ち退く　手伝う　最寄り

なお、次の語は、（　）の中に示すように、送り仮名を省くことができる。

差し支える（差支える）　五月晴れ（五月晴）
立ち退く（立退く）

2　次の語は、送り仮名を付けない。

息吹　桟敷　時雨　築山　名残　雪崩　吹雪　迷子
行方

これからの敬語

・昭和二七年四月一四日に国語審議会から文部大臣へ建議されたものである。（三省堂編修所注）

まえがき

この小冊子は、日常の言語生活における最も身近な問題を取り上げて、これからはこうあるほうが望ましいと思われる形をまとめたものである。

これからの敬語についての問題は、もちろんこれに尽きるものではない。元来、敬語の問題は単なることばの上だけの問題でなく、実生活における作法と一体をなすものであるから、これからの敬語は、これからの新しい時代の生活に即した新しい作法の成長とともに、平明・簡素な新しい敬語法として健全な発達をとげることを望むしだいである。

基本の方針

一

これまでの敬語は、旧時代に発達したままで、必要以上に煩雑な点があった。これからの敬語は、その行きすぎをいましめ、誤用を正し、できるだけ平明・簡素にありたいものである。

二

これまでの敬語は、主として上下関係に立って発達してきたが、これからの敬語は、各人の基本的人格を尊重する相互尊敬の上に立たなければならない。

三

女性のことばでは、必要以上に敬語または美称が多く使われている（たとえば「お」のつけすぎなど）。この点、女性の反省・自覚によって、しだいに純化されることが望ましい。

四

奉仕の精神を取り違えて、不当に高い尊敬語や、不当に低い謙そん語を使うことが特に商業方面などに多かった。そういうことによって、しらずしらず自他の人格的尊厳を見うしなうことがあるのははなはだいましむべきことである。この点において国民一般の自覚が望ましい。

一　人をさすことば

(1)　自分をさすことば

1　「わたし」を標準の形とする。

2　「わたくし」は、あらたまった場合の用語とする。

付記　女性の発音では「あたくし」「あたし」という形も認められるが、原則としては、男女を通じて「わたし」「わたくし」を標準の形とする。

3　「ぼく」は男子学生の用語であるが、社会人となれば、あらためて「わたし」を使うように、教育上、注意をすること。

4 「じぶん」を「わたし」の意味に使うことは避けたい。

(2) 相手をさすことば

1 「あなた」を標準の形とする。

2 手紙(公私とも)の用語として、これまで「貴殿」「貴下」などを使っているのも、これからは「あなた」で通用するようにありたい。

3 「きみ」「ぼく」は、いわゆる「きみ・ぼく」の親しい間がらだけの用語として、一般には、標準の形である「わたし」「あなた」を使いたい。したがって「おれ」「おまえ」も、しだいに「わたし」「あなた」を使うようにしたい。

二　敬　称

1 「さん」を標準の形とする。

2 「さま(様)」は、あらたまった場合の形、また慣用語に見られるが、主として手紙のあて名に使う。
将来は、公用文の「殿」も「様」に統一されることが望ましい。

3 「氏」は書きことば用で、話しことば用には一般に「さん」を用いる。

4 「くん(君)」は、男子学生の用語である。それに準じて若い人に対して用いられることもあるが、社会人としての対話には、原則として「さん」を用いる。
付記　議会用語の「某君」は特殊の慣用語である。

5 職場用語として、たとえば「先生」「局長」「課長」「社長」「専務」などに「さん」をつけて呼ぶには及ばない(男女を通じて)。

三　「たち」と「ら」

1 「たち」は、たとえば「わたしたち」というふうに、現代語としては、自分のほうにつけてよい。

2 「ら」は書きことばで、たとえば「A氏・B氏・C氏ら」というふうに、だれにも使ってよい。

四　「お」「ご」の整理

(1) つけてよい場合

1 相手の物事を表わす「お」「ご」で、それを訳せば「あなたの」という意味になるような場合。たとえば、
お帽子は、どれでしょうか。
ご意見は、いかがですか。

2 真に尊敬の意を表わす場合。たとえば、
先生のお話　先生のご出席

3 慣用が固定している場合。たとえば、
おはよう　おかず
おたまじゃくし
ごはん　ごらん
ごくろうさま
おいでになる(すべて「お―になる」の型)
ごらんになる(すべて「ご―になる」の型)

4 自分の物事ではあるが、相手の人に対する物事である関係上、それをつけることに慣用が固定している場合。たとえば、
お手紙(お返事・ご返事)をさしあげましたが
お願い　お礼　ご遠慮
ご報告いたします

(2) 省けば省ける場合

女性のことばとしては「お」がつくが、男子のことばとしては省い

ているもの。たとえば、

〔お〕米　〔お〕菓子
〔お〕茶わん　〔お〕ひる

(3)　省くほうがよい場合

たとえば、

(お)チョッキ　(お)くつした
(ご)芳名　(ご)令息
(ご)父兄
(ご)調査された　(これは「調査された」または「ご調査になった」が正しい。)
(ご)卒業された　(これは「卒業された」または「ご卒業になった」が正しい。)

五　対話の基調

これからの対話の基調は「です・ます」体としたい。

付記　これは社会人としての一般的対話の基調を定めたものであって、講演の「であります」や、あらたまった場合の「ございます」など、そのほか親愛体としての「だ」調の使用を制限するものではない。

六　動作のことば

動詞の敬語法には、およそ三つの型がある。すなわち、

語例＼型	I	II	III
書く	書かれる	お書きになる	(お書きあそばす)
受ける	受けられる	お受けになる	(お受けあそばす)

第1の「れる」「られる」の型は、受け身の言い方とまぎらわしい欠点はあるが、すべての動詞に規則的につき、かつ簡単でもあるので、むしろ将来性があると認められる。

第2の「お―になる」の型を「お―になられる」という必要はない。

第3の型は、いわゆるあそばせことばであって、これからの平明・簡素な敬語としては、おいおいにすたれる形であろう。

七　形容詞と「です」

これまで久しく問題となっていた形容詞の結び方――たとえば、「大きいです」「小さいです」などは、平明・簡素な形として認めてよい。

八　あいさつ語

あいさつ語は、慣用語句として、きまった形のままでよい。たとえば、

おはよう。おはようございます。
おやすみ。おやすみなさい。
いただきます。ごちそうさま。
いってきます。いってまいります。
いってらっしゃい。

九　学校用語

1　幼稚園から小・中・高校に至るまで、一般に女の先生のことばに「お」を使いすぎる傾向があるから、その点、注意すべきであろう。たとえば、

(お)教室　(お)チョーク
(お)つくえ　(お)こしかけ
(お)家事

2　先生と生徒との対話にも、相互に「です・ます」体を原則とすることが望ましい。

付記　このことは、親愛体としての「だ」調の使用をさま

たげるものではない。

3 戦前、父母・先生に対する敬語がすべて「おっしゃった」「お—になった」の式であったのは少し行きすぎの感があった。戦後、反動的にすべて「言った」「何々した」の式で通すのもまた少し行きすぎであろう。その中庸を得たいものである。たとえば「きた」でなく「こられた」「みえた」など。

一〇 新聞・ラジオの用語

新聞・ラジオの用語として、いちばん問題になるのは、敬称のつけ方である。それについて、

1 一般に文章・用語がやさしくなり、それにしたがって敬称も「さん」が多く使われる傾向があるのは妥当である。

2 政治的記事における「氏」の用法も妥当であるが、一面社会的記事において「翁・女史・くん・ちゃん」そのほかの敬称・愛称を、その時、その場、その人、その事による文体上の必要に応じて用いることは認めざるを得ない。

3 犯罪容疑者に関する報道でも、刑が確定するまでは敬称をつけるのが理想的であるが、たとえば現行犯またはそれに準ずるものなどで、社会感情の許さないような場合に、適宜、これを省略することがあるのもやむを得ないと認められる。

4 次のような場合には敬称をつけないでよい。

青山荘アパート(責任者甲野乙雄)

一一 皇室用語

これまで、皇室に関する敬語として、特別にむずかしい漢語が多く使われてきたが、これからは、普通のことばの範囲内で最上級の敬語を使うということに、昭和二二年八月、当時の宮内当局と報道関係との間に基本的了解が成り立っていた。その具体的な用例は、たとえば、

「玉体・聖体」は「おからだ」
「天顔・龍(りゅう)顔」は「お顔」
「宝算・聖寿」は「お年・ご年齢」
「叡(えい)慮・聖旨・宸襟(しんきん)・懿(い)旨」は「おぼしめし・お考え」などの類である。その後、国会開会式における「勅語」は「おことば」となり、ご自称の「朕」は「わたくし」となったが、これを今日の報道上の用例について見ても、すでに第六項で述べた「れる・られる」の型または「お—になる」「ご—になる」の型をとって、平明・簡素なこれからの敬語の目標を示している。

一二 むすび

一般に、社会人としての対話は、相互に対等で、しかも敬意を含むべきである。

この点で、たとえば、公衆と公務員との間、または各種の職場における職員相互の間のことばづかいなども、すべて「です・ます」体を基調とした、やさしい、ていねいな形でありたい。

戦後、窓口のことばや警察職員のことばづかいなどが、すでにこの線に沿って実践されているが、これからも、いっそうその傾向が普遍化することが望ましい。

公用文における漢字使用等について

・これは、昭和五六年一〇月一日「事務次官等会議申合せ」である。同日付けで、内閣官房長官から各省の事務次官あてに、この「申合せ」の実施を求める通知（内閣閣第一三八号）が出された。
・ここに示されていること以外の事項は、「公用文作成の要領」（一九七ページ所収）による。
・原文は横書き。
（三省堂編修所注）

昭和五六年一〇月一日付け内閣訓令第一号「常用漢字表の実施について」が定められたことに伴い、今後、各行政機関が作成する公用文における漢字使用等は、下記によることとする。

なお、「公用文における当用漢字の音訓使用及び送り仮名の付け方について」（昭和四八年六月一八日事務次官等会議申合せ）は、廃止する。

記

一　漢字使用について

(1)　公用文における漢字使用は、「常用漢字表」（昭和五六年内閣告示第一号）の本表及び付表（表の見方及び使い方を含む。）によるものとする。

なお、字体については通用字体を用いるものとする。

(2)　「常用漢字表」の本表に掲げる音訓によって語を書き表すに当たっては、次の事項に留意する。

ア　次のような代名詞は、原則として、漢字で書く。

例　彼　何　僕　私　我々

イ　次のような副詞及び連体詞は、原則として、漢字で書く。

例　必ず　少し　既に　直ちに　甚だ　再び　全く　最も　専ら　余り　至って　大いに　恐らく　必ずしも　辛うじて　極めて　殊に　更に　少なくとも　絶えず　互いに　例えば　次いで　努めて　常に　初めて　果たして　割に　概して　実に　切に　大して　特に　突然　無論　明くる　大きな　来る　去る　小さな　我が(国)

ただし、次のような副詞は、原則として、仮名で書く。

例　かなり　ふと　やはり　よほど

ウ　次の接頭語は、その接頭語が付く語を漢字で書く場合は、原則として、漢字で書き、その接頭語が付く語を仮名で書く場合は、原則として、仮名で書く。

例　御案内　御調査

ごあいさつ　ごべんたつ
エ　次のような接尾語は、原則として、仮名で書く。
　例　げ（惜しげもなく）　ども（私ども）　ぶる（偉ぶる）　み（弱み）　め（少なめ）
オ　次のような接続詞は、原則として、仮名で書く。
　例　おって　かつ　したがって　ただし　ついては　ところが　ところで　また　ゆえに
・ただし、次の四語は、原則として、漢字で書く。
　　及び　並びに　又は　若しくは
カ　助動詞及び助詞は、仮名で書く。
　例　ない（現地には、行かない。）　ようだ（それ以外に方法がないようだ。）
　　ぐらい（二十歳ぐらいの人）　だけ（調査しただけである。）　ほど（三日ほど経過した。）
キ　次のような語句を、（　）の中に示した例のように用いるときは、原則として、仮名で書く。
　例　こと（許可しないことがある。）　とき（事故のときは連絡する。）　ところ（現在のところ差し支えない。）　もの（正しいものと認める。）　とも（説明するとともに意見を聞く。）　ほか（特別の場合を除くほか。）　ゆえ（一部の反対のゆえにはかどらない。）　わけ（賛成するわけにはいかない。）　とおり（次のとおりである。）　ある（その点に問題がある。）　いる（ここに関係者がいる。）　なる（合計すると一万円になる。）　できる（だれでも利用ができる。）　…てあげる（図書を貸してあげる。）　…ていく（負担が増えていく。）　…ていただく（報告していただく。）　…ておく（通知しておく。）　…てください（問題点を話してください。）　…てくる（寒くなってくる。）　…てしまう（書いてしまう。）　…てみる（見てみる。）　ない（欠点がない。）　…てよい（連絡してよい。）　…かもしれない（間違いかもしれない。）　…にすぎない（調査だけにすぎない。）　…について（これについて考慮する。）

二　送り仮名の付け方について

(1)　公用文における送り仮名の付け方は、原則として、「送り仮名の付け方」（昭和四八年内閣告示第二号）の本文の通則1から通則6までの「本則」・「例外」、通則7及び「付表の語」（1のなお書きを除く。）によるものとする。
　ただし、複合の語（「送り仮名の付け方」の本文の通則7を適用する語を除く。）のうち、活用のない語であって読み間違えるおそれのない語については、内閣官房及び文化庁からの通知の定めるところにより、

(2)「送り仮名の付け方」の本文の通則6の「許容」を適用して送り仮名を省くものとする。

(2) (1)にかかわらず、必要と認める場合は、「送り仮名の付け方」の本文の通則2、通則4及び通則6（(1)のただし書の適用がある場合を除く。）の「許容」並びに「付表の語」の1のなお書きを適用して差し支えない。

三　その他

(1) 一及び二は、固有名詞を対象とするものではない。

(2) 一及び二以外の事項は、「公用文作成の要領」（「公用文改善の趣旨徹底について」昭和二七年内閣閣甲第一六号依命通知）による。

(3) 専門用語又は特殊用語を書き表す場合など、特別な漢字使用等を必要とする場合には、一、二及び三(2)によらなくてもよい。

(4) 専門用語等で読みにくいと思われるような場合は、必要に応じて、振り仮名を用いる等、適切な配慮をするものとする。

四　運用に関する事項

一から三までの運用に関し必要な事項については、内閣官房及び文化庁から通知するものとする。

五　法令における取扱い

法令における漢字使用等については、別途、内閣法制局からの通知による。

公用文作成の要領

・昭和二七年四月四日内閣閣甲第一六号依命通知から抜粋。
・ここでは、昭和五六年一〇月一日、事務次官等会議申合せ「公用文における漢字使用等について」（一九五ページ所収）に従って、内閣官房が必要な読み替えあるいは収録の省略を行ったものを示した。
・原文は横書き。

（三省堂編修所注）

第一　用語用字について

一　用語について

1　特殊なことばを用いたり、かたくるしいことばを用いることをやめて、日常一般に使われているやさしいことばを用いる。（×印は、常用漢字表にない漢字であることを示す。）

たとえば

×稟請→申請　措置→処置・取り扱い
救援する→救う　懇請する→お願いする

一環として↓一つとして　充当する↓あてる
即応した↓かなった

2　使い方の古いことばを使わず、日常使いなれていることばを用いる。

たとえば
牙保↓周旋・あっせん　彩紋↓模様・色模様

3　言いにくいことばを使わず、口調のよいことばを用いる。

たとえば
拒否する↓受け入れない　はばむ↓さまたげる

4　音読することばはなるべくさけ、耳で聞いて意味のすぐわかることばを用いる。

たとえば
橋梁↓橋　塵埃↓ほこり
眼瞼↓まぶた　充塡する↓うめる・つめる
堅持する↓かたく守る　陳述する↓のべる

5　音読することばで、意味の二様にとれるものは、なるべくさける。

たとえば
協調する（強調する　とまぎれるおそれがある。）↓歩調を合わせる
勧奨する（干渉する）↓すすめる
衷心（中心）↓心から
潜行する（先行する）↓ひそむ
出航（出講）↓出帆・出発

6　漢語をいくつもつないでできている長いことばは、むりのない略し方をきめる。

たとえば
経済安定本部↓経本　中央連絡調整事務局↓連調

7　同じ内容のものを違ったことばで言い表わすことのないように統一する。

たとえば
提起・起訴・提訴　口頭弁論・対審・公判

二　用字について

1　漢字は、常用漢字表による。

(1)　常用漢字表を使用するにあたっては、特に次のことがらに留意する。

1　（省略）

2　外国の地名・人名および外来語は、かたかな書きにする。（一部省略）

たとえば
イタリア　スウェーデン　フランス　ロンドン　等
エジソン　ヴィクトリア　等
ガス　ガラス　ソーダ　ビール
ボート　マージャン　マッチ　等

ただし、外来語でも「かるた」「さらさ」「たばこ」などのように、外来語の意識のうすくなっているものは、ひらがなで書いてよい。

3　動植物の名称は、常用漢字表で認めている漢字は使ってもよい。（一部省略）

たとえば
ねずみ　らくだ　いぐさ　からむし　等
犬　牛　馬　桑　桜　等

4　（省略）

(2)　常用漢字表で書き表わせないものは、次の標準によって書きかえ、言いかえをする。（言いかえをするときは、「一　用語について」による。）

1　かな書きにする。

たとえば（一部省略）

ア　遡る→さかのぼる　名宛→名あて
佃煮→つくだ煮　艀→はしけ
看做す→みなす
委ねる（常用漢字表の音訓にはずれる。）
→ゆだねる

イ　漢語でも、漢字をはずしても意味のとおる使いなれたものは、そのままかな書きにする。
たとえば
でんぷん　めいりょう　あっせん　等

ウ　他によい言いかえがなく、または言いかえをしてはふつごうなものは、常用漢字表にはずれた漢字だけをかな書きにする。
たとえば
右舷→右げん　改竄→改ざん　口腔→口こう
この場合、読みにくければ、音読する語では、横に点をうってもよい。（縦書きの場合）

2　常用漢字表中の、音が同じで、意味の似た漢字で書きかえる。

たとえば
車輛→車両　煽動→扇動　碇泊→停泊
編輯→編集　哺育→保育　抛棄→放棄
傭人→用人　聯合→連合　煉乳→練乳

3　同じ意味の漢語で言いかえる。

ア　意味の似ている、用い慣れたことばを使う。
たとえば（一部省略）
彙報→雑報　印顆→印形　改悛→改心

イ　新しいことばをくふうして使う。
たとえば
聾学校→口話学校　罹災救助金→災害救助金
剪除→切除　毀損→損傷　擾乱→騒乱
溢水→出水　譴責→戒告　瀆職→汚職

4　漢語をやさしいことばで言いかえる。

たとえば（一部省略）

隠蔽する→隠す　　庇護する→かばう
抵触する→ふれる　　漏洩する→漏らす
破毀する→破る　　酩酊する→酔う
趾→あしゆび

2　かなは、ひらがなを用いることとする。かたかなは特殊な場合に用いる。

注　1　地名は、さしつかえのないかぎり、かな書きにしてもよい。
2　事務用書類には、さしつかえのない限り、人名をかな書きにしてもよい。
3　外国の地名・人名および外来語・外国語は、かたかな書きにする。
4　左横書きに用いるかなは、かたかなによることができる。

3　（省略）

三　法令の用語用字について

1　法令の用語用字についても、特にさしつかえのない限り、「一　用語について」および「二　用字について」に掲げた基準による。

2　法令の一部を改正する場合および法令名を引用する場合には、特に、次のような取り扱いをする。

(1)　法令の一部を改正する場合について

1　文語体・かたかな書きを用いている法令を改正する場合は、改正の部分が一つのまとまった形をしているときは、その部分は、口語体を用い、ひらがな書きにする。

2　にごり読みをすべきかなに、にごり点をつけていない法令を改正する場合は、改正の部分においては、にごり点をつける。

3　常用漢字表の通用字体を用いていない法令を改正する場合は、改正の部分においては、常用漢字表の通用字体を用いる。

4　旧かなづかいによる口語体を用いている法令を改正する場合は、改正の部分においては、現代かなづかいを用いる。

5　（省略）

(2)　法令名を引用する場合について

題名のつけられていない法令で、件名のある法令を引用する場合には、件名の原文にかかわらずその件名をひらがなおよび現代かなづかいによる口語体を用い、漢字は、常用漢字表による。

四　地名の書き表わし方について

1　地名はさしつかえのない限り、かな書きにしてもよい。

地名をかな書きにするときは、現地の呼び名を基準とする。ただし、地方的ななまりは改める。

2　地名をかな書きにするときは、現代かなづかいを基準とする。（ふりがなの場合も含む。）

3　特に、ジ・ヂ、ズ・ヅについては、区別の根拠のつけにくいものは、ジ・ズに統一する。

4　さしつかえのない限り、常用漢字表の通用字体を用いる。常用漢字表以外の漢字についても、常用漢字表の通用字体に準じた字体を用いてもよい。

五　人名の書き表わし方について

1　人名もさしつかえのない限り、常用漢字表の通用字体を用いる。

2　事務用書類には、さしつかえのない限り、人名をかな書きにしてもよい。人名をかな書きにするときは、現代かなづかいを基準とする。

第二　文体について

1　公用文の文体は、原則として「である」体を用いる。ただし、公告・告示・掲示の類ならびに往復文書(通達・通知・供覧・回章・伺い・願い・届け・申請書・照会・回答・報告等を含む。）の類は、なるべく「ます」体を用いる。

注　1.「だ、だろう、だった」の形は、「である、であろう、であった」の形にする。

2.「ますが、まするが、まするけれども」は、「ますが、ますけれども」とする。「ますれば、くださいませ(—まし)」の表現は用いない。

3.打ち消しの「ぬ」は、「ない」の形にする。「ん」は、「ません」のほかは用いない。「せねば」は、「しなければ」とする。

2　文語脈の表現はなるべくやめて、平明なものとする。

注　1.口語化の例

これが処理→その処理

せられんことを→されるよう

ごとく・ごとき→のような・のように

進まんとする→進もうとする

貴管下にして→貴管下で(あって)

2.「おもなる・必要なる・平等なる」などの「なる」は、「な」とする。ただし、「いかなる」は用いてもよい。

3.「べき」は「用いるべき手段」「考えるべき問題」「論ずべきではない」「注目すべき現象」のような場合には用いてもよい。「べく」「べし」の形は、どんな場合にも用いない。「べき」がサ行変格活用の動詞に続くときには、「するべき」としないで、「すべき」とする。

4. 漢語につづく「せられる、せさせる、せぬ」の形は「される、させる、しない」とする。「せない、せなければ」を用いないで、「しない、しなければ」の形を用いる。

5. 簡単な注記や表などの中では、「あり、なし、同じ」などを用いてもよい。

例　「配偶者……あり」
「ムシバ……上一、下なし」
「現住所……本籍地に同じ」

3　文章はなるべくくぎって短くし、接続詞や接続助詞などを用いて文章を長くすることをさける。

4　文の飾り、あいまいなことば、まわりくどい表現は、できるだけやめて、簡潔な、論理的な文章とする。敬語についても、なるべく簡潔な表現とする。

注　1. 時および場所の起点を示すには、「から」を用いて、「より」は用いない。「より」は、比較を示す場合にだけ用いる。

例　東京から京都まで。
午後一時から始める。
恐怖から解放される。
長官から説明があった。

2. 推量を表わすには「であろう」を用い、「う、よう」を用いない。「う、よう」は意思を表わす場合にだけ用いる。

例　役に立つであろう
そのように思われるであろうか　｝推量
対等の関係に立とうとする
思われようとして　｝意思

3. 並列の「と」は、まぎらわしいときには最後の語句にもつける。

例　横浜市と東京都の南部との間

4. 「ならば」の「ば」は略さない。

5　文書には、できるだけ、一見して内容の趣旨がわかるように、簡潔な標題をつける。また、「通達」「回答」のような、文書の性質を表わすことばをつける。

注　例　公団の性質に関する件→公団の性質について（依命通達）
閣議付議事項の取り扱いについて→一月二七日閣甲第一九号第八項の責任者について（回答）

6　内容に応じ、なるべく箇条書きの方法をとりいれ、一読して理解しやすい文章とする。

第三　書き方について

執務能率を増進する目的をもって、書類の書き方について、次のことを実行する。

1　一定の猶予期間を定めて、なるべく広い範囲にわたっ

て左横書きとする。

2　左横書きに用いるかなは、かたかなによることができる。

3　左横書きの場合は、特別の場合を除き、アラビア数字を使用する。

注　1.　横書きの文書の中でも「一般に、一部分、一間（ひとま）、三月（みつき）」のような場合には漢字を用いる。

「100億，30万円」のような場合には、億・万を漢字で書くが、千・百は、たとえば「5千」「3百」としないで、「5,000」「300」と書く。

2.　日付は、場合によっては、「昭和24. 4. 1」のように略記してもよい。

3.　大きな数は、「5,000」「62,250円」のように三けたごとにコンマでくぎる。

4　タイプライタの活用を期するため、タイプライタに使用する漢字は、常用漢字表のうちから選んださらに少数の常時必要なものに限り、それ以上の漢字を文字盤から取り除くことなどに努める。ぜひとも文字盤にない漢字を使用する必要がある場合には、手書きする。

5　人名・件名の配列は、アイウエオ順とする。

注　1.　文の書き出しおよび行を改めたときには一字さげて書き出す。

2.　句読点は、横書きでは、「，」および「。」を用いる。

事物を列挙するときには「・」（なかてん）を用いることができる。

3.　同じ漢字をくりかえすときには「々」を用いる。

4.　項目の細別は、たとえば次のような順序を用いる。

（横書きの場合）
第1 ─ 1 ─ (1) ─ ア ─ (ア)
第2 ─ 2 ─ (2) ─ イ ─ (イ)
第3 ─ 3 ─ (3) ─ ウ ─ (ウ)

（縦書きの場合）
第一 ─ 一 ─ 1 ─ (一) ─ (1) ─ ア
第二 ─ 二 ─ 2 ─ (二) ─ (2) ─ イ
第三 ─ 三 ─ 3 ─ (三) ─ (3) ─ ウ

5.　文書のあて名は、たとえば「東京都知事殿」「文部大臣殿」のように官職名だけを書いて、個人名は省くことができる。

くぎり符号の使い方

・「文部省刊行物の表記の基準を示すために編集」された、文部省編「国語の書き表わし方」(昭和二五年一二月刊)の付録より転載。
・文部省国語調査室で作成した「くぎり符号の使ひ方(案)」(昭和二一年三月)を、簡単に、分かりやすくまとめたものである。　(三省堂編修所注)

くぎり符号は、文章の構造や語句の関係を明らかにするために用いる。
くぎり符号には、次の五種がある。

1　。　まる
2　、　てん
3　・　なかてん
4　（　）　かっこ
5　「　」『　』　かぎ

1　「。」は、一つの文を完全に言い切ったところに必ず用いる。
「　」および（　）の中でも、文の終止には「。」を用いる。
「……すること・もの・者・とき・場合」などで終る項目の列記にも「。」を用いる。
ただし、次のような場合には「。」を用いない。
イ　題目・標語など、簡単な語句を掲げる場合。
ロ　事物の名称だけを列記する場合。
〔例〕左の事項を書いた申請書を提出してください。
一　申請者の氏名・住所　　三　建築する場所
二　建築の目的
ハ　言い切ったものを「　」を用いずに「と」で受ける場合。
〔例〕すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有すると保障してあるが、現実は必ずしもこのとおりでない。

2　「、」は、文の中で、ことばの切れ続きを明らかにしないと、誤解される恐れのあるところに用いる。
〔例〕その別荘は、そのころのフランスの有名な芸術家たちとよく交際し、また自分自身もすぐれた女の文学者であったジョルジュ＝サンドの所有で、アンというところにあった。
物理では、光の、ある属性が写真にとられ、その動きが見られるようになった。
科学的な、眼球運動の実験調査報告書。
いんげんと、とうもろこしの種子。
そのころの人がどのようであったかは、はっきりわからない。
対等の関係で並ぶ同じ種類の語句の間に用いる。
〔例〕漢字の制限、かなづかいの改定、口語文の普及が、ようやくその緒についた。
ただし、題目や標語、簡単な語句を並べる場合には

付けない。

〔例〕昭和二四年四月には、「当用漢字字体表の実施に関する件」が、内閣訓令第一号で発表された。

3　「・」は、名詞の並列の場合に用いる。

〔例〕対話・講演・演劇・映画・放送などにわたる諸問題については、……

ローマ字のつづり方には、いわゆる訓令式・日本式・標準式の三種がある。

日付や時刻を略して表わす場合に用いる。

〔例〕昭和二五・七・一　午後二・三五

称号を略して表わす場合に用いる。

〔例〕N・H・K　Y・M・C・A

ただし、名詞以外の語句を列挙するとき、数詞を並列する場合は、「・」を用いない。

〔例〕イ　社会的、歴史的考察。

ロ　鳥が三、四羽飛んで行く。

会員は四、五十人です。

4　（　）は、語句または文の次に、それについて特に注記を加えるときに用いる。

〔例〕外国の地名・人名（中国・朝鮮を除く。）は、かたかなで書く。

教育漢字（八八一字）の選定については、……

5　「　」は、会話または語句を引用するとき、あるいは特に注意を喚起する語句をさしはさむ場合に用いる。

〔例〕イ　「どうぞこちらへ、わたくしが御案内いたします。」と主人がさきに立って歩き出した。

ロ　「国民の権利および義務」に規定された内容について……

ハ　「現代かなづかい」には、次のような「まえがき」がついている。

6　『　』は、「　」の中にさらに語句を引用する場合に用いる。

〔例〕「Aさんの本の中に、『人間は環境の中に生きている』ということが書いてあります。」と先生は静かに語り始めた。

原則として、「？」「！」等の符号は用いない。

くり返し符号の使い方

・文部省編「国語の書き表わし方」（昭和二五年一二月刊）の付録より転載。

・文部省国語調査室で作成した「くりかへし符号の使ひ方」（昭和二一年三月）を、簡単に、分かりやすくまとめたものである。　（三省堂編修所注）

くり返し符号は、「々」以外は、できるだけ使わないようにするのが望ましい。

「々」は、漢字一字のくり返しの場合に用いる。

〔例〕人々　国々　年々　日々

ただし、次のような場合には「々」を用いない。

〔例〕民主主義　大学学術局　学生生活課
当用漢字字体表

「ゝ」は、一語のなかで、同音をくり返すとき。

〔例〕あゝ　たゝみ　とゝのえる　じゝ

次のような場合は「ゝ」を用いない。

〔例〕バナナ　ココア　かわいい　くまざさ
手がかり　そののち　いままで
あわてて　そうはいうものの
……のことと　……とともに

「ゞ」は一語の中でくり返された下の音が濁るとき。

〔例〕たゞし　かゞみ　すゞり　さゞ波

次のような場合には「ゞ」を用いない。

〔例〕読んだだけ　すべてです

「〱」は、二字のかなをくり返すとき。

〔例〕いろ〱　わざ〱　しみ〲と

ただし、三字以上にわたる場合、および二字以上の漢語や、横書きの場合には用いない。

「〻」は、用いないのを原則とする。

「〃」は、表や簿記などには用いる。

横書きの場合の書き方

・文部省編「国語の書き表わし方」（昭和二五年一二月刊）の付録より転載。なお、公用文は、特別な場合を除き、左横書きにすることになっている。
・次ページも参照されたい。（三省堂編修所注）

1 横書きの場合は、左横書きとする。

2 くり返し符号は、「々」以外は用いない。

3 くぎり符号の使い方は、縦書きの場合と同じである。ただし、横書きの場合は「、」を用いず、「，」を用いる。

4 数字を書く場合は、算用数字を用いる。

〔例〕第38回総会，午後1時開会，4時散会。
男子15人，女子8人，合計23人です。

ただし、慣用的な語、または数量的な意味の薄い語は、漢数字を用いる。

〔例〕現在二十世紀の世の中では　「七つのなぞ」
一般　一種独特の

横書きの場合の数の書き表し方

・文部省編「文部省　公文書の書式と文例」(平成元年12月)より転載。
（三省堂編修所注）

1　左横書きの文章では，算用数字(アラビア数字)を用いることを原則とする。

2　数のけたの区切りについては，三けたごとにコンマ(,)を用いる。

3　小数，分数，帯分数を示すには，原則として下の例による。

例　小　数　0.375

分　数　½　又は　$\frac{1}{2}$

帯分数　1½　又は　$1\frac{1}{2}$

4　日付は，「昭和31年4月1日」のように書く。必要があれば，「昭和31.4.1」などと略して書いてもよい。

5　次の場合には，漢字を用いることとする。

ア　数の感じの少なくなった場合

例　一般　一部(一部分の意)　一時保留

イ　「ひとつ」「ふたつ」「みっつ」などと読む場合

例　一つずつ　二間続き　三月ごと　五日目

6　次のような場合には，漢字を用いることができる。

ア　万以上の数を書き表すときの単位として，最後にのみ用いる場合

例　100億　1,000万

イ　概数を示す場合

例　数十日　四，五人　五，六十万

【ホ】
ホイットマン（人）
ボウリング〔球技〕
ホース
ボートレース
ポーランド（地）
ボーリング boring
ボクシング
ポケット
ポスター
ボストン（地）
ボタン
ボディー
ホテル
ホノルル（地）
ボランティア
ボルガ／ヴォルガ（地）
ボルテール／ヴォルテール（人）
ポルトガル（地）
ホルマリン

【マ】
マージャン
マイクロホン
マカオ（地）
マッターホーン（地）
マドリード（地）
マニラ（地）
マフラー
マラソン
マンション
マンスフィールド（人）
マンチェスター（地）
マンモス

【ミ】
ミイラ
ミキサー
ミケランジェロ（人）
ミシシッピ（地）
ミシン
ミッドウェー（地）
ミネアポリス（地）
ミュンヘン（地）
ミルウォーキー（地）
ミルクセーキ

【メ】
メーカー
メーキャップ
メーデー
メガホン
メッセージ
メロディー
メロン
メンデル（人）
メンデルスゾーン（人）
メンバー

【モ】
モーター
モーツァルト（人）
モスクワ（地）
モデル
モリエール（人）
モルヒネ
モンテーニュ（人）
モントリオール（地）

【ヤ】
ヤスパース（人）

【ユ】
ユーラシア（地）
ユニホーム
ユングフラウ（地）

【ヨ】
ヨーロッパ（地）
ヨット

【ラ】
ライバル
ライプチヒ（地）
ラジウム
ラジオ
ラファエロ（人）
ランニング
ランプ

【リ】
リオデジャネイロ（地）
リズム
リノリウム
リボン
リュックサック
リレー
リンカーン（人）

【ル】
ルーベンス（人）
ルーマニア（地）
ルクス lux
ルソー（人）

【レ】
レイアウト
レール
レギュラー
レコード
レスリング
レニングラード（地）
レビュー／レヴュー
レフェリー
レベル
レモンスカッシュ
レンズ
レンブラント（人）

【ロ】
ローマ（地）
ロケット
ロシア（地）
ロダン（人）
ロッテルダム（地）
ロマンス
ロマンチック
ロンドン（地）

【ワ】
ワイマール（地）
ワイヤ
ワシントン（地）
ワックス
ワット（人）

付　前書きの4で過去に行われた表記のことについて述べたが，例えば，明治以来の文芸作品等においては，下記のような仮名表記も行われている。

ヰ：スヰフトの「ガリヷー旅行記」　ヱ：ヱルテル　ヲ：ヲルポール
ヷ：ヷイオリン　ヸ：ヸオロン　ヹ：ヹルレエヌ
ヺ：ヺルガ　ヂ：ケンブリッヂ　ヅ：ワーヅワース

テント
テンポ
【ト】
ドア
ドーナツ
ドストエフスキー（人）
ドニゼッティ（人）
ドビュッシー（人）
トマト
ドライブ
ドライヤー
トラック
ドラマ
トランク
トルストイ（人）
ドレス
ドレフュス（人）
トロフィー
トンネル
【ナ】
ナイアガラ（地）
ナイフ
ナイル（地）
ナトリウム
ナポリ（地）
【ニ】
ニーチェ（人）
ニュース
ニュートン（人）
ニューヨーク（地）
【ネ】
ネーブル
ネオンサイン
ネクタイ
【ノ】
ノーベル（人）
ノルウェー（地）
ノルマンディー（地）
【ハ】
パーティー
バイオリン／ヴァイオリン
ハイキング
ハイドン（人）
ハイヤー
バケツ
バス
パスカル（人）
バター
ハチャトリヤン／ハチャトゥリヤン（人）
バッハ（人）
バッファロー（地）
バドミントン
バトン
バニラ
ハノイ（地）
パラグアイ／パラグァイ（地）
パラフィン
パリ（地）
バルブ
バレエ〔舞踊〕
バレーボール
ハンドル
【ヒ】
ピアノ
ビーナス／ヴィーナス
ビール
ビクトリア／ヴィクトリア（地）
ビスケット
ビスマルク（人）
ビゼー（人）
ビタミン
ビニール
ビバルディ／ヴィヴァルディ（人）
ビュイヤール／ヴュイヤール（人）
ヒューズ
ビルディング
ヒンズー教／ヒンドゥー教
ピンセット
【フ】
ファーブル（人）
ファイル
ファッション
ファラデー（人）
ファン
フィート
フィクション
フィラデルフィア（地）
フィリピン（地）
フィルム
フィレンツェ（地）
フィンランド（地）
プール
フェアバンクス（地）
フェアプレー
ブエノスアイレス（地）
フェルト
フェンシング
フォーク
フォークダンス
フォード（人）
フォーム
フォスター（人）
プディング
フュージョン
フュン島（地）
ブラームス（人）
ブラシ
プラスチック
プラットホーム
プラネタリウム
ブラマンク／ヴラマンク（人）
フランクリン（人）
ブレーキ
フロイト（人）
プログラム
プロデューサー
【ヘ】
ヘアピン
ペイント
ベーカリー
ヘーゲル（人）
ベーコン
ページ
ベール／ヴェール
ベストセラー
ペダル
ベニヤ〔～板〕
ベランダ
ペリー（人）
ヘリウム
ヘリコプター
ベルサイユ／ヴェルサイユ（地）
ペルシャ／ペルシア(地)
ヘルシンキ（地）
ヘルメット
ベルリン（地）
ペンギン
ヘンデル（人）

コンピューター／コンピュータ
コンマ

【サ】

サーカス
サービス
サナトリウム
サハラ（地）
サファイア
サマータイム
サラダボウル
サラブレッド
サンドイッチ
サンパウロ（地）

【シ】

シーボルト（人）
シェーカー
シェークスピア（人）
シェード
ジェットエンジン
シェフィールド（地）
ジェンナー（人）
シドニー（地）
ジブラルタル（地）
ジャカルタ（地）
シャツ
シャッター
シャベル
シャンソン
シャンツェ
シュークリーム
ジュース juice, deuce
シューベルト（人）
ジュラルミン
ショー
ショパン（人）
シラー（人）
シンフォニー
シンポジウム

【ス】

スイートピー
スイッチ
スイング
スウェーデン（地）
スーツケース
スープ
スカート
スキー
スケート
スケール
スコール
スコップ
スター
スタジアム
スタジオ
スタンダール（人）
スチーム
スチュワーデス
ステージ
ステッキ
ステレオ
ステンドグラス
ステンレス
ストーブ
ストックホルム（地）
ストップウオッチ／ストップウォッチ
スプーン
スペイン（地）
スペース
スポーツ
ズボン
スリッパ

【セ】

セーター
セーラー〔～服〕
セメント
ゼラチン
ゼリー
セルバンテス（人）
セロハン
センター
セントローレンス（地）

【ソ】

ソウル（地）
ソーセージ
ソファー
ソルジェニーツィン（人）

【タ】

ダーウィン（人）
ターナー（人）
ダイジェスト
タイヤ
ダイヤモンド
ダイヤル
タオル
タキシード
タクシー
タヒチ（地）
ダンス

【チ】

チーズ
チーム
チェーホフ（人）
チェーン
チェス
チェック
チケット
チップ
チフス
チャイコフスキー（人）
チューバ／テューバ
チューブ
チューリップ
チュニジア／テュニジア（地）
チョコレート
チロル（地）

【ツ】

ツアー tour
ツーピース
ツールーズ／トゥールーズ（地）
ツェッペリン（人）
ツンドラ

【テ】

ティー
ディーゼルエンジン
ディズニー（人）
ティチアーノ／ティツィアーノ（人）
ディドロ（人）
テープ
テーブル
デカルト（人）
テキサス（地）
テキスト
デザイン
テスト
テニス
テネシー（地）
デパート
デューイ（人）
デューラー（人）
デュエット
デュッセルドルフ（地）
テレビジョン

【ア】
アーケード
アイスクリーム
アイロン
アインシュタイン（人）
アカデミー
アクセサリー
アジア（地）
アスファルト
アトランティックシティー（地）
アナウンサー
アパート
アフリカ（地）
アメリカ（地）
アラビア（地）
アルジェリア（地）
アルバム
アルファベット
アルミニウム
アンケート

【イ】
イエーツ／イェーツ(人)
イェスペルセン（人）
イエナ（地）
イエローストン（地）
イギリス（地）
イコール
イスタンブール（地）
イタリア（地）
イニング
インタビュー／インタヴュー
インド（地）
インドネシア（地）
インフレーション

【ウ】
ウイークデー
ウィーン（地）
ウイスキー／ウィスキー
ウイット
ウィルソン（人）
ウェールズ（地）
ウエスト　waist
ウエディングケーキ／ウェディングケーキ
ウエハース
ウェブスター（人）
ウォルポール（人）
ウラニウム

【エ】
エイト
エキス
エキストラ
エジソン（人）
エジプト（地）
エチケット
エッフェル（人）
エネルギー
エプロン
エルサレム／イェルサレム（地）
エレベーター／エレベータ

【オ】
オーエン（人）
オーストラリア（地）
オートバイ
オーバーコート
オックスフォード（地）
オフィス
オホーツク（地）
オリンピック
オルガン
オレンジ

【カ】
ガーゼ
カーテン
カード
カーブ
カクテル
ガス
ガソリン
カタログ
カット
カップ
カバー
カムチャツカ（地）
カメラ
ガラス
カリフォルニア（地）
カルシウム
カルテット
カレンダー
カロリー
ガンジー（人）
カンツォーネ

【キ】
ギター
キムチ
キャベツ
キャンデー
キャンプ
キュリー（人）
ギリシャ／ギリシア(地)
キリマンジャロ（地）
キルティング

【ク】
グアテマラ／グァテマラ（地）
クイーン
クイズ
クインテット
クーデター
クーポン
クエスチョンマーク
クオータリー／クォータリー
グラビア
クラブ
グランドキャニオン(地)
クリスマスツリー
グリニッジ（地）
グループ
グレゴリウス（人）
クレジット
クレヨン

【ケ】
ケインズ（人）
ゲーテ（人）
ケープタウン（地）
ケーブルカー
ゲーム
ケンタッキー（地）
ケンブリッジ（地）

【コ】
コーヒー
コールタール
コスチューム
コップ
コピー
コペルニクス（人）
コミュニケーション
コロンブス（人）
コンクール
コンクリート
コンツェルン

書く。

〔例〕 グラビア　ピアノ　フェアプレー　アジア（地）
イタリア（地）　ミネアポリス（地）

注1 「ヤ」と書く慣用のある場合は，それによる。
〔例〕 タイヤ　ダイヤモンド　ダイヤル　ベニヤ板

注2 「ギリシャ」「ペルシャ」について「ギリシア」「ペルシア」と書く慣用もある。

5 語末（特に元素名等）の -(i)um に当たるものは，原則として「-(イ)ウム」と書く。

〔例〕 アルミニウム　カルシウム　ナトリウム　ラジウム
サナトリウム　シンポジウム　プラネタリウム

注 「アルミニウム」を「アルミニューム」と書くような慣用もある。

6 英語のつづりのxに当たるものを「クサ」「クシ」「クス」「クソ」と書くか，「キサ」「キシ」「キス」「キソ」と書くかは，慣用に従う。

〔例〕 タクシー　ボクシング　ワックス　オックスフォード（地）
エキストラ　タキシード　ミキサー　テキサス（地）

7 拗（よう）音に用いる「ヤ」「ユ」「ヨ」は小書きにする。また，「ヴァ」「ヴィ」「ヴェ」「ヴォ」や「トゥ」のように組み合せて用いる場合の「ア」「イ」「ウ」「エ」「オ」も，小書きにする。

8 複合した語であることを示すための，つなぎの符号の用い方については，それぞれの分野の慣用に従うものとし，ここでは取決めを行わない。

〔例〕 ケース　バイ　ケース　　ケース・バイ・ケース
ケース-バイ-ケース
マルコ・ポーロ　　マルコ＝ポーロ

付　録

用　例　集

凡例 1 ここには，日常よく用いられる外来語を主に，本文の留意事項その2（細則的な事項）の各項に例示した語や，その他の地名・人名の例などを五十音順に掲げた。地名・人名には，それぞれ（地），（人）の文字を添えた。

2 外来語や外国の地名・人名は，語形やその書き表し方の慣用が一つに定まらず，ゆれのあるものが多い。この用例集においても，ここに示した語形やその書き表し方は，一例であって，これ以外の書き方を否定するものではない。なお，本文の留意事項その2に両様の書き方が例示してある語のうち主なものについては，バイオリン／ヴァイオリンのような形で併せ掲げた。

9　「フュ」は，外来音フュに対応する仮名である。
〔例〕 フュージョン　フュン島（地・デンマーク）　ドレフュス（人）
注　一般的には，「ヒュ」と書くことができる。
〔例〕 ヒューズ

10　「ヴュ」は，外来音ヴュに対応する仮名である。
〔例〕 インタヴュー　レヴュー　ヴュイヤール（人・画家）
注　一般的には，「ビュ」と書くことができる。
〔例〕 インタビュー　レビュー　ビュイヤール（人）

Ⅲ　撥（はつ）音，促音，長音その他に関するもの

1　撥音は，「ン」を用いて書く。
〔例〕 コンマ　シャンソン　トランク　メンバー　ランニング
ランプ　ロンドン（地）　レンブラント（人）
注1　撥音を入れない慣用のある場合は，それによる。
〔例〕 イニング（←インニング）
サマータイム（←サンマータイム）
注2　「シンポジウム」を「シムポジウム」と書くような慣用もある。

2　促音は，小書きの「ッ」を用いて書く。
〔例〕 カップ　シャッター　リュックサック　ロッテルダム（地）
バッハ（人）
注　促音を入れない慣用のある場合は，それによる。
〔例〕 アクセサリー（←アクセッサリー）
フィリピン（地）（←フィリッピン）

3　長音は，原則として長音符号「ー」を用いて書く。
〔例〕 エネルギー　オーバーコート　グループ　ゲーム　ショー
テーブル　パーティー
ウェールズ（地）　ポーランド（地）　ローマ（地）
ゲーテ（人）　ニュートン（人）
注1　長音符号の代わりに母音字を添えて書く慣用もある。
〔例〕 バレエ（舞踊）　ミイラ
注2　「エー」「オー」と書かず，「エイ」「オウ」と書くような慣用のある場合は，それによる。
〔例〕 エイト　ペイント　レイアウト　スペイン（地）
ケインズ（人）
サラダボウル　ボウリング（球技）
注3　英語の語末の -er, -or, -ar などに当たるものは，原則としてア列の長音とし長音符号「ー」を用いて書き表す。ただし，慣用に応じて「ー」を省くことができる。
〔例〕 エレベーター　ギター　コンピューター　マフラー
エレベータ　コンピュータ　スリッパ

4　イ列・エ列の音の次のアの音に当たるものは，原則として「ア」と

〔例〕 クァルテット　クィンテット　クェスチョンマーク
クォータリー

注1　一般的には，「クア」「クイ」「クエ」「クオ」又は「カ」「キ」「ケ」「コ」と書くことができる。

〔例〕 クアルテット　クインテット　クエスチョンマーク
クオータリー
カルテット　レモンスカッシュ　キルティング
イコール

注2　「クァ」は，「クヮ」と書く慣用もある。

4　「グァ」は，外来音グァに対応する仮名である。

〔例〕 グァテマラ（地）　パラグァイ（地）

注1　一般的には，「グア」又は「ガ」と書くことができる。

〔例〕 グアテマラ（地）　パラグアイ（地）
ガテマラ（地）

注2　「グァ」は，「グヮ」と書く慣用もある。

5　「ツィ」は，外来音ツィに対応する仮名である。

〔例〕 ソルジェニーツィン（人）　ティツィアーノ（人）

注　一般的には，「チ」と書くことができる。

〔例〕 ライプチヒ（地）　ティチアーノ（人）

6　「トゥ」「ドゥ」は，外来音トゥ，ドゥに対応する仮名である。

〔例〕 トゥールーズ（地）　ハチャトゥリヤン（人）
ヒンドゥー教

注　一般的には，「ツ」「ズ」又は「ト」「ド」と書くことができる。

〔例〕 ツアー（tour）　ツーピース　ツールーズ（地）
ヒンズー教
ハチャトリヤン（人）　ドビュッシー（人）

7　「ヴァ」「ヴィ」「ヴ」「ヴェ」「ヴォ」は，外来音ヴァ，ヴィ，ヴ，ヴェ，ヴォに対応する仮名である。

〔例〕 ヴァイオリン　ヴィーナス　ヴェール
ヴィクトリア（地）　ヴェルサイユ（地）　ヴォルガ（地）
ヴィヴァルディ（人）　ヴラマンク（人）　ヴォルテール（人）

注　一般的には，「バ」「ビ」「ブ」「ベ」「ボ」と書くことができる。

〔例〕 バイオリン　ビーナス　ベール
ビクトリア（地）　ベルサイユ（地）　ボルガ（地）
ビバルディ（人）　ブラマンク（人）　ボルテール（人）

8　「テュ」は，外来音テュに対応する仮名である。

〔例〕 テューバ（楽器）　テュニジア（地）

注　一般的には，「チュ」と書くことができる。

〔例〕 コスチューム　スチュワーデス　チューバ　チューブ
チュニジア（地）

〔例〕　ステッキ　キャンデー　デザイン

5　「ファ」「フィ」「フェ」「フォ」は，外来音ファ，フィ，フェ，フォに対応する仮名である。

〔例〕　ファイル　フィート　フェンシング　フォークダンス
バッファロー（地）　フィリピン（地）　フェアバンクス（地）
カリフォルニア（地）
ファーブル（人）　マンスフィールド（人）　エッフェル（人）
フォスター（人）

注1　「ハ」「ヒ」「ヘ」「ホ」と書く慣用のある場合は，それによる。
〔例〕　セロハン　モルヒネ　プラットホーム　ホルマリン
メガホン

注2　「ファン」「フィルム」「フェルト」等は，「フアン」「フイルム」「フエルト」と書く慣用もある。

6　「デュ」は，外来音デュに対応する仮名である。

〔例〕　デュエット　プロデューサー　デュッセルドルフ（地）
デューイ（人）

注　「ジュ」と書く慣用のある場合は，それによる。
〔例〕　ジュース（deuce）　ジュラルミン

II　第2表に示す仮名に関するもの

第2表に示す仮名は，原音や原つづりになるべく近く書き表そうとする場合に用いる仮名で，これらの仮名を用いる必要がない場合は，一般的に，第1表に示す仮名の範囲で書き表すことができる。

1　「イェ」は，外来音イェに対応する仮名である。

〔例〕　イェルサレム（地）　イェーツ（人）

注　一般的には，「イエ」又は「エ」と書くことができる。
〔例〕　エルサレム（地）　イエーツ（人）

2　「ウィ」「ウェ」「ウォ」は，外来音ウィ，ウェ，ウォに対応する仮名である。

〔例〕　ウィスキー　ウェディングケーキ　ストップウォッチ
ウィーン（地）　スウェーデン（地）　ミルウォーキー（地）
ウィルソン（人）　ウェブスター（人）　ウォルポール（人）

注1　一般的には，「ウイ」「ウエ」「ウオ」と書くことができる。
〔例〕　ウイスキー　ウイット　ウエディングケーキ
ウエハース　ストップウオッチ

注2　「ウ」を省いて書く慣用のある場合は，それによる。
〔例〕　サンドイッチ　スイッチ　スイートピー

注3　地名・人名の場合は，「ウィ」「ウェ」「ウォ」と書く慣用が強い。

3　「クァ」「クィ」「クェ」「クォ」は，外来音クァ，クィ，クェ，クォに対応する仮名である。

4　国語化の程度の高い語は，おおむね第1表に示す仮名で書き表すことができる。一方，国語化の程度がそれほど高くない語，ある程度外国語に近く書き表す必要のある語——特に地名・人名の場合——は，第2表に示す仮名を用いて書き表すことができる。

5　第2表に示す仮名を用いる必要がない場合は，第1表に示す仮名の範囲で書き表すことができる。

例　イェ→イエ　ウォ→ウオ　トゥ→ツ，ト　ヴァ→バ

6　特別な音の書き表し方については，取決めを行わず，自由とすることとしたが，その中には，例えば，「スィ」「ズィ」「グィ」「グェ」「グォ」「キェ」「ニェ」「ヒェ」「フョ」「ヴョ」等の仮名が含まれる。

留意事項その2（細則的な事項）

以下の各項に示す語例は，それぞれの仮名の用法の一例として示すものであって，その語をいつもそう書かなければならないことを意味するものではない。語例のうち，地名・人名には，それぞれ（地），（人）の文字を添えた。

I　第1表に示す「シェ」以下の仮名に関するもの

1　「シェ」「ジェ」は，外来音シェ，ジェに対応する仮名である。

〔例〕　シェーカー　シェード　ジェットエンジン　ダイジェスト
　　シェフィールド（地）　アルジェリア（地）
　　シェークスピア（人）　ミケランジェロ（人）

注　「セ」「ゼ」と書く慣用のある場合は，それによる。

〔例〕　ミルクセーキ　ゼラチン

2　「チェ」は，外来音チェに対応する仮名である。

〔例〕　チェーン　チェス　チェック　マンチェスター（地）
　　チェーホフ（人）

3　「ツァ」「ツェ」「ツォ」は，外来音ツァ，ツェ，ツォに対応する仮名である。

〔例〕　コンツェルン　シャンツェ　カンツォーネ
　　フィレンツェ（地）　モーツァルト（人）　ツェッペリン（人）

4　「ティ」「ディ」は，外来音ティ，ディに対応する仮名である。

〔例〕　ティーパーティー　ボランティア　ディーゼルエンジン
　　ビルディング
　　アトランティックシティー（地）　ノルマンディー（地）
　　ドニゼッティ（人）　ディズニー（人）

注1　「チ」「ジ」と書く慣用のある場合は，それによる。

〔例〕　エチケット　スチーム　プラスチック　スタジアム
　　スタジオ　ラジオ
　　チロル（地）　エジソン（人）

注2　「テ」「デ」と書く慣用のある場合は，それによる。

第1表

ア	イ	ウ	エ	オ
カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ
タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ		ユ		ヨ
ラ	リ	ル	レ	ロ
ワ				
ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ
ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ
ダ			デ	ド
バ	ビ	ブ	ベ	ボ
パ	ピ	プ	ペ	ポ
キャ		キュ		キョ
シャ		シュ		ショ
チャ		チュ		チョ
ニャ		ニュ		ニョ
ヒャ		ヒュ		ヒョ
ミャ		ミュ		ミョ
リャ		リュ		リョ
ギャ		ギュ		ギョ
ジャ		ジュ		ジョ
ビャ		ビュ		ビョ
ピャ		ピュ		ピョ
ン（撥(はつ)音）				
ッ（促音）				
ー（長音符号）				

			シェ	
			チェ	
ツァ			ツェ	ツォ
	ティ			
ファ	フィ		フェ	フォ
			ジェ	
	ディ			
		デュ		

第2表

			イェ	
	ウィ		ウェ	ウォ
クァ	クィ		クェ	クォ
	ツィ			
		トゥ		
グァ				
		ドゥ		
ヴァ	ヴィ	ヴ	ヴェ	ヴォ
		テュ		
		フュ		
		ヴュ		

留意事項その1（原則的な事項）

1　この『外来語の表記』では，外来語や外国の地名・人名を片仮名で書き表す場合のことを扱う。

2　「ハンカチ」と「ハンケチ」，「グローブ」と「グラブ」のように，語形にゆれのあるものについて，その語形をどちらかに決めようとはしていない。

3　語形やその書き表し方については，慣用が定まっているものはそれによる。分野によって異なる慣用が定まっている場合には，それぞれの慣用によって差し支えない。

外来語の表記

・平成3年6月28日内閣告示第2号。
・昭和29年3月15日に国語審議会部会報告として「外来語の表記について」が発表されている。しかし，これは内閣告示には至らなかった。
・国語審議会では，上記の報告を初め多くの資料を参考にし，各方面からの意見を参照して審議し，平成3年2月7日に文部大臣へ答申した。本告示の内容は，この答申によっている。　（三省堂編修所注）

前書き

1　この『外来語の表記』は，法令，公用文書，新聞，雑誌，放送など，一般の社会生活において，現代の国語を書き表すための「外来語の表記」のよりどころを示すものである。
2　この『外来語の表記』は，科学，技術，芸術その他の各種専門分野や個々人の表記にまで及ぼそうとするものではない。
3　この『外来語の表記』は，固有名詞など（例えば，人名，会社名，商品名等）でこれによりがたいものには及ぼさない。
4　この『外来語の表記』は，過去に行われた様々な表記（「付」参照）を否定しようとするものではない。
5　この『外来語の表記』は，「本文」と「付録」から成る。「本文」には「外来語の表記」に用いる仮名と符号の表を掲げ，これに留意事項その1（原則的な事項）と留意事項その2（細則的な事項）を添えた。「付録」には，用例集として，日常よく用いられる外来語を主に，留意事項その2に例示した語や，その他の地名・人名の例などを五十音順に掲げた。

本文

「外来語の表記」に用いる仮名と符号の表

1　第1表に示す仮名は，外来語や外国の地名・人名を書き表すのに一般的に用いる仮名とする。
2　第2表に示す仮名は，外来語や外国の地名・人名を原音や原つづりになるべく近く書き表そうとする場合に用いる仮名とする。
3　第1表・第2表に示す仮名では書き表せないような，特別な音の書き表し方については，ここでは取決めを行わず，自由とする。
4　第1表・第2表によって語を書き表す場合には，おおむね留意事項を適用する。

ローマ字のつづり方

・昭和29年12月9日内閣告示第1号による。
・そえがきの〔補注〕は三省堂編修所でつけた。
(三省堂編修所注)

ま　え　が　き

1　一般に国語を書き表わす場合は，第1表に掲げたつづり方によるものとする。
2　国際的関係その他従来の慣例をにわかに改めがたい事情にある場合に限り，第2表に掲げたつづり方によってもさしつかえない。
3　前二項のいずれの場合においても，おおむねそえがきを適用する。

そ　え　が　き

前表に定めたもののほか，おおむね次の各項による。

1　はねる音「ン」はすべて n と書く。
〔補注〕 tenki
sannin
sinbun
sanmyaku
denpô

2　はねる音を表わす n と次にくる母音字または y とを切り離す必要がある場合には，n の次に ’ を入れる。
〔補注〕 tan’i
gen’in
kin’yôbi
sin’ei

3　つまる音は，最初の子音字を重ねて表わす。
〔補注〕 gakkô kitte zassi syuppatu

4　長音は母音字の上に ^ をつけて表わす。なお，大文字の場合は母音字を並べてもよい。
〔補注〕 obâsan kûki ôkii Oosaka

5　特殊音の書き表わし方は自由とする。
〔補注〕 firumu huirumu otottsan otottwan

6　文の書きはじめ，および固有名詞は語頭を大文字で書く。なお，固有名詞以外の名詞の語頭を大文字で書いてもよい。
〔補注〕 Kyô wa kayôbi desu.　Huzisan Itô-Zirô
Nippon Ginkô　Suzusii Kaze ga huku.

第1表　〔(　) は重出を示す。〕

a	i	u	e	o			
ka	ki	ku	ke	ko	kya	kyu	kyo
sa	si	su	se	so	sya	syu	syo
ta	ti	tu	te	to	tya	tyu	tyo
na	ni	nu	ne	no	nya	nyu	nyo
ha	hi	hu	he	ho	hya	hyu	hyo
ma	mi	mu	me	mo	mya	myu	myo
ya	(i)	yu	(e)	yo			
ra	ri	ru	re	ro	rya	ryu	ryo
wa	(i)	(u)	(e)	(o)			
ga	gi	gu	ge	go	gya	gyu	gyo
za	zi	zu	ze	zo	zya	zyu	zyo
da	(zi)	(zu)	de	do	(zya)	(zyu)	(zyo)
ba	bi	bu	be	bo	bya	byu	byo
pa	pi	pu	pe	po	pya	pyu	pyo

第2表

sha	shi	shu	sho	
		tsu		
cha	chi	chu	cho	
		fu		
ja	ji	ju	jo	
di	du	dya	dyu	dyo
kwa				
gwa				
				wo

11画

12画

常用漢字表 総画索引

⊕は「当用漢字表」より増えた漢字

【き】

常用漢字表 字訓索引

⊕は「当用漢字（音訓）表」より増えた漢字や字訓

1977年4月15日　初版発行
1981年12月10日　第二版発行
1986年11月10日　第三版発行
1991年12月10日　第四版発行

新しい国語表記ハンドブック

第四版

1991年12月10日　第1刷発行
2000年10月1日　第14刷発行

編　者　三省堂編修所

発行者　株式会社三省堂　代表者五味敏雄

製版所　有限会社弘陽写真タイプ社
三省堂印刷株式会社

発行所　株式会社三省堂
〒101-8371
東京都千代田区三崎町二丁目22番14号
電話　編集　(03) 3230-9411
営業　(03) 3230-9412
振替口座　00160-5-54300

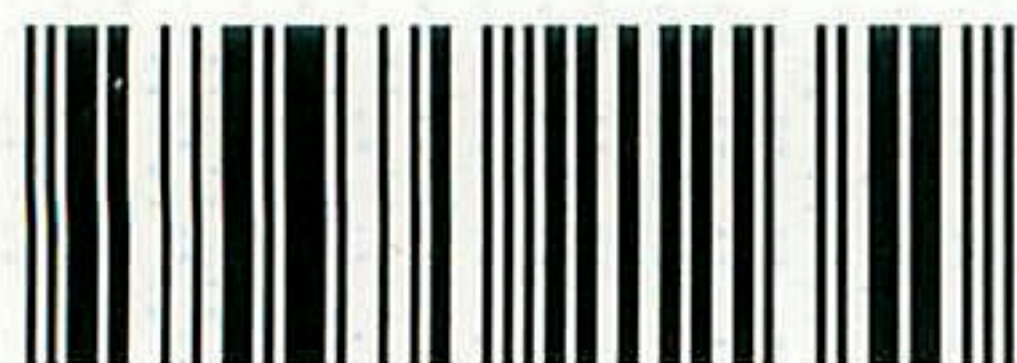
落丁本・乱丁本は
お取替えいたします。

<4版 新国語表記・240pp.>

ISBN4-385-21135-3

2色刷

新しい国語表記ハンドブック

【第四版】

9784385211350

1920081004607

ISBN4-385-21135-3

C0081 ¥460E (1)

定価(本体460円+税)